2025年度　博士前期課程シラバス

＜2025年度大学院授業の実施方針＞
研究指導、実習を要する科目以外の科目については、原則として（※）遠隔授業（双方向オンライン授業もしくは、教材や課題の提示、課題提出の機会、および提出課題に対する担当教員からのフィードバックがあり、学生の意見交換や質問の機会が確保されているオンデマンド授業）で実施する。
※授業効果として対面が望ましい場合で、履修者への確認・許可が得られており、履修者数・教室収容人数も加味し感染対策に十分配慮した前提であれば、科目責任者の判断で対面／遠隔のハイブリッドでの実施も可能とする。
研究指導、実習を要する科目については、科目責任者の判断のもと、対面／遠隔のいずれかで実施する。

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
研究論文作成の基礎と展開（前期前半）	木藤 友規／河村 剛光／山田 泰行／和氣 秀文／福 典之	3
研究論文作成の基礎と展開（前期前半）	木藤 友規／河村 剛光／山田 泰行／和氣 秀文／福 典之	6
スポートロジー序論（集中）	窪田 敦之／山田 泰行／鈴木 宏哉	9
コーチングとスポーツ組織（前期前半）	吉村 雅文／水野 基樹	12
コーチングとスポーツ組織（前期前半）	吉村 雅文／水野 基樹	16
保健体育科授業論（後期前半）	荻原 朋子／長岡 知／関 伸夫	20
保健体育科授業論（後期後半）	荻原 朋子／長岡 知／関 伸夫	24
健康教育学（前期後半）	大久保 菜穂子／長岡 知	27
健康教育学（前期後半）	大久保 菜穂子／長岡 知	31
スポーツ教育学（後期前半）	荻原 朋子／関 伸夫	35
スポーツ教育学（前期後半）	荻原 朋子／関 伸夫	38
教育技法・教材開発プラクティカム	牛尾 直行／荻原 朋子／外畑 幸一	41
スポーツ健康科学英語特別講義(オムニバス)（後期）	小笠原 悦子／坂本 彰宏／和氣 秀文／和田 由佳子	45
スポーツ健康科学英語特別講義(オムニバス)（後期）	小笠原 悦子／坂本 彰宏／和氣 秀文／和田 由佳子	49
スポートロジー実践英語（集中）	和氣 秀文	53
スポーツと健康のための疫学（後期前半）	染谷 由希	56
スポーツと健康のための疫学（後期前半）	染谷 由希	59
スポートロジーレクチャーシリーズ（集中）	和氣 秀文	62
スポーツ健康科学プラクティカム	和氣 秀文	65
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	内藤 久士	68
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	中村 充	71
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	廣瀬 伸良	74
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	鈴木 良雄	77
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	吉村 雅文	80
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	廣津 信義	83
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	小笠原 悦子	86
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	青木 和浩	89
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	鯉川 なつえ	92
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	中村 恭子	95
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	水野 基樹	98
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	柳谷 登志雄	101
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	原田 睦巳	104
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	町田 修一	107
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	和氣 秀文	110
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	山崎 一彦	113
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	深尾 宏祐	116
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	大久保 菜穂子	119
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	木藤 友規	122
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	鈴木 宏哉	125
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	渡 正	128
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	福 典之	131
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	荻原 朋子	134
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	松山 毅	137
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	佐々木 啓	140
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	牛尾 直行	145
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	中嶽 誠	148
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	渡邉 貴裕	151
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	川田 裕次郎	154
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	窪田 敦之	157
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	河村 剛光	160
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	武田 剛	163
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	山田 泰行	166
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	髙澤 祐治	169
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	坂本 彰宏	172
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	山中 航	175
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	宮本 恵里	178
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	宮森 隆行	181
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	吉原 利典	184
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	吉田 和人	187
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	黄田 常嘉	190
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	室伏 由佳	193
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	竹澤 稔裕	196
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	染谷 由希	199
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	杉林 孝法	202
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	尾高 邦生	205
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	冨田 洋之	208
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	長岡 知	211
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	仲村 明	214
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	髙梨 雄太	217
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	村上 祐介	220
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	谷本 道哉	223
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	塩田 有規	226
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	小野 雄大	229
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	関 伸夫	232
スポーツ健康科学研究方法論（通年）	和田 由佳子	235
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	内藤 久士	238
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	中村 充	241
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	廣瀬 伸良	244
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	鈴木 良雄	247
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	吉村 雅文	250
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	廣津 信義	253
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	小笠原 悦子	256
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	青木 和浩	259
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	鯉川 なつえ	262
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	中村 恭子	265
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	水野 基樹	268
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	柳谷 登志雄	271
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	原田 睦巳	274
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	町田 修一	277
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	和氣 秀文	280
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	山崎 一彦	283
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	中嶽 誠	286
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	仲村 明	289
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	福 典之	292
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	窪田 敦之	295
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	佐々木 啓	298
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	髙梨 雄太	302
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	冨田 洋之	305
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	大久保 菜穂子	308
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	木藤 友規	311
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	鈴木 宏哉	314
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	渡 正	317
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	深尾 宏祐	320
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	荻原 朋子	323
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	松山 毅	326
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	牛尾 直行	329
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	渡邉 貴裕	332
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	長岡 知	335
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	川田 裕次郎	338
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	河村 剛光	341
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	坂本 彰宏	344
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	武田 剛	347
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	山田 泰行	350
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	山中 航	353
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	髙澤 祐治	356
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	室伏 由佳	359
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	尾高 邦生	362
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	竹澤 稔裕	365
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	宮本 恵里	368
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	宮森 隆行	371
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	吉原 利典	374
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	吉田 和人	377
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	黄田 常嘉	380
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	染谷 由希	383
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	杉林 孝法	386
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	大田 穂	389
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	村上 祐介	392
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	谷本 道哉	395
スポーツ健康科学研究法実習（後期）	塩田 有規	398

スポーツ健康科学研究法実習（後期） 和田 由佳子 ····· 401
スポーツ健康科学研究法実習（後期） 小野 雄大 ····· 404
スポーツ健康科学研究法実習（後期） 金 芝美 ····· 407
スポーツ健康科学研究法実習（後期） 沢田 秀司 ····· 410
スポーツ健康科学研究法実習（後期） 下窪 拓也 ····· 413
スポーツ健康科学研究法実習（後期） 野津 将時郎 ····· 416
スポーツ健康科学研究法実習（後期） 三倉 茜 ····· 419
スポーツ健康科学研究法実習（後期） 黒坂 裕香 ····· 422
スポーツ健康科学研究法実習（後期） 関 伸夫 ····· 425
スポーツ健康科学研究法実習（後期） 濵野 礼奈 ····· 428
スポーツ健康科学研究法実習（後期） 芳地 泰幸 ····· 431
スポーツ健康科学研究法実習（後期） 前鼻 啓史 ····· 434
スポーツ健康科学研究法実習（後期） 塩澤 淳 ····· 437
スポーツ健康科学研究法実習（後期） 中田 学 ····· 440
スポーツ健康科学研究法実習（後期） 伊藤 まこと ····· 443
スポーツ医学（内科系）（後期前半） 深尾 宏祐 ····· 446
スポーツ医学（内科系）（後期前半） 深尾 宏祐／染谷 由希 ····· 449
スポーツ医学（運動器系）（後期） 髙澤 祐治／窪田 敦之 ····· 452
スポーツ医学（運動器系）（前期前半） 髙澤 祐治 ····· 455
スポーツ生理学（前期後半） 内藤 久士／山中 航／吉原 利典／谷本 道哉／町田 修一／和氣 秀文／福 典之／鈴木 宏哉／宮本 恵里 ····· 458
スポーツ生理学（前期後半） 内藤 久士／山中 航／吉原 利典／谷本 道哉／町田 修一／和氣 秀文／福 典之／鈴木 宏哉／宮本 恵里 ····· 462
スポーツバイオメカニクス（前期後半） 窪田 敦之／柳谷 登志雄／谷本 道哉／坂本 彰宏／武田 剛／大田 穂／野津 将時郎 ····· 466
スポーツバイオメカニクス（後期後半） 窪田 敦之／柳谷 登志雄／谷本 道哉／坂本 彰宏／武田 剛／大田 穂／野津 将時郎 ····· 470
スポーツ栄養学（前期後半） 鈴木 良雄 ····· 474
スポーツ栄養学（前期後半） 鈴木 良雄 ····· 477
アスレチックトレーニング論（前期後半） 鹿倉 二郎／井澤 秀典 ····· 480
アスレチックトレーニング論（前期前半） 門屋 悠香／宮森 隆行 ····· 483
測定系スポーツの指導理論と方法（陸上競技）（後期前 青木 和浩／鯉川 なつえ／仲村 明／高梨 雄太／山崎 一彦／杉林 孝法 ····· 486
測定系スポーツの指導理論と方法（陸上競技）（後期前 青木 和浩／鯉川 なつえ／仲村 明／高梨 雄太／山崎 一彦／杉林 孝法 ····· 489
測定系スポーツの指導理論と方法（水泳競技）（後期前 武田 剛 ····· 492
測定系スポーツの指導理論と方法（水泳競技）（後期前 武田 剛 ····· 496
表現系スポーツの指導理論と方法（ダンス）（後期後半 中村 恭子／伊藤 まこと ····· 500
表現系スポーツの指導理論と方法（体操競技）（後期前 原田 睦巳／冨田 洋之 ····· 504
表現系スポーツの指導理論と方法（体操競技）（後期前 原田 睦巳／冨田 洋之 ····· 508
表現系スポーツの指導理論と方法（ダンス）（後期後半 中村 恭子／伊藤 まこと ····· 512
球技の指導理論と方法（後期後半） 吉村 雅文／濵野 礼奈／中嶌 誠／中田 学／鈴木 宏哉／大田 穂 ····· 516
球技の指導理論と方法（後期前半） 吉村 雅文／濵野 礼奈／中嶌 誠／中田 学／鈴木 宏哉／大田 穂 ····· 520
武道の指導理論と方法（後期後半） 廣瀬 伸良／中村 充／竹澤 稔裕 ····· 524
武道の指導理論と方法（後期前半） 廣瀬 伸良／中村 充／竹澤 稔裕 ····· 528
スポーツ運動学（後期前半） 原田 睦巳／冨田 洋之 ····· 532
スポーツ運動学（後期後半） 原田 睦巳／冨田 洋之 ····· 536
スポーツ統計学（後期前半） 山田 泰行／廣津 信義 ····· 540
スポーツ統計学（後期前半） 山田 泰行／廣津 信義 ····· 543
スポーツ心理学（前期前半） 川田 裕次郎 ····· 546
スポーツ心理学（前期後半） 川田 裕次郎 ····· 550
スポーツ社会学（前期後半） 渡 正 ····· 554
スポーツ社会学（前期前半） 渡 正 ····· 559
スポーツ国際文化論（前期後半） 菊 幸一 ····· 564
スポーツ組織開発論（後期後半） 水野 基樹 ····· 567
スポーツ組織開発論（後期前半） 水野 基樹 ····· 571
生涯スポーツ国際比較論（後期後半） 下窪 拓也 ····· 575
生涯スポーツ国際比較論（後期後半） 下窪 拓也 ····· 578
スポーツマネジメント論（後期後半） 小笠原 悦子 ····· 581
スポーツマネジメント論（後期前半） 小笠原 悦子 ····· 584
スポーツ国際イベント論（後期後半） 芳地 泰幸／和田 由佳子 ····· 587
スポーツ国際イベント論（後期後半） 芳地 泰幸／和田 由佳子 ····· 591
メンタルヘルス（後期前半） 黄田 常嘉 ····· 595
メンタルヘルス（前期後半） 黄田 常嘉 ····· 598
環境健康科学（後期前半） 佐々木 啓 ····· 601
環境健康科学（前期後半） 佐々木 啓 ····· 605
ヘルスプロモーション論（前期前半） 鈴木 美奈子／松山 毅 ····· 609
ヘルスプロモーション論（前期前半） 鈴木 美奈子／松山 毅 ····· 612
障害者と特別支援教育（後期前半） 渡邉 貴裕／尾高 邦生／村上 祐介 ····· 615
障害者と特別支援教育（前期後半） 渡邉 貴裕／尾高 邦生／村上 祐介 ····· 618
アダプテッド・スポーツ論（後期前半） 前鼻 啓史／村上 祐介 ····· 621
アダプテッド・スポーツ論（後期後半） 前鼻 啓史／村上 祐介 ····· 625
健康運動指導論（後期後半） 涌井 佐和子／沢田 秀司 ····· 629
健康運動指導論（後期前半） 涌井 佐和子／沢田 秀司 ····· 634
臨床心理学（後期前半） 山口 慎史／山口 達也 ····· 639
臨床心理学（前期前半） 山口 慎史／山口 達也 ····· 643
ハイパフォーマンス科学（後期前半） 窪田 敦之／原田 睦巳／柳谷 登志雄／川田 裕次郎／小松 孝行／坂本 彰宏／山崎 一彦／竹澤 稔裕／大田 穂／杉林 孝法／小泉 和之 ····· 647
スポーツ健康科学研究法演習（通年） 中嶌 誠 ····· 650
スポーツ健康科学研究法演習（通年） 和氣 秀文 ····· 653

科目名	研究論文作成の基礎と展開（前期前半）	授業形態	講義
英語科目名	Basic and Applied Seminar for Research Paper	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	木藤　友規	ナンバリング	
担当教員	木藤　友規、河村　剛光、山田　泰行、和氣　秀文、福　典之		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] この授業は、スポーツ健康科学研究科の修士課程で研究活動に取組むための基礎をつくることを目的とし、研究の計画を立て、提議書を書けるようになることを目指す。 具体的には、スポーツ健康科学に関する研究論文の種類や構成などを教員や他の学生との討議や発表を通じて理解するとともに、研究論文作成の基礎となる文献検索の方法や統計的仮説検定、研究計画法、研究倫理について基礎的な理解を深めます。
到達目標	１．学術的問いや仮説を立てるために必要な論文等の資料を収集することができる ２．学術的な文章や図表の表現ができる ３．研究目的に対して妥当な方法を説明できる ４．研究計画を修士論文の提議書にまとめることができる
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この授業は、「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」に関連する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 特になし [履修上の注意（科目独自のルール）] 受講にあたっては、積極的にグループワークに参画する心構えをもっていること。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 平常点（50%）、中間レポートと最終レポート(50%)を総合して評価する。
評価基準	１．学術的問いや仮説を立てるために必要な論文等の資料を収集することができる（平常点、中間レポート） ２．学術的な文章や図表の表現ができる（平常点、最終レポート） ３．研究目的に対して妥当な方法を説明できる（平常点、最終レポート） ４．研究計画を修士論文の提議書にまとめることができる（最終レポート）

試験・課題に対するフィードバック方法
発表・討議を通じて改善点をフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
この科目では、必ず用意しなければならないテキストはありません。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：木藤　友規 E-mail: t.kito[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 日時： 火曜日　12:10～12:40 場所： １号館４階１４０３室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] 感染症や災害等、不測の事態が発生した際、授業計画等が変更となる場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～2	河村	（授業内容） オリエンテーションとして授業の流れを把握するとともに受講生同士を知り合う。また、スポーツ健康科学における研究や研究論文の構成について学ぶ。	講義またはグループワーク	（予習：1時間） シラバスを読み、授業を受ける意義を確認しておくこと。 （復習：3時間） 文献検索の手引きを読み、必要となる先行研究について把握しておくこと。

3～4	山田	（授業内容） 文献検索の方法（AIツール、WEB of Scienceなど）と論文の図表の表現方法について学ぶ。	講義およびグループワーク	（予習：2時間） 文献管理ツールとは何か調べておく。 （復習：4時間） 自分の研究分野の文献を検索してみる。
5～6	河村	（授業内容） 各自が持ち寄った論文をもとに、論文の種類と構成について理解を深める。 統計解析の視点から研究計画を立案する方法について学ぶ。	講義およびグループワーク	（予習：4時間） ひとり5編以上（内、自分の指導教員が指導した修士論文と他の教員が指導した修士論文を各1編以上）を選定しておく。 （復習：6時間） 論文の種類と構成について文章にまとめる（中間レポート）。
7～8	山田	（授業内容） 科学の歴史、研究計画、研究デザインについて学ぶ。	講義およびグループワーク	（予習：4時間） 研究計画と研究デザインとは何か調査しておく。 （復習：4時間） 自分の研究テーマの研究計画と研究デザインを検討する。
9～10	和氣	（授業内容） 論文作成をする前段階として、抄録の書き方を理解する。 抄録の例を比較し、抄録の良し悪しを解説する。各自で抄録を作成し、グループ討議してその結果を全体発表する。	講義およびグループワーク	（予習：2時間） 抄録とは何か調査しておく。 （復習：2時間） 授業で学んだ抄録の書き方を各自の研究に当てはめて整理する。
11～12	木藤	（授業内容） 修士論文を書くための提議書について理解を深め、実際に仮提議書を書いてみる。 なぜ修論を書くのか解説し、修士論文と他の論文の違いを説明する。「よいレポート」と「悪いレポート」を例示しつつ、問題提起と仮説について説明する。説明をもとに各自で実際に仮提議書を書いてみる。	講義およびグループワーク	（予習：4時間） 仮提議書作成にあたり、各自のテーマを仮に設定し、事前に文献等の資料を収集しておく。 （復習：6時間） 授業での説明をもとに、仮提議書を作成する。
13～14	木藤	（授業内容） 学位論文について理解を深めるとともに提議書を評価することで、さらによい提議書が書けるようになる。 学位論文の構成や学位論文に必要な要素について解説する。本学の修論の形式を説明する。提示した評価の観点に沿って仮提議書を評価し、互いにコメントを記録する。必要に応じ教員による個別対応を行う。	講義およびグループワーク	（復習：12時間） 授業の内容に基づき、仮提議書を修正する（最終レポート）。
15	福	順天堂大学スポーツ健康科学研究科の研究倫理審査と適正な研究活動の推進について学ぶ。	講義	（復習：6時間） 各自の研究計画に倫理的な観点を加えて仮提議書を完成させる。
		（定期試験を実施しない）		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	研究論文作成の基礎と展開（前期前半）	授業形態	講義
英語科目名	Basic and Applied Seminar for Research Paper	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	木藤　友規	ナンバリング	
担当教員	木藤　友規、河村　剛光、山田　泰行、和氣　秀文、福　典之		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] この授業は、スポーツ健康科学研究科の修士課程で研究活動に取組むための基礎をつくることを目的とし、研究の計画を立て、提議書を書けるようになることを目指す。 具体的には、スポーツ健康科学に関する研究論文の種類や構成などを教員や他の学生との討議や発表を通じて理解するとともに、研究論文作成の基礎となる文献検索の方法や統計的仮説検定、研究計画法、研究倫理について基礎的な理解を深めます。
到達目標	１．学術的問いや仮説を立てるために必要な論文等の資料を収集することができる ２．学術的な文章や図表の表現ができる ３．研究目的に対して妥当な方法を説明できる ４．研究計画を修士論文の提議書にまとめることができる
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この授業は、「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」に関連する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 特になし [履修上の注意（科目独自のルール）] 受講にあたっては、積極的にグループワークに参画する心構えをもっていること。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 平常点（50%）、中間レポートと最終レポート(50%)を総合して評価する。
評価基準	１．学術的問いや仮説を立てるために必要な論文等の資料を収集することができる（平常点、中間レポート） ２．学術的な文章や図表の表現ができる（平常点、最終レポート） ３．研究目的に対して妥当な方法を説明できる（平常点、最終レポート） ４．研究計画を修士論文の提議書にまとめることができる（最終レポート）

試験・課題に対するフィードバック方法
発表・討議を通じて改善点をフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
この科目では、必ず用意しなければならないテキストはありません。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：木藤　友規 E-mail: t.kito[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 日時： 火曜日　12:10～12:40 場所： １号館４階１４０３室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] 感染症や災害等、不測の事態が発生した際、授業計画等が変更となる場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～2	河村	（授業内容） オリエンテーションとして授業の流れを把握するとともに受講生同士を知り合う。また、スポーツ健康科学における研究や研究論文の構成について学ぶ。	講義またはグループワーク	（予習：1時間） シラバスを読み、授業を受ける意義を確認しておくこと。 （復習：3時間） 文献検索の手引きを読み、必要となる先行研究について把握しておくこと。

3～4	山田	（授業内容） 文献検索の方法（AIツール、WEB of Scienceなど）と論文の図表の表現方法について学ぶ。	講義およびグループワーク	（予習：2時間） 文献管理ツールとは何か調べておく。 （復習：4時間） 自分の研究分野の文献を検索してみる。
5～6	河村	（授業内容） 各自が持ち寄った論文をもとに、論文の種類と構成について理解を深める。 統計解析の視点から研究計画を立案する方法について学ぶ。	講義およびグループワーク	（予習：4時間） ひとり5編以上（内、自分の指導教員が指導した修士論文と他の教員が指導した修士論文を各1編以上）を選定しておく。 （復習：6時間） 論文の種類と構成について文章にまとめる（中間レポート）。
7～8	山田	（授業内容） 科学の歴史、研究計画、研究デザインについて学ぶ。	講義およびグループワーク	（予習：4時間） 研究計画と研究デザインとは何か調査しておく。 （復習：4時間） 自分の研究テーマの研究計画と研究デザインを検討する。
9～10	和氣	（授業内容） 論文作成をする前段階として、抄録の書き方を理解する。 抄録の例を比較し、抄録の良し悪しを解説する。各自で抄録を作成し、グループ討議してその結果を全体発表する。	講義およびグループワーク	（予習：2時間） 抄録とは何か調査しておく。 （復習：2時間） 授業で学んだ抄録の書き方を各自の研究に当てはめて整理する。
11～12	木藤	（授業内容） 修士論文を書くための提議書について理解を深め、実際に仮提議書を書いてみる。 なぜ修論を書くのか解説し、修士論文と他の論文の違いを説明する。「よいレポート」と「悪いレポート」を例示しつつ、問題提起と仮説について説明する。説明をもとに各自で実際に仮提議書を書いてみる。	講義およびグループワーク	（予習：4時間） 仮提議書作成にあたり、各自のテーマを仮に設定し、事前に文献等の資料を収集しておく。 （復習：6時間） 授業での説明をもとに、仮提議書を作成する。
13～14	木藤	（授業内容） 学位論文について理解を深めるとともに提議書を評価することで、さらによい提議書が書けるようになる。 学位論文の構成や学位論文に必要な要素について解説する。本学の修論の形式を説明する。提示した評価の観点に沿って仮提議書を評価し、互いにコメントを記録する。必要に応じ教員による個別対応を行う。	講義およびグループワーク	（復習：12時間） 授業の内容に基づき、仮提議書を修正する（最終レポート）。
15	福	順天堂大学スポーツ健康科学研究科の研究倫理審査と適正な研究活動の推進について学ぶ。	講義	（復習：6時間） 各自の研究計画に倫理的な観点を加えて仮提議書を完成させる。
		（定期試験を実施しない）		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポートロジー序論（集中）	授業形態	講義
英語科目名	Introduction to Sportology	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	鈴木　宏哉	ナンバリング	
担当教員	鈴木　宏哉、窪田　敦之、山田　泰行		

授業概要	
全体内容	スポートロジーは、スポーツと健康の関わりを科学的に解明する学問分野として新たに創設されたものである。本授業では、スポーツ健康科学と医学との連携による生活習慣病や要介護状態の予防・治療法の開発、また一般市民の健康増進に関する研究等について講義を行う。その上で、講義内容を元としたグループワークを行い、スポートロジーの定義について考察し、理解を深める。さらに、自身の研究とスポートロジーとの関係について考察する。新しい学問領域であるスポートロジーについて、アクティブラーニングにより理解を深める。
到達目標	新しい学問領域であるスポートロジーについて、アクティブラーニングにより理解を深めることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「高い倫理観」、「スポーツ健康科学に関する高度な専門的知識」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 積極的に参画する。 ［履修上の注意］ 授業の実施日等については追って連絡する。 配付された資料に基づき、キーワードとなる専門用語について予習・復習をすること。

成績評価の方法	
評価方法	グループワークへの参画度と発表内容（30%）、課題レポート（40%）、出欠状況（もしくは代替課題の提出状況）　（30%）を総合して評価する。
評価基準	1. スポートロジーという新しい分野を理解し、その視点を体得できているか（レポート、発表） 2. グループワークが協調的にできているか（出席率、授業態度）

試験・課題に対するフィードバック方法
発表・討議を通じて必要な情報や改善内容をフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

（参考文献）
田城孝雄・内藤久士（編著）「改訂版健康長寿のためのスポートロジー」、放送大学教育振興会

その他	
連絡先・オフィスアワー	（連絡先） 鈴木宏哉 Email：ko-suzuki[at]juntendo.ac.jp　（[at]を@に変更してください） （オフィスアワー） 日時：平日の12時頃～13時頃 場所：さくらキャンパススポーツ健康医科学研究所3階9303号室 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生の相談時間とかち合わないようにするため、できるだけ前日までにE-mailで予約してください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、集中講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	田村好史	代謝内分泌学とスポートロジー	オンデマンド講義	（予習：2時間） 「田村好史」をインターネット検索し、キャリアおよび研究活動について調べておくこと。 （復習：2時間） 講義内容の整理をすること。
2	佐藤信紘	生命の誕生と進化、そいて老い	オンデマンド講義	（予習：2時間） 「佐藤信紘」をインターネット検索し、キャリアおよび研究活動について調べておくこと。 （復習：2時間） 講義内容の整理をすること。

3	石島旨章	整形外科学とスポートロジー	オンデマンド講義	（予習：2時間） 「石島旨章」をインターネット検索し、キャリアおよび研究活動について調べておくこと。 （復習：2時間） 講義内容の整理をすること。
4	鈴木・窪田・山田	授業全体のガイダンス 個人ワーク・グループワークの進め方 ミーティング論	講義、グループワーク	（予習：2時間） これまでのオンデマンド講義の内容を整理し、スポートロジーの視点で整理しておくこと。 （復習：2時間） 講義内容の整理をすること。
5～9	鈴木・窪田・山田	オンデマンド講義の内容を踏まえ、スポートロジーについて、個人の意見とグループの意見をまとめる。	グループワーク	（予習：各回2時間） 自分の意見を整理しておくこと。 （復習：各回2時間） 議論した内容を整理すること。
10～12	鈴木・窪田・山田	グループでまとめた成果物を発表する。	グループワーク	（予習：各回2時間） グループの意見を整理しておくこと。 （復習：各回2時間） 議論した内容を整理すること。
13	町田修一	スポートロジー序論の歴史を振り返り、これからのスポートロジー序論、そしてスポートロジーを考える。	講義	（予習：2時間） グループワークによってまとめられたすべてグループの発表を整理しておくこと。 （復習：2時間） 講義内容の整理をすること。
14	田城孝雄	健康長寿のためのスポートロジー	オンデマンド講義	（予習：2時間） 「田城孝雄」をインターネット検索し、キャリアおよび研究活動について調べておくこと。 （復習：2時間） 講義内容の整理をすること。
15	北村薫	スポートロジーとは	オンデマンド講義	（予習：2時間） 「北村薫」をインターネット検索し、キャリアおよび研究活動について調べておくこと。 （復習：2時間） 講義内容の整理をすること。
		定期試験なし		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	コーチングとスポーツ組織（前期前半）	授業形態	講義
英語科目名	Coaching and Sports Organization	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	吉村　雅文	ナンバリング	
担当教員	吉村　雅文、水野　基樹		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 　スポーツ団体（ex; 日本オリンピック委員会、日本サッカー協会）やスポーツチーム（ex ;プロスポーツチーム、クラブチーム）などのスポーツ組織はその目標の達成、組織内システムの均衡や維持、さらには外部環境への適応に努力を重ねている。本講義では、スポーツ組織における「人間」と「組織」をマネジメントする際の基礎的な理論を習得するだけにとどまらず、マネジメントを実践していくうえで直面するであろう問題とその解決策についても理解することを目指す。そのため、具体的には①スポーツ現場における効果的なコーチングの在り方、②マクロ組織論に基づく組織マネジメント、③ミクロ組織論に基づく人材マネジメントの大きく3つの視点から体系的に学習する。
到達目標	［授業の到達目標］ 1.スポーツ現場において必要なコーチング、コミュニケーションスキル、リーダーシップについて理解を深め、養成するために必要な方法について説明できる。 2.マクロ組織論に基づく組織マネジメントについて理解を深め説明できる。 3.ミクロ組織論に基づく人材マネジメントについて理解を深め説明できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、以下の事を心がけ受講して頂きたい。 ①スポーツ界やスポーツ組織が抱える課題や問題についての情報収集に努めること。 ②講義内で紹介する理論については自身の所属するスポーツ組織などの身近な事例に当てはめて理解するように努めること。 ③講義内で紹介する文献（書籍）については、自主的に取り寄せ、精読すること。 ④必要に応じ、授業時に文献、参考図書等について紹介するので、積極的に読むこと。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ 特になし。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 平常点２0%（履修者間でのコミュニケーションをしっかり取りながら受講できる態度や姿勢）、課題のプレゼンテーション40%（パワーポイントを駆使し分かりやすく伝える能力）、およびレポート課題40%（課題の理解度、文章表現力、国語力）を総合して評価する。
評価基準	［成績評価の基準］ 1.スポーツ現場において必要なコーチング、コミュニケーションスキル、リーダーシップについて理解を深め、養成するために必要な方法について説明できる。（レポート・プレゼンテーション） 2.マクロ組織論に基づく組織マネジメントについて理解を深め説明できる。（レポート・プレゼンテーション） 3.ミクロ組織論に基づく人材マネジメントについて理解を深め説明できる。（レポート・プレゼンテーション）

試験・課題に対するフィードバック方法
［課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法］ 授業にて返却し、模範解答や評価のポイントを提示し解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
				授業の際に提示する。

参考文献
授業の際に提示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 　担当：吉村雅文 E-mail：msyoshi@juntendo.ac.jp 担当：水野基樹 E-mail：mtmizuno@juntendo.ac.jp ［オフィスアワー］ 担当：吉村雅文 　日時：月曜日および金曜日　12:00～12:50 　場所：1号館5階、1528室 担当：水野基樹 　日時：月曜日10時～12時、火曜日15時～16時 　場所：1号館3階　1320室
担当教員の実務経験	
備考	この授業は、講義の授業形態による2単位の必修科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1回	吉村雅文	［授業内容］ 行動（仕事）する原動力（挑戦の感情）に関して、感情の世界、行動の世界の存在から理解する。また、チームワークピラミッドの構造について、さらに対人関係の気づきのモデルについて理解する。	［授業方法］講義・ディスカッション 行動（仕事）する原動力（挑戦の感情）、チームワークピラミッドの構造、対人関係の気づきのモデルについディスカッションを行う。	（予習：3h） 「ジョハリの窓」について十分調べてくること。 （復習：3h） 行動（仕事）する原動力（挑戦の感情）、感情の世界、行動の世界、チームワークピラミッドの構造、対人関係の気づきのモデルについて整理する。
2回	吉村雅文	［授業内容］ どのような言動が課題達成を促進させ、そのような行動が課題達成を遅らせるか、また、情報共有の方法、時間管理等々について理解する。	［授業方法］講義・ディスカッション グループワーク 「朝刊に間に合わせろ」を行い、その後、ディスカッションを通して振り返り学習を行う。	（予習：3h） 「コミュニケーションスキル」について十分調べてくること。 （復習：3h） 「コミュニケーション能力」とはどのような能力か整理する。
3回	吉村雅文	［授業内容］ リーダーとリーダーシップ、リーダーシップの本質について理解する。	［授業方法］講義・ディスカッション なぜ今の組織に所属して活動しているのか、何を目標としているのかについてディスカッションを行う。	（予習：2h） 「リーダー」と「リーダーシップ」について十分調べてくること。 （復習：2h） 理想のリーダーについて整理する。
4回	吉村雅文	［授業内容］ 組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解する。	［授業方法］講義・ディスカッション FCバルセロナ、スターバックス、グーグルの経営理念、ビジョンについてディスカッションを行う。	（予習：2h） 組織に於ける理念・ビジョンの重要性について十分調べてくること。 （復習：2h） 自分自身が所属する組織について、理念・ビジョンの観点から整理する。
5回	吉村雅文	［授業内容］ ティーチング、コーチングおよび阻害する要素について理解する。	［授業方法］講義・ディスカッション 「John Woodenの成功のピラミッド」について、また「 Yoshimuraの超成功のピラミッド」についてディスカッションを行う。	（予習：2h） 「ティーチング」と「コーチング」の違いににについて十分調べてくること。 （復習：2h） 「John Woodenの成功のピラミッド」の考え方について整理する。
6回	吉村雅文	（授業内容） 「競争」と「共創」、「受動」と「能動」、「必然」と「選択」について理解する。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション グループワーク 「豊かさとは？」について議論し、KJ法を使いまとめたものを発表する。	（予習：2h） 「豊かさ」とは？　考えてくること。 （復習：2h） 指導者としての「豊かさ」、組織としての「豊かさ」について整理する。
7回	水野基樹	［授業内容］ マネジメントの誕生：マネジメントの生成と発展について理解する。	［授業方法］講義・グループワーク 講義（座学）形式によるマネジメント（経営学）の対象領域を説明することで経営学を俯瞰する。	（予習：2h） マネジメントとはどういうものか学説を中心に調べること。 （復習：2h） マネジメントの生成から現代までの一連の流れを復習する。

8回	水野基樹	［授業内容］ スポーツの組織化、ビジネス化：スポーツ組織における組織形態や所有と経営の分離について理解する。	［授業方法］講義・グループワーク スポーツ組織の歴史的な発展過程についての解説と事例（VTR）を紹介する。	（予習：2h） 組織形態や所有と経営の分離について調べておく。 （復習：2h） スポーツ組織の実態について理論と実態を重ね合せてまとめる。
9回	水野基樹	［授業内容］ スポーツ組織のコントロールシステム：スポーツ組織における目的や戦略、経営計画の立案方法および、それらの評価手法について理解する。	［授業方法］講義・グループワーク スポーツ組織の仕組みについての解説と事例（VTR）を紹介する。	予習：2h） スポーツ組織の掲げる戦略や経営計画について調べておく。 （復習：2h） スポーツ組織のコントロールシステムについて整理する。
10回	水野基樹	［授業内容］ スポーツ組織の経営環境と組織デザイン：スポーツ組織の環境適応、組織デザイン、組織構造について理解する。	［授業方法］講義・グループワーク スポーツ組織の構造のバリエーションについての解説と事例（VTR）を紹介する。	（予習：2h） スポーツ組織の掲げる戦略や経営計画について調べておく。 （復習：2h） スポーツ組織のコントロールシステムについて整理する。
11回	水野基樹	［授業内容］ スポーツ組織におけるリーダーシップ：リーダーシップ理論の変遷を整理し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について考える。	［授業方法］講義・グループワーク・ディスカッション 最適なリーダーシップについての体験ワークおよびディスカッションを実施する。	（予習：2h） 基本的なリーダーシップ理論を調べておく。 （復習：2h） リーダーシップの基礎理論とスポーツ組織における効果的なリーダシップについて整理する。
12回	水野基樹	［授業内容］ スポーツ組織におけるモチベーション・マネジメント：三次元モチベーション理論の視点からスポーツ組織における人間のモチベーション・メカニズムについて理解する。	［授業方法］講義・グループワーク・ディスカッション 人間がやる気になるメカニズムに関しての解説と事例（VTR）を紹介する。	（予習：2h） 基本的なモチベーション理論を調べておく。 （復習：2h） スポーツ組織におけるモチベーション・メカニズムについて整理する。
13回	水野基樹	［授業内容］ 職務満足と人事施策：組織成員の職務満足に関する効果的な人事施策についての代表的な理論モデルを理解する。	［授業方法］講義・グループワーク 重要な職務満足について学説の説明と事例（VTR）を紹介する。	（予習：2h） 職務満足、人事施策が組織と個人にどのように影響するかについて重要な学説を調べておく。 （復習：2h） 職務満足と人事施策がどのように関連するか整理する。
14回	水野基樹	［授業内容］ パワーとコンフリクト・マネジメント：組織内外で生起するパワーやコンフリクトについてそのメカニズムおよび効果的なマネジメントについて理解する。	［授業方法］講義・グループワーク・ディスカッション メジャーリーグ球団における意思決定についての題材を用いて、体験ワークおよびディスカッションを実施する。	（予習：2h） パワー、コンフリクトについて身近な事例を調べておく。 （復習：2h） スポーツ組織におけるパワーのメカニズム、コンフリクト・マネジメントについて整理する。
15回	吉村雅文・水野基樹	定期試験を実施しない	［授業内容］ まとめ	［授業方法］ 担当教員を含めてディスカッション
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	コーチングとスポーツ組織（前期前半）	授業形態	講義
英語科目名	Coaching and Sports Organization	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	吉村　雅文	ナンバリング	
担当教員	吉村　雅文、水野　基樹		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 　スポーツ団体（ex; 日本オリンピック委員会、日本サッカー協会）やスポーツチーム（ex ;プロスポーツチーム、クラブチーム）などのスポーツ組織はその目標の達成、組織内システムの均衡や維持、さらには外部環境への適応に努力を重ねている。本講義では、スポーツ組織における「人間」と「組織」をマネジメントする際の基礎的な理論を習得するだけにとどまらず、マネジメントを実践していくうえで直面するであろう問題とその解決策についても理解することを目指す。そのため、具体的には①スポーツ現場における効果的なコーチングの在り方、②マクロ組織論に基づく組織マネジメント、③ミクロ組織論に基づく人材マネジメントの大きく3つの視点から体系的に学習する。
到達目標	［授業の到達目標］ 1.スポーツ現場において必要なコーチング、コミュニケーションスキル、リーダーシップについて理解を深め、養成するために必要な方法について説明できる。 2.マクロ組織論に基づく組織マネジメントについて理解を深め説明できる。 3.ミクロ組織論に基づく人材マネジメントについて理解を深め説明できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、以下の事を心がけ受講して頂きたい。 ①スポーツ界やスポーツ組織が抱える課題や問題についての情報収集に努めること。 ②講義内で紹介する理論については自身の所属するスポーツ組織などの身近な事例に当てはめて理解するように努めること。 ③講義内で紹介する文献（書籍）については、自主的に取り寄せ、精読すること。 ④必要に応じ、授業時に文献、参考図書等について紹介するので、積極的に読むこと。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ 特になし。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 平常点２0%（履修者間でのコミュニケーションをしっかり取りながら受講できる態度や姿勢）、課題のプレゼンテーション40%（パワーポイントを駆使し分かりやすく伝える能力）、およびレポート課題40%（課題の理解度、文章表現力、国語力）を総合して評価する。
評価基準	［成績評価の基準］ 1.スポーツ現場において必要なコーチング、コミュニケーションスキル、リーダーシップについて理解を深め、養成するために必要な方法について説明できる。（レポート・プレゼンテーション） 2.マクロ組織論に基づく組織マネジメントについて理解を深め説明できる。（レポート・プレゼンテーション） 3.ミクロ組織論に基づく人材マネジメントについて理解を深め説明できる。（レポート・プレゼンテーション）

試験・課題に対するフィードバック方法
［課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法］ 授業にて返却し、模範解答や評価のポイントを提示し解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
				授業の際に提示する。

参考文献
授業の際に提示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 　担当：吉村雅文 E-mail：msyoshi@juntendo.ac.jp 担当：水野基樹 E-mail：mtmizuno@juntendo.ac.jp ［オフィスアワー］ 担当：吉村雅文 　日時：月曜日および金曜日　12:00～12:50 　場所：1号館5階、1528室 担当：水野基樹 　日時：月曜日10時～12時、火曜日15時～16時 　場所：1号館3階　1320室
担当教員の実務経験	
備考	この授業は、講義の授業形態による2単位の必修科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1回	吉村雅文	［授業内容］ 行動（仕事）する原動力（挑戦の感情）に関して、感情の世界、行動の世界の存在から理解する。また、チームワークピラミッドの構造について、さらに対人関係の気づきのモデルについて理解する。	［授業方法］講義・ディスカッション 行動（仕事）する原動力（挑戦の感情）、チームワークピラミッドの構造、対人関係の気づきのモデルについディスカッションを行う。	（予習：3h） 「ジョハリの窓」について十分調べてくること。 （復習：3h） 行動（仕事）する原動力（挑戦の感情）、感情の世界、行動の世界、チームワークピラミッドの構造、対人関係の気づきのモデルについて整理する。
2回	吉村雅文	［授業内容］ どのような言動が課題達成を促進させ、そのような行動が課題達成を遅らせるか、また、情報共有の方法、時間管理等々について理解する。	［授業方法］講義・ディスカッション グループワーク 「朝刊に間に合わせろ」を行い、その後、ディスカッションを通して振り返り学習を行う。	（予習：3h） 「コミュニケーションスキル」について十分調べてくること。 （復習：3h） 「コミュニケーション能力」とはどのような能力か整理する。
3回	吉村雅文	［授業内容］ リーダーとリーダーシップ、リーダーシップの本質について理解する。	［授業方法］講義・ディスカッション なぜ今の組織に所属して活動しているのか、何を目標としているのかについてディスカッションを行う。	（予習：2h） 「リーダー」と「リーダーシップ」について十分調べてくること。 （復習：2h） 理想のリーダーについて整理する。
4回	吉村雅文	［授業内容］ 組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解する。	［授業方法］講義・ディスカッション FCバルセロナ、スターバックス、グーグルの経営理念、ビジョンについてディスカッションを行う。	（予習：2h） 組織に於ける理念・ビジョンの重要性について十分調べてくること。 （復習：2h） 自分自身が所属する組織について、理念・ビジョンの観点から整理する。
5回	吉村雅文	［授業内容］ ティーチング、コーチングおよび阻害する要素について理解する。	［授業方法］講義・ディスカッション 「John Woodenの成功のピラミッド」について、また「 Yoshimuraの超成功のピラミッド」についてディスカッションを行う。	（予習：2h） 「ティーチング」と「コーチング」の違いにについて十分調べてくること。 （復習：2h） 「John Woodenの成功のピラミッド」の考え方について整理する。
6回	吉村雅文	（授業内容） 「競争」と「共創」、「受動」と「能動」、「必然」と「選択」について理解する。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション グループワーク 「豊かさとは？」について議論し、KJ法を使いまとめたものを発表する。	（予習：2h） 「豊かさ」とは？　考えてくること。 （復習：2h） 指導者としての「豊かさ」、組織としての「豊かさ」について整理する。
7回	水野基樹	［授業内容］ マネジメントの誕生：マネジメントの生成と発展について理解する。	［授業方法］講義・グループワーク 講義（座学）形式によるマネジメント（経営学）の対象領域を説明することで経営学を俯瞰する。	（予習：2h） マネジメントとはどういうものか学説を中心に調べること。 （復習：2h） マネジメントの生成から現代までの一連の流れを復習する。

8回	水野基樹	［授業内容］ スポーツの組織化、ビジネス化：スポーツ組織における組織形態や所有と経営の分離について理解する。	［授業方法］講義・グループワーク スポーツ組織の歴史的な発展過程についての解説と事例（VTR）を紹介する。	（予習：2h） 組織形態や所有と経営の分離について調べておく。 （復習：2h） スポーツ組織の実態について理論と実態を重ね合せてまとめる。
9回	水野基樹	［授業内容］ スポーツ組織のコントロールシステム：スポーツ組織における目的や戦略、経営計画の立案方法および、それらの評価手法について理解する。	［授業方法］講義・グループワーク スポーツ組織の仕組みについての解説と事例（VTR）を紹介する。	予習：2h） スポーツ組織の掲げる戦略や経営計画について調べておく。 （復習：2h） スポーツ組織のコントロールシステムについて整理する。
10回	水野基樹	［授業内容］ スポーツ組織の経営環境と組織デザイン：スポーツ組織の環境適応、組織デザイン、組織構造について理解する。	［授業方法］講義・グループワーク スポーツ組織の構造のバリエーションについての解説と事例（VTR）を紹介する。	（予習：2h） スポーツ組織の掲げる戦略や経営計画について調べておく。 （復習：2h） スポーツ組織のコントロールシステムについて整理する。
11回	水野基樹	［授業内容］ スポーツ組織におけるリーダーシップ：リーダーシップ理論の変遷を整理し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について考える。	［授業方法］講義・グループワーク・ディスカッション 最適なリーダーシップについての体験ワークおよびディスカッションを実施する。	（予習：2h） 基本的なリーダーシップ理論を調べておく。 （復習：2h） リーダーシップの基礎理論とスポーツ組織における効果的なリーダシップについて整理する。
12回	水野基樹	［授業内容］ スポーツ組織におけるモチベーション・マネジメント：三次元モチベーション理論の視点からスポーツ組織における人間のモチベーション・メカニズムについて理解する。	［授業方法］講義・グループワーク・ディスカッション 人間がやる気になるメカニズムに関しての解説と事例（VTR）を紹介する。	（予習：2h） 基本的なモチベーション理論を調べておく。 （復習：2h） スポーツ組織におけるモチベーション・メカニズムについて整理する。
13回	水野基樹	［授業内容］ 職務満足と人事施策：組織成員の職務満足に関する効果的な人事施策についての代表的な理論モデルを理解する。	［授業方法］講義・グループワーク 重要な職務満足について学説の説明と事例（VTR）を紹介する。	（予習：2h） 職務満足、人事施策が組織と個人にどのように影響するかについて重要な学説を調べておく。 （復習：2h） 職務満足と人事施策がどのように関連するか整理する。
14回	水野基樹	［授業内容］ パワーとコンフリクト・マネジメント：組織内外で生起するパワーやコンフリクトについてそのメカニズムおよび効果的なマネジメントについて理解する。	［授業方法］講義・グループワーク・ディスカッション メジャーリーグ球団における意思決定についての題材を用いて、体験ワークおよびディスカッションを実施する。	（予習：2h） パワー、コンフリクトについて身近な事例を調べておく。 （復習：2h） スポーツ組織におけるパワーのメカニズム、コンフリクト・マネジメントについて整理する。
15回	吉村雅文・水野基樹	［授業内容］ まとめ	［授業方法］ 担当教員を含めてディスカッション	（予習：2h） 講義を通しての復習 （復習：2h） 各担当からの課題作成
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	保健体育科授業論（後期前半）	授業形態	講義
英語科目名	Theory of Health and Physical Education Class	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	荻原　朋子	ナンバリング	
担当教員	荻原　朋子、長岡　知、関　伸夫		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 　授業前半では、保健の内容について学習する。授業後半では、主に体育科の内容について学習する。具体的には、近隣小中学校の体育授業を観察しに行き、その授業の授業分析を行う。その上で、教材とは何かを改めて学習し、受講生で新しい教材を開発するためのグループワークを行う。
到達目標	［授業の到達目標］ 1.体育授業の組織的観察法を用いて授業分析ができ、その結果について考察できる。 2.体育に必要な教材づくりの方法的視点と内容的視点を理解した上で、教材開発ができる。 3.保健体育科の目標､内容､指導計画､学習指導法､評価の方法等について説明できる。 4.体育・保健の教授技術をその実践とのつながりをとらえ、その指導の在り方や今後の方向性について提案できるようにする。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。また、中学校教諭専修免許状（保健体育）・高等校教諭専修免許状（保健体育）の指定科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	［授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）］ 　本授業では、保健体育科授業の科学的研究成果をはじめとする幅広い知識や教養を学び、得られた情報をもとに議論することにより、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」を身につけることを目指す。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 　保健体育科の授業をより深く、実践的に理解するために、実際の教育現場での研究会などに参加するので、課題をもって取り組むこと。また、授業の進行状況により授業計画を変更することがある。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ 授業実践に関する授業記録等の資料を収集し準備して、主体的に授業に臨むこと。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 学習意欲や授業態度（40%）、グループワークへの取組状況（20%）、課題レポート等（40%）によって、総合的に評価する。 なお、授業態度・取り組む姿勢が授業進行上、不適切であると判断した場合には、減点の対象とするので注意すること。
評価基準	［成績評価の基準］ 1.体育授業の組織的観察法を用いて、体育授業を分析することができるか。（レポート、平常点） 2.体育授業における学習指導モデルついて、これまでの研究成果を踏まえて発表することができるか。（課題、平常点） 3.保健について、目標､内容､指導計画､学習指導法､評価の方法等について説明できるか。（課題レポート）

試験・課題に対するフィードバック方法
［試験、レポート等の課題に対するフィードバックの方法］ 課題やグループワークについては、講義内で解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
［テキスト・参考書等］ 1.「中学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）」、「高等学校学習指導要領解説保健体育編体育編（文部科学省）」（購入するかWebからダウンロードして各自印刷） 2.その他については、適宜紹介する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 関　　Email: n.seki.ef@juntendo.ac.jp 荻原　Email: togiwara@juntendo.ac.jp 長岡　Email: tm-nagaoka@juntendo.ac.jp ［オフィスアワー］ 　各回授業の前後 （さくら）関：1号館5階1519号室、長岡：1号館4階1416号室、荻原：1号館5階1517号室 （本郷）　関・荻原・長岡：センチュリー南5階教員控室 　上記時間帯には予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生との重複を避けるため、可能な限り前日までにメールでアポイントを取ってください。質問や相談はアポイントを取っている学生を優先します。
担当教員の実務経験	［実務経験のある教員による授業］ 　この科目では、学校現場における教員経験、教育行政機関での勤務経験のある者が、その経験を活かし、実践的教育力を育むための指導を行います。

備考	［学修時間］ 　この授業は、講義、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 　※授業時間は1回あたり90分とする。 ［その他］ 　この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	関、荻原	（授業内容） 受講ガイダンス	（授業方法） 授業の目的や概要の説明等を講義にて行う。	（予習：1時間） 中学校、高等学校学習指導要領（保健体育科）の理解を深めておく。 （復習：1時間） 組織的観察法の分析方法について復習する。
2	荻原	（授業内容） 体育授業の組織的観察法について学ぶ	（授業方法） 体育授業の組織的観察法である期間記録法や相互作用行動観察法について、映像を使いながら実際に分析しながら説明する。	（予習：2時間） 中学校、高等学校学習指導要領（保健体育科）の理解を深めておく。 （復習：2時間） 組織的観察法の分析方法について復習する。
3	荻原	（授業内容） 小学校もしくは中学校の教育現場へ出向き、体育授業を観察する。	（授業方法） グループに分かれ、授業分析を担当する授業の観察を行う。	（予習：1時間） 小学校もしくは中学校の対象となる授業の指導案を確認しておく。 （復習：3時間） 担当授業の授業分析をグループごとに行う。
4	荻原	（授業内容） 小学校もしくは中学校の教育現場へ出向き、体育授業を観察する。	（授業方法） グループに分かれ、授業分析を担当する授業の観察を行う。	（予習：1時間） 小学校もしくは中学校の対象となる授業の指導案を確認しておく。 （復習：3時間） 担当授業の授業分析をグループごとに行う。
5	荻原	（授業内容） 観察した授業の振り返りと研究協議会と発表を行う。	（授業方法） 前回観察した体育授業の分析結果をグループごとに発表し、グループに分かれて授業の省察を行う。また、省察結果をグループでPP等にまとめ、発表する。	（予習:2時間） 授業分析の結果と観察した授業の省察結果を踏まえ、自分の意見をまとめておく。 （復習:2時間） 他のグループの発表を踏まえ、授業を観察することの意義について考えをまとめる。
6	荻原	（授業内容） 観察した授業の振り返りと研究協議会と発表を行う。	（授業方法） 前回観察した体育授業の分析結果をグループごとに発表し、グループに分かれて授業の省察を行う。また、省察結果をグループでPP等にまとめ、発表する。	（予習:2時間） 授業分析の結果と観察した授業の省察結果を踏まえ、自分の意見をまとめておく。 （復習:3時間） 他のグループの発表を踏まえ、授業を観察することの意義について考えをまとめる。
7	荻原	(授業内容) 体育における学習指導モデルについて学習する。	（授業方法） 体育における学習指導モデルについて解説する。 戦術学習モデル、仲間学習モデル、協同学習モデルなどの代表的な学習指導モデルについて紹介する。	（予習２時間） 体育授業における学習指導モデルについて、先行研究を読む。 （復習２時間） 体育授業における学習指導モデルに関連する資料や文献を探しておく。

8	荻原	（授業内容） 各グループで指定された学習指導モデルについて調べ、まとめる。	（授業方法） 戦術学習、仲間学習、協同学習、責任学習のグループに分かれ、各々のグループで各学習指導モデルの内容、方法、成果と課題について調べる。	（予習:2時間） グループで担当する学習指導モデルに関連する文献や資料を探し、目を通しておく。 （復習:3時間） 検討した先行研究から、内容、方法、成果と課題をグループでまとめる。
9	荻原	（授業内容） グループでまとめた学習指導モデルの発表を行う。	（授業方法） 各グループの担当者が発表者となり、まとめた内容をPPで発表し、グループ内で討議する。	（予習:2時間） 各グループで作成した発表資料を確認する。 （復習:2時間） 各グループで発表した学習指導モデルの問題点などをまとめる。
10	荻原	（授業内容） グループでまとめた学習指導モデルの発表を行う。	（授業方法） 各グループの担当者が発表者となり、まとめた内容をPPで発表し、グループ内で討議する。	（予習:2時間） 各グループで作成した発表資料を確認する。 （復習:2時間） 各グループで発表した学習指導モデルの問題点などをまとめる。
11	長岡	［授業内容］ 【学習指導要領の理解】 ・学力観　・授業観 【保健学習の意義・目標・内容】 ・保健の見方、考え方 ・内容の系統性、段階性	（授業方法） ・プリントの配布とスライドを用いて講義を進める。 ・現代的健康課題と保健科教育との関連をグループで協議し，発表する。	（予習:2時間）学習指導要領解説保健体育編を復習しておく。 （復習:2時間）現代的健康課題についてまとめる。
12	長岡	［授業内容］ 【保健授業の学習方法】 ・資質能力の育成 ・アクティブラーニング	（授業方法） ・プリントとスライドを用いて講義を進める。	（予習:2時間）アクティブラーニングについて理解を深めておく。 （復習:2時間）指導案の検討を行う。
13	長岡	［授業内容］ 【保健学習の教材開発】 ・教材とは　・教材開発	（授業方法） ・プリントとスライドを用いて講義を進める。 ・指導案作成における教材の工夫についてグループ協議を行い指導案の作成を行う。 ・グループごとに発表し協議する。	（予習:3時間）教材について調べておく。 （復習:3時間）指導案の検討を行う。
14	長岡	［授業内容］ 【模擬授業の実践】 ・模擬授業　・研究協議	（授業方法） ・模擬授業を実践して、授業省察を行う。教材効果についての検討会を実施する。	（予習2時間）模擬授業の実践に向けて、学習指導案の完成、学習教材の準備をしておく。 （復習2時間）資質能力を育成する魅力ある保健の授業について、模擬授業の実践を振り返り、整理しまとめる。
15	荻原、長岡	［授業内容］ 【学習のまとめ】 ・保健と体育の授業についての成果と課題について考える	（授業方法） ・プリントとスライドを用いて講義を進める。 ・これまでの授業をふり返り、グループ協議を行う。 ・グループごとに発表し協議する。	（予習1時間）これまでの授業内容を整理し、まとめておく。 （復習1時間）保健体育の授業の成果と課題について、各自、整理しまとめる。
		定期試験は実施しません		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	保健体育科授業論（後期後半）	授業形態	講義
英語科目名	Theory of Health and Physical Education Class	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	荻原　朋子	ナンバリング	
担当教員	荻原　朋子、長岡　知、関　伸夫		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ ・授業前半では、主に保健の内容について学習する。 ・授業後半では、主に体育の内容について学習する。具体的には、文献をテーマ毎に分担し、輪講の形式により発表した後、理解を深めるためのグループワークを行う。
到達目標	［授業の到達目標］ 1．体育・保健の教授技術をその実践とのつながりをとらえ、その指導の在り方や今後の方向性について提案できるようにする。 2．保健体育科の目標、内容、指導計画、学習指導法等について説明できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。また、中学校教諭専修免許状（保健体育）・高等校教諭専修免許状（保健体育）の指定科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	［授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・技能等との関連）］ この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 保健体育科の授業をより深く、実践的に理解するために、これまでの学修や教育実習等の経験を改めて整理し課題をもって取り組むこと。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ 毎時のテーマだけでなく、幅広に保健体育科の授業についての情報収集を積極的に行い授業に臨むこと。なお、授業計画は、授業の進行状況により多少前後することがある。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 学習意欲や授業態度（40%）、グループワークへの取組状況（20%）、発表・課題レポート等（40%）を総合して評価する。
評価基準	［成績評価の基準］ 1．発表等は、テーマに即してよりよい授業について十分考察されたものとなっている（プレゼンテーション、課題レポート等）。 2．グループワークは他の受講生の意見をもとに自身の意見を深め、深く考察できるものとなっている（学習意欲や授業態度）。

試験・課題に対するフィードバック方法
［課題（試験やレポート等）］ 毎時発表やグループワークにおいて、講義内で適宜解説を交える。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
［テキスト・参考書等］ 適時紹介する。 中学校学習指導要領及び高等学校学指導要領解説・保健体育編

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 関　　Email: n.seki.ef@juntendo.ac.jp 荻原　　Email: togiwara@juntendo.ac.jp 長岡　　Email: tm-nagaoka@juntendo.ac.jp ［オフィスアワー］ 日時：各回授業の前後 ※上記時間帯には予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生との重複を避けるため、可能な限り前日までにメールでアポイントを取ってください。質問や相談はアポイントを取っている学生を優先します
担当教員の実務経験	［実務経験のある教員による授業］ この科目では、学校現場における教員経験、教育行政機関での勤務経験のある者が、その経験を活かし、実践的教育力を育むための指導を行います。
備考	［学修時間］ この授業は、講義（含む演習）の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 ［その他］ この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	関 荻原 長岡	［授業内容］ 受講ガイダンス 授業の目的や概要について講義形式で解説する。	［授業方法］ 講義、グループワーク	（予習２時間 中学校、高等学校学習指導要領（保健体育科）について理解を深めておく。 （復習２時間） 中学校、高等学校学習指導要領（保健体育科）について復習する。
2	長岡	［授業内容］ 【学習指導要領の理解】 ・学力観　　・授業観 【保健学習の意義・目標・内容】 ・保健の見方、考え方 ・内容の系統性、段階性	［授業方法］ 講義、発表、グループワーク	（予習２時間） 中学校、高等学校学習指導要領解説保健体育編を復習しておく。 （復習２時間） 現代的健康課題についてまとめる。
3	長岡	［授業内容］ 【保健学習の教材開発】 ・教材とは　　・教材開発	［授業方法］ 講義、グループワーク、発表	（予習２時間） 教材について調べておく。 （復習２時間） 指導案の検討を行う。
4	長岡	［授業内容］ 【模擬授業の実践】 ・模擬授業　　・研究協議	［授業方法］ 実践、発表、討議	（予習2時間） 模擬授業の実践に向けて、学習指導案の完成、学習教材の準備をしておく。 （復習２時間） 資質・能力を育成する魅力ある保健の授業について、模擬授業の実践を振り返り、整理しまとめる。
5	関、荻原	［授業内容］ 体育の教授技術（１） ・学習指導要領における教科の目標、内容等の確認 ・学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり	［授業方法］ 講義、グループワーク	（予習２時間） 中学校、高等学校学習指導要領解説保健体育編について理解を深めておく。 （復習２時間） 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりについて復習する。
6	関、荻原	［授業内容］ 体育の教授技術（2） ・体育授業を取り巻く現代的課題について	［授業方法］ 発表、グループワーク	（予習２時間） 体育授業を取り巻く現代的課題について理解を深めておく。 （復習２時間） 体育授業を取り巻く現代的課題について復習する。
7	関、荻原	（授業内容） 体育の教授技術（３） ・体育授業の教授技術	（授業方法） 発表、グループワーク	（予習２時間） 文献をもとに、体育授業の教授技術について理解を深めておく。 （復習２時間） 体育授業の教授技術について関連文献の考証を行う。
8	関、荻原	［授業内容］ 体育の教授技術（４） ・体育授業における教授技術のアセスメント	［授業方法］ 発表、グループワーク	（予習２時間） 文献をもとに、体育授業における教授技術のアセスメントについて理解を深めておく。 （復習２時間） 体育授業における教授技術のアセスメントについて関連文献の考証を行う。
9	関、荻原	［授業内容］ 体育の教授技術（５） ・効果的な授業に関する知見	［授業方法］ 発表、グループワーク	（予習２時間） 文献をもとに、効果的な授業に関する知見について理解を深めておく。 （復習２時間） 効果的な授業に関する知見についてについて関連文献の考証を行う。
10	関、荻原	［授業内容］ 体育の教授技術（６） ・体育の教授に関する知見	［授業方法］ 発表、グループワーク	（予習２時間） 文献をもとに、体育の教授に関する知見について理解を深めておく。 （復習２時間） 体育の教授に関する知見について関連文献の考証を行う。
11	関、荻原	［授業内容］ 体育の教授技術（６） ・体育授業のマネジメント	［授業方法］ ・発表、グループワーク	（予習２時間） 文献をもとに、体育授業のマネジメントについて理解を深めておく。 （復習２時間） 体育授業のマネジメントについて関連文献の考証を行う。
12	関、荻原	［授業内容］ 体育の教授技術（７） ・体育授業におけるしつけ	［授業方法］ 発表、グループワーク	（予習２時間） 文献をもとに、体育授業におけるしつけについて理解を深めておく。 （復習２時間） 体育授業におけるしつけについて関連文献の考証を行う。
13	関、荻原	［授業内容］ 体育の教授技術（８） ・体育授業における相互作用技能	［授業方法］ 発表、グループワーク	（予習２時間） 文献をもとに、体育授業における相互作用技能について理解を深めておく。 （復習２時間） 体育授業における相互作用技能について関連文献の考証を行う。

14	関、荻原	［授業内容］ 体育の教授技術（９） ・体育授業における長期計画・毎日の授業計画	［授業方法］ 発表、グループワーク	（予習２時間） 文献をもとに、体育における長期計画・毎日の授業計画について理解を深めておく。 （復習２時間） 体育授業における長期計画・毎日の授業計画について関連文献の考証を行う。
15	関、荻原	［授業内容］ 体育の教授技術（10） ・体育授業における教授とその成果の測定法	［授業方法］ 講義、発表、グループワーク	（予習２時間） 文献をもとに、体育授業における教授とその成果の測定法について理解を深めておく。 （復習２時間） 体育授業における教授とその成果の測定法について関連文献の考証を行う。
		定期試験は実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	健康教育学（前期後半）	授業形態	講義
英語科目名	Health Education	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	大久保　菜穂子	ナンバリング	
担当教員	大久保　菜穂子、長岡　知		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 この授業科目は、健康教育学の歴史を理解し、地域・学校・職場等における健康教育の指導に必要な専門知識や技術を学習し、人々のQOL向上に向け、ライフステージや生活の場の視点から健康教育を計画づくることを目的としている。 健康教育の歴史と展望、健康教育学の理念、ライフステージ別の健康教育、健康教育と保健行動について解説し、健康教育の調査・研究や、計画づくる上での注意について紹介し、健康教育分野の最近のトピックを取り上げて、グループディスカッションを行い、授業内で発表する。
到達目標	【授業の到達目標】 1.今日のさまざまな健康課題について健康教育学的な視点からアプローチする方法を説明できる。 2.人々のQOL向上に向け、ライフステージの視点から健康教育について説明することができる。 3.将来、健康を司る職に就いた場合、実践に役立つよう、地域・学校・職場等における効果的な健康教育の展開に向けた専門知識や技術を獲得することができる。
授業の位置づけ	【授業の位置づけ】 この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。また、中学校教諭専修免許状（保健体育）・高等校教諭専修免許状（保健体育）の指定科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連】 この科目は、スポーツ健康科学部専攻(博士前期課程)の学位授与方針に定める「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」を身に付ける。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。 また、遅刻及び早退3回で、1回分の欠席としてカウントする。

成績評価の方法	
評価方法	【評価方法】 筆記試験（レポート）2題70%、授業中に課す提出物20%、授業中の態度・行動や質疑応答などの取組む姿勢といった授業への意欲度（平常点）10%を総合して評価する。
評価基準	【評価基準】 1.今日のさまざまな健康課題について健康教育学的な視点からアプローチする方法を説明できる。（筆記試験） 2.人々のQOL向上に向け、ライフステージの視点から健康教育について説明することができる。（筆記試験） 3.将来、健康を司る職に就いた場合、実践に役立つよう、地域・学校・職場等における効果的な健康教育の展開に向けた専門知識や技術を獲得することができる。（授業中に課す提出物） 4.授業中の発言やグループワークの取組状況によって受講態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
【試験・課題等）に対するフィードバック方法】 レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。授業中に課したレポートや提出物については講義形式で解説を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

【テキスト・参考書等】
1.市村久美子編、大久保菜穂子ら著、ヘルスプロモーション（第2版）、メヂカルフレンド社（東京）、2018年
2.島内憲夫編、大久保 菜穂子ら著、２１世紀の健康戦略シリーズ ヘルスリテラシーとは何か？-２１世紀のグローバル・チャレンジ、垣内出版（東京）、2019年
3.村上紀美子編、大久保菜穂子ら著、患者の目線　医療関係者が患者・家族になってわかったこと、医学書院（東京）2014年
特に1の第2章ヘルスプロモーションのための健康教育，ライフサイクルにおける健康教育は確認して頂きたい。
2と3は参考書と参考資料であり、レポート作成の際に参考となる。その他、授業中に、適宜、資料を配布します。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：大久保菜穂子（代表） E-mail：naokoo[at]juntendo.ac.jp　　※左記アドレスの[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】　日時：（水)(木)12:00～12:50　場所: 1号館4階1415室　健康教育学研究室 他の学生の相談時間とかち合わないようにするため、できるだけ前日までにE-mailで予約してください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間(授業時間30時間以上を含む)の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 感染症の発生状況等により、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	大久保 菜穂子	【授業内容】 本授業の目的、概要、到達目標について理解を深める。 成績評価方法及び成績基準、履修上の注意点等について解説する。 シラバスを用いて授業計画を概観し、各自、本授業の全体像をイメージする。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習:2.5時間）本授業の目的、概要、到達目標について事前に確認し、健康教育学という学問について調べる。 （復習:2.5時間）予習で事前に確認した項目に加え、成績評価方法及び成績基準、履修上の注意点等についても再確認し、レポート課題や資料作成に向けた準備を行う。
2	大久保 菜穂子	【授業内容】 WHOが提唱する21世紀の健康戦略における健康教育の歴史的意義と展望について理解を深める。 健康教育の歴史と展望について解説する。 ペアになり健康教育学の歴史について相手に説明する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習:1.5時間）健康教育の歴史について書籍、インターネットを利用して調べる。 （復習:2.5時間）国内と海外の健康教育の歴史について復習し、時系列に流れを整理する。
3	大久保 菜穂子	【授業内容】 「健康とは」というテーマでWHOの健康憲章からヘルスプロモーションに至る歴史的背景にせまる。 WHOが提唱する21世紀の健康戦略をふまえ、幅広い視点から健康について解説する。 主観的健康観についてグループディスカッションを行う。	【授業方法】 講義、グループワーク	（予習:1.5時間）WHO憲章、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションについて調べる。 （復習:2.5時間）国連の専門機関であるWHOが提唱する21世紀の健康戦略と健康教育学の位置づけについて整理する。
4	大久保 菜穂子	【授業内容】 健康教育学の理念について理解を深める。 ペアになり、本授業の前回の振り返りを行い、相手に説明する。数名にプレゼンテーションしてもらう。 海外や日本健康教育学会の健康教育の定義について解説する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習:2.5時間）健康教育学の理念について書籍、インターネットを利用して調べる。 （復習:2.5時間）海外や日本健康教育学会の健康教育の定義について復習し、整理する。
5	長岡　知	【授業内容】 ライフステージにおける健康教育について理解を深める。 ペアになり、本授業の前回の振り返りを行い、相手に説明する。数名プレゼンテーションし、相互理解を深める。 ライフステージの中でも特に幼児期・学童期、思春期における健康教育について解説する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習:1.5時間）ライフステージについて書籍、インターネットを利用して調べる （復習:2.5時間）母子・乳幼児・子どもに対する健康教育について整理する。
6	大久保 菜穂子	【授業内容】 ライフステージにおける健康教育について理解を深める。 ペアになり、本授業の前回の振り返りを行い、相手に説明する。数名プレゼンテーションし、相互理解を深める。 ライフステージの中でも特に成人期・壮年期、高齢期における健康教育について解説する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習:2時間）ライフステージ別の健康教育について書籍、インターネットを利用して調べる （復習:2時間）成人・高齢者に対する健康教育を整理し、前回とあわせてまとめる。
7	大久保 菜穂子	【授業内容】 健康教育と保健行動について理解を深める。 ペアになり、本授業の前回の振り返りを行い、相手に説明する。数名プレゼンテーションし、相互理解を深める。 健康教育と保健行動について解説する。 行動変容理論及びその歴史的推移を紹介する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習:1.5時間）保健行動について書籍、インターネットを利用して調べる （復習:3時間）KAP model及びHealth Belief modelについて整理する。
8	大久保 菜穂子	【授業内容】 今までの7回にわたる健康教育学の授業について中間まとめを行う。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習:3.5時間）1～7回の講義内容について振り返り、整理する。興味や疑問を抱いた部分について文献やインターネットを利用して調べる （復習:0.5時間）学習した要点を確認する。
9	大久保 菜穂子	【授業内容】 健康教育学の調査研究について理解を深める。 ペアになり、本授業の前回の中間まとめを振り返り、相手に説明する。数名プレゼンテーションし、相互理解を深める。 健康教育学の調査研究について解説する。PRECEDE-PROCEED modelを紹介する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習:1.5時間）健康教育の調査及び研究について書籍、インターネットを利用して調べる。 （復習:3時間）PRECEDE-PROCEED modelについて整理する。
10	大久保 菜穂子	【授業内容】 健康教育の計画づくりについて理解を深める。 健康教育の計画づくりの前半部であるニーズアセスメント、目的・目標、内容について解説する。 ペアになり、カリキュラム編成原理の視点から３つの教育的ニーズについて相手に説明する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習:1.5時間）健康教育の計画について書籍、インターネットを利用して調べる （復習:2.5時間）ニーズアセスメント、目的・目標、内容について整理する。
11	大久保　菜穂子	【授業内容】 健康教育の計画づくりについて理解を深める。 健康教育の計画づくりの後半部である方法、教育媒体、評価について解説する。 ペアになり、望ましい教材の要件について相手に説明する。	【授業方法】 講義、グループワーク	（予習:1.5時間）健康教育の計画づくりにおける方法、教育媒体、評価について書籍、インターネットを利用して調べる （復習:2.5時間）前回復習したニーズアセスメント、目的・目標、内容を確認しながら、方法、教育媒体、評価について整理する。
12	長岡　知	【授業内容】 生活の場における健康教育について理解を深める。 私たちが生活する場である地域・家庭・学校での健康教育について解説する。 ペアになり、総合的健康教育について相手に説明する。	【授業方法】 講義、グループワーク	（予習:1.5時間）生活の場における健康教育について書籍、インターネットを利用して調べる （復習:2.5時間）地域・家庭・学校での健康教育について整理する。

13	大久保 菜穂子	【授業内容】 生活の場における健康教育について理解を深める。 私たちが生活する場である職場・病院・助産院等での健康教育について解説する。 ペアになり、患者教育およびDeath Educationについて相手に説明する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習:1.5時間）生活の場における健康教育における方法、教育媒体、評価について書籍、インターネットを利用して調べる （復習:2.5時間）前回復習した地域・家庭・学校での健康教育を確認しながら、職場・病院・助産院等での健康教育について整理する。
14	大久保 菜穂子	【授業内容】 健康教育の国際的動向について理解を深める。 WHOにおける健康教育の取り組みや、ヘルスリテラシー、IUHPE（国際ヘルスプロモーション・健康教育国際連合）等について紹介する。 ペアになり、健康教育の国際的動向について相手に説明する。	【授業方法】 講義、グループワーク	（予習:1.5時間）健康教育の国際的動向について書籍、インターネットを利用して調べる。 （復習:2.5時間）WHO、IUHPE（国際ヘルスプロモーション・健康教育国際連合）等について復習し、整理する。
15	大久保　菜穂子	（授業内容） 今までの8回～14回にわたる健康教育学の授業についてまとめを行う。本授業の後半7回分の振り返りを行い、レポートに本授業の総括及び印象に残った授業について文献を用いて考察し、論述する。	（授業方法） 本授業の14回分の振り返りを行い、レポートに本授業の総括及び印象に残った授業について文献を用いて考察し、論述する。	（予習:3時間）1～14回講義内容について振り返り、整理する。興味や疑問を抱いた部分について文献やインターネットを利用して調べる （復習:1時間）復習が不完全だったところを配布資料や参考文献などを用いて十分に確認する。学習した要点をまとめ、本授業の総括を行う。
定期試験を実施しない				

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	健康教育学（前期後半）	授業形態	講義
英語科目名	Health Education	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	大久保　菜穂子	ナンバリング	
担当教員	大久保　菜穂子、長岡　知		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 この授業科目は、健康教育学の歴史を理解し、地域・学校・職場等における健康教育の指導に必要な専門知識や技術を学習し、人々のQOL向上に向け、ライフステージや生活の場の視点から健康教育を計画づくることを目的としている。 健康教育の歴史と展望、健康教育学の理念、ライフステージ別の健康教育、健康教育と保健行動について解説し、健康教育の調査・研究や、計画づくる上での注意について紹介し、健康教育分野の最近のトピックを取り上げて、グループディスカッションを行い、授業内で発表する。
到達目標	【授業の到達目標】 1.今日のさまざまな健康課題について健康教育学的な視点からアプローチする方法を説明できる。 2.人々のQOL向上に向け、ライフステージの視点から健康教育について説明することができる。 3.将来、健康を司る職に就いた場合、実践に役立つよう、地域・学校・職場等における効果的な健康教育の展開に向けた専門知識や技術を獲得することができる。
授業の位置づけ	【授業の位置づけ】 この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。また、中学校教諭専修免許状（保健体育）・高等校教諭専修免許状（保健体育）の指定科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連】 この科目は、スポーツ健康科学部専攻(博士前期課程)の学位授与方針に定める「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」を身に付ける。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。 また、遅刻及び早退3回で、1回分の欠席としてカウントする。

成績評価の方法	
評価方法	【評価方法】 筆記試験（レポート）2題70%、授業中に課す提出物20%、授業中の態度・行動や質疑応答などの取組む姿勢といった授業への意欲度（平常点）10%を総合して評価する。
評価基準	【評価基準】 1.今日のさまざまな健康課題について健康教育学的な視点からアプローチする方法を説明できる。（筆記試験） 2.人々のQOL向上に向け、ライフステージの視点から健康教育について説明することができる。（筆記試験） 3.将来、健康を司る職に就いた場合、実践に役立つよう、地域・学校・職場等における効果的な健康教育の展開に向けた専門知識や技術を獲得することができる。（授業中に課す提出物） 4.授業中の発言やグループワークの取組状況によって受講態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
【試験・課題等）に対するフィードバック方法】 レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。授業中に課したレポートや提出物については講義形式で解説を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

【テキスト・参考書等】
1.市村久美子編、大久保菜穂子ら著、ヘルスプロモーション（第2版）、メヂカルフレンド社（東京）、2018年
2.島内憲夫編、大久保 菜穂子ら著、２１世紀の健康戦略シリーズ ヘルスリテラシーとは何か？-２１世紀のグローバル・チャレンジ、垣内出版（東京）、2019年
3.村上紀美子編、大久保菜穂子ら著、患者の目線　医療関係者が患者・家族になってわかったこと、医学書院（東京）2014年
特に1の第2章ヘルスプロモーションのための健康教育，ライフサイクルにおける健康教育は確認して頂きたい。
2と3は参考書と参考資料であり、レポート作成の際に参考となる。その他、授業中に、適宜、資料を配布します。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：大久保菜穂子（代表） E-mail：naokoo[at]juntendo.ac.jp　　※左記アドレスの[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】　日時：（水)(木)12:00～12:50　場所: 1号館4階1415室　健康教育学研究室 他の学生の相談時間とかち合わないようにするため、できるだけ前日までにE-mailで予約してください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間(授業時間30時間以上を含む)の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 感染症の発生状況等により、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	大久保 菜穂子	【授業内容】 本授業の目的、概要、到達目標について理解を深める。 成績評価方法及び成績基準、履修上の注意点等について解説する。 シラバスを用いて授業計画を概観し、各自、本授業の全体像をイメージする。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習:2.5時間）本授業の目的、概要、到達目標について事前に確認し、健康教育学という学問について調べる。 （復習:2.5時間）予習で事前に確認した項目に加え、成績評価方法及び成績基準、履修上の注意点等についても再確認し、レポート課題や資料作成に向けた準備を行う。
2	大久保 菜穂子	【授業内容】 WHOが提唱する21世紀の健康戦略における健康教育の歴史的意義と展望について理解を深める。 健康教育の歴史と展望について解説する。 ペアになり健康教育学の歴史について相手に説明する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習:1.5時間）健康教育の歴史について書籍、インターネットを利用して調べる。 （復習:2.5時間）国内と海外の健康教育の歴史について復習し、時系列に流れを整理する。
3	大久保 菜穂子	【授業内容】 「健康とは」というテーマでWHOの健康憲章からヘルスプロモーションに至る歴史的背景にせまる。 WHOが提唱する21世紀の健康戦略をふまえ、幅広い視点から健康について解説する。 主観的健康観についてグループディスカッションを行う。	【授業方法】 講義、グループワーク	（予習:1.5時間）WHO憲章、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションについて調べる。 （復習:2.5時間）国連の専門機関であるWHOが提唱する21世紀の健康戦略と健康教育学の位置づけについて整理する。
4	大久保 菜穂子	【授業内容】 健康教育学の理念について理解を深める。 ペアになり、本授業の前回の振り返りを行い、相手に説明する。数名にプレゼンテーションしてもらう。 海外や日本健康教育学会の健康教育の定義について解説する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習:2.5時間）健康教育学の理念について書籍、インターネットを利用して調べる。 （復習:2.5時間）海外や日本健康教育学会の健康教育の定義について復習し、整理する。
5	長岡　知	【授業内容】 ライフステージにおける健康教育について理解を深める。 ペアになり、本授業の前回の振り返りを行い、相手に説明する。数名プレゼンテーションし、相互理解を深める。 ライフステージの中でも特に幼児期・学童期、思春期における健康教育について解説する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習:1.5時間）ライフステージについて書籍、インターネットを利用して調べる （復習:2.5時間）母子・乳幼児・子どもに対する健康教育について整理する。
6	大久保 菜穂子	【授業内容】 ライフステージにおける健康教育について理解を深める。 ペアになり、本授業の前回の振り返りを行い、相手に説明する。数名プレゼンテーションし、相互理解を深める。 ライフステージの中でも特に成人期・壮年期、高齢期における健康教育について解説する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習:2時間）ライフステージ別の健康教育について書籍、インターネットを利用して調べる （復習:2時間）成人・高齢者に対する健康教育を整理し、前回とあわせてまとめる。
7	大久保 菜穂子	【授業内容】 健康教育と保健行動について理解を深める。 ペアになり、本授業の前回の振り返りを行い、相手に説明する。数名プレゼンテーションし、相互理解を深める。 健康教育と保健行動について解説する。 行動変容理論及びその歴史的推移を紹介する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習:1.5時間）保健行動について書籍、インターネットを利用して調べる （復習:3時間）KAP model及びHealth Belief modelについて整理する。
8	大久保 菜穂子	【授業内容】 今までの7回にわたる健康教育学の授業について中間まとめを行う。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習:3.5時間）1～7回の講義内容について振り返り、整理する。興味や疑問を抱いた部分について文献やインターネットを利用して調べる （復習:0.5時間）学習した要点を確認する。
9	大久保 菜穂子	【授業内容】 健康教育学の調査研究について理解を深める。 ペアになり、本授業の前回の中間まとめを振り返り、相手に説明する。数名プレゼンテーションし、相互理解を深める。 健康教育学の調査研究について解説する。PRECEDE-PROCEED modelを紹介する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習:1.5時間）健康教育の調査及び研究について書籍、インターネットを利用して調べる。 （復習:3時間）PRECEDE-PROCEED modelについて整理する。
10	大久保 菜穂子	【授業内容】 健康教育の計画づくりについて理解を深める。 健康教育の計画づくりの前半部であるニーズアセスメント、目的・目標、内容について解説する。 ペアになり、カリキュラム編成原理の視点から３つの教育的ニーズについて相手に説明する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習:1.5時間）健康教育の計画について書籍、インターネットを利用して調べる （復習:2.5時間）ニーズアセスメント、目的・目標、内容について整理する。
11	大久保　菜穂子	【授業内容】 健康教育の計画づくりについて理解を深める。 健康教育の計画づくりの後半部である方法、教育媒体、評価について解説する。 ペアになり、望ましい教材の要件について相手に説明する。	【授業方法】 講義、グループワーク	（予習:1.5時間）健康教育の計画づくりにおける方法、教育媒体、評価について書籍、インターネットを利用して調べる （復習:2.5時間）前回復習したニーズアセスメント、目的・目標、内容を確認しながら、方法、教育媒体、評価について整理する。
12	長岡　知	【授業内容】 生活の場における健康教育について理解を深める。 私たちが生活する場である地域・家庭・学校での健康教育について解説する。 ペアになり、総合的健康教育について相手に説明する。	【授業方法】 講義、グループワーク	（予習:1.5時間）生活の場における健康教育について書籍、インターネットを利用して調べる （復習:2.5時間）地域・家庭・学校での健康教育について整理する。

13	大久保 菜穂子	【授業内容】 生活の場における健康教育について理解を深める。 私たちが生活する場である職場・病院・助産院等での健康教育について解説する。 ペアになり、患者教育およびDeath Educationについて相手に説明する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習:1.5時間）生活の場における健康教育における方法、教育媒体、評価について書籍、インターネットを利用して調べる （復習:2.5時間）前回復習した地域・家庭・学校での健康教育を確認しながら、職場・病院・助産院等での健康教育について整理する。
14	大久保 菜穂子	【授業内容】 健康教育の国際的動向について理解を深める。 WHOにおける健康教育の取り組みや、ヘルスリテラシー、IUHPE（国際ヘルスプロモーション・健康教育国際連合）等について紹介する。 ペアになり、健康教育の国際的動向について相手に説明する。	【授業方法】 講義、グループワーク	（予習:1.5時間）健康教育の国際的動向について書籍、インターネットを利用して調べる。 （復習:2.5時間）WHO、IUHPE（国際ヘルスプロモーション・健康教育国際連合）等について復習し、整理する。
15	大久保　菜穂子	（授業内容） 今までの8回～14回にわたる健康教育学の授業についてまとめを行う。本授業の後半7回分の振り返りを行い、レポートに本授業の総括及び印象に残った授業について文献を用いて考察し、論述する。	（授業方法） 本授業の14回分の振り返りを行い、レポートに本授業の総括及び印象に残った授業について文献を用いて考察し、論述する。	（予習:3時間）1～14回講義内容について振り返り、整理する。興味や疑問を抱いた部分について文献やインターネットを利用して調べる （復習:1時間）復習が不完全だったところを配布資料や参考文献などを用いて十分に確認する。学習した要点をまとめ、本授業の総括を行う。
定期試験を実施しない				

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ教育学（後期前半）	授業形態	講義
英語科目名	Sport Pedagogy	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	関　伸夫	ナンバリング	
担当教員	関　伸夫、荻原　朋子		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 「スポーツ教育学」は広く教育現象としてのスポーツを研究対象とするスポーツ科学の一専門分野である。スポーツ教育にかかわる課題群の中から各自の課題を選択し、その課題の捉え方とアプローチの方法について検討する。 具体的には、毎時指定する文献による輪講の形式により文献をテーマごとに分担し、かわるがわる発表したのち、理解を深め互いの指導観を深め合うためのグループワークを行う。
到達目標	［授業の到達目標］ 1．スポーツ教育にかかわる課題の捉え方とアプローチの方法について検討しながら課題解決の方途を探ることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。また、中学校教諭専修免許状（保健体育）・高等校教諭専修免許状（保健体育）の指定科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	［授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・技能等との関連）］ この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ スポートをより深く理解するために、広くスポーツに関わる事象について課題をもって取り組むこと。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ スポーツ教育についての情報収集を積極的に行うこと。なお、授業計画は、授業の進行状況により多少前後することがある。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 学習意欲や授業態度（40%）、グループワークへの取組状況（20%）、発表・課題レポート等（40%）を総合して評価する。
評価基準	［成績評価の基準］ 1．発表等は、テーマに即して課題解決に向けて十分考察されたものとなっている（プレゼンテーション）。 2．最終のレポートでは、テーマに即した課題について深く考察し、自身の意見を述べることができている（レポート）。

試験・課題に対するフィードバック方法
［課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法］ 毎時発表やグループワークにおいて、講義内で適宜解説を交える。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
スポーツ哲学の入門　ースポーツの本質と倫理的諸問題ー	ｼｬﾘﾙ・ﾍﾞﾙｸﾏﾝ・ﾄﾞｩﾙｰ著、川谷茂樹訳	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0571-3	

参考文献
［参考書等］ 新版　教養としての体育原理 現代の体育・スポーツを考えるために（友添秀則、岡出美則編著）大修館書店. その他、適宜紹介する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当： 関　伸夫　E-mail：n.seki.ef[at]juntendo.ac.jp 荻原 朋子　Email: togiwara[at]juntendo.ac.jp ［オフィスアワー］ 関　　火曜日　12：00～14：00　1号館5階1519号室 荻原　木曜日　11：00～13：00　1号館5階1517号室
担当教員の実務経験	［実務経験のある教員による授業］ この科目では、学校現場における教員経験、教育行政機関での勤務経験のある者が、その経験を活かし、実践的教育力を育むための指導を行います。
備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 ［その他］ この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	関、荻原	［授業内容］ 受講ガイダンス ［授業方法］ 授業の目的や概要について講義形式で解説する。	講義、グループワーク	（予習２時間） スポーツ教育学について文献により概念整理しておく。 （復習２時間） スポーツの今日的課題について復習する。
2	関、荻原	［授業内容］ スポーツとは ［授業方法］ スポーツについて、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、スポーツについて理解を深めておく。 （復習2時間）スポーツについて関連文献の考証を行う。
3	関、荻原	［授業内容］ なぜスポーツなのか ［授業方法］ スポーツの持つ教育的価値について、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、スポーツの持つ教育的価値について理解を深めておく。 （復習2時間）スポーツの持つ教育的価値について関連文献の考証を行う。
4	関、荻原	［授業内容］ スポーツの社会的価値 ［授業方法］ スポーツの社会的価値について、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、スポーツの社会的価値について理解を深めておく。 （復習2時間）スポーツの社会的価値について関連文献の考証を行う。
5	関、荻原	［授業内容］ スポーツの競争性 ［授業方法］ スポーツの競争性について、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、スポーツの競争性について理解を深めておく。 （復習2時間）スポーツの競争性について関連文献の考証を行う。
6	関、荻原	［授業内容］ スポーツの組織化 ［授業方法］ スポーツの組織化について、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、スポーツの組織化について理解を深めておく。 （復習2時間）スポーツの組織化について関連文献の考証を行う。
7	関、荻原	［授業内容］ スポーツにおける倫理的問題 ①競技者 ［授業方法］ スポーツにおけり倫理的問題について、発表をもとに競技者の立場からグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、スポーツにおける倫理的問題について理解を深めておく。 （復習2時間）スポーツにおける倫理的問題について関連文献の考証を行う。
8	関、荻原	［授業内容］ スポーツにおける倫理的問題 ②指導者 ［授業方法］ スポーツにおける倫理的問題について、発表をもとに指導者の立場からグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、スポーツにおける倫理的問題について理解を深めておく。 （復習2時間）スポーツにおける倫理的問題について関連文献の考証を行う。
9	関、荻原	［授業内容］ 指導者と選手の関係 ［授業方法］ 指導者と選手の関係について、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、指導者と選手の関係について理解を深めておく。 （復習2時間）指導者と選手の関係について関連文献の考証を行う。
10	関、荻原	［授業内容］ フェアプレイ ［授業方法］ フェアプレイについて、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、フェアプレイについて理解を深めておく。 （復習2時間）フェアプレイについて関連文献の考証を行う。
11	関、荻原	［授業内容］ ドーピング ［授業方法］ ドーピングについて、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、ドーピングについて理解を深めておく。 （復習2時間）ドーピングについて関連文献の考証を行う。
12	関、荻原	［授業内容］ スポーツにおける暴力 ［授業方法］ スポーツにおける暴力について、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、スポーツにおける暴力について理解を深めておく。 （復習2時間）スポーツにおける暴力について関連文献の考証を行う。
13	関、荻原	［授業内容］ スポーツにおける性差別 ［授業方法］ スポーツにおける性差別について、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、スポーツにおける性差別について理解を深めておく。 （復習2時間）スポーツにおける性差別について関連文献の考証を行う。
14	関、荻原	［授業内容］ スポーツは文化？ ［授業方法］ スポーツの文化性について、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、スポーツの文化性について理解を深めておく。 （復習2時間）スポーツの文化性について関連文献の考証を行う。
15	関、荻原	［授業内容］ スポーツ教育学の研究成果と課題 ［授業方法］ スポーツ教育学の研究成果と課題について解説する。	講義 グループワーク	（予習2時間）これまでの授業内容をふり返り、自身の意見を整理しておく。 （復習2時間）スポーツ教育学の研究成果と課題についてまとめる。
		定期試験は実施しない。		

科目名	スポーツ教育学（前期後半）	授業形態	講義
英語科目名	Sport Pedagogy	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	関　伸夫	ナンバリング	
担当教員	関　伸夫、荻原　朋子		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 「スポーツ教育学」は広く教育現象としてのスポーツを研究対象とするスポーツ科学の一専門分野である。スポーツ教育にかかわる課題群の中から各自の課題を選択し、その課題の捉え方とアプローチの方法について検討する。 具体的には、毎時指定する文献による輪講の形式により文献をテーマごとに分担し、かわるがわる発表したのち、理解を深め互いの指導観を深め合うためのグループワークを行う。
到達目標	［授業の到達目標］ 1．スポーツ教育にかかわる課題の捉え方とアプローチの方法について検討しながら課題解決の方途を探ることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。また、中学校教諭専修免許状（保健体育）・高等校教諭専修免許状（保健体育）の指定科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	［授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・技能等との関連）］ この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ スポートをより深く理解するために、広くスポーツに関わる事象について課題をもって取り組むこと。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ スポーツ教育についての情報収集を積極的に行うこと。なお、授業計画は、授業の進行状況により多少前後することがある。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 学習意欲や授業態度（40%）、グループワークへの取組状況（20%）、発表・課題レポート等（40%）を総合して評価する。
評価基準	［成績評価の基準］ 1．発表等は、テーマに即して課題解決に向けて十分考察されたものとなっている（プレゼンテーション）。 2．最終のレポートでは、テーマに即した課題について深く考察し、自身の意見を述べることができている（レポート）。

試験・課題に対するフィードバック方法
［課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法］ 毎時発表やグループワークにおいて、講義内で適宜解説を交える。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
スポーツ哲学の入門　ースポーツの本質と倫理的諸問題ー	ｼｬﾘﾙ・ﾍﾞﾙｸﾏﾝ・ﾄﾞｩﾙｰ著、川谷茂樹訳	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0571-3	

参考文献
［参考書等］ 新版　教養としての体育原理 現代の体育・スポーツを考えるために（友添秀則、岡出美則編著）大修館書店. その他、適宜紹介する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当： 関　伸夫　E-mail：n.seki.ef[at]juntendo.ac.jp 荻原 朋子　Email: togiwara[at]juntendo.ac.jp ［オフィスアワー］ 関　　火曜日　12：00～14：00　1号館5階1519号室 荻原　木曜日　11：00～13：00　1号館5階1517号室
担当教員の実務経験	［実務経験のある教員による授業］ この科目では、学校現場における教員経験、教育行政機関での勤務経験のある者が、その経験を活かし、実践的教育力を育むための指導を行います。
備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 ［その他］ この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	関、荻原	［授業内容］ 受講ガイダンス ［授業方法］ 授業の目的や概要について講義形式で解説する。	講義、グループワーク	（予習２時間） スポーツ教育学について文献により概念整理しておく。 （復習２時間） スポーツの今日的課題について復習する。
2	関、荻原	［授業内容］ スポーツとは ［授業方法］ スポーツについて、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、スポーツについて理解を深めておく。 （復習2時間）スポーツについて関連文献の考証を行う。
3	関、荻原	［授業内容］ なぜスポーツなのか ［授業方法］ スポーツの持つ教育的価値について、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、スポーツの持つ教育的価値について理解を深めておく。 （復習2時間）スポーツの持つ教育的価値について関連文献の考証を行う。
4	関、荻原	［授業内容］ スポーツの社会的価値 ［授業方法］ スポーツの社会的価値について、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、スポーツの社会的価値について理解を深めておく。 （復習2時間）スポーツの社会的価値について関連文献の考証を行う。
5	関、荻原	［授業内容］ スポーツの競争性 ［授業方法］ スポーツの競争性について、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、スポーツの競争性について理解を深めておく。 （復習2時間）スポーツの競争性について関連文献の考証を行う。
6	関、荻原	［授業内容］ スポーツの組織化 ［授業方法］ スポーツの組織化について、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、スポーツの組織化について理解を深めておく。 （復習2時間）スポーツの組織化について関連文献の考証を行う。
7	関、荻原	［授業内容］ スポーツにおける倫理的問題 ①競技者 ［授業方法］ スポーツにおけり倫理的問題について、発表をもとに競技者の立場からグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、スポーツにおける倫理的問題について理解を深めておく。 （復習2時間）スポーツにおける倫理的問題について関連文献の考証を行う。
8	関、荻原	［授業内容］ スポーツにおける倫理的問題 ②指導者 ［授業方法］ スポーツにおける倫理的問題について、発表をもとに指導者の立場からグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、スポーツにおける倫理的問題について理解を深めておく。 （復習2時間）スポーツにおける倫理的問題について関連文献の考証を行う。
9	関、荻原	［授業内容］ 指導者と選手の関係 ［授業方法］ 指導者と選手の関係について、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、指導者と選手の関係について理解を深めておく。 （復習2時間）指導者と選手の関係について関連文献の考証を行う。
10	関、荻原	［授業内容］ フェアプレイ ［授業方法］ フェアプレイについて、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、フェアプレイについて理解を深めておく。 （復習2時間）フェアプレイについて関連文献の考証を行う。
11	関、荻原	［授業内容］ ドーピング ［授業方法］ ドーピングについて、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、ドーピングについて理解を深めておく。 （復習2時間）ドーピングについて関連文献の考証を行う。
12	関、荻原	［授業内容］ スポーツにおける暴力 ［授業方法］ スポーツにおける暴力について、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、スポーツにおける暴力について理解を深めておく。 （復習2時間）スポーツにおける暴力について関連文献の考証を行う。
13	関、荻原	［授業内容］ スポーツにおける性差別 ［授業方法］ スポーツにおける性差別について、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、スポーツにおける性差別について理解を深めておく。 （復習2時間）スポーツにおける性差別について関連文献の考証を行う。
14	関、荻原	［授業内容］ スポーツは文化？ ［授業方法］ スポーツの文化性について、発表をもとにグループワークを行う。	発表、グループワーク	（予習2時間）文献をもとに、スポーツの文化性について理解を深めておく。 （復習2時間）スポーツの文化性について関連文献の考証を行う。
15	関、荻原	［授業内容］ スポーツ教育学の研究成果と課題 ［授業方法］ スポーツ教育学の研究成果と課題について解説する。	講義、グループワーク	（予習2時間）これまでの授業内容をふり返り、自身の意見を整理しておく。 （復習2時間）スポーツ教育学の研究成果と課題についてまとめる。
		定期試験は実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	教育技法・教材開発プラクティカム	授業形態	演習
英語科目名	Practicum on Teaching Technique and Development of Materials	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	牛尾　直行	ナンバリング	
担当教員	牛尾　直行、荻原　朋子、外畑　幸一		

授業概要	
全体内容	〔授業全体の内容〕 近隣の小中学校および高等学校等での体育授業の観察・補助活動及び様々なNGO・ボランティア活動を通じて、より良い保健体育科の授業を実現するための授業運営・学習指導のあり方を、多様な実践を通して身に付け理解を深めることを目標とする。 実際の教育活動に継続的に関わりながら、教材研究を行い、指導案を立案し、大学および実習先の指導者のアドバイスのもとに反省的に授業実践を繰り返し、実践的な指導力を培う。基本的に以下の3パターンで実施する。 【Ａ】学校教育実践をもとに考察レポートを作成する。 ※小・中・高における学校教育実践に限定する（部活動・適応指導教室等は含む。基本的にアルバイトとして行うスイミング・ス クール等での指導は含まない。） 【Ｂ】教職に関わる実践を実施し、それをもとに考察レポートを作成する。 【Ｃ】学部の教職に関わる実践的な授業などに関わり、それをもとに考察レポートを作成する。
到達目標	１．保健体育科のより良い授業実践を生み出すための、実践的な授業の技術や教材研究の方法を工夫・考察することができる。 ２．その考察に基づき、個々のテーマ設定に応じた教育実践を繰り返し、実践的な指導をすることができる。 ３．実践期間中の指導から、さらに教材の開発を深めることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。また、中学校教諭専修免許状（保健体育）・高等校教諭専修免許状（保健体育）の指定科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門的知識」、「スポーツ健康科学に関する実践能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	〔履修要件〕 特になし。受講者は中高第1種教諭免許状を持っていることが望ましい。 〔履修上の注意〕 受け入れ先の教育現場は、基本的に担当教員との協議に基づいて決定する。学校等に赴く前に、必ず事前指導を受けること。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（５０%）、プラクティカム・実習ノートの書類（日誌、成果報告書、評価票など）による評価（５０%）を総合して評価する。
評価基準	１．個々の実践の内容に合わせて、期間中の実践課題・考察課題を適切に設定することができる（レポート） ２．自ら設定したテーマに基づき、学問的・実践的により深く追求し、より効果の高い指導法を導き出すことができる（実践記録） ３．個々の具体的な実践力の伸長を担当教員に説明できるように、記録・考察・報告を十分に行なうことができたか（実践記録） ４．最終的に字分の実践課題を実践的かつ学問的に深めることができたか（最終レポート）

試験・課題に対するフィードバック方法
対面、Ｅメールなどにより随時実施する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

高橋健夫編著(2003)『体育授業を観察評価する』明和出版
その他、受け入れ先の学校等の実態に応じ、必要な文献を各自検索すること。

その他

連絡先・オフィスアワー	〔連絡先〕 牛尾：月曜～木曜　昼休み　1号館2階1220号室 外畑：メール（ksotoba＊juntendo.ac.jp)または実際の活動場所でお問い合わせください。 荻原：水曜　13:00～15:00　1号館4階1422号室 〔オフィスアワー〕 〈さくらキャンパス〉 牛尾　日時：月曜日～木曜日12:00～12:50 場所：1号館2階1220室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 牛尾　Email：n-ushio＊juntendo.ac.jpにご連絡下さい。（＊を@に修正してください）
担当教員の実務経験	

備考	〔学習時間〕 この授業は、演習の授業形態による4単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 〔その他〕 　この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	牛尾、外畑、荻原	オリエンテーション	本授業の全体計画についての話し合い	（予習：2時間） 各自がこれまで関わってきた教育実践について振り返る （復習：2時間） 今年度の教育実践の計画を立てる
2	牛尾、外畑、荻原	各自の実践内容に基づく研究課題の設定	各自で設定した研究課題の報告と、それに対する指導を行なう。	（予習：3時間） 自己の実践研究課題を考える （復習：3時間） 具体的な日程を確認し実習計画を立てる
3	牛尾、外畑、荻原	学校現場等毎に、各自が教育実践を実施する。（第1回）	演習	（予習：2時間） 自己の研究課題を解明するための小課題を設定する （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける
4	牛尾、外畑、荻原	学校現場等毎に、各自が教育実践を実施する。（第2回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける
5	牛尾、外畑、荻原	学校現場等毎に、各自が教育実践を実施する。（第3回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける
6	牛尾、外畑、荻原	学校現場等毎に、各自が教育実践を実施する。（第4回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける
7	牛尾、外畑、荻原	学校現場等毎に、各自が教育実践を実施する。（第5回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける
8	牛尾、外畑、荻原	学校現場等毎に、各自が教育実践を実施する。（第6回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける
9	牛尾、外畑、荻原	学校現場等毎に、各自が教育実践を実施する。（第7回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける
10	牛尾、外畑、荻原	学校現場等毎に、各自が教育実践を実施する。（第8回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける
11	牛尾、外畑、荻原	学校現場等毎に、各自が教育実践を実施する。（第9回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける

12	牛尾、外畑、荻原	学校現場等毎に、各自が教育実践を実施する。（第10回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける
13	牛尾、外畑、荻原	学校現場等毎に、各自が教育実践を実施する。（第11回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける
14	牛尾、外畑、荻原	学校現場等毎に、各自が教育実践を実施する。（第12回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける
15	牛尾、外畑、荻原	学校現場等毎に、各自が教育実践を実施する。（第13回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける
16	牛尾、外畑、荻原	学校現場等毎に、各自が教育実践を実施する。（第14回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける
17	牛尾、外畑、荻原	学校現場等毎に、各自が教育実践を実施する。（第15回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける
18	牛尾、外畑、荻原	学校現場等毎に、各自が教育実践を実施する。（第16回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りの記録と考察を正確につける
19	牛尾、外畑、荻原	科目担当者との協議により、各自の考察の成果・方向性を確認	科目担当者からの対面指導またはメールでの指導	（予習：2時間） これまでの教育実践（前半）を振り返り、その成果と課題をまとめる (復習：2時間) これからの教育実践(後半)の課題について考察し、まとめ、担当教員に報告（メール）する
20	牛尾、外畑、荻原	後半の教育実践課題に基づき、各自が教育実践を実施する。（第1回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける
21	牛尾、外畑、荻原	後半の教育実践課題に基づき、各自が教育実践を実施する。（第2回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける
22	牛尾、外畑、荻原	後半の教育実践課題に基づき、各自が教育実践を実施する。（第3回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける
23	牛尾、外畑、荻原	後半の教育実践課題に基づき、各自が教育実践を実施する。（第4回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける
24	牛尾、外畑、荻原	後半の教育実践課題に基づき、各自が教育実践を実施する。（第5回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける

25	牛尾、外畑、荻原	後半の教育実践課題に基づき、各自が教育実践を実施する。（第6回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける
26	牛尾、外畑、荻原	後半の教育実践課題に基づき、各自が教育実践を実施する。（第7回）	演習	（予習：2時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：2時間） 振り返りと次回の小課題を設定するための記録と考察を正確につける
27	牛尾、外畑、荻原	後半の教育実践課題に基づき、各自が教育実践を実施する。（第8回）	演習	（予習：3時間） 今回取り組むべき小課題について計画を立てる （復習：3時間） これまでの教育実践について、その工夫と成果を総合的に振り返り、最終考察レポートを作成する。
28	牛尾、外畑、荻原	最終成果発表の準備を行う。 教員はそれに対して指導を加える。	演習	(予習：3時間) 発表用パワポファイル(暫定版)の作成 (復習：3時間) 発表用パワポファイルの作成・完成
29	牛尾、外畑、荻原	最終成果発表のためのパワポファイルを作成し、相互に考察を深める。	演習	（予習：3時間） 発表のための準備・練習を行う （復習：3時間） 他の発表者の発表も踏まえ自身の発表を完成させる
30	牛尾、外畑、荻原	最終発表会で、各自の実践的な考察の成果を報告する。	演習	（予習：3時間） 発表のための準備・練習を行う （復習：3時間） 他の発表者の発表も踏まえ自身の発表を振り返る
		定期試験を実施しない。最終レポートを課す。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学英語特別講義(オムニバス)（後期）	授業形態	演習
英語科目名	English Special Seminar on Health and Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	小笠原　悦子	ナンバリング	
担当教員	小笠原　悦子、坂本　彰宏、和氣　秀文、和田　由佳子		

授業概要	
全体内容	スポーツ・健康科学領域を中心とした分野における研究テーマについて、英語による講義を理解できるようにするとともに、英語によるプレゼンテーションの作成と発表ができるようにする。 スポーツ健康科学領域に関連した学術的なテーマについての英語でのレクチャーを聴き、その話題を中心にディスカッションを行う。また、同分野における研究テーマについての英語の文献を学修し、そのabstractを発表し、内容に関するディスカッションを行う。
到達目標	1. スポーツ健康科学における英語の論文を読める。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 英語でのAbstractが作成できる。 4. 英語でのプレゼンテーションができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 基礎的な英語力があり、英語で授業を受けることに興味関心のある学生。 【履修上の注意】 英語での学会発表を想定して授業が進められるため、目標を持って授業に臨むこと。
成績評価の方法	
評価方法	英文抄録の作成、英文プレゼンテーション（パワーポイント／ポスター）の作成、受講態度、受講した講義の英文レポートの提出等により評価する。 授業態度　50% + 最終発表内容　50%、計100%
評価基準	1. スポーツ健康科学領域における自身の研究内容について抄録を英語で作成できる（レポート提出で評価）。 2. スポーツ健康科学領域における自身の研究内容を英語で発表し、学術的な説明ができる（プレゼンテーションで評価）。
試験・課題に対するフィードバック方法	
授業にて返却し、模範解答や評価のポイントを提示し、解説する。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業時に配布する資料

その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：小笠原悦子 E-mail: eogasawa[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変換してください。 【オフィスアワー】 〈さくらキャンパス〉 日時：　火曜日　2時間目 場所: 1号館3階1329室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：　本郷での担当授業の前後30分程度　※授業前はE-mailで予約すること。 場所: 担当授業が行われる教室
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、演習の授業形態による２単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	小笠原 和氣 坂本 和田	Introduction　授業の進め方（ガイダンス）	[講義]　英語で自己紹介を行い、自分の研究について英語で説明をする。	（予習４時間） 自身の研究分野の英語論文を読み、特に抄録部分の書き方に注意して読む。

2	和田	APA Style (+他), Academic Writingについて学ぶ	[講義] 配布資料APAマニュアル第1.2章について説明をする。	（予習３時間） 配布するAPA資料の該当チャプターを読んでおく。 （復習１時間） 授業の復習並びに再度配布資料を読み、復習する。
3	和田	原著論文の抄録 (Abstract)の書き方について学ぶ	[講義] 配布資料APAマニュアル第3.4章について説明をする。	（予習３時間） 配布するAPA資料の該当チャプターを読んでおく。 （復習１時間） 授業の復習並びに再度配布資料を読み、復習する。
4	和田	原著論文の抄録 (Abstract)の書き方について学ぶ	[講義] 学術的な英作文の書き方を説明し、より学術的な英語抄録を作成できるように説明する。	（予習３時間） 配布するAPA資料の該当チャプターを読んでおく。 （復習１時間） 授業の復習並びに再度配布資料を読み、復習する。
5	坂本	英語でプレゼンテーション資料を作成する①	[実習] 英語で効果的に伝わるプレゼンテーション方法について学ぶ。 Academic rulesについて学ぶ。 英語でtitleを考える。 授業は英語のみで進行する。	（復習４時間） 英語での資料作成を進める。
6	坂本	英語でプレゼンテーション資料を作成する②	[実習] Academic rulesについて学ぶ。 英語でbackgroundを考える。 授業は英語のみで進行する。	（復習４時間） 英語での資料作成を進める。
7	坂本	英語でプレゼンテーション資料を作成する③	[実習] Academic rulesについて学ぶ。 英語でaims, methodsを考える。 授業は英語のみで進行する。	（復習４時間） 英語での資料作成を進める。
8	坂本	英語でプレゼンテーション資料を作成する④	[実習] Academic rulesについて学ぶ。 英語でresults, conclusionを考える。 授業は英語のみで進行する。	（復習４時間） 英語での資料作成を進める。
9	坂本	英語でプレゼンテーション資料を作成する⑤	[実習] Academic rulesについて学ぶ。 プレゼンテーションの台詞を英語で作成する。 授業は英語のみで進行する。	（復習４時間） 英語での資料作成を進める。
10	和気	英語で生理学を学ぶ	[講義] 初回は英語で生理学（循環調節について）について学び、２および３回目の講義を聞くための基礎知識を身につける。	（予習4時間） 講義に関連するキーワード、１．自律神経系、２．血圧、３．心拍数、４．生活習慣病、５．高血圧、６．運動療法について簡単に説明できるようにしておく。日本語で構わない。
11	和気	国際学会における発表例1-スポーツ科学分野	[講義] 国際学会において、実際に発表されたスポーツ科学分野に関するプレゼンテーションを聞く。	（復習４時間） 講義内容について復習する。学会発表において重要な点をまとめる。

12	和気	国際学会における発表例2-医科学分野	[講義]　国際学会において、実際に発表された医科学分野に関するプレゼンテーションを聞く。	（復習４時間） 講義内容について復習する。学会発表において重要な点をまとめる。
13	小笠原	[実習]　各自の選んだテーマについて英語でのプレゼンテーション準備①	各自の研究に関する英語のプレゼンテーションの内容・発表方法について進捗状況を確認する。	（予習４時間） 最終プレゼンテーションに向けた、各自の研究テーマに関するプレゼンテーション発表準備
14	小笠原	各自の選んだテーマについて英語でのプレゼンテーション準備②	[実習]　各自の研究に関する英語のプレゼンテーションの内容・発表方法について進捗状況を確認する。	（予習４時間） 最終プレゼンテーションに向けた、各自の研究テーマに関するプレゼンテーション発表準備
15	小笠原 和氣 坂本 和田	合同プレゼンテーション発表会 まとめ	[実習]　各自最終プレゼンテーションを行い(5分）、総評を行う。	（予習3時間） 最終プレゼンテーションに向けた、各自の研究テーマに関するプレゼンテーション発表準備。 （復習1時間） コメントやアドバイスを元に修正を行い、反復練習を行う。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学英語特別講義(オムニバス)（後期）	授業形態	演習
英語科目名	English Special Seminar on Health and Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	小笠原　悦子	ナンバリング	
担当教員	小笠原　悦子、坂本　彰宏、和氣　秀文、和田　由佳子		

授業概要	
全体内容	スポーツ・健康科学領域を中心とした分野における研究テーマについて、英語による講義を理解できるようにするとともに、英語によるプレゼンテーションの作成と発表ができるようにする。 スポーツ健康科学領域に関連した学術的なテーマについての英語でのレクチャーを聴き、その話題を中心にディスカッションを行う。また、同分野における研究テーマについての英語の文献を学修し、そのabstractを発表し、内容に関するディスカッションを行う。
到達目標	1. スポーツ健康科学における英語の論文を読める。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 英語でのAbstractが作成できる。 4. 英語でのプレゼンテーションができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 基礎的な英語力があり、英語で授業を受けることに興味関心のある学生。 【履修上の注意】 英語での学会発表を想定して授業が進められるため、目標を持って授業に臨むこと。
成績評価の方法	
評価方法	英文抄録の作成、英文プレゼンテーション（パワーポイント／ポスター）の作成、受講態度、受講した講義の英文レポートの提出等により評価する。 授業態度　50% + 最終発表内容　50%、計100%
評価基準	1. スポーツ健康科学領域における自身の研究内容について抄録を英語で作成できる（レポート提出で評価）。 2. スポーツ健康科学領域における自身の研究内容を英語で発表し、学術的な説明ができる（プレゼンテーションで評価）。
試験・課題に対するフィードバック方法	
授業にて返却し、模範解答や評価のポイントを提示し、解説する。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業時に配布する資料
その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：小笠原悦子 E-mail: eogasawa[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変換してください。 【オフィスアワー】 〈さくらキャンパス〉 日時：　火曜日　2時間目 場所: 1号館3階1329室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：　本郷での担当授業の前後30分程度　※授業前はE-mailで予約すること。 場所: 担当授業が行われる教室
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、演習の授業形態による２単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	小笠原 和氣 坂本 和田	Introduction　授業の進め方（ガイダンス）	[講義]　英語で自己紹介を行い、自分の研究について英語で説明をする。	（予習４時間） 自身の研究分野の英語論文を読み、特に抄録部分の書き方に注意して読む。

2	和田	APA Style (+他), Academic Writingについて学ぶ	[講義] 配布資料APAマニュアル第1.2章について説明をする。	（予習３時間） 配布するAPA資料の該当チャプターを読んでおく。 （復習１時間） 授業の復習並びに再度配布資料を読み、復習する。
3	和田	原著論文の抄録 (Abstract)の書き方について学ぶ	[講義] 配布資料APAマニュアル第3.4章について説明をする。	（予習３時間） 配布するAPA資料の該当チャプターを読んでおく。 （復習１時間） 授業の復習並びに再度配布資料を読み、復習する。
4	和田	原著論文の抄録 (Abstract)の書き方について学ぶ	[講義] 学術的な英作文の書き方を説明し、より学術的な英語抄録を作成できるように説明する。	（予習３時間） 配布するAPA資料の該当チャプターを読んでおく。 （復習１時間） 授業の復習並びに再度配布資料を読み、復習する。
5	坂本	英語でプレゼンテーション資料を作成する①	[実習] 英語で効果的に伝わるプレゼンテーション方法について学ぶ。 Academic rulesについて学ぶ。 英語でtitleを考える。 授業は英語のみで進行する。	（復習４時間） 英語での資料作成を進める。
6	坂本	英語でプレゼンテーション資料を作成する②	[実習] Academic rulesについて学ぶ。 英語でbackgroundを考える。 授業は英語のみで進行する。	（復習４時間） 英語での資料作成を進める。
7	坂本	英語でプレゼンテーション資料を作成する③	[実習] Academic rulesについて学ぶ。 英語でaims, methodsを考える。 授業は英語のみで進行する。	（復習４時間） 英語での資料作成を進める。
8	坂本	英語でプレゼンテーション資料を作成する④	[実習] Academic rulesについて学ぶ。 英語でresults, conclusionを考える。 授業は英語のみで進行する。	（復習４時間） 英語での資料作成を進める。
9	坂本	英語でプレゼンテーション資料を作成する⑤	[実習] Academic rulesについて学ぶ。 プレゼンテーションの台詞を英語で作成する。 授業は英語のみで進行する。	（復習４時間） 英語での資料作成を進める。
10	和気	英語で生理学を学ぶ	[講義] 初回は英語で生理学（循環調節について）について学び、２および３回目の講義を聞くための基礎知識を身につける。	（予習4時間） 講義に関連するキーワード、１．自律神経系、２．血圧、３．心拍数、４．生活習慣病、５．高血圧、６．運動療法について簡単に説明できるようにしておく。日本語で構わない。
11	和気	国際学会における発表例1-スポーツ科学分野	[講義] 国際学会において、実際に発表されたスポーツ科学分野に関するプレゼンテーションを聞く。	（復習４時間） 講義内容について復習する。学会発表において重要な点をまとめる。

12	和気	国際学会における発表例2-医科学分野	[講義]　国際学会において、実際に発表された医科学分野に関するプレゼンテーションを聞く。	（復習４時間） 講義内容について復習する。学会発表において重要な点をまとめる。
13	小笠原	[実習]　各自の選んだテーマについて英語でのプレゼンテーション準備①	各自の研究に関する英語のプレゼンテーションの内容・発表方法について進捗状況を確認する。	（予習４時間） 最終プレゼンテーションに向けた、各自の研究テーマに関するプレゼンテーション発表準備
14	小笠原	各自の選んだテーマについて英語でのプレゼンテーション準備②	[実習]　各自の研究に関する英語のプレゼンテーションの内容・発表方法について進捗状況を確認する。	（予習４時間） 最終プレゼンテーションに向けた、各自の研究テーマに関するプレゼンテーション発表準備
15	小笠原 和氣 坂本 和田	合同プレゼンテーション発表会 まとめ	[実習]　各自最終プレゼンテーションを行い(5分）、総評を行う。	（予習3時間） 最終プレゼンテーションに向けた、各自の研究テーマに関するプレゼンテーション発表準備。 （復習1時間） コメントやアドバイスを元に修正を行い、反復練習を行う。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポートロジー実践英語（集中）	授業形態	講義
英語科目名	Sportology Practical English	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	和氣　秀文	ナンバリング	
担当教員	和氣　秀文		

授業概要	
全体内容	他の学術領域と同様、スポーツ健康科学においても世界に向けた研究成果の発信は英語により行われる。本科目は、こうした英語による発信力の育成・強化を目的とし、最終的には海外で行われる国際学会等において英語による研究発表を行なうことを目標とする。 各自の口頭発表練習など、英語による研究成果の取りまとめから発表へと至る一連の取り組みを評価の対象とし、単位を認定する。
到達目標	・英語で研究内容をまとめ、ポスターや論文を作成できる。 ・英語で質疑応答を含む口頭発表を行なうことができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 特に無し。 [履修上の注意（科目独自のルール）] ・本科目で報告する国際学会は、「国際交流プラクティカム」「スポートロジーレクチャーシリーズ」には使用できない。 ・提出用の書式等、詳細については別途事務から連絡を行う。 ・英語力の強化を目指すものではあるが、発信すべきは各自の研究成果である。日ごろの研究活動に十分注力したうえで取り組むこと。 ・基礎レベルの英語力があることが望ましいが、必須とはしない。但し、各自でレベルアップに励むこと。

成績評価の方法	
評価方法	国際学会発表を行い、以下を指導教員に提出する； 1) 学会に関するレポート（書式自由、英語で） 2) 学会の概要が分かる書類（要項等） 3) 学会で自身が使用した発表資料（パワーポイント、ポスター等） →研究指導教員がレポート30%、発表資料・口頭発表70%を総合して評価する。 評価後、研究指導教員は教務課に素点を連絡する。
評価基準	・自身の研究を英語によりまとめることができるか(レポート)。 ・英語による発表やディスカッションを行なえるか(発表資料・口頭発表)。

試験・課題に対するフィードバック方法
対面による講義・指導を中心に、随時メール等によるものも交えて指導を行なう。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
テキストは特に指定しない。参考資料を適宜指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	各指導教員の指定する時間による。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	研究指導教員	[授業内容] オリエンテーション	[授業方法] ①授業の進め方について説明する。 ②各自の研究テーマを確認する。	（予習：2時間/回） ・自身の研究テーマを明確にし、簡潔に説明できるようにする。 （復習：2時間/回） ・指導内容に基づき今後の計画を立てる。

2～13	研究指導教員	[授業内容] 各自の研究と英語による発表の準備	[授業方法] ①研究レポート（英文）の作成 ②ポスター（英文）の作成 ③レポート、ポスターについてのディスカッション（表現の推敲など） ④口頭発表練習	（予習：2時間/回） ・研究の進捗状況や成果を逐次英語によりまとめておく。 （復習：2時間/回） ・指導内容に基づきレポート等の修正を行なう。 ・英語による発表を録音してチェックするなど、英語力の強化を図る。
14～15	研究指導教員	[授業内容] 英語による発表	[授業方法] ①国際学会における口頭発表を実施する。 ②[成績評価の方法]に記載の書類1)～3)を指導教員に提出する。	（予習：2時間/回） ・発表に向けた練習を行なう。 （復習：2時間/回） ・発表における質疑応答を踏まえ適宜原稿の修正を行なう。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツと健康のための疫学（後期前半）	授業形態	演習
英語科目名	Epidemiology for Sport and Health	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	染谷　由希	ナンバリング	
担当教員	染谷　由希		

授業概要	
全体内容	疫学は、医学の世界を中心に発生したヒト集団の健康を守るための研究手法です。現在、医学の世界においてEBM（Evidence Based Medicine：根拠に基づく医学）という考えの普及に伴って疫学が再認識されるとともに、ヒト集団における課題を取り扱う医学以外の分野においても疫学的研究手法が普及しつつあります。本授業では、初めに、疫学とは何か、エビデンスとは何か、について学びます。その後、信頼性の高いエビデンスとは、信頼性の高いエビデンスはどのように作成され、どのように公表されていくのか、ということを具体的な事例を通じて学び、実際に研究計画を作成する力を習得します。
到達目標	１．疫学とはどのような学問かを説明できる。 ２．科学的根拠（エビデンス）とは何かを説明できる。 ３．疫学論文を批評的に討論できる。 ４．疫学的研究手法を用いた研究を実施できる。
授業の位置づけ	教務課にて入力
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	インターネット等で、健康情報や学術論文を検索・入手できる環境を整備しておくことが望ましい。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、プレゼンテーション（30点）、平常点（30%）を総合して評価する。
評価基準	１．疫学とはどのような学問かを説明できる（課題レポート、プレゼンテーション） ２．科学的根拠（エビデンス）とは何かを説明できる（課題レポート、プレゼンテーション） ３．疫学論文を批評的に討論できる（平常点） ４．疫学的研究手法を用いた研究を実施できる（プレゼンテーション、平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
授業中に課す課題については、授業内で解説を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
				授業中に指示

参考文献

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：染谷由希 E-mail: yksomeya[at]juntendo.ac.jp（ [at] を@に変更してください） ［オフィスアワー］ 〈さくらキャンパス〉 日時：水曜日PM　（事前にメール等で連絡をしてください） 場所：スポーツ健康医科学研究所4階 9402室 〈本郷・御茶ノ水キャンパス〉 随時、Eメールで質問を受け付ける
担当教員の実務経験	
備考	この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1、2回	染谷	オリエンテーション ・日程、内容、履修上の注意点等に関するガイダンスを行う。 ・疫学の概要を歴史を踏まえて紹介する。	講義形式	（予習：1.5時間/回） 「疫学」とはなにかインターネット等を利用して確認しておく。 （復習：1.5時間/回） 授業に関連する部分について参考図書を読んで内容を確認する。

3、4回	染谷	疫学とは・エビデンスとは（1） ・疫学の基本的な考え方や手法を、実際の疫学研究を例を通じて紹介する。	講義形式	（予習：2時間/回） 疫学の研究手法やエビデンスピラミットについてインターネット等を利用して確認しておく。 （復習：2時間/回） 授業に関連する部分について参考図書等を読んで内容を確認する。
5、6回	染谷	疫学とは・エビデンスとは（2） ・さまざまな疫学研究論文から健康情報を読み解く方法を解説するとともに、健康情報に関するディスカッションを行う。	講義、ディスカッション形式	（予習：2時間/回） さまざまな健康情報、についてインターネット等を利用して確認しておく。 （復習：2時間/回） 授業内容を踏まえてさまざまな健康情報を評価する。また、健康情報の科学的根拠を確認する。
7、8回	染谷	疫学研究の実施方法（1） ・「記述疫学研究」、「生態学的研究」、「横断研究」の実施方法を紹介し、研究計画を組み立ててみる	講義、グループワーク形式	（予習：2時間/回） 「記述疫学研究」、「生態学的研究」、「横断研究」についてインターネット等を利用して確認しておく。 （復習：2時間/回） 各研究手法を用いている論文を検索し、授業内容を踏まえて論文の内容を批評的に吟味する。
9、10回	染谷	疫学研究の読み方・やり方（2） ・「症例対照研究」、「コホート研究」、「ランダム化比較試験」の実施方法を紹介するとともに、研究計画を組み立ててみる。	講義、グループワーク形式	（予習：2時間/回） 「症例対照研究」、「コホート研究」、「ランダム化比較試験」についてインターネット等を利用して確認しておく。 （復習：2時間/回） 症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験を用いている論文を検索し、授業内容を踏まえて論文の内容を批評的に吟味する。
11、12回	染谷	疫学で使用する統計解析手法 ・疫学研究で必要となるデータ収集、データ加工、解析の方法を紹介する	講義形式	（予習：2.5時間/回） データ収集、データ加工、統計解析についてインターネット等を利用して確認しておく。 （復習：2.5時間/回） 授業内容を踏まえて、論文の結果の示し方などを比較してみる。
13、14、15回	染谷	研究計画の立案 ・疫学的研究手法を用いて、スポーツや健康をテーマにした研究計画を作成する。	ディスカッション形式	（予習：2時間/回） 今までの授業を振り返り、研究テーマ、研究手法を検討しておく。 （復習：2時間/回） 授業内容を踏まえて、研究計画を見直す。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツと健康のための疫学（後期前半）	授業形態	演習
英語科目名	Epidemiology for Sport and Health	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	染谷　由希	ナンバリング	
担当教員	染谷　由希		

授業概要	
全体内容	疫学は、医学の世界を中心に発生したヒト集団の健康を守るための研究手法です。現在、医学の世界においてEBM（Evidence Based Medicine：根拠に基づく医学）という考えの普及に伴って疫学が再認識されるとともに、ヒト集団における課題を取り扱う医学以外の分野においても疫学的研究手法が普及しつつあります。本授業では、初めに、疫学とは何か、エビデンスとは何か、について学びます。その後、信頼性の高いエビデンスとは、信頼性の高いエビデンスはどのように作成され、どのように公表されていくのか、ということを具体的な事例を通じて学び、実際に研究計画を作成する力を習得します。
到達目標	１．疫学とはどのような学問かを説明できる。 ２．科学的根拠（エビデンス）とは何かを説明できる。 ３．疫学論文を批評的に討論できる。 ４．疫学的研究手法を用いた研究を実施できる。
授業の位置づけ	教務課にて入力
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	インターネット等で、健康情報や学術論文を検索・入手できる環境を整備しておくことが望ましい。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、プレゼンテーション（30点）、平常点（30%）を総合して評価する。
評価基準	１．疫学とはどのような学問かを説明できる（課題レポート、プレゼンテーション） ２．科学的根拠（エビデンス）とは何かを説明できる（課題レポート、プレゼンテーション） ３．疫学論文を批評的に討論できる（平常点） ４．疫学的研究手法を用いた研究を実施できる（プレゼンテーション、平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
授業中に課す課題については、授業内で解説を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
				授業中に指示

参考文献

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：染谷由希 E-mail: yksomeya[at]juntendo.ac.jp（ [at] を@に変更してください） ［オフィスアワー］ 〈さくらキャンパス〉 日時：水曜日PM　（事前にメール等で連絡をしてください） 場所：スポーツ健康医科学研究所4階 9402室 〈本郷・御茶ノ水キャンパス〉 随時、Eメールで質問を受け付ける
担当教員の実務経験	
備考	この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1、2回	染谷	オリエンテーション ・日程、内容、履修上の注意点等に関するガイダンスを行う。 ・疫学の概要を歴史を踏まえて紹介する。	講義形式	（予習：1.5時間/回） 「疫学」とはなにかインターネット等を利用して確認しておく。 （復習：1.5時間/回） 授業に関連する部分について参考図書を読んで内容を確認する。

3、4回	染谷	疫学とは・エビデンスとは（1） ・疫学の基本的な考え方や手法を、実際の疫学研究を例を通じて紹介する。	講義形式	（予習：2時間/回） 疫学の研究手法やエビデンスピラミットについてインターネット等を利用して確認しておく。 （復習：2時間/回） 授業に関連する部分について参考図書等を読んで内容を確認する。
5、6回	染谷	疫学とは・エビデンスとは（2） ・さまざまな疫学研究論文から健康情報を読み解く方法を解説するとともに、健康情報に関するディスカッションを行う。	講義、ディスカッション形式	（予習：2時間/回） さまざまな健康情報、についてインターネット等を利用して確認しておく。 （復習：2時間/回） 授業内容を踏まえてさまざまな健康情報を評価する。また、健康情報の科学的根拠を確認する。
7、8回	染谷	疫学研究の実施方法（1） ・「記述疫学研究」、「生態学的研究」、「横断研究」の実施方法を紹介し、研究計画を組み立ててみる	講義、グループワーク形式	（予習：2時間/回） 「記述疫学研究」、「生態学的研究」、「横断研究」についてインターネット等を利用して確認しておく。 （復習：2時間/回） 各研究手法を用いている論文を検索し、授業内容を踏まえて論文の内容を批評的に吟味する。
9、10回	染谷	疫学研究の読み方・やり方（2） ・「症例対照研究」、「コホート研究」、「ランダム化比較試験」の実施方法を紹介するとともに、研究計画を組み立ててみる。	講義、グループワーク形式	（予習：2時間/回） 「症例対照研究」、「コホート研究」、「ランダム化比較試験」についてインターネット等を利用して確認しておく。 （復習：2時間/回） 症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験を用いている論文を検索し、授業内容を踏まえて論文の内容を批評的に吟味する。
11、12回	染谷	疫学で使用する統計解析手法 ・疫学研究で必要となるデータ収集、データ加工、解析の方法を紹介する	講義形式	（予習：2.5時間/回） データ収集、データ加工、統計解析についてインターネット等を利用して確認しておく。 （復習：2.5時間/回） 授業内容を踏まえて、論文の結果の示し方などを比較してみる。
13、14、15回	染谷	研究計画の立案 ・疫学的研究手法を用いて、スポーツや健康をテーマにした研究計画を作成する。	ディスカッション形式	（予習：2時間/回） 今までの授業を振り返り、研究テーマ、研究手法を検討しておく。 （復習：2時間/回） 授業内容を踏まえて、研究計画を見直す。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポートロジーレクチャーシリーズ（集中）	授業形態	講義
英語科目名	Sportology Lecture Series	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	和氣　秀文	ナンバリング	
担当教員	和氣　秀文		

授業概要	
全体内容	スポーツ健康科学は多数の学問分野に基づく複合領域であり、その関連分野は多岐に亘る。本科目は、各種学会や、本学大学院医学研究科が開講する特別講義への参加をポイント化したうえで、所定のポイント数を満たした場合に評価対象者として認定し、最終レポートにより評価を行なう。自身の専門領域にとどまらない幅広い分野に立脚した視点を養い、研究にフィードバックすることを目標とする。 別途案内するポイント認定対象学会および研究会等に参加し、各回ごとに出席票を提出する。所定のポイント数（14ポイント）に達した者に最終レポート提出資格を与える。
到達目標	・他者の研究や専門外の分野の成果を自身の研究に引き付けて捉えることができる。 ・他者の発表内容を簡潔にまとめ、わかりやすく報告することができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 本科目は履修登録期間中の登録を必須としない。各種学会に参加した結果、14ポイント以上を申請できる状態になった段階で登録を申し出ても構わない。但し、その場合でも出席票は随時記入し、研究指導教員の確認・捺印を得ておくこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 自らの専門とは異なる分野の学会にも積極的に参加することが望ましい。

成績評価の方法	
評価方法	学会出席票記載の内容報告50%、最終レポート50% を総合して評価する。
評価基準	・他者の研究や専門外の成果を自身の研究と関連して捉え、積極的に取り入れている(最終レポート)。 ・わかりやすい発表報告を作成することができるか(学会出席票記載の内容報告)。

試験・課題に対するフィードバック方法
研究指導教員から随時指導を行なう。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
テキストは特に指定しない。学会参加前に当該分野の基礎的な文献や、直近の研究成果を確認しておくことが望ましい。

その他	
連絡先・オフィスアワー	各指導教員の指定する時間による。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

	研究指導教員	（授業内容） ①ポイント認定対象は以下のとおり ・研究科が認定する対象学会 ・医学研究科が実施する特別講義 ②ポイントは原則として以下のとおり ▼国内で開催される学会 ◎対面 会期が1日⇒1ポイント 会期が2日以上⇒2ポイント ◎ライブ配信視聴 会期が1日⇒0.5ポイント 会期が2日以上⇒1.5ポイント ◎オンデマンド配信視聴⇒0.5ポイント ▼海外で開催される学会 ◎対面 会期が1日以上⇒3ポイント ◎ライブ配信視聴 会期が1日⇒2ポイント 会期が2日以上⇒2.5ポイント ◎オンデマンド配信視聴⇒0.5ポイント ▼スポーツ健康科学部　国際シンポジウム/スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科・スポーツ健康医科学研究所内の発表会、学術研究講演会/医学研究科単位認定対象の研究会・順天堂スポーツ医学研究会　など ◎対面 会期が1日⇒1ポイント 会期が2日以上⇒2ポイント ◎ライブ配信視聴 会期が1日⇒0.5ポイント 会期が2日以上⇒1.5ポイント ◎オンデマンド配信視聴⇒0.5ポイント ▼研究委員会主催ワークショップなど　⇒0.5ポイント ③学会終了後、出席票に当該学会における発表の概要を記入し、研究指導教員の確認、捺印を得たうえで教務課へ提出する。 （授業方法） 各自での学会参加による。研究指導教員からの指導も行なう。		（予習：1日の学会参加につき2-3時間程度、合計30時間以上）学会参加前に、当該分野に関する基礎的な内容や、直近の研究成果を確認しておく。 （復習：1日の学会参加につき2-3時間程度、合計30時間以上）　　聴講した発表、およびのその質疑応答の内容をまとめておく。 【ポイント認定に関する補足】 ・ポイントは2年間の累積により算定する。1年間で全14ポイントをためる必要はない。 ・同一の学会に2年続けて参加した場合でも、原則としてポイント認定は1回のみとするが、内容によっては2回ともに認定する場合もある。希望する場合には、教務課へ申し出ること。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学プラクティカム	授業形態	演習
英語科目名	Practicum on Health and Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	和氣　秀文	ナンバリング	
担当教員	和氣　秀文		

授業概要	
全体内容	広くスポーツ健康科学に関連する実務の現場での実習を通じて、スポーツ健康科学が社会において応用される場面で生じる様々な問題点を見出し、具体的な改善案を策定・実践することで、その解決に導くことを目標とする。修士課程における各自の研究活動を通じて身につけた能力を、実務に役立つ課題解決力に結び付けるための学修を行なう。 実習の前段階において、実習先の組織運営上の課題を把握し、その改善案を策定する。実習中はその改善案の実行と修正を図り、最終的に実習先の業務改善の一助となり得る提案を行なう。実習の前後を通じて実習ノートを作成するほか、必要に応じてレポート作成、プレゼンテーション等も行なう。
到達目標	1. スポーツ健康科学が応用される幅広い現場における運営上の問題点を的確に把握できる。 2. 把握した問題点に対して適切な改善策を考案できる。 3. 考案した改善策をわかりやすく提案し、周囲の協力を得て実行に移すことができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 原則として実習先を自己開拓できる者とする。 [履修上の注意（科目独自のルール）] ・実習先の確保は、科目担当者と相談のうえ、各自で行なうことを原則とする。与えられた実習先で与えられた課題をこなすのではなく、どのような実習先でどのような提案ができるかを考え、主体的に取り組むことを求める。 ・実習前後を通じて科目担当者とはこまめに連絡を取ること。また、実習先では「ホウ（報告）・レン(連絡）・ソウ（相談）」の実行を徹底し、チームの一員として全体の利益に貢献する姿勢を持つこと。

成績評価の方法	
評価方法	実習前準備、実習ノートの評価（実習先担当者による評価を含む）、課題解決プランの評価を総合して評価する。
評価基準	1. スポーツ健康科学が応用される現場で生じる様々な問題を的確に把握し、それに対する有効な改善案を企画・提案できる。 2. 独善に陥ることなく、周囲の協力を得ながら実習を進めることができるか。

試験・課題に対するフィードバック方法
対面、Eメール等により随時指導を行なう。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
テキストは特に指定しない。各自の実習先に応じた参考資料を適宜指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：和氣　秀文 E-mail: hwaki[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日午後 場所: スポーツ健康医科学研究所３階　生理学研究室（９３０４） 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他]

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	研究指導教員	（授業内容） オリエンテーション	（授業方法） 以下の事項について説明する。 ①「プラクティカム」とは ②実習の進め方 ③希望実習先ヒアリング	（予習：3時間/回） 各自の希望実習先について下調べを行ない、希望理由を説明できるようにしておくこと。 （復習：3時間/回） 教員からの指示に従い、下調べ等実習に向けた準備を行なう。
2	研究指導教員	[授業内容] 事前学習・実習準備	[授業方法] 履修者による希望実習先とその関連団体等の調査、および希望実習先が抱える課題として想定される事項の報告を行なう。 これらを踏まえて指導担当教員を決定し、希望実習先とのマッチング、実習実施契約の締結を行なう。	（予習：3時間/回） 各自の希望実習先に関する下調べに基づき、実習先で想定される組織運営上の課題とその改善案を考える。 （復習：3時間/回） 教員からの指示に従い、さらなる調査および改善案の修正等実習に向けた準備を行なう。
3～14	研究指導教員	[授業内容] 実務実習	[授業方法] ①通算で45時間相当の実習を行う。 ②事前に把握した課題を意識しながら実務にあたる。 ③プラクティカム日誌を作成する。 ④課題改善プランをレポートにまとめ、実習先へ提出する。	（予習：1時間/回） 前2回の授業を踏まえ、実習参加前の最終準備を行う。 （復習：3時間/回） 実習期間中は日誌を記入し、各日の実習（業務）内容等を記録する。
15	研究指導教員	[授業内容] 事後学習	[授業方法] 実習の報告および課題改善案の最終修正を行なう。必要に応じてレポート作成やプレゼンテーションも行なう。	（予習：4時間/回） 実習ノートおよび課題改善案の最終的なまとめを行なう。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	内藤　久士	ナンバリング	
担当教員	内藤　久士		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、運動・スポーツに関する医科学研究に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：内藤　久士 E-mail: hnaitou[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　12:10～13:00 場所: 1号館1階1117室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 随時　E-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室など
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] 災害や感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合がある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～5	内藤　久士	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	演習（講義、発表及びグループディスカッション）	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
6～10	内藤　久士	説得力のある問題提起の仕方を習得する。 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	演習（講義、発表及びグループディスカッション）	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
11～15	内藤　久士	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	演習（講義、発表及びグループディスカッション）	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
16～20	内藤　久士	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。それによってデータを収集する。	演習（講義、発表、実験実習及びグループディスカッション）	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
21～25	内藤　久士	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	演習（講義、発表、実験実習及びグループディスカッション）	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
26～30	内藤　久士	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。 学会発表や論文投稿の方法を理解し、学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	演習（講義、発表、実験実習及びグループディスカッション）	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	中村　充	ナンバリング	
担当教員	中村　充		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、コーチング科学、指導方法論、武道学、剣道方法論に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：中村　充 E-mail: mtnakamu[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　10:00～12:00 場所: 1号館5階1505室 ※メールにて事前予約してください。
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] 特になし。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	中村充	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	受講生が先行文献を精読・考証した内容を発表・質疑応答した後に、教員および他学生により討議を行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	中村充	説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起について受講生が発表・質疑応答した後に、先行文献の調査方法や解釈ついて教員および他学生と討議を行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	中村充	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法について受講生が発表・質疑応答した後、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめるために教員および他学生と討議を行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	中村充	研究課題を遂行するための、調査・実験を遂行する。	研究課題遂行のために必要な調査・実験方法について解説し、各自の研究課題にあった調査・実験を受講生が発表する。 発表された調査・実験方法について、教員と他学生との討議を行い、調査・実験を遂行し、データを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	中村充	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理・解析し、得られた結果について教員と他学生と討議し、考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	中村充	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿の方法を解説し、各研究に合わせた学会について討議する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	廣瀬　伸良	ナンバリング	
担当教員	廣瀬　伸良		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、スポーツコーチング（柔道）に関する様々な事象や体力に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：廣瀬　伸良 E-mail: nhirose[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 12:20～13:10 場所: 1号館5階1506室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： E-mailで問い合わせること。 場所: 随時指定します。
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	廣瀬	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	演習形式	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	廣瀬	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	演習形式	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	廣瀬	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	演習形式	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	廣瀬	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	演習形式	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	廣瀬	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	演習形式	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	廣瀬	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	演習形式	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	鈴木　良雄	ナンバリング	
担当教員	鈴木　良雄		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、スポーツ栄養、生化学に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に提示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：鈴木　良雄 E-mail: yssuzuki[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 月曜日　13:10～14:45 場所: 1号館2階1223室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	鈴木良雄	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	［授業方法］ 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。 反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	鈴木良雄	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。	［授業方法］ 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。 反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	鈴木良雄	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	［授業方法］ 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。 反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	鈴木良雄	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。	［授業方法］ 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。 反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	鈴木良雄	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	［授業方法］ 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。 反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	鈴木良雄	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	［授業方法］ 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。 反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：1.5時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：0.75時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	吉村　雅文	ナンバリング	
担当教員	吉村　雅文		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、技術、体力、戦術、ゲーム中のパフォーマンスに関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	[授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）] 　この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる。（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる。（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している。（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
				テキスト・参考書はありませんが、必要に応じて、資料を配付、もしくはJ-PASSに事前添付いたします。

参考文献
必要に応じ、授業時に文献、参考図書等について紹介するので、自主的に取り寄せ、精読していただきたい。　さらに、必要に応じ、授業時に資料を配付するので、予習復習に役立てもらいたい。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：吉村雅文 E-mail: msyoshi [at] juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 月曜日および金曜日　12:00～12:50 場所: 1号館5階1528室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	吉村雅文	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	［授業方法］ 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	吉村雅文	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。	［授業方法］ 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	吉村雅文	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	［授業方法］ 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	吉村雅文	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。	［授業方法］ 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	吉村雅文	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	［授業方法］ 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	吉村雅文	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	［授業方法］ 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	廣津　信義	ナンバリング	
担当教員	廣津　信義		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、オペレーションズ・リサーチ、数理科学、経営科学、数学、統計学、情報に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：廣津　信義 E-mail: nhirotsu[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：さくらキャンパスでの担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：　1号館2階非常勤講師室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：　本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	廣津	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	廣津	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	廣津	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	廣津	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	廣津	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	廣津	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	小笠原　悦子	ナンバリング	
担当教員	小笠原　悦子		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、スポーツ健康科学研究全般およびスポーツマネジメントに関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学分野における高度な専門的な知識と技能」及び「スポーツ健康科学に関する研究能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
課題レポートは翌週の授業で返却して、評価や助言を各受講者へフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
Jerry R. Thomas, Philip E. Martin, Jennifer L. Etnier, Stephen J. Silverman. (2023). Research Methods in Physical Activity-8th Edition. Human Kinetics.

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：小笠原　悦子 E-mail: eogasawa[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　2時間目 場所: 1号館3階1329室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後30分程度　※授業前に関してはE-mailで予約すること。 場所: 担当授業の教室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、授業６０時間と準備学習１２０時間の計１８０時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	小笠原	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	小笠原	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～14	小笠原	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
15～19	小笠原	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
20～24	小笠原	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
25～30	小笠原	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	青木　和浩	ナンバリング	
担当教員	青木　和浩		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、体力トレーニングの分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
[テキスト・参考書等] 　授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 　担当：青木　和浩 　E-mail: k-aoki[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 　〈さくらキャンパス〉 　日時： 火曜日　12:10～12:50 　場所: 1号館5階1509室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 　日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度 　場所: センチュリータワー南5階教員控室 ※できるだけE-mailで連絡してください。
担当教員の実務経験	

備考	［学修時間］ 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ ※授業形態は、対面式ではなくオンライン授業で行うこともある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	青木	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	［授業方法］演習 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～9	青木	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	［授業方法］演習 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
10～14	青木	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	［授業方法］演習 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
15～19	青木	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。	［授業方法］演習 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
20～24	青木	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	［授業方法］演習 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
25～30	青木	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	［授業方法］演習 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	鯉川　なつえ	ナンバリング	
担当教員	鯉川　なつえ		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、女性スポーツに関する身体生理的、心理社会的および社会環境的要因および、持久系スポーツに関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。 学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	[授業の到達目標] 1.スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2.提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3.上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	[授業の位置づけ] この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。 また、遅刻及び早退3回で、1回分の欠席としてカウントする。 この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 授業中に複数回のレポートを提出することから、定期試験は実施しない。 課題レポート（20%)、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示し、また評価や助言を各受講者へフィードバックする。 定期試験については、Juntendo Passportを使って解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
[テキスト・参考書等] 授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：鯉川なつえ E-mail: nkoikawa[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：毎週火曜日～木曜日 8時～16時 場所：1号館3階1328号室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の後1時間程度　※それ以外は、E-mailで予約してください。 場所：　本郷・女性スポーツ研究センターまたはE-mail

担当教員の実務経験	［担当教員の実務経験］ 　女性スポーツ研究センター副センター長および実業団チームに所属し競技者として活動した実務経験を活かし、女性スポーツの分野およびコーチング現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説する。
備考	［学修時間］ この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 学習時間（計180時間） ・授業60時間 ・準備学習：120時間 ［その他］

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～5	鯉川	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	［授業方法］ グループワーク 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
6～10	鯉川	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。	［授業方法］ グループワーク 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
11～15	鯉川	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	［授業方法］ 討論とグループワーク 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
16～20	鯉川	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。	［授業方法］ 討論とグループワーク 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
21～25	鯉川	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	［授業方法］ 討論とグループワーク 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
26～30	鯉川	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	［授業方法］ 討論とグループワーク 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。

		授業中に複数回のレポートを提出することから、定期試験は実施しない。		

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	中村　恭子	ナンバリング	
担当教員	中村　恭子		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、ダンス運動学、舞踊学、舞踊教育学、および体育科教育、健康運動指導に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	［授業の到達目標］ 1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ この授業科目では、発表や討議が中心となるので、主体的に取り組むこと。
成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	［成績評価の基準］ 1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
［課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法］ レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。	

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
テキストの指定はない。 参考書等についてはその都度指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：中村　恭子 E-mail: k-nakamu[at]juntendo.ac.jp　（［at］を@に変更してください） ［オフィスアワー］ 〈さくらキャンパス〉 日時：　前期　火曜日10:30～14:00　後期　月曜日10:30～14:00 場所：1号館5階1501室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：　本郷での担当授業の後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	中村　恭子	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 ［授業方法］ 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	中村　恭子	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 ［授業方法］ 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	演習と討議	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	中村　恭子	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 ［授業方法］ 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～18	中村　恭子	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。 ［授業方法］ 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	調査・実験の遂行	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
19～23	中村　恭子	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 ［授業方法］ 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
24～30	中村　恭子	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 ［授業方法］ 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	発表と討議	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	水野　基樹	ナンバリング	
担当教員	水野　基樹		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、経営学のマネジメント領域（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論など）と産業・組織心理学スポーツ心理学などの応用心理学領域に関連する研究遂行に必要な基礎的な能力を養う。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「高い倫理観」及び「スポーツ健康科学に関する研究能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　研究指導教員の指示に従うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　特になし。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 取り組む姿勢20%、授業で課される課題30%、修士論文に対する取り組み50%で評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる。 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察ができ、修士論文を完成できる。

試験・課題に対するフィードバック方法
[試験・レポート等の課題に対するフィードバックの方法] 発表・討議を通じて必要な情報や改善内容をフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
				授業の際に提示する。

参考文献
授業の際に提示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 　担当：水野基樹 　E-mail: mtmizuno[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 　日時：火曜日　14:40～16:10 　場所：1号館3階1324室 　※上記の時間帯は予約が無くても対応しますが、予約があった学生を優先します。 　※できる限り、前日までにE-Mailで予約するように心掛けてください。 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 　日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 　場所：センチュリータワー南5階教員控室 　※授業がない期間はE-mailで予約すること。
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による4単位の科目であり、授業60時間と準備学習120時間の計180時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～5回	水野基樹	（授業内容） スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	（授業方法）演習 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：各回2時間） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：各回2時間） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
6～10回	水野基樹	（授業内容） 説得力のある問題提起の仕方を習得する。	（授業方法）演習 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：各回2時間） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：各回2時間） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
11～15回	水野基樹	（授業内容） 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	（授業方法）演習 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：各回2時間） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：各回2時間） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
16～20回	水野基樹	（授業内容） 調査・実験を遂行する。	（授業方法）演習 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：各回2時間） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：各回2時間） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
21～25回	水野基樹	（授業内容） 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	（授業方法）演習 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：各回2時間） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：各回2時間） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
26～30回	水野基樹	（授業内容） 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	（授業方法） 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：各回2時間） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：各回2時間） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	柳谷　登志雄	ナンバリング	
担当教員	柳谷　登志雄		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、スポーツバイオメカニクス、スポーツ動作分析に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。 [授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）] 　この科目は、「高い倫理観」及び「スポーツ健康科学に関する研究能力」という学位授与方針の達成に寄与する。 [授業の到達目標] 　1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 　2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 　3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
到達目標	1．スポーツ動作の上達や熟練者・未熟練者の相違について、スポーツ医科学分野の用語を使って説明できる。 2．スポーツ科学研究を行う上での視点や基礎知識を習得し、課題を解決するための方策を立案できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。 [テキスト・参考書等] 　授業中に指示する。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の基準] 　1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 　2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 　3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 　4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点） [成績評価の方法] 　課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。 定期試験は実施しない予定です。
評価基準	1．スポーツバイオメカニクス分野における用語の意味を理解し、知識を整理できている（課題レポート）。 2．スポーツ科学における法則性について論理的に正しく説明できる（小テスト2回）。 3．授業中の発言や、グループワーク等において積極的に取り組めている（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
授業内や google classroom を用いた添削やコメントにより行う

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：柳谷登志雄 E-mail: tyanagi[at]juntendo.ac.jp　（［at］を@に変更してください） ［オフィスアワー］ 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　13:10～14:45 場所: 1号館3階1513室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	柳谷登志雄	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 ［授業方法］ 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	柳谷登志雄	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 ［授業方法］ 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	柳谷登志雄	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 ［授業方法］ 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	柳谷登志雄	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。 ［授業方法］ 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	柳谷登志雄	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 ［授業方法］ 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	柳谷登志雄	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 ［授業方法］ 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	原田　睦巳	ナンバリング	
担当教員	原田　睦巳		

授業概要

全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、スポーツ運動学並びに発生運動学に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法

評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

授業の際に提示する。

その他

連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：原田　睦巳 E-mail: mtharada[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：　水曜日　9：00～10：30 場所: 1号館5階1511室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：　本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	原田	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	原田	説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	原田	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	原田	調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	原田	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	原田	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	町田　修一	ナンバリング	
担当教員	町田　修一		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 本授業では、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	［授業の到達目標］ 1. スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学ぶことができる。 2. データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、運動生理学、スポーツ科学、基礎老化学に関連する研究遂行に必要な基礎的な能力を養うことができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	［授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連］ 本授業では、教員・他学生との討議を通じて高い倫理観を醸成していくとともに、研究計画の立案から修士論文の作成を通じてスポーツ健康科学に関する研究能力を高めることができる。この科目は、「高い倫理観」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 研究指導教員の指示に従うこと。 ［履修上の注意］ 課題を期日までにしっかりと実施し、研究指導教員との連絡を密にするすること。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 取り組む姿勢(25%)、授業で課される課題(25%)、修士論文に対する取り組み(50%)で総合して評価する。
評価基準	［成績評価の基準］ 1.研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成する。 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできるか 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察ができ、修士論文を完成できるか。

試験・課題に対するフィードバック方法
［課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法】 発表・討議を通じて必要な情報や改善内容をフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
［テキスト・参考書］ 適宜指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［さくら］水曜日　13:00～14:30　1号館1階1118室 ［本郷］　適宜 オンラインでの対応 ［メール］machidas@juntendo.ac.jp
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による4単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] 感染症や災害等、不測の事態が発生した際、授業計画等が変更となる場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	町田	（授業内容） スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 （授業方法） 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	演習	（予習：各回2時間） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：各回2時間） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。

5～8	町田	（授業内容） 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 （授業方法） 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	町田	（授業内容） 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 （授業方法） 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	町田	（授業内容） 調査・実験を遂行する。 （授業方法） 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	町田	（授業内容） 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 （授業方法） 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	町田	（授業内容） 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 （授業方法） 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	和氣　秀文	ナンバリング	
担当教員	和氣　秀文		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、生理学および運動生理学に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。
成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。
その他

連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：和氣　秀文 E-mail: hwaki[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日午後 場所: スポーツ健康医科学研究所３階　生理学研究室（９３０４） 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※遠隔授業の際や授業が無い期間はE-mailで連絡すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室（対面授業の場合に限る）
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。
授業計画	

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	和気	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	和気	説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	和気	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	和気	調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	和気	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	和気	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	山崎　一彦	ナンバリング	
担当教員	山崎　一彦		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、コーチング、陸上競技、トレーニング、バイオメカニクス、に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行研究の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

成績評価の方法	
評価方法	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）
評価基準	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。

試験・課題に対するフィードバック方法
課題については、必ず次回にディスカッションや講評をして知識や論点の幅を広げる

テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 　担当：山崎一彦 　E-mail: kayamaza@juntendo.ac.jp [オフィスアワー] 　〈さくらキャンパス〉 水:13:30-16:00　1号館5階1523室
担当教員の実務経験	競技者としての日本代表経験および中央競技団体の日本代表監督、オリンピック選手などの日本代表選手のパーソナルコーチとしての実務経験のある教員が、コーチ現場において求められる知識をわかりやすく解説します。
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	山崎	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	（演習）先行研究文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	山崎	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。	（演習）研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	山崎	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	（演習）課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	山崎	調査・実験を遂行する。	（プレゼンテーション・演習）論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	山崎	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	（演習）各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	山崎	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	（プレゼンテーション・ディスカッション・演習）発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	深尾　宏祐	ナンバリング	
担当教員	深尾　宏祐		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、医学全般、スポーツ医学、統計学、情報に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	〔連絡先〕 担当：深尾　宏祐 E-mail：fukao777〔at〕juntendo.ac.jp 〔オフィスアワー〕※質問や相談はできるだけ、前日までにE-mailで予約すること。 〈さくらキャンパス〉 日時：後期期間中の火曜日12:20から16:00 場所：スポーツ健康医科学研究所4階9405号室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 ＊授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	循環器内科医、スポーツドクターである教員が、臨床やスポーツ現場での経験を含めた内容を講義、演習等で教示する。
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 〔その他〕 特記事項なし

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	深尾	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	深尾	説得力のある問題提起の仕方を習得する。 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	深尾	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	深尾	調査・実験を遂行する。 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	深尾	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	深尾	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	大久保　菜穂子	ナンバリング	
担当教員	大久保　菜穂子		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、健康教育学に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	【授業の到達目標】 　1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 　2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 　3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	【授業の位置づけ】 この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 【履修上の注意（科目独自のルール】 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	【評価方法】 　課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	【評価基準】 　1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 　2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 　3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 　4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
【試験・課題等に対するフィードバック方法】 　レポート課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
【テキスト・参考書等】 　授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 　担当：大久保　菜穂子 　E-mail: naokoo[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） 【オフィスアワー】 　日時：　（水）（木）　12:00～12:50 　場所: 1号館4階1415号室　健康教育学研究室
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 種々の感染症の発生状況等に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合がある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	大久保	【授業内容】 スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	大久保	【授業内容】 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	大久保	【授業内容】 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	大久保	【授業内容】 調査・実験を遂行する。 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	【授業方法】 講義、グループワーク	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	大久保	【授業内容】 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	【授業方法】 講義、グループワーク	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	大久保	【授業内容】 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	木藤　友規	ナンバリング	
担当教員	木藤　友規		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、身体運動、知覚・感覚、神経科学に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：木藤　友規 E-mail: t.kito[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：（前期）月曜日13:00-13:30 、（後期）金曜日12:30-13:00 場所: 1号館4階1403室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：本郷での担当授業の前後30分程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	木藤	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	木藤	説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	木藤	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	木藤	調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	木藤	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	木藤	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	鈴木　宏哉	ナンバリング	
担当教員	鈴木　宏哉		

授業概要	
全体内容	スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、体力学、発育発達学、測定評価学、スポーツ情報分析論に関連する研究遂行に必要な基礎的な能力を養う。 具体的には、本授業では、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「高い倫理観」及び「スポーツ健康科学に関する研究能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：鈴木宏哉 E-mail: ko-suzuki[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） ［オフィスアワー］ 〈さくらキャンパス〉 日時： 水曜日　13:10～14:45 場所: スポーツ健康医科学研究所３階測定評価学系実験室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	鈴木宏哉	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	鈴木宏哉	説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	鈴木宏哉	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	鈴木宏哉	調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	鈴木宏哉	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	鈴木宏哉	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	渡　正	ナンバリング	
担当教員	渡　正		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、社会学・スポーツ社会学に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：渡　正 E-mail: t-watari[at]juntendo.ac.jp　([at] を@に変更してください) [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時:13:00～14:30 場所: 1号館3階1321室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、授業６０時間と準備学習１２０時間の計１８０時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	渡	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	渡	説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	渡	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	渡	調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	渡	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	渡	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験 試験は実施しないが、授業の到達目標に達しているかどうかを課題の内容によって判断する。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	福　典之	ナンバリング	
担当教員	福　典之		

授業概要	
全体内容	スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、体力科学、スポーツ・運動遺伝疫学に関連する研究遂行に必要な基礎的な能力を養う。具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	研究指導教員の指示に従うこと。

成績評価の方法	
評価方法	取り組む姿勢20%、授業で課される課題30%、修士論文に対する取り組み50%で評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成する。 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできるか 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察ができ、修士論文を完成できるか。

試験・課題に対するフィードバック方法
発表・討議を通じて必要な情報や改善内容をフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
テキスト・参考書は適宜指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	【さくら】木曜日　13:30～15:00　スポーツ健康医科学研究所（通称：ハイテク棟）2階9203号室 【本郷】メールで予約すること 【メール】noriyuki.fuku@nifty.com
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	福典之	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：各回2時間） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：各回2時間） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。

5～8	同上	説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	同上	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	同上	調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	同上	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	同上	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	荻原　朋子	ナンバリング	
担当教員	荻原　朋子		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、体育科教育学に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
[テキスト・参考書等] 　授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：荻原朋子 E-mail: togiwara[at]juntendo.ac.jp　（[at]を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：　木曜日　13:10～14:45 場所: 1号館5階1517室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：　本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	荻原	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	［授業方法］ 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。（発表、グループワーク）	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	荻原	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。	［授業方法］ 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。（演習、グループワーク）	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：1.5時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	荻原	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	［授業方法］ 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。（演習）	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：1.5時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	荻原	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。	［授業方法］ 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。（グループワーク、演習）	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：1時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	荻原	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	［授業方法］ 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。（演習）	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：1時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	荻原	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	［授業方法］ 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。（発表、演習）	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：1時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験は実施しません。		

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	松山　毅	ナンバリング	
担当教員	松山　毅		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、社会福祉、介護予防、障害児者の社会参加や健康づくりに関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。
成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。
その他

連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：松山　毅 E-mail: tmatsuya[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　13:10～14:45 場所: 1号館4階1422室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] 　この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。
授業計画	

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	松山	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 ［授業方法］ 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	スライド、講義資料、グループワーク	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	松山	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 ［授業方法］ 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	スライド、講義資料、グループワーク	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	松山	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 ［授業方法］ 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	スライド、講義資料、グループワーク	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	松山	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。 ［授業方法］ 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	スライド、講義資料、グループワーク	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	松山	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 ［授業方法］ 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	スライド、講義資料、グループワーク	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	松山	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 ［授業方法］ 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	スライド、講義資料、グループワーク	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	佐々木　啓	ナンバリング	
担当教員	佐々木　啓		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、健康科学またはスポーツが関係する健康科学における必要な調査・実験等に関する方法論を学ぶ。 　具体的には、関係する文献や書籍の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1.独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。 この科目は、「高い倫理観」及び「スポーツ健康科学に関する研究能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。 [テキスト・参考書等] 　授業中に指示する。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の基準] 1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点） [成績評価の方法] 課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：佐々木啓 E-mail: hirakus[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 水曜日　13:10～14:45 場所: 1号館4階1410室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4		［授業内容］ 健康科学またはスポーツが関連する健康科学文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 ［授業方法］ 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
		［授業内容］ 健康科学またはスポーツが関連する健康科学文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 ［授業方法］ 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
		［授業内容］ 健康科学またはスポーツが関連する健康科学文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 ［授業方法］ 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
		［授業内容］ 健康科学またはスポーツが関連する健康科学文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 ［授業方法］ 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8		［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 ［授業方法］ 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
		［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 ［授業方法］ 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 ［授業方法］ 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
		［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 ［授業方法］ 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12		［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 ［授業方法］ 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
		［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 ［授業方法］ 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
		［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 ［授業方法］ 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。

		［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 ［授業方法］ 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17		［授業内容］ 調査・実験を遂行する。 ［授業方法］ 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
		［授業内容］ 調査・実験を遂行する。 ［授業方法］ 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
		［授業内容］ 調査・実験を遂行する。 ［授業方法］ 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
		［授業内容］ 調査・実験を遂行する。 ［授業方法］ 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
		［授業内容］ 調査・実験を遂行する。 ［授業方法］ 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22		［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 ［授業方法］ 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
		［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 ［授業方法］ 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
		［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 ［授業方法］ 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
		［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 ［授業方法］ 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
		［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 ［授業方法］ 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。

23～30		［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 ［授業方法］ 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 ［授業方法］ 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 ［授業方法］ 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 ［授業方法］ 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 ［授業方法］ 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 ［授業方法］ 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 ［授業方法］ 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	プレゼンテーションを行い、それについて議論する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験は行いません		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	牛尾　直行	ナンバリング	
担当教員	牛尾　直行		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、教育全般に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
一般的な教育学は学習済みの前提で教育学研究室に入室しているので、それぞれの大学院生にそれぞれのテキスト・参考文献を適宜提案し指導します。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：牛尾　直行 E-mail: n-ushio〔at〕juntendo.ac.jp　（〔at〕を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：　月曜日～木曜日　12:00～13:00 場所: 1号館3階1327室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：　E-mail：n-ushio〔at〕juntendo.ac.jpでご連絡下さい
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	牛尾	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	牛尾	説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	牛尾	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	牛尾	調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	牛尾	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	牛尾	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	中嶽　誠	ナンバリング	
担当教員	中嶽　誠		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、スポーツ健康科学に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：中嶽　誠 E-mail: mknakada[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 日時：　水曜日　12:00～12:30 場所：1号館5階1520室バスケットボール研究室
担当教員の実務経験	高校現場において保健体育科教諭の業務にあたっていた経験を生かし、授業に求められる知識や技術をわかりやすく解説します。
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	中嶽	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	中嶽	説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	中嶽	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	中嶽	調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	中嶽	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	中嶽	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	渡邉　貴裕	ナンバリング	
担当教員	渡邉　貴裕		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、オペレーションズ・リサーチ、特別支援教育学に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] [テキスト・参考書等] 　授業中に指示する。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 　担当：渡邉貴裕 　E-mail: tkwatana[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 　日時：　火曜日　13:00～15:00 木曜日　10：00～15：00 　場所: 1号館2階1218室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 　日時：　本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 　場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	特別支援学校教諭としての勤務経験に基づき、障害を持つ人への指導に関する実践的な知識をわかりやすく解説する。
備考	この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、120時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合がある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～8	渡邉	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：1時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～16	渡邉	説得力のある問題提起の仕方を習得する。 ［授業方法］ 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：1時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
17～24	渡邉	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：1時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
25～34	渡邉	調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：1時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
35～44	渡邉	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：1時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
45～60	渡邉	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	川田　裕次郎	ナンバリング	
担当教員	川田　裕次郎		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、スポーツ心理学に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問（20%）、平常点（40%）を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
				この科目では必ず用意しなければならないテキストはありません。必要な資料は授業中に適宜配布します。
				There is no textbook that youmust prepare for this course.The necessary materials willbe distributed as needed during the class.

参考文献
[テキスト・参考書等] 　授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 　担当：川田裕次郎 　E-mail: yuukawa[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 　日時：火曜日 昼休み（12:10～13:10）、水曜日 昼休み（12:10～13:10） 　場所：1号館2階　スポーツ心理学研究室（1215室）またはオンライン会議システム 　他の学生の相談時間と重ならないようにするため、できる限り前日までにE-mailで予約してください。 　質問や相談は予約のあった方を優先します。
担当教員の実務経験	

備考		［学修時間］ この授業は、演習の授業形態による4単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。		
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～5	川田	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 ［授業方法］ 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	講義、グループワーク、グループディスカッション	（予習：2時間） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
6～10	川田	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 ［授業方法］ 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	講義、グループワーク、グループディスカッション	（予習：2時間） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
11～15	川田	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 ［授業方法］ 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	講義、グループワーク、グループディスカッション	（予習：2時間） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
16～20	川田	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。 ［授業方法］ 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	講義、グループワーク、グループディスカッション	（予習：2時間） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
21～24	川田	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 ［授業方法］ 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	講義、グループワーク、グループディスカッション	（予習：2時間） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
25～30	川田	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 ［授業方法］ 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	講義、グループワーク、グループディスカッション	（予習：2時間） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	窪田　敦之	ナンバリング	
担当教員	窪田　敦之		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、スポーツ医学の中でも特に運動器（骨や筋肉）やコンディショニングに関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業の際に提示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：窪田 E-mail: akubota[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 日時：　前期　木曜日14時～16時、後期　火曜日14時～16時 場所: さくらキャンパス　1号館4階　スポーツ医学（ストレングス＆コンディショニング）研究室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～5	窪田	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	演習・グループワーク	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。

6～10	窪田	説得力のある問題提起の仕方を習得する。 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	演習・グループワーク	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
11～15	窪田	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	演習・グループワーク	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
16～20	窪田	調査・実験を遂行する。 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
21～25	窪田	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
26～30	窪田	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	演習・グループワーク	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	河村　剛光	ナンバリング	
担当教員	河村　剛光		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、測定評価学、スポーツ視覚学、体力測定、身体組成、球技系スポーツ等に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：河村　剛光 E-mail: ykoumura [at] juntendo.ac.jp　([at] を@に変更してください) [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 木曜日　13:00～15:00 場所: 研究所3階9303室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時・場所： メール等にて連絡ください。
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	河村	[授業内容] スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 [授業方法] 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	河村	[授業内容] 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 [授業方法] 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	河村	[授業内容] 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 [授業方法] 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	河村	[授業内容] 調査・実験を遂行する。 [授業方法] 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	河村	[授業内容] 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 [授業方法] 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	河村	[授業内容] 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 [授業方法] 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	演習	（予習：1.5時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：1.5時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	武田　剛	ナンバリング	
担当教員	武田　剛		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、水泳競技方法論に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：武田　剛 E-mail: tutakeda[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 木曜日　12:50～14:30 場所: 1号館4階1405室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	武田剛	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。

5～8	武田剛	説得力のある問題提起の仕方を習得する。 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	武田剛	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	武田剛	調査・実験を遂行する。 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	武田剛	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～24	武田剛	論文構成の骨子を作成し、論文のストーリーや構成を構築する。各章や節の見出しを設定や、重要な主張を書き出し、整理をする。 骨子を指導教員と受講生で共有し、議論することで骨子の修正や提案を共有する。	演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマの骨子を事前に作成し、授業内の議論の準備を行う。 （復習：2時間/回） 授業で議論した内容を踏まえた骨子の修正を行う。
25～30	武田剛	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	実習・演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験は実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	山田　泰行	ナンバリング	
担当教員	山田　泰行		

授業概要	
全体内容	〔授業全体の内容〕 スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、スポーツ、ビジネス、街づくりに貢献するための研究遂行に必要な基礎的能力を養う。本授業では、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	〔授業の到達目標〕 1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を作成できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	〔履修要件〕 研究指導教員の指示に従うこと。 〔履修上の注意〕 頭を柔らかくして受講すること。

成績評価の方法	
評価方法	〔評価方法〕 取り組む姿勢20%、授業で課される課題30%、修士論文に対する取り組み50%で評価する。
評価基準	〔評価基準〕 授業で学んだ研究法の習熟度をレポートやプレゼンテーション等を通じて評価する。 1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成する。 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできるか 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察ができ、修士論文を完成できるか。

試験・課題に対するフィードバック方法
〔試験・レポート等の課題に対するフィードバックの方法〕 発表・討議を通じて必要な情報や改善内容をフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
参考書は適宜指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：山田泰行 E-mail:yayamada[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください） ［オフィスアワー］ ＜さくら＞ 日時：月曜日～金曜日12：10～13：00 場所：1号館3階1326 科学コミュニケーション研究室 ＜本郷＞ 授業前後30分程度 センチュリー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による4単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ 特記事項無し。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	山田	（授業内容） スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 （授業方法） 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	講義・演習	（予習：各回2時間） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：各回2時間） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	山田	（授業内容） 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 （授業方法） 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	講義・演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	山田	（授業内容） 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 （授業方法） 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	講義・演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	山田	（授業内容） 調査・実験を遂行する。 （授業方法） 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	講義・演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	山田	（授業内容） 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 （授業方法） 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	講義・演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	山田	（授業内容） 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 （授業方法） 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	講義・演習	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験は実施しない（提議書、修論、修論発表会の取り組みや成果物を総合的に評価するため）。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	高澤　祐治	ナンバリング	
担当教員	高澤　祐治		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学およびスポーツ医学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、オペレーションズ・リサーチ、統計学、プレゼンテーション方法に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
[テキスト・参考書等] 　授業中に指示する。レポート課題については評価のコメントを書いて返却する。その他の課題については、授業内で議論する際に用いる。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：高澤祐治 E-mail: ytakaza@juntendo.ac.jp （［at］を@に変更してください） ［オフィスアワー］ <さくらキャンパス> 日時： 授業終了後30分はオープンアワーとする。 場所: 研究所4階9404 <本郷・お茶の水キャンパス> 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	［実務経験のある教員による授業について］ 整形外科・スポーツ医学を専門とする現役医師が、その経験を踏まえてスポーツ活動中の外傷・障害等について講義する。
備考	［学修時間］ 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、授業６０時間と準備学習１２０時間の計１８０時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	高澤	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 ［授業方法］ 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	高澤	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 ［授業方法］ 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	高澤	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 ［授業方法］ 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	高澤	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。 ［授業方法］ 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	高澤	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 ［授業方法］ 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	高澤	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 ［授業方法］ 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	坂本　彰宏	ナンバリング	
担当教員	坂本　彰宏		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、トレーニング科学、運動生理学、バイオメカニクス、統計学に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと（アクティブラーニング）。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション（20%）、口頭試問（20%）、平常点（40%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：坂本　彰宏 E-mail： a-sakamo[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 月曜日、金曜日（在室時であれば対応可） 場所： スポーツ健康医科学研究所１階スタッフルーム 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所： センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他]

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～5	坂本	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
6～10	坂本	説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
11～15	坂本	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
16～20	坂本	調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
21～25	坂本	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
26～30	坂本	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	山中　航	ナンバリング	
担当教員	山中　航		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、生理学および神経科学に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：山中　航 E-mail： k-yamana[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日10:40～12:00 場所： スポーツ健康医科学研究所３階　生理学研究室（9304室） 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所： センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	山中	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	グループワーク、討議、発表	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	山中	説得力のある問題提起の仕方を習得する。 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	グループワーク、討議、発表	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	山中	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	グループワーク、討議、発表	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	山中	調査・実験を遂行する。 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	グループワーク、討議、発表	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	山中	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	グループワーク、討議、発表	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	山中	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	グループワーク、討議、発表	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	宮本　恵里	ナンバリング	
担当教員	宮本　恵里		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、スポーツ遺伝学、運動生化学に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。
成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に提示する。
その他

連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：宮本　恵里 E-mail： eri-miyamoto[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 木曜日　2限、昼休み 場所： スポーツ健康医科学研究所2階9203号室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所： センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。
授業計画	

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	宮本	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 ［授業方法］ 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	グループワーク、発表、ディスカッション等	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	宮本	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 ［授業方法］ 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	グループワーク、発表、ディスカッション等	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	宮本	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 ［授業方法］ 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	グループワーク、発表、ディスカッション等	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	宮本	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。 ［授業方法］ 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	グループワーク、発表、ディスカッション、調査・実験	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	宮本	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 ［授業方法］ 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	グループワーク、発表、ディスカッション等	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	宮本	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 ［授業方法］ 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	グループワーク、発表、ディスカッション等	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	宮森　隆行	ナンバリング	
担当教員	宮森　隆行		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、外傷・障害予防、疾患別アスレティックリハビリテーション、コンディショニング維持・向上に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学部専攻(博士前期課程)の学位授与方針に定める「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」を身に付ける。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。 　定期試験は実施しない。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：宮森　隆行 E-mail： t.miyamori.hi[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 土曜日　10:00～12:00 場所： アスレティックトレーニングルーム（Ogawa Gymnastics Arena内） Emailで事前予約すること。 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 火曜日～金曜日 18:00～ 場所： お茶の水センタービル5階　Emailで事前に予約すること。
担当教員の実務経験	急性期病院およびスポーツ現場において理学療法士およびアスレティックトレーナーとしての臨床業務にあたっている経験を生かし、スポーツ外傷・障害予防、アスレティックリハビリテーション、パフォーマンス向上について求められる知識や技術を分かりやすく解説する。
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	宮森	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	［演習］ 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：120分/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：120分/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	宮森	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。	［演習］ 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：120分/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：120分/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	宮森	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	［演習］ 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：120分/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：120分/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	宮森	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。	［演習］ 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：120分/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：120分/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	宮森	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	［演習］ 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：120分/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：120分/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	宮森	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	［演習］ 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：120分/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：120分/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	吉原　利典	ナンバリング	
担当教員	吉原　利典		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、運動・トレーニングに対する身体適応、特に骨格筋における適応応答の加齢変化や性差に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：吉原　利典 E-mail： t-yoshih[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 水曜日　14:00～17:00 場所： 1号館1階1110室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所： センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	吉原	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	吉原	説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	吉原	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	吉原	調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	吉原	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～28	吉原	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
29～30	吉原	修士論文を学術論文として投稿できる形にまとめる。	完成した修正論文をもとに学会発表・論文投稿に取り組む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、投稿論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	吉田　和人	ナンバリング	
担当教員	吉田　和人		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、スポーツコーチング科学に関する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：吉田　和人 E-mail: k.yoshida[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　12：00～12:50　水曜日　12：00～12:50 場所: 1号館5階1502室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	吉田	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	吉田	説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	吉田	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	吉田	調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	吉田	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	吉田	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	黄田　常嘉	ナンバリング	
担当教員	黄田　常嘉		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、精神保健、メンタルヘルスに関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書として纏める。更に、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学（特にメンタルヘルス領域）に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアを基に、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験及びデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」「得られた知識を基に、学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」と云う学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　精神保健専攻の博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 　統計ソフトについては習熟しておくこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 課題の検討結果や研究成果を説明できる（レポート、プレゼンテーション） 2. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察を説明できる（口頭試問） 3. 修士論文の取組状況を以て授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
[テキスト・参考書等] 　授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 　担当：黄田　常嘉 　E-mail: ota[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 木曜　1・2限に1216号研究室に在室しています。 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 金曜17時以降に精神医学講座医局に居ります。
担当教員の実務経験	科目責任者は、精神科専門医、精神保健指定医、公認心理師、臨床心理士として、外来・入院の診療活動、精神鑑定、学校・企業の健康管理室、特別支援教育専門家検診など精神医学に関連した多彩な業務経験を有している。その経験を活かし乍、精神科医療、精神保健に於ける実践的な授業を展開する。
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容を以て構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	黄田　常嘉	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアを基に、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表すると共に、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマ及びその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めた上で、指導教員からの指導も踏まえ、文章に纏めること。
5～8	黄田　常嘉	説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めた上で、指導教員からの指導も踏まえ、文章に纏めること。
9～12	黄田　常嘉	研究方法等を明確にした研究計画を提議書として纏める。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式として纏める。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマ及びその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めた上で、指導教員からの指導も踏まえ、文章に纏めること。
13～17	黄田　常嘉	調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマ及びその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めた上で、指導教員からの指導も踏まえ、文章に纏めること。
18～22	黄田　常嘉	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマ及びその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めた上で、指導教員からの指導も踏まえ、文章に纏めること。
23～30	黄田　常嘉	考察を深めて修士論文として纏め上げていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマ及びその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めた上で、指導教員からの指導も踏まえ、修士論文として完成させること。
		定期試験は実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	室伏　由佳	ナンバリング	
担当教員	室伏　由佳		

授業概要	
全体内容	この授業では、スポーツ健康科学研究に必要な実験や調査の手法を学び、研究倫理への理解を深めながら、各自の研究テーマに展開するための能力を養う。 　具体的な内容としては、スポーツ心理学などの関連分野に応じたトピックを取り入れ、研究計画の立案や提案書の作成方法を、文献調査、発表、討議を通じて学習する。授業内では研究計画を策定し、提案書を試作する。また、先行研究の批判的検討方法や研究倫理については、抄読や討議を通じて深く理解する。さらに、各種実験における測定法や記録法、調査手法、データ処理の方法について、自身の研究内容と比較しながら学ぶ機会を設ける。学会発表や論文投稿の基礎も扱い、研究成果を発信するスキルの習得を目指す。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究における研究計画の立案や提案書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法を理解し、実践できる。 3. 研究倫理を理解し、それに基づいて研究を進められる。 4. 実験・調査の手法やデータ処理の方法を習得し、実践できる。 5. 学会発表や論文投稿の基本的なスキルを身につける。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科博士前期課程の必修科目として位置付けられている。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。
成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提案書の作成ができる（評価方法：レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（評価方法：口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（評価方法：口頭試問） 4. 実験・調査の方法やデータ処理の方法について説明できる（評価方法：レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（評価方法：口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取り組み姿勢によって授業態度を評価する（評価方法：平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
テキスト・参考書等は授業中に指示する。
その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：室伏　由佳 E-mail：y.murofushi.cc［at］juntendo.ac.jp ※［at］を@に変更してください。 ［オフィスアワー］ 〈さくらキャンパス〉 日時：前後期期間中の木曜日 12:00~12:50 場所：1号館 2階 1214室 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じるが、他の学生の相談時間とかち合わないようにするため、できるだけ前日までにE-mailで予約すること。 質問や相談は、予約のあった学生を優先する。 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ 　授業形態は、対面式ではなくオンライン授業で行うこともある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～5	室伏　由佳	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	PBL（Project-Based Learning）	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
6～9	室伏　由佳	研究計画を策定し提議書を試作する。教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	討議形式	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
10～13	室伏　由佳	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得し、調査結果を発表する。発表後の討議を通じて理解を深める。	発表と討議形式	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
14～18	室伏　由佳	研究倫理について理解を深め、関連テキストを抄読する。さらに、研究倫理審査申請書を試作することで、実践的なスキルを養う。	テキスト抄読と演習形式	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
19～23	室伏　由佳	各種実験の測定法・記録法および調査方法についての知識を習得し、データ処理の基礎を学ぶ。先行文献を調査して測定法や調査法を分類し、自身の研究計画や提議書と比較・検討する。	調査と演習形式	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
24～30	室伏　由佳	学会発表および論文投稿の方法を理解し、各自のテーマに基づいて準備を行う。関連資料を用いて、発表や投稿に必要な手続きを把握する。	演習形式	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	竹澤　稔裕	ナンバリング	
担当教員	竹澤　稔裕		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 具体的には、柔道コーチングの分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：竹澤　稔裕 E-mail: t.takezawa.ul[at]juntendo.ac.jp [at]を@に修正してください [オフィスアワー] 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所： オンライン上（随時Eメールで質問を受け付ける）
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] ※授業形態は、対面式ではなくオンライン授業で行うこともある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	竹澤	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	演習 ［授業方法］ 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	竹澤	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	演習 ［授業方法］ 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	竹澤	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	演習 ［授業方法］ 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	竹澤	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。	演習 ［授業方法］ 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	竹澤	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	演習 ［授業方法］ 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	竹澤	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	演習 ［授業方法］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	染谷　由希	ナンバリング	
担当教員	染谷　由希		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 具体的には、スポーツ医学、運動疫学、予防医学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：染谷　由希 E-mail: yksomeya[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 水曜日PM　※事前にメール等で連絡をすること。 場所： スポーツ健康医科学研究所4階 9402室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※事前にメール等で予約すること。 場所： センチュリータワー南5階教員控室など
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] ※授業形態は、対面式ではなくオンライン授業で行うこともある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	染谷	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	染谷	研究計画を策定し提議書を試作する。	提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	染谷	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	染谷	研究倫理について理解を深める。	研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～23	染谷	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
24～30	染谷	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	杉林　孝法	ナンバリング	
担当教員	杉林　孝法		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、陸上競技に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：杉林　孝法 E-mail: taka.sugibayashi[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] オフィス　1号館5階1525 オフィスアワー　木曜日 10:20-12:00
担当教員の実務経験	陸上競技においてオリンピック、世界選手権、実業団活動経験があり、また日本スポーツ協会公認コーチ資格、JOCナショナルコーチアカデミー修了、日本代表コーチ経験のある教員が、陸上競技の現場において取り組まれている技術・トレーニング・コーチング課題に関する研究を指導する。
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	杉林	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	［授業方法］ 演習 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	杉林	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。	［授業方法］ 演習 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	杉林	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	［授業方法］ 演習 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	杉林	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。	［授業方法］ 演習 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～23	杉林	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	［授業方法］ 演習 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
24～30	杉林	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	［授業方法］ 演習 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	尾高　邦生	ナンバリング	
担当教員	尾高　邦生		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、特別支援教育やインクルーシブ教育に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：尾高　邦生 E-mail: k.odaka.ow [at] juntendo.ac.jp （ [at] を@に変更してください） ［オフィスアワー］ <さくらキャンパス> 日時： 火曜日13:00～15:00　　木曜日10:00～15:00 場所: 1号館２F　1217室
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	尾高	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	討議	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。

5～8	尾高	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。	討議	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	尾高	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	討議、発表	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	尾高	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。	調査、実験	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	尾高	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	討議	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～28	尾高	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。	発表、討議	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
29～30	尾高	［授業内容］ 研究成果の発表（学会発表や論文投稿）の方法を理解する。	発表	（予習：2時間/回） 学会発表、論文投稿の方法について情報収集すること。 （復習：2時間/回） 研究成果を実際に発表し、そのフィードバックをまとめる
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	冨田　洋之	ナンバリング	
担当教員	冨田　洋之		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、体操競技、運動学、コーチングに関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：冨田　洋之 E-mail: htomita[at]juntendo.ac.jp　（[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 日時：　火曜日　10:00～12:00 場所：1号館5階体操競技研究室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他]

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	冨田	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	冨田	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	冨田	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	冨田	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～23	冨田	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
24～30	冨田	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	長岡　知	ナンバリング	
担当教員	長岡　知		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、健康科学を基礎とする学校現場における保健科教育に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 長岡：E-mail ： tm-nagaoka[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 ［オフィスアワー］ 長岡：火曜日12:50-14:30　1号館4階1416号室 上記時間帯には予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生との重複を避けるため、可能な限り前日までにメールでアポイントを取ってください。質問や相談はアポイントを取っている学生を優先します。 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 　日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 　場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	高等学校において保健体育教員として教科指導業務及び教育行政経験にあたっていた経験を生かし、学校現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説します。
備考	［学修時間］ 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 　［その他］

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	長岡	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	長岡	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	長岡	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	長岡	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	長岡	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	長岡	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	仲村　明	ナンバリング	
担当教員	仲村　明		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、陸上競技長距離・マラソンのコーチングに関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：仲村　明 E-mail: aknaka[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　8:30～10:40 場所: 1号館5階1524室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 　[その他]

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～５	仲村	[授業内容] スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 先行文献を抄読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	個人ワーク、グループワーク、発表	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。

６～９	仲村	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	個人ワーク、グループワーク	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：２時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
10～14	仲村	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	個人ワーク、発表	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：1時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
15～19	仲村	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	個人ワーク、発表	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
20～24	仲村	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	個人ワーク	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
25～30	仲村	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	グルーワーク、発表	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	高梨　雄太	ナンバリング	
担当教員	高梨　雄太		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、陸上競技フィールド種目のコーチングに関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	担当：高梨雄太 ［さくら］火曜日9時～11時 ［メール］ytakana［at］juntendo.ac.jp　(at を@に変えて送信してください)
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 　［その他］

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	高梨	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。

5～9	高梨	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
10～14	高梨	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
15～20	高梨	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
21～25	高梨	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
26-30	高梨	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	村上　祐介	ナンバリング	
担当教員	村上　祐介		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、アダプテッド・スポーツ科学に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：村上　祐介 E-mail：y.murakami.az[at]juntendo.ac.jp（メールを送る際は、[at]を@に修正してください） 【オフィスアワー】 日時：月・木曜日のお昼休み 場所：1号館2階心身障害心理学研究室（1219） 上記以外でも相談に対応しますが、事前に連絡すること。
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	村上	[授業内容] スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	講義、発表、ディスカッション	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。

5～8	村上	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。	講義、発表、ディスカッション	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	村上	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	講義、発表、ディスカッション	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	村上	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。	講義、発表、ディスカッション	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	村上	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	講義、発表、ディスカッション	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	村上	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	講義、発表、ディスカッション	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	谷本　道哉	ナンバリング	
担当教員	谷本　道哉		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、運動生理学・トレーニング科学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
[テキスト・参考書等] 　授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：谷本道哉 E-mail: m.tanimoto.sb@juntendo.ac.jp [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　12:10～13:00 場所: 1号館5階1516室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	

備考	［学修時間］ 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ ※授業形態は、対面式ではなくオンライン授業で行うこともある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	谷本道哉	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	［授業方法］演習 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	谷本道哉	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	［授業方法］演習 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	谷本道哉	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	［授業方法］演習 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	谷本道哉	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。	［授業方法］演習 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
19～23	谷本道哉	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	［授業方法］演習 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	谷本道哉	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	［授業方法］演習 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	塩田　有規	ナンバリング	
担当教員	塩田　有規		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 具体的には、スポーツ医学(運動器系)の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	［授業の到達目標］ 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	［成績評価の基準］ 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。また翌週の授業で返却して、評価や助言を各受講者へフィードバックする。 定期試験については、Juntendo Passportを使って解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
［テキスト・参考文献］ 授業の際に提示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ メールアドレス：sio-g[at]juntendo.ac.jp　※[at]を@に変換してください。 ［オフィスアワー］ 日時：火曜日9時～17時、水曜日9時～17時、木曜日14時～17時 場所：スポーツ健康医科学研究所　スポーツ医学研究室（9404） クリニックで診療を行っていたり、他の部屋で実験をしていることがあるため、必ずE-mailでアポイントメントを取ってください。
担当教員の実務経験	順天堂医院にて整形外科医として勤務 ［スポーツドクター］ ラグビーリーグワン・東京サントリーサンゴリアス・チームドクター 2020アジアパラユース大会・日本選手団チーフドクター兼CRO 2021デフリンピックブラジル大会・帯同ドクター 2023スペシャルオリンピックス夏季ベルリン大会・日本選手団ドクター パリ2024パラリンピック・日本選手団チーフドクター 2025スペシャルオリンピックス冬季トリノ大会・日本選手団ドクター 2025デフリンピック東京大会大会準備室アドバイザー

備考	［学修時間］ この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ ※授業形態は、教室での対面式だけではなくオンライン授業やスポーツ現場で実地実習として行うこともある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	塩田　有規	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	［授業方法］演習 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：2時間／回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間／回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	塩田　有規	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	［授業方法］演習 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：2時間／回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間／回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	塩田　有規	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	［授業方法］演習 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：2時間／回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間／回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～18	塩田　有規	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。	［授業方法］演習 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：2時間／回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間／回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
19～24	塩田　有規	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	［授業方法］演習 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：2時間／回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間／回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
25～30	塩田　有規	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	［授業方法］演習 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：2時間／回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間／回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	小野　雄大	ナンバリング	
担当教員	小野　雄大		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、スポーツ教育学、スポーツ文化論に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法について発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：小野 雄大 E-mail: y.ono.ib[at]juntendo.ac.jp　([at] を@に変更してください) [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時: 金曜日13:00～14:30 場所: 1号館5階1503室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による4単位の科目であり、授業60時間と準備学習120時間の計180時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	小野	スポーツ教育学、スポーツ文化論に関連する先行研究の批判的検討の方法について学ぶ。	グループワーク、討議	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。

5～8	小野	各自の問題意識を整理し、研究の核心をなす「問い」として明文化する。	グループワーク、討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	小野	研究の目的・課題、方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	グループワーク、討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	小野	調査を遂行する。	グループワーク、討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	小野	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	グループワーク、討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	小野	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	グループワーク、討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験 試験は実施しないが、授業の到達目標に達しているかどうかを課題の内容によって判断する。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	関　伸夫	ナンバリング	
担当教員	関　伸夫		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、体育科教育学に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
[テキスト・参考書等] 　授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：関伸夫 E-mail: n.seki.ef[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　13:00～14:30 場所: 1号館5階1519室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	学校現場における教員経験及び文部科学省における教科調査官経験を踏まえ、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な具体的方策について指導する。
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	関	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	［授業方法］ 発表、グルーワーク	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	関	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	［授業方法］ 調査、発表、討議	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	関	［授業内容］ 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて、研究方法等を明確にした研究計画を提議書の形式としてまとめる。	［授業方法］ 調査、発表、グループワーク	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～18	関	［授業内容］ 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	［授業方法］ 発表、討議	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
19～24	関	［授業内容］ 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	［授業方法］ 発表、討議	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
25～30	関	［授業内容］ 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	［授業方法］ 発表、討議	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験は実施しません。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究方法論（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	4単位
代表教員	和田　由佳子	ナンバリング	
担当教員	和田　由佳子		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、運動・スポーツに関する医科学研究に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツのマネジメント、スポーツを通じたマネジメントに関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：和田　由佳子 E-mail: y.wada.qv[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] まずはメールで連絡をお願いいたします。その後内容に応じて、メールまたは面談（対面/Zoom）を用いて対応いたします。
担当教員の実務経験	・スポーツ団体の評議員やプロスポーツチームの役員を務めている経験を活かし、社会実装を視野に入れた研究指導を行う。 ・アスリートマネジメントやスポつスポンサーシップに従事してきた経験を活かし、スポーツビジネスの実践において求められる学術的な視点についての解説を行う。
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～5	和田由佳子	スポーツマネジメントに関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	演習（講義、発表及びグループディスカッション）	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。

6～10	和田由佳子	説得力のある問題提起の仕方を習得する。 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	演習（講義、発表及びグループディスカッション）	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
11～15	和田由佳子	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	演習（講義、発表及びグループディスカッション）	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
16～20	和田由佳子	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。それによってデータを収集する。	演習（講義、発表、実験実習及びグループディスカッション）	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
21～25	和田由佳子	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	演習（講義、発表、実験実習及びグループディスカッション）	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
26～30	和田由佳子	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。 学会発表や論文投稿の方法を理解し、学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	演習（講義、発表、実験実習及びグループディスカッション）	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	内藤　久士	ナンバリング	
担当教員	内藤　久士		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 具体的には、スポーツ医科学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：内藤　久士 E-mail: hnaitou[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　12:10～13:00 場所: 1号館1階1117室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 随時　E-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室など
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] 災害や感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合がある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～5	内藤　久士	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	実習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
6～10	内藤　久士	研究計画を策定し提議書を試作する。 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	実習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	内藤　久士	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	実習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
16～20	内藤　久士	研究倫理について理解を深める。 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	実習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
21～25	内藤　久士	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	実験・実習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
26～30	内藤　久士	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	実習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	中村　充	ナンバリング	
担当教員	中村　充		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 具体的には、スポーツコーチング科学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に適宜、指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：中村　充 E-mail: mtnakamu[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　10:00～12:00 場所: 1号館5階1505室 ※事前にメールにて予約してください。
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] 　特になし。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	中村充	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	各自の研究に可憐する先行文献を調査した内容を発表し、具体的な研究計画を策定に向けて全員で討議する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	中村充	研究計画を策定し提議書を試作する。	提議書を試作し、ブラッシュアップできるよう全員で討議を行う。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	中村充	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、全員で討議する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	中村充	研究倫理について理解を深める。	研究倫理に関するテキストを解説・抄読し、研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	中村充	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	中村充	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	各種学会発表・論文投稿の手続きを収集し、論文投稿の方法について把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	廣瀬　伸良	ナンバリング	
担当教員	廣瀬　伸良		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、柔道の競技力向上に関する分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：廣瀬　伸良 E-mail: nhirose[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 木曜日　12:10～12:40 場所: 1号館5階1506室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： E-mailで問い合わせること。 場所: 随時指定します。
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	廣瀬	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	実験・実習 講義形式で解説、質疑応答後に各受講生に課題提供とプレゼンを行わせる。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	廣瀬	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	実験・実習 講義形式で解説、質疑応答後に各受講生に課題提供とプレゼンを行わせる。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	廣瀬	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	実験・実習 講義形式で解説、質疑応答後に各受講生に課題提供とプレゼンを行わせる。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	廣瀬	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	実験・実習 講義形式で解説、質疑応答後に各受講生に課題提供とプレゼンを行わせる。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	廣瀬	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	実験・実習 講義形式で解説、質疑応答後に各受講生に課題提供とプレゼンを行わせる。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	廣瀬	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	実験・実習 講義形式で解説、質疑応答後に各受講生に課題提供とプレゼンを行わせる。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	鈴木　良雄	ナンバリング	
担当教員	鈴木　良雄		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、スポーツ栄養、生化学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
[テキスト・参考書等] 　授業中に提示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：鈴木　良雄 E-mail: yssuzuki[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 月曜日　13:10～14:45 場所: 1号館2階1223室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	鈴木良雄	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	［授業方法］ 反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	鈴木良雄	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	［授業方法］ 反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	鈴木良雄	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	［授業方法］ 反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	鈴木良雄	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	［授業方法］ 反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	鈴木良雄	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	［授業方法］ 反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	鈴木良雄	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	［授業方法］ 反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.25時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	吉村　雅文	ナンバリング	
担当教員	吉村　雅文		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、球技コーチングの分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	[授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）] 　この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる。（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している。（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している。（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる。（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している。（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
				テキスト・参考書はありませんが、必要に応じて、資料を配付、もしくはJ-PASSに事前添付いたします。

参考文献
必要に応じ、授業時に文献、参考図書等について紹介するので、自主的に取り寄せ、精読していただきたい。　さらに、必要に応じ、授業時に資料を配付するので、予習復習に役立てもらいたい。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：吉村　雅文 E-mail: msyoshi@juntendo.ac.jp [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 月曜日および金曜日　12:00～12:50 場所: 1号館5階1528室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	吉村雅文	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	［授業方法］ 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	吉村雅文	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	［授業方法］ 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	吉村雅文	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	［授業方法］ 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	吉村雅文	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。	［授業方法］ 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	吉村雅文	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	［授業方法］ 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	吉村雅文	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	［授業方法］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	廣津　信義	ナンバリング	
担当教員	廣津　信義		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、スポーツ数理科学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録 法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 　担当：廣津　信義 　E-mail: nhirotsu[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 　日時： 火曜日　13:10～14:45 　場所: 1号館3階1327室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 　日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 　場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	廣津	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	廣津	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	廣津	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	廣津	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。	研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	廣津	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	廣津	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	小笠原　悦子	ナンバリング	
担当教員	小笠原　悦子		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、スポーツマネジメントの分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「高い倫理観」及び「スポーツ健康科学に関する研究能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] [テキスト・参考書等] 　授業中に指示する。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
【テキスト･参考書等】 授業の際に提示する

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：小笠原　悦子 E-mail: eogasawa [at] juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　2時間目 場所: 1号館3階1329室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後30分程度　※授業前に関してはE-mailで予約すること。 場所: 担当授業の教室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、授業６０時間と準備学習３０時間の計９０時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～2	小笠原	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。 ［授業方法］ 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。		（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
3～4	小笠原	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。 ［授業方法］ 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～6	小笠原	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。 ［授業方法］ 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
7～9	小笠原	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。 ［授業方法］ 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
8～11	小笠原	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。 ［授業方法］ 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
12～15	小笠原	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 ［授業方法］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	青木　和浩	ナンバリング	
担当教員	青木　和浩		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、体力トレーニングの分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
[テキスト・参考書等] 　授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 　担当：青木　和浩 　E-mail: k-aoki[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 　〈さくらキャンパス〉 　日時： 火曜日　12:10～12:50 　場所: 1号館5階1509室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 　日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度 　場所: センチュリータワー南5階教員控室 ※できるだけE-mailで連絡してください。
担当教員の実務経験	

備考	［学修時間］ 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ ※授業形態は、対面式ではなくオンライン授業で行うこともある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	青木	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	［授業方法］演習・実習 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～9	青木	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	［授業方法］演習・実習 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
10～14	青木	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	［授業方法］演習・実習 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
15～19	青木	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。	［授業方法］演習・実習 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
20～24	青木	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	［授業方法］演習・実習 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
25～30	青木	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	［授業方法］演習・実習 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	鯉川　なつえ	ナンバリング	
担当教員	鯉川　なつえ		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 具体的には、スポーツ医化学、コーチング科学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。 先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。 また、遅刻及び早退3回で、1回分の欠席としてカウントする。 この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法、比率] 課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[試験・課題に対するフィードバックの方法] レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。また、評価や助言を各受講者へフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
[テキスト・参考書等] 授業の際に提示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：鯉川なつえ E-mail: nkoikawa[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：毎週火曜日～木曜日 8時～16時 場所：1号館3階1328号室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の後1時間程度　※それ以外は、E-mailで予約してください。 場所：　本郷・女性スポーツ研究センターまたはE-mail
担当教員の実務経験	[担当教員の実務経験] 女性スポーツ研究センター副センター長および実業団チームに所属し競技者として活動した実務経験を活かし、女性スポーツの分野およびコーチング現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説する。

備考	［学修時間］ 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 学習時間　計90時間 ・授業：60時間 ・準備時間：30時間 ［その他］

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	鯉川	ガイダンスの概要の説明	［授業方法］ グループワーク 全体ガイダンスと概要について説明し、受講者より展望を聞く	（予習：0.5時間/回） シラバスを熟読の上、自らの希望伝えられるよう明確にしておく （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
2～6	鯉川	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	［授業方法］ 討論とグループワーク 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
7～11	鯉川	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	［授業方法］ 討論とグループワーク 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
12～16	鯉川	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	［授業方法］ 討論とグループワーク 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
17～21	鯉川	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。	［授業方法］ 討論とグループワーク 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
22～26	鯉川	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。 データ処理の方法についても学習する。	［授業方法］ 討論とグループワーク 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
27～29	鯉川	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	［授業方法］ 討論とグループワーク 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
30	鯉川	［授業内容］ 学会発表をやってみよう。 各自のテーマで学会発表をやってみて、質疑応答をすすめる。	［授業方法］ 討論とグループワーク 学会発表（ポスター・口頭）の仕組みを把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。

中数レポート提出こと授業複回のをするとから、定期試験は実施しない。				

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	中村　恭子	ナンバリング	
担当教員	中村　恭子		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、ダンス運動学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、主体的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
テキストの指定はない。 参考書等については授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：中村　恭子 E-mail: k-nakamu[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：後期期間中の月曜日10：30～15：00 場所: 1号館5階1501室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：　本郷での担当授業の後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	中村　恭子	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。 ［授業方法］ 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	発表と討議、演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	中村　恭子	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。 ［授業方法］ 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	演習と発表、討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	中村　恭子	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。 ［授業方法］ 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	演習と発表、討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	中村　恭子	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。 ［授業方法］ 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	中村　恭子	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。 ［授業方法］ 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	講義と演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	中村　恭子	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 ［授業方法］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	水野　基樹	ナンバリング	
担当教員	水野　基樹		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養うことを目的とする。 　本授業では、組織行動学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	[授業の到達目標] 1.スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 研究指導教員の指示に従うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 特になし。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 取り組む姿勢20%、授業で課される課題の達成度80%で評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法] 発表・討議を通じて必要な情報や改善内容をフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
				授業の際に提示する。

参考文献
授業の際に提示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 　担当：水野基樹 　E-mail: mtmizuno[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 　日時：火曜日　14:40～16:10 　場所：1号館3階1324室 　※上記の時間帯は予約が無くても対応しますが、予約があった学生を優先します。 　※できる限り、前日までにE-Mailで予約するように心掛けてください。 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 　日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 　場所：センチュリータワー南5階教員控室 　※授業がない期間はE-mailで予約すること。
担当教員の実務経験	
備考	この授業は、実験・実習の授業形態による2単位の科目であり、授業60時間と準備学習30時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～10回	水野基樹	（授業内容） 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解し、実際に計画を策定し提議書を試作する。	（授業方法）演習 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：各回0.5時間） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：各回0.5時間） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
11～20回	水野基樹	（授業内容） 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。研究倫理について理解を深める。	（授業方法）演習 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：各回0.5時間） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：各回0.5時間） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
21～30回	水野基樹	（授業内容） 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。	（授業方法）演習 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：各回1時間） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：各回0.5時間） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験は実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	柳谷　登志雄	ナンバリング	
担当教員	柳谷　登志雄		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、スポーツバイオメカニクス、スポーツ動作分析に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。 [授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）] 　この科目は、「高い倫理観」及び「スポーツ健康科学に関する研究能力」という学位授与方針の達成に寄与する。 [授業の到達目標] 　1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 　2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 　3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
到達目標	1．スポーツ動作の上達や熟練者・未熟練者の相違について、スポーツ医科学分野の用語を使って説明できる。 2．スポーツ科学研究を行う上での視点や基礎知識を習得し、課題を解決するための方策を立案できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。 [テキスト・参考書等] 　授業中に指示する。
成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の基準] 　1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 　2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 　3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 　4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点） [成績評価の方法] 　課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。 定期試験は実施しない予定です。
評価基準	1．スポーツバイオメカニクス分野における用語の意味を理解し、知識を整理できている（課題レポート）。 2．スポーツ科学における法則性について論理的に正しく説明できる（小テスト2回）。 3．授業中の発言や、グループワーク等において積極的に取り組めている（平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
授業内や google classroom を用いた添削やコメントにより行う	

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：柳谷登志雄 E-mail: tyanagi[at]juntendo.ac.jp　（［at］を@に変更してください） ［オフィスアワー］ 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　13:10～14:45 場所: 1号館3階1513室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	柳谷登志雄	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 ［授業方法］ 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	柳谷登志雄	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 ［授業方法］ 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	柳谷登志雄	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 ［授業方法］ 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	柳谷登志雄	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。 ［授業方法］ 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	柳谷登志雄	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 ［授業方法］ 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	柳谷登志雄	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 ［授業方法］ 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験は実施しない		

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	原田　睦巳	ナンバリング	
担当教員	原田　睦巳		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 具体的には、スポーツ運動学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業時に適宜提示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：原田　睦巳 E-mail: mtharada[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 水曜日　9：00～10：30 場所: 1号館5階1511室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、授業60時間と準備学習30時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	原田	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	原田	研究計画を策定し提議書を試作する。	提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	原田	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	原田	研究倫理について理解を深める。	研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	原田	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	原田	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	町田　修一	ナンバリング	
担当教員	町田　修一		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 本授業では、運動生理学やスポーツ科学、さらに基礎老化学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 研究指導教員の指示に従うこと。 ［履修上の注意］ 課題を期日までにしっかりと実施し、研究指導教員との連絡を密にするすること。

成績評価の方法	
評価方法	（評価方法） 取り組む姿勢50%、授業で課される課題の達成度50%で評価する。
評価基準	（成績評価の基準） 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
［課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法】 発表・討議を通じて必要な情報や改善内容をフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
［テキスト・参考書］ 適宜指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［さくら］水曜日　13:00～14:30　1号館1階1118室 ［本郷］　適宜 オンラインでの対応 ［メール］machidas[at]juntendo.ac.jp [at]を@に変更してください。
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による2単位の科目であり、授業60時間と準備学習30時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] 感染症や災害等、不測の事態が発生した際、授業計画等が変更となる場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	町田	（授業内容） 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解し、実際に計画を策定し提議書を試作する。 （授業方法） 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする	演習	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
6～15	町田	（授業内容） 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。研究倫理について理解を深める。 （授業方法） 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
16～30	町田	（授業内容） 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。 （授業方法） 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	和氣　秀文	ナンバリング	
担当教員	和氣　秀文		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 具体的には、生理学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：和氣　秀文 E-mail: hwaki[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日午後 場所: スポーツ健康医科学研究所３階　生理学研究室（９３０４） 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※遠隔授業の際や授業が無い期間はE-mailで連絡すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室（対面授業の場合に限る）
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、授業60時間と準備学習30時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	和気	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	講義、グループワーク、ディスカッション	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	和気	研究計画を策定し提議書を試作する。 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	講義、グループワーク、ディスカッション	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	和気	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	発表、ディスカッション	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	和気	研究倫理について理解を深める。 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	講義、発表、グループワーク、ディスカッション	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	和気	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	演習、グループワーク、ディスカッション	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	和気	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	演習、発表、グループワーク、ディスカッション	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	山崎　一彦	ナンバリング	
担当教員	山崎　一彦		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、コーチング科学およびトレーニング科学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。 [テキスト・参考書等] 　授業中に指示する。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）
評価基準	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。

試験・課題に対するフィードバック方法
受講生は適宜課題を提出し、提出したのちディスカッションをしてフィードバックする方法とする

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 　担当：山崎一彦 　E-mail: kayamaza@juntendo.ac.jp [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 水:13:30-16:00　1号館5階1523室
担当教員の実務経験	陸上競技においてオリンピック出場経験、中央競技団体日本代表監督経験のある教員、日本スポーツ協会公認コーチ資格を持つ教員、JOCナショナルコーチアカデミー修了した教員が、陸上競技の現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説します。
備考	【学修時間】 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、授業60時間、準備学修30時間、合計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他]

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	山崎	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	［授業方法］ 先行研究文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	山崎	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	［授業方法］ 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	山崎	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	［授業方法］ （演習・ディスカッション）先行研究文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	山崎	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。	［授業方法］ （演習・ディスカッション）研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	山崎	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	［授業方法］ （演習・ディスカッション）先行研究文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	山崎	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	［授業方法］ （演習・ディスカッション）学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験は行わない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	中嶽　誠	ナンバリング	
担当教員	中嶽　誠		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 具体的には、スポーツ健康科学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：中嶽　誠 E-mail: mknakada[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 日時： 水曜日　12:00～12:30 場所：1号館5階1520室バスケットボール研究室
担当教員の実務経験	高校現場において保健体育科教諭の業務にあたっていた経験を生かし、授業に求められる知識や技術をわかりやすく解説します。
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	中嶽	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。

5～8	中嶽	研究計画を策定し提議書を試作する。	提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	中嶽	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	中嶽	研究倫理について理解を深める。	研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	中嶽	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	中嶽	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	仲村　明	ナンバリング	
担当教員	仲村　明		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、陸上競技長距離・マラソンのコーチング分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録 法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：仲村　明 E-mail: aknaka[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　8:30～10:40 場所: 1号館5階1524室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	順天堂大学、富士通㈱において、現役競技者としての日本代表経験や日本代表コーチ、箱根駅伝の監督経験を活かし、コーチングの現場で求められる知識や技術をわかりやすく解説する。
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他]

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～5	仲村	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	個人ワーク、グループワーク、発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
6～9	仲村	説得力のある問題提起の仕方を習得する。 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	個人ワーク、グループワーク	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
10～14	仲村	調査・実験を遂行する。 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	個人ワーク、グループワーク	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
15～19	仲村	調査・実験を遂行する。 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	個人ワーク	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
20～25	仲村	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	個人ワーク	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
26～30	仲村	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	個人ワーク、グループワーク、発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		「定期試験を実施しない」		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	福　典之	ナンバリング	
担当教員	福　典之		

授業概要	
全体内容	スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養うことを目的とする。具体的には、体力科学、スポーツ遺伝学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	研究指導教員の指示に従うこと。

成績評価の方法	
評価方法	取り組む姿勢20%、授業で課される課題の達成度80%で評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
発表・討議を通じて必要な情報や改善内容をフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
テキスト・参考書は適宜指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	【さくら】木曜日　13:30～15:00　9号館（スポーツ健康医科学研究所）2階9203号室 【本郷】メールにて予約すること 【メール】noriyuki.fuku@nifty.com
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間と準備学習30時間）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	福典之	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	同上	研究計画を策定し提議書を試作する。	提議書を試作し、指導教員や他教員・学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。

9～13	同上	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	同上	研究倫理について理解を深める。	研究倫理に関するテキストを抄読し、研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	同上	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	同上	学会発表・論文投稿の方法について理解する。各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	窪田　敦之	ナンバリング	
担当教員	窪田　敦之		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 具体的には、スポーツ医学の中でも特に運動器に関するものやコンディショニングに関わる内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業の際に提示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：窪田 E-mail: akubota[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください）　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 日時： 前期　木曜日14時～16時、後期　火曜日14時～16時 場所: さくらキャンパス　1号館4階　スポーツ医学（ストレングス＆コンディショニング）研究室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～5	窪田	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	実習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。

6～10	窪田	研究計画を策定し提議書を試作する。 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	実習・グループワーク	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
11～15	窪田	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	実習・グループワーク	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
16～20	窪田	研究倫理について理解を深める。 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	実習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
21～25	窪田	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	実験・実習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
26～30	窪田	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	実習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	佐々木　啓	ナンバリング	
担当教員	佐々木　啓		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、健康科学研究またはスポーツが関係する健康科学研究の分野に応じた内容を盛り込みながら、遺伝子やタンパク質を解析するための実験手技の習得、実験動物を用いて検体を採取したり評価したりする手法を学ぶ。さらに、取得データを解析し、科学的洞察力を養い、独自の見解で研究計画を立案し、提議書を作成する。学会発表・科学雑誌への論文投稿についても理解する。 [授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）] 　この科目は、「高い倫理観」及び「スポーツ健康科学に関する研究能力」という学位授与方針の達成に寄与する。 [授業の到達目標] 1. 独自にオリジナリティある研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 科学論文の実験手法を理解できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 学会発表・論文投稿ができる。
到達目標	1. 独自にオリジナリティある研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 科学論文の実験手法を理解できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。 [テキスト・参考書等] 　授業中に指示する。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 科学論文の実験手法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 5. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点） [成績評価の方法] 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 科学論文の実験手法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 5. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
とくになし				

参考文献
本講義は以下のウエブサイトを参考に実施する。 JST研究倫理教材: https://www.jst.go.jp/kousei_p/measuretutorial/mt_movie.html AMED研究倫理教材: https://www.amed.go.jp/kenkyu_kousei/kyouiku_kenshu_kyouzai.html
その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：佐々木啓 E-mail: hirakus[at]juntendo.ac.jp　（［at］を@に変更してください） ［オフィスアワー］ 〈さくらキャンパス〉 日時： 水曜日　13:10～14:45 場所: 1号館4階1410室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	佐々木　啓	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。実験手法を理解する。 ［授業方法］ 関係文献の抄読会を行い、各自発表するとともに、実験手法などの項目についてフィードバックを行う。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。実験手法を理解する。 ［授業方法］ 関係文献の抄読会を行い、各自発表するとともに、実験手法などの項目についてフィードバックを行う。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。実験手法を理解する。 ［授業方法］ 関係文献の抄読会を行い、各自発表するとともに、実験手法などの項目についてフィードバックを行う。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。実験手法を理解する。 ［授業方法］ 関係文献の抄読会を行い、各自発表するとともに、実験手法などの項目についてフィードバックを行う。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	佐々木　啓	研究計画を策定し、提議書を作成する。 ［授業方法］ 研究計画、提議書を検討・作成し、校閲、修正を行う。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	研究計画を策定し、提議書を作成する。 ［授業方法］ 研究計画、提議書を検討・作成し、校閲、修正を行う。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	研究計画を策定し、提議書を作成する。 ［授業方法］ 研究計画、提議書を検討・作成し、校閲、修正を行う。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.75時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	研究計画を策定し、提議書を作成する。 ［授業方法］ 研究計画、提議書を検討・作成し、校閲、修正を行う。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.75時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	佐々木　啓	［授業内容］ 関連文献検索と、実験手法の理解 ［授業方法］ 類似研究を検索し、実験手法が妥当か検討し、手法論を評価する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	［授業内容］ 関連文献検索と、実験手法の理解 ［授業方法］ 類似研究を検索し、実験手法が妥当か検討し、手法論を評価する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。

	佐々木　啓	［授業内容］ 関連文献検索と、実験手法の理解 ［授業方法］ 類似研究を検索し、実験手法が妥当か検討し、手法論を評価する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること
	佐々木　啓	［授業内容］ 関連文献検索と、実験手法の理解 ［授業方法］ 類似研究を検索し、実験手法が妥当か検討し、手法論を評価する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	［授業内容］ 関連文献検索と、実験手法の理解 ［授業方法］ 類似研究を検索し、実験手法が妥当か検討し、手法論を評価する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	佐々木　啓	授業内容］ 研究倫理について理解を深める。 ［授業方法］ 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。 ［授業方法］ 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。 ［授業方法］ 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。 ［授業方法］ 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。 ［授業方法］ 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	佐々木　啓	［授業内容］ これまでの研究を総括し、現状と課題を理解する。 ［授業方法］ 類似研究の実験モデルや、代替実験など検討する。実験手法が、課題を証明するのに妥当か検討する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	［授業内容］ これまでの研究を総括し、現状と課題を理解する。 ［授業方法］ 類似研究の実験モデルや、代替実験など検討する。実験手法が、課題を証明するのに妥当か検討する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	［授業内容］ これまでの研究を総括し、現状と課題を理解する。 ［授業方法］ 類似研究の実験モデルや、代替実験など検討する。実験手法が、課題を証明するのに妥当か検討する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	［授業内容］ これまでの研究を総括し、現状と課題を理解する。 ［授業方法］ 類似研究の実験モデルや、代替実験など検討する。実験手法が、課題を証明するのに妥当か検討する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	［授業内容］ これまでの研究を総括し、現状と課題を理解する。 ［授業方法］ 類似研究の実験モデルや、代替実験など検討する。実験手法が、課題を証明するのに妥当か検討する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。

24～30	佐々木　啓	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 ［授業方法］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 ［授業方法］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 ［授業方法］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 ［授業方法］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 ［授業方法］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 ［授業方法］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
	佐々木　啓	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 ［授業方法］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。		（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		授業回数：30回 試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	高梨　雄太	ナンバリング	
担当教員	高梨　雄太		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、陸上競技フィールド種目のコーチングの分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研 究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録 法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。 [授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）] 　この科目は、「高い倫理観」及び「スポーツ健康科学に関する研究能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意] 積極的な取り組み姿勢が求められます。 [課題に対するフィードバックの方法] 授業内において示します。 [テキスト・参考書等] 授業時に指示します。

成績評価の方法	
評価方法	取り組む姿勢20%、授業で課される課題の達成度80%で評価する。
評価基準	授業で学んだ研究法が習得できていることを、レポートやプレゼンテーション等を通じて表現できるか。

試験・課題に対するフィードバック方法
各授業毎にフィードバックを実施する

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
必要に応じて提示する

その他	
連絡先・オフィスアワー	担当：高梨雄太 ［さくら］火曜日9時～11時 ［メール］ytakana［at］juntendo.ac.jp　(at を@に変えて送信してください)
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他]

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～5	高梨	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解し、実際に計画を策定し提議書を試作する。	先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
6～10	高梨	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。研究倫理について理解を深める。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
11～14	高梨	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。 定期試験は実施せず、授業内レポート、試験により評価する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
15～18	高梨	研究倫理について理解を深める。	研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～24	高梨	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
25～30	高梨	学会発表・論文投稿の方法について理解する。	学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	冨田　洋之	ナンバリング	
担当教員	冨田　洋之		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 具体的には、体操競技、運動学、コーチングの分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研 究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「高い倫理観」及び「スポーツ健康科学に関する研究能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：冨田　洋之 E-mail: htomita[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 日時： 火曜日　10:00～12:00 場所：1号館5階体操競技研究室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	冨田洋之	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	［授業方法］ 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	冨田洋之	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	［授業方法］ 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	冨田洋之	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	［授業方法］ 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	冨田洋之	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。	［授業方法］ 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	冨田洋之	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	［授業方法］ 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～28	冨田洋之	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。　各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	［授業方法］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験は実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	大久保　菜穂子	ナンバリング	
担当教員	大久保　菜穂子		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、健康教育学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	【到達目標】 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	【授業の位置づけ】 　この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	【評価方法】 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	【評価基準】 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
【試験・課題等に対するフィードバック方法】 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
【テキスト・参考書等】 　授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 　担当：大久保　菜穂子 　E-mail: naokoo[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） 【オフィスアワー】 　日時：（水）（木）　12:00～12:50 　場所: 1号館4階1415室　健康教育学研究室
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 授業計画は授業の進行状況により多少前後することがある。 種々の感染症の発生状況等に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合がある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	大久保	【授業内容】 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	大久保	【授業内容】 研究計画を策定し提議書を試作する。 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	大久保	【授業内容】 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	大久保	【授業内容】 研究倫理について理解を深める。 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	大久保	【授業内容】 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	大久保	【授業内容】 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	木藤　友規	ナンバリング	
担当教員	木藤　友規		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、身体運動や感覚処理についての神経科学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研 究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録 法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：木藤　友規 E-mail: t.kito[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：　（前期）月曜日13:00-13:30 、（後期）金曜日12:30-13:00 場所: 1号館4階1403室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：　本郷での担当授業の前後30分程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	木藤	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	木藤	研究計画を策定し提議書を試作する。	提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	木藤	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	木藤	研究倫理について理解を深める。	研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	木藤	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	木藤	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	鈴木　宏哉	ナンバリング	
担当教員	鈴木　宏哉		

授業概要	
全体内容	スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養うことを目的とする。 具体的には、本授業では、体力学、発育発達学、測定評価学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	本授業では、研究倫理についての抄読や討議を通じて高い倫理観を養い、測定法・記録法や調査法ならびにデータ処理法を学習することでスポーツ健康科学に関する研究能力を高めることができる。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：鈴木　宏哉 E-mail: ko-suzuki[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　13:10～14:45 場所: スポーツ健康医科学研究所３階測定評価学系実験室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	鈴木宏哉	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。（発表）	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	鈴木宏哉	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。（討議）	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	鈴木宏哉	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。（発表・討議）	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	鈴木宏哉	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。	研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。（PBL）	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	鈴木宏哉	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。（PBL）	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	鈴木宏哉	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。（PBL）	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	渡　正	ナンバリング	
担当教員	渡　正		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、社会学・スポーツ社会学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：渡　正 E-mail: t-watari[at]juntendo.ac.jp　([at] を@に変更してください) [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時:13:00～14:30 場所: 1号館3階1321室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、授業６０時間と準備学習３０時間の計９０時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	渡	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。

5～8	渡	研究計画を策定し提議書を試作する。	提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	渡	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	渡	研究倫理について理解を深める。	研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	渡	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	渡	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験 試験は実施しないが、授業の到達目標に達しているかどうかを課題の内容によって判断する。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	深尾　宏祐	ナンバリング	
担当教員	深尾　宏祐		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、スポーツ医学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	〔連絡先〕 担当：深尾　宏祐 E-mail：fukao777〔at〕juntendo.ac.jp 〔オフィスアワー〕※質問や相談はできるだけ、前日までにE-mailで予約すること。 〈さくらキャンパス〉 日時：後期期間中の火曜日12:20から16:00 場所：スポーツ健康医科学研究所4階9405号室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 ＊授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	深尾	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	深尾	研究計画を策定し提議書を試作する。	提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	深尾	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	深尾	研究倫理について理解を深める。	研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	深尾	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	深尾	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	荻原　朋子	ナンバリング	
担当教員	荻原　朋子		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、体育科教育学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
[テキスト・参考書等] 　授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：荻原朋子 E-mail: togiwara[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 木曜日　13:10～14:45 場所: 1号館5階1517室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	荻原	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	［授業方法］ 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。（発表）	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	荻原	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	［授業方法］ 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。（発表、ディスカッション）	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	荻原	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	［授業方法］ 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。（発表、ディスカッション）	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	荻原	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	［授業方法］ 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。（発表、ディスカッション）	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	荻原	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。（講義、演習）	［授業方法］ 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	荻原	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	［授業方法］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。（講義、演習）	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験は実施しません。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	松山　毅	ナンバリング	
担当教員	松山　毅		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、社会福祉学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：松山　毅 E-mail: tmatsuya[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　13:10～14:45 場所: 1号館4階1420室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他]

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	松山	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。 ［授業方法］ 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	スライド、講義資料、グループワーク	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	松山	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。 ［授業方法］ 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	スライド、講義資料、グループワーク	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～14	松山	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。 ［授業方法］ 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	スライド、講義資料、グループワーク	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
15～20	松山	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。 ［授業方法］ 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	スライド、講義資料、グループワーク	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
20～25	松山	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。 ［授業方法］ 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	スライド、講義資料、グループワーク	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
26～30	松山	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 ［授業方法］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	スライド、講義資料、グループワーク	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	牛尾　直行	ナンバリング	
担当教員	牛尾　直行		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、教育全般に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	教務課記入
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：牛尾　直行 E-mail: n-ushio〔at〕juntendo.ac.jp　（〔at〕を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：　月曜日～木曜日　12:00～13:00 場所: 1号館3階1327室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：　E-mail：n-ushio〔at〕juntendo.ac.jpでご連絡下さい
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	牛尾	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	牛尾	説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	牛尾	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	牛尾	調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	牛尾	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	牛尾	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	渡邉　貴裕	ナンバリング	
担当教員	渡邉　貴裕		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、特別支援教育学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研 究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録 法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 　担当：渡邉貴裕 　E-mail: tkwatana[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 　日時： 火曜日　13:00～15:00 木曜日　10：00～15：00 　場所: 1号館2階1218室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 　日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 　場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による2単位の科目であり、60時間（授業時間30時間以上を含む）の学習を必要とする内容をもって構成する。 [その他] 　新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	渡邉	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	渡邉	研究計画を策定し提議書を試作する。	提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	渡邉	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	渡邉	研究倫理について理解を深める。	研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	渡邉	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	渡邉	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	長岡　知	ナンバリング	
担当教員	長岡　知		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、健康科学を基礎とする学校現場における保健科教育の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	［授業の到達目標］ 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	［成績評価の基準］ 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
［課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法］ 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
［テキスト・参考書等］ 　授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 長岡：E-mail ： tm-nagaoka[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 ［オフィスアワー］ ＜さくらキャンパス＞ 　日時：火曜日12:50-14:30 　場所：1号館4階1416号室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 　日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 　場所: センチュリータワー南5階教員控室 　上記時間帯には予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生との重複を避けるため、可能な限り前日までにメールでアポイントを取ってください。質問や相談はアポイントを取っている学生を優先します。
担当教員の実務経験	［実務経験のある教員による授業］ 　この科目では、学校現場における教員経験、教育行政機関での勤務経験のある者が、その経験を活かし、実践的教育力を育むための指導を行います。

備考	［学修時間］ 　この授業は、実験・実習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～2	長岡	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	［授業方法］グループ学習 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
3～5	長岡	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	［授業方法］ペア学習・グループ学習 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
6～8	長岡	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	［授業方法］グループ学習 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～10	長岡	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。	［授業方法］ペア学習 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
11～12	長岡	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	［授業方法］ペア学習・グループ学習 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
13～15	長岡	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	［授業方法］ペア学習 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	川田　裕次郎	ナンバリング	
担当教員	川田　裕次郎		

授業概要

全体内容	[授業全体の内容] この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 具体的には、スポーツ心理学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法

評価方法	[成績評価の方法] 課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法]
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

[テキスト・参考書等]
授業中に指示する。

その他

連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：川田裕次郎 E-mail: yuukawa[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 日時：火曜日 昼休み（12:10～13:10）、水曜日 昼休み（12:10～13:10） 場所：さくらキャンパス　1号館2階　スポーツ心理学研究室（1215室））またはオンライン会議システム 他の学生の相談時間と重ならないようにするため、できる限り前日までにE-mailで予約してください。 質問や相談は予約のあった方を優先します。
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	川田	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。 ［授業方法］ 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	講義、グループワーク、グループディスカッション	（予習：0.5時間） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	川田	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。 ［授業方法］ 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	講義、グループワーク、グループディスカッション	（予習：0.5時間） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	川田	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。 ［授業方法］ 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	講義、グループワーク、グループディスカッション	（予習：0.5時間） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	川田	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。 ［授業方法］ 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	講義、グループワーク、グループディスカッション	（予習：0.5時間） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	川田	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。 ［授業方法］ 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	講義、グループワーク、グループディスカッション	（予習：0.5時間） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	川田	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 ［授業方法］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	講義、グループワーク、グループディスカッション	（予習：0.5時間） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	河村　剛光	ナンバリング	
担当教員	河村　剛光		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、測定評価学、スポーツ視覚学等の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 　担当：河村　剛光 　E-mail: ykoumura [at] juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 　日時：　木曜日　13:00～15:00 　場所: 研究所3階9303室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 　日時・場所：　メール等にて連絡ください。
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	河村	[授業内容] 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。 [授業方法] 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	実習・演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	河村	[授業内容] 研究計画を策定し提議書を試作する。 [授業方法] 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	実習・演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	河村	[授業内容] 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。 [授業方法] 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	実習・演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	河村	[授業内容] 研究倫理について理解を深める。 [授業方法] 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	実習・演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～24	河村	[授業内容] 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。 [授業方法] 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	実習・演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
25～30	河村	[授業内容] 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 [授業方法] 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	実習・演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	坂本　彰宏	ナンバリング	
担当教員	坂本　彰宏		

授業概要

全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、トレーニング科学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと（アクティブラーニング）。

成績評価の方法

評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

授業中に指示する。

その他

連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：坂本　彰宏 E-mail: a-sakamo[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 月曜日、金曜日（在室時であれば対応可） 場所: スポーツ健康医科学研究所1階スタッフルーム 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他]

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～5	坂本	「授業内容」 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	【実習】先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～10	坂本	【授業内容」 研究計画を策定し提議書を試作する。	【実習・実験(予備実験)】提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
11～15	坂本	「授業内容」 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	【実習】先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
16～20	坂本	「授業内容」 研究倫理について理解を深める。	【実習】研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
21～25	坂本	「授業内容」 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	【実習･実験】先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
26～30	坂本	「授業内容」 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	【実習・実験】学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	武田　剛	ナンバリング	
担当教員	武田　剛		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。　具体的には、水泳競技方法論の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：武田　剛 E-mail: tutakeda[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 木曜日　12:50～14:30 場所: 1号館4階1405室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	武田剛	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	武田剛	研究計画を策定し提議書を試作する。 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	武田剛	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	武田剛	研究倫理について理解を深める。 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	武田剛	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～25	武田剛	研究助成や研究費申請について学習する。 科学研究費等の公的機関、民間の研究費の代表的なものを紹介する。 申請書作成の基本的な書き方、書式、表現の留意点を学習する。	演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する研究助成情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
26～30	武田剛	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	演習・実習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験は実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	山田　泰行	ナンバリング	
担当教員	山田　泰行		

授業概要	
全体内容	〔授業全体の内容〕 スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養うことを目的とする授業である。本授業では、情報科学、人間工学、および心理学等に関連した内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	〔授業の到達目標〕 1.スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	〔授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）〕 本授業では、研究倫理についての抄読や討議を通じて高い倫理観を養い、測定法・記録法や調査法ならびにデータ処理法を学習することでスポーツ健康科学に関する研究能力を高めることができる。 この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	〔履修要件〕 研究指導教員の指示に従うこと。 〔履修上の注意〕 頭を柔らかくして受講すること。

成績評価の方法	
評価方法	〔評価方法〕 取り組む姿勢20%、授業で課される課題の達成度80%で評価する。
評価基準	〔評価基準〕 授業で学んだ研究法の習熟度をレポートやプレゼンテーション等を通じて評価する。 1. 研究計画の立案と提議書(案)を評価する。 2. レポートを通して批判的検討の力を評価する。 3. レポートを通して研究倫理を基礎知識を評価する。 4. プレゼンを通して実験・調査・データ処理の実践力を評価する。 5. 学会発表や論文投稿の取り組みを評価する。

試験・課題に対するフィードバック方法
〔試験・レポート等の課題に対するフィードバックの方法〕 レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
必要な資料は授業内で配布するため、テキストを購入する必要はない。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：山田泰行 E-mail:yayamada[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください） ［オフィスアワー］ ＜さくら＞ 日時：月曜日～木曜日12：10～13：00 場所：1号館3階1326 情報科学 ＜本郷＞ 授業前後30分程度 センチュリー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、授業６０時間と準備学習３０時間の計９０時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ 特記事項無し。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～2	山田	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。 ［授業方法］ 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	講義・演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
3～8	山田	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。 ［授業方法］（講義・演習） 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	講義・演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	山田	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。 ［授業方法］ 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	講義・演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	山田	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。 ［授業方法］ 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	講義・演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	山田	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。 ［授業方法］ 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	講義・演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	山田	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 ［授業方法］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	講義・演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	山中　航	ナンバリング	
担当教員	山中　航		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、生理学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：山中航 E-mail：k-yamana[at]juntendo.ac.jp（[at]を@に変更してください） ［オフィスアワー］ ＜さくらキャンパス＞ 　日時： 火曜日10:40～12:00 　場所： スポーツ健康医科学研究所３階　生理学研究室（9304室） ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 　※E-mailで対応します。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	山中　航	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	グループワーク、討議、発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	山中　航	研究計画を策定し提議書を試作する。 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	グループワーク、討議、発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	山中　航	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	グループワーク、討議、発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	山中　航	研究倫理について理解を深める。 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	グループワーク、討議、発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	山中　航	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	グループワーク、討議、発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	山中　航	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	グループワーク、討議、発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	高澤　祐治	ナンバリング	
担当教員	高澤　祐治		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] この授業科目では、スポーツ健康科学およびスポーツ医学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、オペレーションズ・リサーチ、統計学、プレゼンテーション方法に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。 その他の課題については、授業内で議論する際に用いる。

テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
[テキスト・参考書等] 授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：高澤祐治 E-mail: ytakaza@juntendo.ac.jp （［at］を@に変更してください） ［オフィスアワー］ <さくらキャンパス> 日時： 授業終了後30分はオープンアワーとする。 場所: 研究所4階9404 <本郷・お茶の水キャンパス> 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	［実務経験のある教員による授業について］ 整形外科・スポーツ医学を専門とする現役医師が、その経験を踏まえてスポーツ活動中の外傷・障害等について講義する。
備考	［学修時間］ この授業は、演習の授業形態による４単位の科目であり、授業60時間と準備学習30時間の90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	高澤	［授業内容］ スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。 ［授業方法］ 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	高澤	［授業内容］ 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 ［授業方法］ 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	高澤	［授業内容］ 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 ［授業方法］ 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	高澤	［授業内容］ 調査・実験を遂行する。 ［授業方法］ 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	高澤	［授業内容］ 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 ［授業方法］ 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	高澤	［授業内容］ 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 ［授業方法］ 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。		（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	室伏　由佳	ナンバリング	
担当教員	室伏　由佳		

授業概要	
全体内容	この授業では、スポーツ健康科学研究に必要な実験や調査手法の基本を習得し、研究倫理の理解を深めながら、各自の研究テーマに展開する能力を養う。 　具体的には、スポーツ心理学などの分野に応じた内容を取り入れ、研究計画の立案や提案書の作成方法を文献調査、発表、討議を通じて学ぶ。また、授業内で研究計画を策定し、提案書を試作する実践的な学習機会を設ける。 　さらに、先行研究の批判的検討方法や研究倫理については、抄読および討議を通じて理解を深める。加えて、各種実験における測定法・記録法、調査手法、データ処理の方法についても、自身の研究内容と関連付けながら学ぶ。学会発表や論文投稿の方法についても学び、研究成果を発信する基礎的なスキルを習得する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提案書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提案書の作成ができる（評価方法：レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（評価方法：口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（評価方法：口頭試問） 4. 実験・調査の方法やデータ処理の方法について説明できる（評価方法：レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（評価方法：口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取り組み姿勢によって授業態度を評価する（評価方法：平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
テキスト・参考書等は授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：室伏　由佳 E-mail：y.murofushi.cc [at] juntendo.ac.jp ※［at］を@に変更してください。 ［オフィスアワー］ <さくらキャンパス> 日時：前後期期間中の木曜日 12:00~12:50 場所：1号館 2階 1214室 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じるが、他の学生の相談時間とかち合わないようにするため、できるだけ前日までにE-mailで予約すること。 質問や相談は、予約のあった学生を優先する。 <本郷・お茶の水キャンパス> 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ 　授業形態は、対面式ではなく、オンライン授業で行うこともある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～2	室伏　由佳	研究計画の立案および提議書作成の方法を理解する。先行文献を調査して発表し、フィードバックを通じて具体的な研究計画を策定する。	PBL（Project-Based Learning）	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
3～5	室伏　由佳	研究計画を策定し、提議書を試作する。試作した提議書を教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	討議形式	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
6～8	室伏　由佳	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。調査した先行文献の結果を発表し、教員や他学生との討議を通じて理解を深める。	発表と討議形式	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～10	室伏　由佳	研究倫理について理解を深める。関連するテキストを抄読し、研究倫理審査申請書を試作することで実践的な知識を習得する。	抄読と演習形式	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
11～12	室伏　由佳	各種実験の測定法・記録法および調査方法に関する知識を習得し、データ処理の基本を学ぶ。先行文献を調査して測定法や調査方法を分類し、自身の研究計画や提議書と比較・検討する。	調査と演習形式	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
13～15	室伏　由佳	学会発表および論文投稿の方法を理解する。各自のテーマに基づいて準備を行い、関連資料を用いて必要な手続きを把握する。	演習形式	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	尾高　邦生	ナンバリング	
担当教員	尾高　邦生		

授業概要

全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、特別支援教育やインクルーシブ教育の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法

評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

授業中に指示する。

その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：尾高　邦生 E-mail: k.odaka.ow [at] juntendo.ac.jp （ [at] を@に変更してください） ［オフィスアワー］ <さくらキャンパス> 日時： 火曜日13:00～15:00　　木曜日10:00～15:00 場所: 1号館２F　1217室 <本郷・お茶の水キャンパス> 日時：　本郷キャンパスでの担当授業日の前後1時間程度　※可能な限り事前にE-mailで連絡をしてください。 場所: センチュリータワー南５F　教員控室
担当教員の実務経験	特別支援学校教諭としての勤務経験に基づき、障害のある人への指導に関する実践的な知識をわかりやすく解説する。
備考	［学修時間］ 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	尾高	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	発表、討議	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	尾高	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	尾高	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	発表、討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	尾高	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。	発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	尾高	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	調査、実験	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～28	尾高	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	発表、討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
29～30	尾高	［授業内容］ 各自の研究テーマについて研究動向を理解する。	発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	竹澤　稔裕	ナンバリング	
担当教員	竹澤　稔裕		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 具体的には、柔道コーチングの分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研 究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録 法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：竹澤　稔裕 E-mail: t.takezawa.ul[at]juntendo.ac.jp [at]を@に修正してください [オフィスアワー] 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所： オンライン上（随時Eメールで質問を受け付ける）
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他]

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	竹澤	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。 ［授業方法］ 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	実験・実習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	竹澤	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。 ［授業方法］ 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	実験・実習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	竹澤	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。 ［授業方法］ 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	実験・実習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	竹澤	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。 ［授業方法］ 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	実験・実習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	竹澤	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。 ［授業方法］ 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	実験・実習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	竹澤	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 ［授業方法］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	実験・実習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	宮本　恵里	ナンバリング	
担当教員	宮本　恵里		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、スポーツ遺伝学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に提示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：宮本　恵里 E-mail： eri-miyamoto[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 木曜日　2限、昼休み 場所： スポーツ健康医科学研究所2階9203号室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所： センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	宮本	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。 ［授業方法］ 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	グループワーク、発表、ディスカッション等	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	宮本	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。 ［授業方法］ 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	グループワーク、発表、ディスカッション等	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	宮本	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。 ［授業方法］ 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	グループワーク、発表、ディスカッション等	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	宮本	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。 ［授業方法］ 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	グループワーク、発表、ディスカッション等	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	宮本	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。 ［授業方法］ 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	グループワーク、発表、ディスカッション等	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	宮本	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 ［授業方法］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	グループワーク、発表、ディスカッション等	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	宮森　隆行	ナンバリング	
担当教員	宮森　隆行		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、外傷・障害予防、疾患別アスレティックリハビリテーション、コンディショニング維持・向上の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研 究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録 法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。 定期試験は実施しない。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：宮森　隆行 E-mail： t.miyamori.hi[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 土曜日　10:00～12:00 場所： アスレティックトレーニングルーム（Ogawa Gymnastics Arena内） Emailで事前予約すること。 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 火曜日～金曜日 18:00～ 場所： お茶の水センタービル5階　Emailで事前に予約すること。
担当教員の実務経験	急性期病院およびスポーツ現場において理学療法士およびアスレティックトレーナーとしての臨床業務にあたっている経験を生かし、スポーツ外傷・障害予防、アスレティックリハビリテーション、パフォーマンス向上について求められる知識や技術を分かりやすく解説する。
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	宮森	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	［実習］ 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：60分/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：30分/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	宮森	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	［実習］ 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：60分/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：30分/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	宮森	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	［実習］ 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：60分/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：30分/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	宮森	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。	［実習］ 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：60分/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：30分/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	宮森	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	［実習］ 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：60分/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：30分/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	宮森	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	［実習］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：60分/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：30分/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	吉原　利典	ナンバリング	
担当教員	吉原　利典		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 具体的には、スポーツ科学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：吉原　利典 E-mail： t-yoshih[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 水曜日　14:00～17:00 場所： 1号館1階1110室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所： センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	吉原	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	吉原	研究計画を策定し提議書を試作する。	提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	吉原	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	吉原	研究倫理について理解を深める。	研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	吉原	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～28	吉原	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
29~30	吉原	各自のテーマで学会発表・論文投稿をする。	関連資料を参考に学会発表・論文投稿の手続きをしてみる。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	吉田　和人	ナンバリング	
担当教員	吉田　和人		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 具体的には、スポーツコーチング科学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めてく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：吉田　和人 E-mail: k.yoshida[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　12：00～12:50　水曜日　12：00～12:50 場所: 1号館5階1502室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	吉田	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	吉田	研究計画を策定し提議書を試作する。	提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	吉田	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	吉田	研究倫理について理解を深める。	研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	吉田	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	吉田	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	黄田　常嘉	ナンバリング	
担当教員	黄田　常嘉		

授業概要

全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深め乍、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、精神医学、メンタルヘルスの分野に応じた内容を盛り込み乍、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解すると共に、授業内で研究計画を策定し提議書を試作する。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法並びににデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　精神保健を専攻する博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 統計ソフト、EndNoteについて習熟しておくこと。

成績評価の方法

評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法]
　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

[テキスト・参考書等]
　授業中に指示する。

その他

連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：黄田　常嘉 E-mail: ota[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 木曜　1・2限に1号館2階の1216号研究室に在室しています。 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 金曜17時以降に大賀ビル7階の精神医学講座医局に居ります。
担当教員の実務経験	科目責任者は、精神科専門医、精神保健指定医、公認心理師、臨床心理士として、外来・入院の診療活動、精神鑑定、学校・企業の健康管理室、特別支援教育専門家検診など精神医学に関連した多彩な業務経験を有している。その経験を活かし乍、精神科医療、精神保健に於ける実践的授業を展開する。
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容を以て構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	黄田　常嘉	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	ディスカッション 先行文献を調査し発表すると共にフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。 先行文献を精読・考証し、発表すると共に、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.25時間/回） 教員からの指摘に従い授業での不明点を調べること。
5～8	黄田　常嘉	ディスカッションを踏まえて、研究計画を策定し提議書を試作する。	提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じて推敲する。 先行研究調査や、教員や他学生との討議を通じて、研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を行う。 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式として纏める。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.25時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	黄田　常嘉	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）についてディスカッションする。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。 研究テーマに則した先行研究を抄読し、独創性、新規性、当該分野における位置づけ、考察や結論の妥当性について討議する。 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討・実施してデータを収集する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.25時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	黄田　常嘉	研究倫理についてデスカッションを通して理解を深める。	研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.25時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	黄田　常嘉	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識やデータ処理の方法についてディスカッションする。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.25時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	黄田　常嘉	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	デスカッション。 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.25時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験は実施しない。		

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	染谷　由希	ナンバリング	
担当教員	染谷　由希		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 具体的には、スポーツ医学、運動疫学、予防医学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。この科目は、「高い倫理観」及び「スポーツ健康科学に関する研究能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
[テキスト・参考書等] 授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：染谷　由希 E-mail: yksomeya[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 水曜日PM　※事前にメール等で連絡をすること。 場所： スポーツ健康医科学研究所4階 9402室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※事前にメール等で予約すること。 場所： センチュリータワー南5階教員控室など
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] ※授業形態は、対面式ではなくオンライン授業で行うこともある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	染谷	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	染谷	研究計画を策定し提議書を試作する。	提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	染谷	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	染谷	研究倫理について理解を深める。	研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～24	染谷	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
25～30	染谷	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	杉林　孝法	ナンバリング	
担当教員	杉林　孝法		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、陸上競技の競技力向上に関する分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	taka.sugibayashi[at]juntendo.ac.jp　（[at] を@に変更してください） オフィス　1号館5階1525 オフィスアワー　木曜日 10:20-12:00
担当教員の実務経験	担当者は陸上競技においてオリンピック出場経験、実業団活動経験、日本代表コーチの経験があり、日本スポーツ協会公認コーチ資格取得、JOCナショナルコーチアカデミーを修了していることから、これらの専門知識を活かして実践的に指導する。
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1~4	杉林孝法	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	[授業方法]　演習 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。

5~8	杉林孝法	研究計画を策定し提議書を試作する。	[授業方法]　演習 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9~13	杉林孝法	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	[授業方法]　演習 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること
14~18	杉林孝法	研究倫理について理解を深める	[授業方法]　演習 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること
19~24	杉林孝法	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	[授業方法]　演習 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること
25~30	杉林孝法	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	[授業方法]　演習 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	大田　穂	ナンバリング	
担当教員	大田　穂		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、体力学や測定評価学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 　担当：大田　穂 　E-mail: m.ota.tr[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 　〈さくらキャンパス〉 　日時：　火曜日　8:30～10:10 　場所：1号館4階1422室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～5	大田	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
6～10	大田	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
11～15	大田	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	発表 討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
16～20	大田	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	PBL	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
21～25	大田	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	PBL	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
26～30	大田	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	PBL	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	村上　祐介	ナンバリング	
担当教員	村上　祐介		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、アダプテッド・スポーツ科学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 　担当：村上　祐介 　E-mail：y.murakami.az[at]juntendo.ac.jp（メールを送る際は、[at]を@に修正してください） 【オフィスアワー】 　日時：月・木曜日のお昼休み 　場所：1号館2階心身障害心理学研究室（1219） 　上記以外でも相談に対応しますが、事前に連絡すること。
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	村上	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	討議、発表	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	村上	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	討議、発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	村上	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	討議、発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	村上	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。	討議、発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	村上	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	討議、発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	村上	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	討議、発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	谷本　道哉	ナンバリング	
担当教員	谷本　道哉		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、運動生理学・トレーニング科学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
[テキスト・参考書等] 　授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：谷本道哉 E-mail: m.tanimoto.sb@juntendo.ac.jp [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　12:10～13:00 場所: 1号館5階1516室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	

備考	［学修時間］ 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ ※授業形態は、対面式ではなくオンライン授業で行うこともある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	谷本道哉	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	［授業方法］演習・実習 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	谷本道哉	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	［授業方法］演習・実習 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	谷本道哉	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	［授業方法］演習・実習 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	谷本道哉	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。	［授業方法］演習・実習 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	谷本道哉	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	［授業方法］演習・実習 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	谷本道哉	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	［授業方法］演習・実習 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	塩田　有規	ナンバリング	
担当教員	塩田　有規		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 具体的には、スポーツ医学(運動器系)の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	［授業の到達目標］ １．スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 ２．先行研究の批判的検討方法が実践できる。 ３．研究倫理が理解できる。 ４．実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 ５．学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	［成績評価の基準］ １．研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） ２．先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） ３．研究倫理を理解している（口頭試問） ４．実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） ５．学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） ６．授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
［課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法］ レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
［テキスト・参考書等］ 授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ メールアドレス：sio-g[at]juntendo.ac.jp　※[at]を@に変換してください。 ［オフィスアワー］ 日時：火曜日9時～17時、水曜日9時～17時、木曜日14時～17時 場所：スポーツ健康医科学研究所　スポーツ医学研究室（9404） クリニックで診療を行っていたり、他の部屋で実験をしていることがあるため、必ずE-mailでアポイントメントを取ってください。
担当教員の実務経験	順天堂医院にて整形外科医として勤務 ラグビーリーグワン・東京サントリーサンゴリアス・チームドクター 2020アジアパラユース大会・日本選手団チーフドクター兼CRO 2021デフリンピックブラジル大会・日本選手団ドクター 2023スペシャルオリンピックス夏季ベルリン大会・日本選手団ドクター パリ2024パラリンピック・日本選手団チーフドクター 2025スペシャルオリンピックス冬季トリノ大会・日本選手団ドクター 2025デフリンピック東京大会大会準備室アドバイザー
備考	［学修時間］ この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ ※授業形態は、対面式ではなくオンライン授業やスポーツ現場での実地実習で行うこともある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	塩田　有規	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	［授業方法］演習・実習 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：0.5時間／回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間／回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	塩田　有規	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	［授業方法］演習・実習 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間／回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間／回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	塩田　有規	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	［授業方法］演習・実習 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間／回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間／回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	塩田　有規	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。	［授業方法］演習・実習 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間／回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間／回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～24	塩田　有規	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	［授業方法］演習・実習 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間／回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間／回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
25～30	塩田　有規	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	［授業方法］演習・実習 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間／回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間／回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	和田　由佳子	ナンバリング	
担当教員	和田　由佳子		

授業概要	
全体内容	本授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関する理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養うことを目的とする。 具体的にはスポーツビジネスマーケティングやその関連分野に適した内容を盛り込みながら、文献調査やプレゼンテーションを通して、研究計画の立て方や企画書の書き方を理解する。授業では、研究計画や提議書の試作を議論しながら取り組む。また、クリティカル・リーディングのスキルを養う。 研究手法ならびにデータ処理の方法を修得すると共に、学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1.スポーツのマネジメント、スポーツを通じたマネジメントに関わる実践的な現象における課題の発見ができる。 2.スポーツマネジメン及び関連分野に関わる学術論文を批判的にレビューし、学術的に求められる新たな知見の必要性を検討することができる。 3.上記、1と2を踏まえ、独創的なアイディアをもとに研究課題とそれを明らかにするための研究手法を提示した研究計画の立案と提議書の作成ができる。 4.研究倫理に基づいた 実験・調査の実施と分析ができる。 5.上記のプロセスによって導き出された結果に考察を加え、学術的な発表（学会・投稿）ができる。 6.1から5を踏まえて、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の必須科目です。該当者は必ず履修してください。[履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となります。事前の準備を含めて能動的に取り組んでください。

成績評価の方法	
評価方法	・提議書および研究の進捗を含めたレポート・口頭諮問の内容（40%）・授業内発表、レポート等を含む、課題に対する達成度（30%）・平常点（30%）上記を総合しての評価とします。
評価基準	1.研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2.先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問・授業内発表） 3.研究倫理を理解している（口頭試問 4.実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート・お口頭試問・授業内発表） 5.学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6.授業中の発言やグループワークの取組姿勢（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
授業内に、必要な情報や改善内容を示します。

テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
テキスト・参考文献は、授業内に、必要な情報を示します。また、受講生が論文・資料などを準備して、互いに共有する場合もあります。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 和田　由佳子　y.wada.qv[at]juntendo.ac.jp ※：[at]を@に変更してください。 [オフィスアワー] まずはメールで連絡をお願いします。その後内容に応じて、メールまたは面談（対面/Zoom）を用いて対応いたします。
担当教員の実務経験	・スポーツ団体の評議員やプロスポーツチームの役員を務めている経験を活かし、社会実装を視野に入れた研究指導を行う。 ・アスリートマネジメントやスポーツスポサーシップに従事してきた経験を活かし、スポーツビジネスの実践において求められる学術的な視点についての解説を行う。
備考	この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、授業６０時間と準備学習３０時間の計９０時間の学修を必要とする内容をもって構成しています。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	和田由佳子	オリエンテーション ・授業の目的及び概要、授業の進め方、評価方法等の説明 ・修士論文に取り組む意義および研究を実施するための心得と研究倫理１	講義と受講生による発表	（予習と復習：0.5時間） 予習：各自の研究テーマに関連する資料や論文を積極的に収集し、理解を深めておいてください。 復習：講義内容を踏まえて、各自で研究テーマに関連する不足点を補い、文章でまとめてください。
2-4	和田由佳子	研究の立案と説得力のある問題提議のための知識とスキルの修得および応用 各自の取り組みへのブラッシュアップと掘り下げることを目的とした、 ・教員の問いに対する受講生及び受講生同士のディスカッション ・受講生の発表に対する教員及び受講生からのフィードバック ・教員と受講生（同士）とのディスカッション	講義と受講生による発表	（予習と復習：0.5時間/回） 予習：各自の研究テーマに関連する資料や論文を積極的に収集し、理解を深めておいてください。 復習：講義内容を踏まえて、各自で研究テーマに関連する不足点を補い、文章でまとめてください。
5-8	和田由佳子	研究計画の策定と提議書の試作 各自の取り組みへのブラッシュアップと掘り下げることを目的とした、 ・教員の問いに対する受講生及び受講生同士のディスカッション ・受講生の発表に対する教員及び受講生からのフィードバック ・教員と受講生（同士）とのディスカッション	講義と受講生による発表	（予習：0.5時間/回） 授業に関連する文献を精読すると共に、各自の研究テーマに紐づけてして授業内でアウトプットができるように準備してください。 （復習：0.5時間/回） 講義内容を踏まえて、各自で研究テーマに関連する不足点を補い、文章でまとめてください。
9-14	和田由佳子	・調査方法とデータの処理、分析手法に関する知識とスキルの修得と応用 ・研究倫理２ 各自の取り組みへのブラッシュアップと掘り下げることを目的とした、 ・教員の問いに対する受講生及び受講生同士のディスカッション ・受講生の発表に対する教員及び受講生からのフィードバック ・教員と受講生（同士）とのディスカッション	講義と受講生による発表	（予習と復習：0.5時間/回） 予習：各自の研究テーマに関連する資料や論文を積極的に収集し、理解を深めておいてください。 復習：講義内容を踏まえて、各自で研究テーマに関連する不足点を補い、文章でまとめてください。
15-20	和田由佳子	論文の精読： 受講生による研究に①必要な論文の選択、②研究の背景、先行研究、分析手法、結果、考察に対してのクリティカルな精読と解説、③研究の新規性や問題点、応用できる点の説明 各自の取り組みへのブラッシュアップと掘り下げることを目的とした、 ・教員の問いに対する受講生及び受講生同士のディスカッション ・受講生の発表に対する教員及び受講生からのフィードバック ・教員と受講生（同士）とのディスカッション	講義と受講生による発表	（予習：0.5時間/回） 授業に関連する文献を精読すると共に、各自の研究テーマに紐づけてして授業内でアウトプットができるように準備してください。 （復習：0.5時間/回） 講義内容を踏まえて、各自で研究テーマに関連する不足点を補い、文章でまとめてください。
21-24	和田由佳子	学会発表・論文投稿の方法の修得と実践 各自の取り組みへのブラッシュアップと掘り下げることを目的とした、 ・教員の問いに対する受講生及び受講生同士のディスカッション ・受講生の発表に対する教員及び受講生からのフィードバック ・教員と受講生（同士）とのディスカッション	講義と受講生による発表	（予習：0.5時間/回） 授業に関連する文献を精読すると共に、各自の研究テーマに紐づけてして授業内でアウトプットができるように準備してください。 （復習：0.5時間/回） 講義内容を踏まえて、各自で研究テーマに関連する不足点を補い、文章でまとめてください。
25-28	和田由佳子	修士論文の完成 各自の取り組みへのブラッシュアップと掘り下げることを目的とした、 ・教員の問いに対する受講生及び受講生同士のディスカッション ・受講生の発表に対する教員及び受講生からのフィードバック ・教員と受講生（同士）とのディスカッション	講義と受講生による発表	（予習：0.5時間/回） 授業に関連する文献を精読すると共に、各自の研究テーマに紐づけてして授業内でアウトプットができるように準備してください。 （復習：0.5時間/回） 講義内容を踏まえて、各自で研究テーマに関連する不足点を補い、文章でまとめてください。
29-30	和田由佳子	修士論文の総括 各自の取り組みへのブラッシュアップと掘り下げることを目的とした、 ・教員の問いに対する受講生及び受講生同士のディスカッション ・受講生の発表に対する教員及び受講生からのフィードバック ・教員と受講生（同士）とのディスカッション	講義と受講生による発表	（予習と復習：0.5時間/回） 予習：各自の研究テーマに関連する資料や論文、発表できる学会や学術誌についての情報を積極的に収集しておいてください。 復習：講義内容を踏まえて、各自で研究テーマに関連する不足点を補い、文章でまとめてください。
		定期試験を実施しない		

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	小野　雄大	ナンバリング	
担当教員	小野　雄大		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、スポーツ教育学、スポーツ文化論に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	博士前期課程の学生は、必修科目のため必ず履修すること。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：小野 雄大 E-mail: y.ono.ib[at]juntendo.ac.jp　([at] を@に変更してください) [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時: 金曜日13:00～14:30 場所: 1号館5階1503室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、授業６０時間と準備学習３０時間の計９０時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	小野	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	グループワーク、討議	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。

5～8	小野	研究計画を策定し提議書を試作する。	グループワーク、討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	小野	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	グループワーク、討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	小野	研究倫理について理解を深める。	グループワーク、討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	小野	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	グループワーク、討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	小野	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	グループワーク、討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験 試験は実施しないが、授業の到達目標に達しているかどうかを課題の内容によって判断する。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	金　芝美	ナンバリング	
担当教員	金　芝美		

授業概要

全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、生理学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法

評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法]
　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

[テキスト・参考書等]
　授業中に指示する。

その他

連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：金　芝美（キム　ジミー） E-mail: j.kim.pi@juntendo.ac.jp　（[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：　月～金曜日　10:00～12:00 場所:1号館2階1206室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] ※授業形態は、対面式ではなくオンライン授業で行うこともある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	金　芝美	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	［授業方法］演習・実習 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	金　芝美	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	［授業方法］演習・実習 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	金　芝美	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	［授業方法］演習・実習 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	金　芝美	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。	［授業方法］演習・実習 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	金　芝美	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	［授業方法］演習・実習 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	金　芝美	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	［授業方法］演習・実習 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	沢田　秀司	ナンバリング	
担当教員	沢田　秀司		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、健康運動の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
[テキスト・参考書等] 　授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 　担当：沢田　秀司 　E-mail: sh-sawada[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 　〈さくらキャンパス〉 　日時： 火曜日　12:00～13:00 　場所: 1号館2階教員室［連絡先］内線544
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] ※授業形態は、対面式ではなくオンライン授業で行うこともある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～3	沢田　秀司	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	［授業方法］演習・実習 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
4～6	沢田　秀司	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	［授業方法］演習・実習 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
7～14	沢田　秀司	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	［授業方法］演習・実習 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
15～19	沢田　秀司	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。	［授業方法］演習・実習 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
20～24	沢田　秀司	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	［授業方法］演習・実習 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
25～30	沢田　秀司	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	［授業方法］演習・実習 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	下窪　拓也	ナンバリング	
担当教員	下窪　拓也		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、社会学・スポーツ社会学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 　学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する
履修上の注意、履修要件	博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：下窪　拓也 E-mail: t.shimokubo.of[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時:13:00～14:30 場所: 1号館2階1206室 事前にE-mailで予約をすることが望ましい。 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、授業６０時間と準備学習３０時間の計９０時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] 社会情勢に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	下窪	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	下窪	研究計画を策定し提議書を試作する。	提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	下窪	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	下窪	研究倫理について理解を深める。	研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	下窪	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	下窪	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験 試験は実施しないが、授業の到達目標に達しているかどうかを課題の内容によって判断する。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	野津　将時郎	ナンバリング	
担当教員	野津　将時郎		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、スポーツ医学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
[テキスト・参考書等] 　授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 　担当：野津将時郎 　E-mail: s.nozu.hw[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 　〈さくらキャンパス〉 　日時：　月曜日　9:00～11:00 　場所：　１号館２階1206室　または　スポーツ健康医科学研究所４階スポーツ医学研究室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] ※授業形態は、対面式ではなくオンライン授業で行うこともある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～5	野津	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。□ 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	グループディスカッション	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
6～10	野津	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	グループディスカッション	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
11～15	野津	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	グループディスカッション	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
16～20	野津	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	グループディスカッション	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
21～25	野津	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	グループディスカッション	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
26～30	野津	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで模擬学会発表・論文作成をする。 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	グループディスカッション	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	三倉　茜	ナンバリング	
担当教員	三倉　茜		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、スポーツマネジメントの分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
[テキスト・参考書等] 　授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：三倉　茜（Akane Mikura） E-mail:a-mikura[at]juntendo.ac.jp　（[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：月・火曜日　9:00～17:00 場所：1号館2階1206室
担当教員の実務経験	日本バスケットボール協会において指導者育成に関わっている経験や、日本オリンピック委員会、日本パラリンピック委員会等スポーツ団体において、調査・研究に携わった経験から、スポーツの現場で起こっている課題とその解決のための取り組みについて、スポーツマネジメントの理論・知見を援用してわかりやすく解説する。
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] ※授業形態は、対面式ではなくオンライン授業で行うこともある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	三倉茜	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	［授業方法］演習・実習 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	三倉茜	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。	［授業方法］演習・実習 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	三倉茜	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	［授業方法］演習・実習 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	三倉茜	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。	［授業方法］演習・実習 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	三倉茜	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	［授業方法］演習・実習 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	三倉茜	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	［授業方法］演習・実習 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	黒坂　裕香	ナンバリング	
担当教員	黒坂　裕香		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 具体的には、スポーツ医科学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解する。さらに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：黒坂裕香 E-mail:y-kurosaka[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　12:10～13:00 場所: 1号館1階1110室
担当教員の実務経験	管理栄養士として、健康維持増進のための運動指導や栄養指導の経験を有する教員が、その専門分野を活かして指導を行う。
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、授業60時間と準備学習30時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	黒坂裕香	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	PBL、討議、発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	黒坂裕香	研究計画を策定し提議書を試作する。	PBL、討議、発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	黒坂裕香	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	PBL、討議、発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	黒坂裕香	研究倫理について理解を深める。	PBL、討議、発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	黒坂裕香	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	PBL、討議、発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～28	黒坂裕香	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	PBL、討議、発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
29～30	黒坂裕香	各自のテーマで学会発表・論文投稿をする。	PBL、討議、発表	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	関　伸夫	ナンバリング	
担当教員	関　伸夫		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、体育科教育学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：関　伸夫 E-mail: n.seki.ef[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　13:00～14:30 場所: 1号館5階1519室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南５階教員控室
担当教員の実務経験	学校現場における教員の経験及び文部科学省における教科調査官の経験を踏まえ、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な具体的方策について指導する。
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	関	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	発表、グループワーク	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	関	研究計画を策定し提議書を試作する。	発表、討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～12	関	先行文献を調査し、クリティカル・リーディング（批判的検討方法）した結果を発表し、教員や他学生との討議する。	発表、討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
13～18	関	先行文献を調査し、クリティカル・リーディング（批判的検討方法）に関する討議を通じて、論文の読み方等について考えを深めていく。	発表、討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～24	関	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	発表、グループワーク	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
25～30	関	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	調査、グループワーク	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験は実施しません。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	濵野　礼奈	ナンバリング	
担当教員	濵野　礼奈		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 具体的には、スポーツ健康科学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：濵野　礼奈 E-mail：r.hamano.uo[at]juntendo.ac.jp　※[at]を@に変更してください。 [オフィスアワー] <さくらキャンパス> 日時： 水曜日　12:00～12:40 場所：1号館5階1526室バレーボール研究室 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生の相談時間とかち合わないようにするため、できるだけ前日までにE-mailで予約してください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	競技者として企業チームに所属し活動した実務経験を活かし、コーチング現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説します。 また、高校現場において保健体育科教諭の業務にあたっていた経験を活かし、授業に求められる知識や技術をわかりやすく解説します。
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～5	濵野　礼奈	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
6～10	濵野　礼奈	研究計画を策定し提議書を試作する。	提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
11～15	濵野　礼奈	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生 との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
16～20	濵野　礼奈	研究倫理について理解を深める。	研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
21～25	濵野　礼奈	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
26～30	濵野　礼奈	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		授業中に複数回のレポートを提出することから、定期試験は実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	芳地　泰幸	ナンバリング	
担当教員	芳地　泰幸		

授業概要	
全体内容	〔授業全体の内容〕 スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養うことを目的とする授業である。本授業では、スポーツマネジメント、経営管理学に関連した内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	〔授業の到達目標〕 1.スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	〔授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）〕 本授業では、研究倫理についての抄読や討議を通じて高い倫理観を養い、測定法・記録法や調査法ならびにデータ処理法を学習することでスポーツ健康科学に関する研究能力を高めることができる。 この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	〔履修要件〕 研究指導教員の指示に従うこと。 〔履修上の注意（科目独自のルール）〕 特になし。

成績評価の方法	
評価方法	〔評価方法〕 取り組む姿勢20%、授業で課される課題の達成度80%で評価する。
評価基準	〔評価基準〕 授業で学んだ研究法の習熟度をレポートやプレゼンテーション等を通じて評価する。 1. 研究計画の立案と提議書(案)を評価する。 2. レポートを通して批判的検討の力を評価する。 3. レポートを通して研究倫理を基礎知識を評価する。 4. プレゼンを通して実験・調査・データ処理の実践力を評価する。 5. 学会発表や論文投稿の取り組みを評価する。

試験・課題に対するフィードバック方法
〔試験・レポート等の課題に対するフィードバックの方法〕 レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業の際に適宜、提示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	〔連絡先〕 担当：芳地泰幸 E-mail: y.hochi.ka[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください） 〔オフィスアワー〕 ＜さくらキャンパス＞ 日時：火・木曜日　昼休み、3限（13:00～14:30） 場所：1号館3階1320室 ※上記の時間帯は予約が無くても対応しますが、予約があった学生を優先します。 ※できる限り、前日までにE-Mailで予約するように心掛けてください。 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 場所：センチュリータワー南5階教員控室 ※授業がない期間はE-mailで予約すること。
担当教員の実務経験	

備考		この授業は、実験・実習の授業形態による2単位の科目であり、授業60時間と準備学習30時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。		
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～2回	芳地泰幸	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。 ［授業方法］ 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	講義・演習 （討議、発表）	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
3～9回	芳地泰幸	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。 ［授業方法］ 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	講義・演習 （討議、発表）	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
10～15回	芳地泰幸	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。 ［授業方法］ 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	講義・演習 （討議、発表）	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
16～20回	芳地泰幸	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。 ［授業方法］ 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	講義・演習 （討議、発表）	（予習：1時間/回） 研究倫理に関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
21～25回	芳地泰幸	［授業内容］ マネジメント科学（社会科学）における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。 ［授業方法］ 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	講義・演習 （討議、発表）	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
26～30回	芳地泰幸	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 ［授業方法］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	講義・演習 （討議、発表）	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマで学会発表・論文投稿に向けて準備・執筆をおこなう （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	前鼻　啓史	ナンバリング	
担当教員	前鼻　啓史		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、アダプテッド・スポーツ科学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：前鼻啓史 E-mail：h-maehana[at]juntendo.ac.jp（[at]を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 　時間：火10:40～12:00、水～金9:00～12:00 　場所：1号館4F パラスポーツ研究室 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 　※E-mailで対応します。
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] 　状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～5	前鼻 啓史	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
6～10	前鼻 啓史	研究計画を策定し提議書を試作する。	提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
11～15	前鼻 啓史	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
16～20	前鼻 啓史	研究倫理について理解を深める。	研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
21～25	前鼻 啓史	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
26～30	前鼻 啓史	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	塩澤　淳	ナンバリング	
担当教員	塩澤　淳		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 具体的には、スポーツ医学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：塩澤　淳 E-mail: jshioza@juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 月曜日　12:00-13:00 場所 ：　スポーツ健康医科学研究所4階 スポーツ医学研究室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所 ：　センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] ※授業形態は、対面式ではなくオンライン授業で行うこともある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～5	塩澤淳	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
6～10	塩澤淳	研究計画を策定し提議書を試作する。	提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
11～15	塩澤淳	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること
16～20	塩澤淳	研究倫理について理解を深める。	研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
21～25	塩澤淳	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
26～30	塩澤淳	学会発表・論文投稿の方法について理解する。　各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
塩澤淳	塩澤淳	定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	中田　学	ナンバリング	
担当教員	中田　学		

授業概要	
全体内容	本授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 スポーツ健康科学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案、提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作する。 先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。 学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（８０%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（レポート） 3. 研究倫理を理解している（レポート） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（レポート） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
授業内でレポートや課題について、フィードバックを行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業内にて提示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：中田　学 E-mail: m-nakata[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 金曜日　12:00～12:40 場所：1号館5階1530室バレーボール研究室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約してください。 場所：センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他]

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

１～４	中田	研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。	先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 授業内での課題や復習、また提示された課題に取り組む。
５～８	中田	研究計画を策定し提議書を試作する。	提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 授業内での課題や復習、また提示された課題に取り組む。
９～１３	中田	先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。	先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 授業内での課題や復習、また提示された課題に取り組む。
14～18	中田	研究倫理について理解を深める。	研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 授業内での課題や復習、また提示された課題に取り組む。
19～23	中田	各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。	先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 授業内での課題や復習、また提示された課題に取り組む。
24～28	中田	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	（予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 授業内での課題や復習、また提示された課題に取り組む。
29.30回	中田	学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。	学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	予習：1時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：1時間/回） 授業内での課題や復習、また提示された課題に取り組む。

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法実習（後期）	授業形態	実験・実習
英語科目名	Practice in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	伊藤　まこと	ナンバリング	
担当教員	伊藤　まこと		

授業概要

全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、スポーツ健康科学研究に必要な実験、調査に関する手法の基本を習得し、研究倫理に関しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養う。 　具体的には、ダンス運動学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、授業内で研究計画を策定し提議書を試作してみる。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学研究に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、主体的に取り組むこと。

成績評価の方法

評価方法	[成績評価の方法] 　課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 先行研究の批判的検討方法を理解している（口頭試問） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（レポート） 5. 学会発表・論文投稿の手続きを理解している（口頭試問） 6. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法]
　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

テキストの指定はない。
参考書等については授業中に指示する。

その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：伊藤まこと E-mail：m.ito.rt [at] juntendo.ac.jp ※ [at] を@に変更してください。 ［オフィスアワー］ 〈さくらキャンパス〉 日時：前期：水曜日12:00-17:00, 木曜日10:30-12:00, 後期：水曜日12:00-17:00, 金曜日10:30-12:00 場所：1号館2階1206 教員室 ただし、上記の時間帯においても会議等で不在の場合もあるので、前日までにE-mail等で確認・予約すること。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ 　この授業は、実験・実習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	中村　恭子	［授業内容］ 研究計画の立案や提議書の作成方法を理解する。 ［授業方法］ 先行文献を調査し発表するとともにフィードバックを行うことで具体的な研究計画を策定する。	発表と討議、演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
5～8	中村　恭子	［授業内容］ 研究計画を策定し提議書を試作する。 ［授業方法］ 提議書を試作し、教員や他学生との討議を通じてブラッシュアップする。	演習と発表、討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
9～13	中村　恭子	［授業内容］ 先行研究の批判的検討方法（クリティカル・リーディング）を習得する。 ［授業方法］ 先行文献を調査しクリティカル・リーディングした結果を発表し、教員や他学生との討議し深めていく。	演習と発表、討議	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
14～18	中村　恭子	［授業内容］ 研究倫理について理解を深める。 ［授業方法］ 研究倫理に関するテキストを抄読し研究等倫理審査申請書を試作する。	演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
19～23	中村　恭子	［授業内容］ 各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法に関する知識を習得する。データ処理の方法についても学習する。 ［授業方法］ 先行文献を調査し、測定法や記録法、調査の方法を分類し、各自の研究計画や提議書の内容と比較する。	講義と演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
24～30	中村　恭子	［授業内容］ 学会発表・論文投稿の方法について理解する。 各自のテーマで学会発表・論文投稿の準備をしてみる。 ［授業方法］ 学会発表・論文投稿の手続きを関連資料より把握する。	演習	（予習：0.5時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：0.5時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ医学 （内科系）(後期前半)	授業形態	講義
英語科目名	Sports Medicine	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	深尾　宏祐	ナンバリング	
担当教員	深尾　宏祐		

授業概要	
全体内容	スポーツの歴史と医学との関連、様々な年齢におけるスポーツ障害の特徴、それぞれの医学分野とスポーツとの関連、突然死予防を含めた安全管理としてのスポーツ医学等、幅広く身につける。この授業科目では、スポーツ医学分野の最近のトピックを取り上げ、おのおのが与えられたテーマについて調べ、まとめたものを講義内でプレゼンテーションし、全員でディスカッションする。さらに、補足内容について担当教員から追加講義を行う。
到達目標	アスリートのためのスポーツ医学のみならず、自分自身や同輩の健康や安全対策および女性（含む妊婦）、幼児から中・高齢者までを視野に入れた知識を学習し、必要な医学的知識、実践に有用となる基礎を身につけ、指導できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	〔履修要件〕 特になし 〔履修上の注意（科目独自のルール）〕 30分以上の遅刻、早退は欠席扱いとする。また、遅刻および早退3回で、1回分の欠席としてカウントする。

成績評価の方法	
評価方法	１～３について、作成されたスライド・プレゼンテーション・質疑応答についてその都度評価する（60%） ４について他の人の発表についてのディスカッションへの積極性を毎回評価する（30%） ５について平常点（10%）を総合して評価する。
評価基準	１．1つのテーマについて調査し、わかりやすくまとめることができる（スライド作成） ２．調査したテーマについて、スライドを使用してプレゼンテーションする（発表） ３．他人からの質問に対し、適切に答えることができる（質疑応答） ４．友人のプレゼンテーションについて、適切な質問をしディスカッションに参加する（質問） ５．出席状況や受講態度（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
当日解決できなかった質問に対しては、翌講義日の最初に全員にフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
スポーツ・健康医科学	河合祥雄	放送大学教育振興会		
スポーツ医学研修ハンドブック	日本体育協会			

参考文献

その他	
連絡先・オフィスアワー	〔連絡先〕 担当：深尾　宏祐 E-mail：fukao777［at］juntendo.ac.jp ［at］を@に変更してください 〔オフィスアワー〕※質問や相談はできるだけ、前日までにE-mailで予約すること。 〈さくらキャンパス〉 日時：後期期間中の火曜日12:20から16:00 場所：スポーツ健康医科学研究所4階9405号室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 ＊授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	［実務経験のある教員による授業］ この科目では、循環器内科医、スポーツドクターとして診療活動の経験を有している教員が、その経験を活かしながら、実践的な知識、技術を用いて講義内容を展開する。
備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 ［その他］ この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	深尾	スポーツと文化	講義、討論、発表形式	（予習：2hr） スポーツマンがフェアプレーヤーであるべき理由を調べる。 （復習：2hr） オリンピックが及ぼす影響について考察する。
2	深尾	スポーツ医学の歴史	講義、討論、発表形式	（予習：2hr） 宗教儀式とスポーツの発生について調べる。 （復習：2hr） 近代オリンピックの形成について理解する。
3	深尾	スポーツと年齢	講義、討論、発表形式	（予習：2hr） 若年者のスポーツ障害を調べる。 （復習：2hr） 中高年に対するスポーツ指導の要点を理解する。
4	深尾	スポーツと加齢性変化	講義、討論、発表形式	（予習：2hr） 高齢者の身体的特徴を調べる。 （復習：2hr） 高齢者のスポーツ障害について理解する。
5	深尾	アンチ・ドーピング	講義、討論、発表形式	（予習：2hr） 最近のドーピング関連の新聞記事を読み、要点をまとめる。 （復習：2hr） アンチ・ドーピングの倫理的根拠を理解できる。
6	深尾	スポーツと薬物	講義、討論、発表形式	（予習：2hr） アンチ・ドーピングに関する知識の入手方法を調べる。 （復習：2hr） ドーピングの種類、アスリートに対する影響について理解できる。
7	深尾	スポーツによる急性障害	講義、討論、発表形式	（予習：2hr） 学校スポーツ、社会スポーツ、スポーツ産業における安全対策を調べる。 （復習：2hr） スポーツにおける適応と破綻について例を挙げて、説明できる。
8	深尾	運動に起因する慢性障害	講義、討論、発表形式	（予習：2hr） アスリート・バーンアウトについて調べる （復習：2hr） 摂食障害について、脳震盪の定義とその対応について理解する。
9	深尾	スポーツ心臓	講義、討論、発表形式	（予習：2hr） 遠心性心拡大、求心性心肥大との違いを調べる。 （復習：2hr） 競技種目による心肥大の相違を理解する。
10	深尾	環境変化とスポーツ	講義、討論、発表形式	（予習：2hr） 熱中症について調べる。 （復習：2hr） 暑熱馴化を説明できる。登山の医学について理解する。
11	深尾	オーバートレーニング	講義、討論、発表形式	（予習：2hr） トレーニングの基本を調べる。 （復習：2hr） トレーニングの原理を説明できる。オーバーリーチングとの違いを説明できる。
12	深尾	スポーツにおける突然死	講義、討論、発表形式	（予習：2hr） 突然死の対象疾患、年齢による死因の違いを調べる。 （復習：2hr） 突然死の機序について、処置対策について理解する。
13	深尾	メディカルチェック	講義、討論、発表形式	（予習：2hr） 運動の意義が時代と共に変容した理由を調べる。 （復習：2hr） 基本検査項目、メディカルチェックの目的と限界を理解する。
14	深尾	心疾患患者に対する運動処方、運動療法	講義、討論、発表形式	（予習：2hr） 心臓リハビリテーションについて調べる。 （復習：2hr） 心疾患患者における運動のリスク、嫌気性代謝閾値を理解する。

15	深尾	Sports Cardiology	講義、討論、発表形式	（予習：2hr） Sports Cardiologyについて調べる。 （復習：2hr） スポーツと循環器の関連について復習する。
16	深尾	定期試験は実施しません。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ医学 （内科系）(後期前半)	授業形態	講義
英語科目名	Sports Medicine	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	深尾　宏祐	ナンバリング	
担当教員	深尾　宏祐、染谷　由希		

授業概要	
全体内容	スポーツの歴史と医学との関連、様々な年齢におけるスポーツ障害の特徴、それぞれの医学分野とスポーツとの関連、突然死予防を含めた安全管理としてのスポーツ医学等、幅広く身につける。この授業科目では、スポーツ医学分野の最近のトピックを取り上げ、おのおのが与えられたテーマについて調べ、まとめたものを講義内でプレゼンテーションし、全員でディスカッションする。さらに、補足内容について担当教員から追加講義を行う。
到達目標	アスリートのためのスポーツ医学のみならず、自分自身や同輩の健康や安全対策および女性（含む妊婦）、幼児から中・高齢者までを視野に入れた知識を学習し、必要な医学的知識、実践に有用となる基礎を身につけ、指導できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	〔履修要件〕 特になし 〔履修上の注意（科目独自のルール）〕 30分以上の遅刻、早退は欠席扱いとする。また、遅刻および早退3回で、1回分の欠席としてカウントする。
成績評価の方法	
評価方法	１～３について、作成されたスライド・プレゼンテーション・質疑応答についてその都度評価する（60%） ４について他の人の発表についてのディスカッションへの積極性を毎回評価する（30%） ５について平常点（10%）を総合して評価する。
評価基準	１．1つのテーマについて調査し、わかりやすくまとめることができる（スライド作成） ２．調査したテーマについて、スライドを使用してプレゼンテーションする（発表） ３．他人からの質問に対し、適切に答えることができる（質疑応答） ４．友人のプレゼンテーションについて、適切な質問をしディスカッションに参加する（質問） ５．出席状況や受講態度（平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
当日解決できなかった質問に対しては、翌講義日の最初に全員にフィードバックする。	

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
スポーツ・健康医科学	河合祥雄	放送大学教育振興会		
スポーツ医学研修ハンドブック	日本体育協会			

参考文献	
その他	
連絡先・オフィスアワー	〔連絡先〕 担当：深尾　宏祐 E-mail：fukao777〔at〕juntendo.ac.jp 〔at〕を@に変更してください 〔オフィスアワー〕※質問や相談はできるだけ、前日までにE-mailで予約すること。 〈さくらキャンパス〉 日時：後期期間中の火曜日12:20から16:00 場所：スポーツ健康医科学研究所4階9405号室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 ＊授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	［実務経験のある教員による授業］ この科目では、循環器内科医、スポーツドクターとして診療活動の経験を有している教員が、その経験を活かしながら、実践的な知識、技術を用いて講義内容を展開する。
備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり100分とする。 ［その他］ この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。
授業計画	

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	深尾	スポーツと文化	講義形式	（予習：2hr） スポーツマンがフェアプレーヤーであるべき理由を調べる。 （復習：2hr） オリンピックが及ぼす影響について考察する。
2	深尾	スポーツ医学の歴史	講義形式	（予習：2hr） 宗教儀式とスポーツの発生について調べる。 （復習：2hr） 近代オリンピックの形成について理解する。
3	深尾	スポーツと年齢	講義、ディスカッション形式	（予習：2hr） 若年者のスポーツ障害を調べる。 （復習：2hr） 中高年に対するスポーツ指導の要点を理解する。
4	深尾	スポーツと加齢性変化	講義、ディスカッション形式	（予習：2hr） 高齢者の身体的特徴を調べる。 （復習：2hr） 高齢者のスポーツ障害について理解する。
5	深尾	アンチ・ドーピング	講義、ディスカッション形式	（予習：2hr） 最近のドーピング関連の新聞記事を読み、要点をまとめる。 （復習：2hr） アンチ・ドーピングの倫理的根拠を理解できる。
6	深尾	スポーツと薬物	講義、ディスカッション形式	（予習：2hr） アンチ・ドーピングに関する知識の入手方法を調べる。 （復習：2hr） ドーピングの種類、アスリートに対する影響について理解できる。
7	深尾	スポーツによる急性障害	講義、ディスカッション形式	（予習：2hr） 学校スポーツ、社会スポーツ、スポーツ産業における安全対策を調べる。 （復習：2hr） スポーツにおける適応と破綻について例を挙げて、説明できる。
8	深尾	運動に起因する慢性障害	講義、ディスカッション形式	（予習：2hr） アスリート・バーンアウトについて調べる （復習：2hr） 摂食障害について、脳震盪の定義とその対応について理解する。
9	深尾	スポーツ心臓	講義、ディスカッション形式	（予習：2hr） 遠心性心拡大、求心性心肥大との違いを調べる。 （復習：2hr） 競技種目による心肥大の相違を理解する。
10	深尾	環境変化とスポーツ	講義、ディスカッション形式	（予習：2hr） 熱中症について調べる。 （復習：2hr） 暑熱馴化を説明できる。登山の医学について理解する。
11	深尾	オーバートレーニング	講義、ディスカッション形式	（予習：2hr） トレーニングの基本を調べる。 （復習：2hr） トレーニングの原理を説明できる。オーバーリーチングとの違いを説明できる。
12	深尾	スポーツにおける突然死	講義、ディスカッション形式	（予習：2hr） 突然死の対象疾患、年齢による死因の違いを調べる。 （復習：2hr） 突然死の機序について、処置対策について理解する。
13	深尾	メディカルチェック	講義、ディスカッション形式	（予習：2hr） 運動の意義が時代と共に変容した理由を調べる。 （復習：2hr） 基本検査項目、メディカルチェックの目的と限界を理解する。
14	深尾	心疾患患者に対する運動処方、運動療法	講義、ディスカッション形式	（予習：2hr） 心臓リハビリテーションについて調べる。 （復習：2hr） 心疾患患者における運動のリスク、嫌気性代謝閾値を理解する。

15	深尾	Sports Cardiology	講義・ディスカッション形式	（予習：2hr） Sports Cardiologyについて調べる。 （復習：2hr） スポーツと循環器の関連を理解する。
16	深尾	定期試験はありません。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ医学 （運動器系）（後期）	授業形態	講義
英語科目名	Sports Medicine	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	高澤　祐治	ナンバリング	
担当教員	高澤　祐治、窪田　敦之		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] トップアスリート支援のためのスポーツ医科学研究、スポーツ医学の最先端研究について学び、臨床医学についてもスポーツを中心に専門的に理解する。 最先端のスポーツ医科学研究について自ら調べさせ、それを中心にトップアスリート支援に必要な研究について適宜解説する。
到達目標	1.運動器疾患を中心に、スポーツ整形外科諸問題について説明できる。 2.スポーツに関わるケガや病気について発生機序や症状、治療について説明できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 最新のスポーツ科学の話題から深く考察を行うのに必要な知識をできる限り獲得しておくことが望ましい。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 自らの研究テーマに必要となる基礎資料作成を目指し、積極的に取り組んで欲しい。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の基準］ 1. スポーツ健康科学における高度な専門的知識を身につけ、その内容について説明できる（レポート）。 2.複数のスポーツに関わるケガや病気について発生機序や症状、治療について説明できる（レポートおよび発表）。 3.授業内での発言やグループディスカッション等への取り組む姿勢によって受講態度を評価する（平常点）。 ［成績評価の方法］ レポート課題（60%）、授業内で発表する内容（20%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1.スポーツ医学における運動器の諸問題について説明できる（レポート）。 2.複数のスポーツに関わるケガや病気について発生機序や症状、治療について説明できる（レポートおよび発表）。 3.授業内での発言やグループディスカッション等への取り組む姿勢によって受講態度を評価する（平常点）。

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] レポート課題はコメントを書いて返却し、必要に応じて個別に対応する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
[テキスト・参考書等] 各自文献検索をし、参考とする。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：高澤祐治 E-mail: ytakaza@juntendo.ac.jp （ [at] を@に変更してください） 窪田敦之 E-mail: akubota@juntendo.ac.jp （ [at] を@に変更してください） ［オフィスアワー］ <さくらキャンパス> 日時： 授業終了後30分はオープンアワーとする。 場所: 1号館4階　スポーツ医学（ストレングス＆コンディショニング）研究室 <本郷・お茶の水キャンパス> 日時：　本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	［実務経験のある教員による授業について］ 整形外科・スポーツ医学を専門とする現役医師が、その経験を踏まえてスポーツ活動中の外傷・障害等について講義する。
備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による２単位の科目であり、授業３０時間と準備学習６０時間の計９０時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ 競技者や選手としてスポーツに関わってきた経験を活かして、より理解を深めて欲しい。医学部生を対象とした授業と同等以上のレベルの内容で行うので、積極的に学んで欲しい。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	窪田	（授業内容） 授業の全体像を理解する。 （授業方法） 適宜希望を取り入れ、授業全体の流れを決定する。	講義	（予習：3時間） 各自学びたいことを整理しておく。 （復習：1時間） 各自の今後のスケジュールを立案する。
2	窪田	（授業内容） 整形外科的メディカルチェックを中心にコンディショニングについて理解を深める （授業方法） 整形外科的メディカルチェックを中心にコンディショニングについて各自が調べたことを発表させ、適宜解説を加える。	講義・グループワーク	（予習：3時間） 関節弛緩性、アライメント、下肢伸展挙上テストについて調べておく。 （復習：1時間） 不足していた情報を整理し、まとめる。
3	髙澤	（授業内容） 整形外科的メディカルチェックについて理解を深める （授業方法） 整形外科的メディカルチェックについて各自が調べたことを発表させ、適宜解説を加える。	講義・グループワーク	（予習：3時間） 下肢伸展挙上テスト、尻あがりテスト、Q角について調べておく。 （復習：1時間） 不足していた情報を整理し、まとめる。
4	髙澤	スポーツ外傷 （授業内容） スポーツ外傷について理解を深める （授業方法） スポーツ外傷について各自が調べたことを発表させ、適宜解説を加える。	講義	（予習：3時間） 前十字靭帯損傷と筋力について調べておく。 （復習：1時間） 不足していた情報を整理し、まとめる。
5	髙澤	（授業内容） 過労性障害について理解を深める （授業方法） 使い過ぎによる過労性障害について各自が調べたことを発表させ、適宜解説を加える。	講義・グループワーク	（予習：3時間） 疲労骨折について、シンスプリントの相違点や骨代謝マーカーを中心に調べておく。 （復習：1時間） 不足していた情報を整理し、まとめる。
6	髙澤	（授業内容） 軟部組織の外傷・障害について理解を深める （授業方法） 軟部組織の外傷・障害について各自が調べたことを発表させ、適宜解説を加える。	講義	（予習：3時間） 下肢の機能解剖を復習し、肉ばなれや筋力バランスについて調べておく。 （復習：1時間） 不足していた情報を整理し、まとめる。
7	髙澤	（授業内容） 肩関節の障害について理解を深める。 （授業方法） 肩関節障害の代表例を中心に解説する。	講義	（予習：3時間） 肩関節障害や野球肘について調べておく。 （復習：1時間） 肩関節障害について重要なポイントを整理し、まとめる。
8	髙澤	（授業内容） 下肢の外傷について理解を深める。 （授業方法） 下肢の外傷の代表例を中心に解説する。	講義	（予習：3時間） 代表的な下肢の外傷について調べておく。 （復習：1時間） 下肢の外傷について重要なポイントを整理し、まとめる。
9	髙澤	（授業内容） 腰椎疾患について理解を深める。 （授業方法） 腰椎疾患の代表例を中心に解説する。	講義	（予習：3時間） 腰椎疾患について調べておく。 （復習：1時間） 腰椎疾患について重要なポイントを整理し、まとめる。
10	髙澤	（授業内容） 上肢の外傷・障害について理解を深める。 （授業方法） 上肢の外傷および障害について、それぞれ代表例を中心に解説する。	講義	（予習：3時間） 上肢の傷害について調べておく。 （復習：1時間） 上肢の外傷と障害それぞれについて重要なポイントを整理し、まとめる。
11	髙澤	（授業内容） 骨・関節疾患や筋力分析を主とする論文を発表する。 （授業方法） 各自で調べた論文内容を発表させ、発表者以外には質問を促す。また適宜解説等を加える。	講義・グループワーク	（予習：2時間） 骨・関節疾患もしくは筋力分析に関連した論文を検索し、発表準備をしておく。 （復習：2時間） 発表者は不足情報を整理し、必要に応じて調べてまとめる。 質問者は改めて理解したポイント等をまとめる。
12	窪田	（授業内容） 骨・関節疾患や筋力分析を主とする論文を発表する。 （授業方法） 各自で調べた論文内容を発表させ、発表者以外には質問を促す。また適宜解説等を加える。	講義・グループワーク	（予習：3時間） 骨・関節疾患もしくは筋力分析に関連した論文を検索し、発表準備をしておく。 （復習：1時間） 発表者は不足情報を整理し、必要に応じて調べてまとめる。 質問者は改めて理解したポイント等をまとめる。
13	髙澤	（授業内容） 骨・関節疾患や筋力分析を主とする論文を発表する。 （授業方法） 各自で調べた論文内容を発表させ、発表者以外には質問を促す。また適宜解説等を加える。	講義・グループワーク	（予習：3時間） 骨・関節疾患もしくは筋力分析に関連した論文を検索し、発表準備をしておく。 （復習：1時間） 発表者は不足情報を整理し、必要に応じて調べてまとめる。 質問者は改めて理解したポイント等をまとめる。

14	窪田	（授業内容） 骨・関節疾患や筋力分析を主とする論文を発表する。 （授業方法） 各自で調べた論文内容を発表させ、発表者以外には質問を促す。また適宜解説等を加える。	講義・グループワーク	（予習：3時間） 骨・関節疾患もしくは筋力分析に関連した論文を検索し、発表準備をしておく。 （復習：1時間） 発表者は不足情報を整理し、必要に応じて調べてまとめる。 質問者は改めて理解したポイント等をまとめる。
15	髙澤・窪田	（授業内容） これまでの授業で学んだことの振り返り。 （授業方法） 各自で、14回の授業を通して学んだことを発表し、ディスカッションする。	講義・グループワーク	（予習：2時間） 14回の授業の中で、特に興味を持った内容について発表できるようにまとめる。 （復習：2時間） 発表者は不足情報を整理し、必要に応じて調べてまとめる。 質問者は改めて理解したポイント等をまとめる。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ医学 （運動器系）（前期前半）	授業形態	講義
英語科目名	Sports Medicine	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	高澤　祐治	ナンバリング	
担当教員	高澤　祐治		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] スポーツと医学の関わりにおいて、健康医学・競技医学・傷害医療などについて、基礎医学領域から臨床医学領域にわたり、スポーツを中心に専門的に理解するよう努める。
到達目標	1.スポーツ医学における運動器の諸問題について説明できる（レポート）。 2.複数のスポーツに関わるケガや病気について発生機序や症状、治療について説明できる（レポートおよび発表）。 3.授業内での発言やグループディスカッション等への取り組む姿勢によって受講態度を評価する（平常点）。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 機能解剖やスポーツ外傷・障害については予め勉強しておいて欲しい。 [履修上の注意（科目独自のルール）] より高度な知識が獲得できるよう、スポーツ整形外科に関連した最新の問題を定期的に更新するように努めて欲しい。 [課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] レポート課題については評価のコメントを書いて返却する。その他の課題については、授業内で議論する際に用いる。 [テキスト・参考書等] 参考書；スポーツ診療Ｑ＆Ａ　櫻庭景植編集　全日本病院出版

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の基準］ 1.スポーツ医学における運動器の諸問題について説明できる（レポート）。 2.複数のスポーツに関わるケガや病気について発生機序や症状、治療について説明できる（レポートおよび発表）。 3.授業内での発言やグループディスカッション等への取り組む姿勢によって受講態度を評価する（平常点）。 ［成績評価の方法］ レポート課題（60%）、授業内で発表する内容（20%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1.スポーツ医学における運動器の諸問題について説明できる（レポート）。 2.複数のスポーツに関わるケガや病気について発生機序や症状、治療について説明できる（レポートおよび発表）。 3.授業内での発言やグループディスカッション等への取り組む姿勢によって受講態度を評価する（平常点）。

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート課題については評価のコメントを書いて返却する。その他の課題については、授業内で議論する際に用いる。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：高澤祐治 E-mail: ytakaza@juntendo.ac.jp （ [at] を@に変更してください） ［オフィスアワー］ <さくらキャンパス> 日時： 授業終了後30分はオープンアワーとする。 場所: 研究所4階9404 <本郷・お茶の水キャンパス> 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	［実務経験のある教員による授業について］ 整形外科・スポーツ医学を専門とする現役医師が、その経験を踏まえてスポーツ活動中の外傷・障害等について講義する。
備考	［学修時間］ 授業時間は1回あたり90分とする。 ［その他］ 　この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。アスレティックトレーナーや健康運動指導士の資格関連科目である。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	高澤	オリエンテーション、授業内容の概説、受講生の希望の聞き出し、授業方針の決定	講義	予習：　自分の希望を考えておく
2	高澤	（授業内容） 運動と年齢（骨成長期、高齢者）について理解する。 （授業方法） 各年代の運動に関連した医学的問題について解説する。	講義	（予習：3時間） growth spurt、骨端症の意味について調べ、不明な点をまとめておく。 （復習：3時間） テキスト等を利用しながら大事なポイント等を整理し、理解を深める。
3	高澤	（授業内容） 運動と年齢（骨成長期、高齢者）について理解する。 （授業方法） 各年代の運動に関連した医学的問題について解説する。	講義	（予習：3時間） 骨粗鬆症、廃用性委縮について調べ、不明な点等をまとめておく。 （復習：3時間） 骨粗鬆症、廃用性委縮の実際についてまとめる。
4	高澤	（授業内容） 運動と性別・性差について理解する。 （授業方法） 運動に関連した性別の問題や、トレーニング効果等の性差について解説する。	講義	（予習：3時間） 女子アスリートの三徴候、骨粗鬆症、疲労骨折、摂食障害について調べて整理しておく。 （復習：3時間） 女性アスリートの諸問題について学んだことを整理し、理解を深める。
5	高澤	（授業内容） 上肢および体幹の構造や機能について理解を深める。 （授業方法） 上肢および体幹の構造や機能について解説しながら、従来の方法から最新のものを交えてトレーニングとその効果を紹介する。	講義	（予習：3時間） 上肢および体幹の機能解剖を復習し、最新のトレーニング方法を調べておく。 （復習：3時間） 肩関節周囲および体幹トレーニングについて学んだことを整理し、実際に自分でも行って体験する。
6	高澤	（授業内容） 下肢の構造や機能について理解を深める。 （授業方法） 下肢の骨格筋と筋力を中心に解説する。	講義	（予習：2時間） 中殿筋、大腿四頭筋、ハムストリングについて調べ、整理しておく。 （復習：2時間） 下肢筋力について学んだことをまとめ、理解を深める。
7	高澤	（授業内容） 整形外科的メディカルチェックについて理解する。 （授業方法） 実際に行われている整形外科的メディカルチェックについて解説する。	講義	（予習：2時間） 整形外科的メディカルチェックについて調べ、不明な点等を書き出しておく。 （復習：2時間） 自分の周りの人の関節弛緩性をチェックする。
8	高澤	（授業内容） スポーツ外傷・障害について理解する。 （授業方法） スポーツ外傷・障害総論について解説する。	講義	（予習：2時間） 実際の傷害の何が外傷で、何が障害かを考えておく。 （復習：2時間） 外傷および障害の定義をまとめ、各傷害のうち何が外傷で何が障害か整理する。
9	高澤	（授業内容） 過労性障害について理解を深める。 （授業方法） 使い過ぎによる過労性障害について解説する。	講義	（予習：2時間） 過労性障害について調べ、症状や代表的なスポーツ等をまとめておく。 （復習：2時間） 疲労骨折、シンスプリントと陸上競技について整理する。
10	高澤	（授業内容） 骨・関節の外傷・障害について理解を深める。 （授業方法） 骨と関節の外傷および障害について解説する。		（予習：2時間） 骨折、捻挫、靭帯損傷について調べ、意味や主な症状等まとめておく。 （復習：2時間） 予習で調べておいて内容で不足していたことを整理する。
11	高澤	（授業内容） 軟部組織の外傷・障害について理解を深める。 （授業方法） 軟部組織の外傷および障害についてスポーツを中心に解説する。		（予習：2時間） 肉ばなれやアキレス腱について調べ、不明な点等を書き出しておく。 （復習：2時間） 授業で新たに学んだことを整理し、まとめる。
12	高澤	（授業内容） スポーツ外傷・障害における種目特異性について理解する。 （授業方法） 主にコンタクトスポーツを中心にスポーツ外傷・障害を解説する。		（予習：2時間） 接触型の外傷について調べておく。 （復習：2時間） コンタクトスポーツの実際の外傷および障害について整理する。
13	高澤	（授業内容） スポーツ外傷・障害における種目特異性について理解する。 （授業方法） スポーツ強度を中心に外傷および障害を解説する。		（予習：2時間） 各種スポーツの運動強度について整理しておく。 （復習：2時間） 運動強度と外傷・障害の関わりについてまとめる。

14	高澤	（授業内容） スポーツ整形外科における最近のトピックスについて理解する。 （授業方法） 各自が調べてきた最近のトピックスを発表させ、それに関連した諸問題について解説する。		（予習：2時間） スポーツ整形外科に関連した最近のトピックスの中で、特に自分が興味のあるものについて調べておく。 （復習：2時間） 改めて興味のあるトピックスを複数あげ、それについて学習したことを整理する。
１５	高澤	（授業内容） スポーツイベント時における救護体制について理解する。 （授業方法） 各自が調べてきた最近のトピックスを発表させ、それに関連した諸問題について解説する。	講義	（予習：2時間） スポーツイベント時における救護体制に関連した最近のトピックスの中で、特に自分が興味のあるものについて調べておく。 （復習：2時間） 改めて興味のあるトピックスを複数あげ、それについて学習したことを整理する。
				定期試験を実施しない

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ生理学（前期後半）	授業形態	講義
英語科目名	Sports Physiology	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	内藤　久士	ナンバリング	
担当教員	内藤　久士、山中　航、吉原　利典、谷本　道哉、町田　修一、和氣　秀文、福　典之、鈴木　宏哉、宮本　恵里		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 　各自の研究テーマやトレーニングなどに関連した英語学術雑誌から原著論文を選び、その内容を抄読し発表する。そして、研究の背景や方法、データの解釈、研究成果について全員で討議を行なう。原著論文の抄読を通じてスポーツ生理学に関する世界の最新情報を入手するとともに、研究の背景や方法、データの解釈、研究成果に関する討議を通じて、それらの持つ意味を学ぶことを目的とする。
到達目標	［授業の到達目標］ 1.　原著論文の抄読を通じてスポーツ生理学に関する世界の最新情報を入手することができる。 2.　原著論文の抄読を通じて、研究の背景や方法、データの解釈、研究成果に関する意味や意義を理解することができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	ここの科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。の科目は、「高い倫理観」、「スポーツ健康科学に関する高度な専門的知識」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 自分の研究テーマを明確にしておくと同時に、運動の生理・生化学に関する基礎的な知識を学修しておくこと。 ［履修上の注意］ 事前に配付されている原著論文に基づき、キーワードとなる専門用語について予習をすること。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ レポート（30%）、口頭試問（60%）、平常点（10%）を総合して評価する。
評価基準	1. 毎回の授業での発表および質疑応答等をもとに、学術論文からスポーツ生理学に関する最新の情報を正しく取得できるかを評価する（レポート）。 2. 学術論文からスポーツ生理学に関する研究の背景や方法、データの解釈、研究成果の意味や意義について理解できているかを評価する（口頭試問）。

試験・課題に対するフィードバック方法
対面、およびEメール等により随時行なう。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
適宜提示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	内藤　1号館 1階 運動生理学研究室（1117号室） 連絡先： hnaitou [at] juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 オフィスアワー：月曜日12時から13時（事前にメールなどで予約をすることを推奨します） 町田　1号館 1階 運動生理学研究室（1118号室） 連絡先：machidas [at] juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 オフィスアワー：月曜日10時から12時（事前にメールなどで予約をすることを推奨します） その他の教員へ連絡したい場合は、まずは町田に連絡するようにして下さい。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ 　この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 　※授業時間は1回あたり90分とする。 ［その他］ 　・災害や感染症等の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性があります。 　・この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。 　・主体的・積極的な参加を望みます。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	内藤　久士 町田　修一 和気　秀文 鈴木　宏哉 福　典之 谷本　道哉 山中　航 吉原　利典 宮本　恵理	ガイダンス:　英語原著論文の選び方、読み方 日程、内容、履修上の注意点に触れ、スムーズな単位取得に向けてのガイダンスを行う。また、各受講生がもつ背景とニーズに合わせた動機づけを行う。	講義及びディスカッション	（予習：1時間） 各自の研究テーマを整理しておく。 （復習：3時間） 自身の発表で取り上げる論文を決定する。
2	内藤　久士 町田　修一 和気　秀文 鈴木　宏哉 福　典之 谷本　道哉 山中　航 吉原　利典 宮本　恵理	（授業内容） ガイダンス 英語原著論文の選び方、読み方 （授業方法） 日程、内容、履修上の注意点に触れ、スムーズな単位取得に向けてのガイダンスを行う。また、各受講生がもつ背景とニーズに合わせた動機づけを行う。	講義及びディスカッション	（予習：1時間） 各自の研究テーマを整理しておく。 （復習：3時間） 自身の発表で取り上げる論文を決定する。
3	内藤　久士 町田　修一 和気　秀文 鈴木　宏哉 福　典之 谷本　道哉 山中　航 吉原　利典 宮本　恵理	英語原著論文抄読: 受講者は、各自の研究テーマ、特に神経筋系・呼吸循環器系・内分泌系・トレーニング・特定のスポーツ競技種目・環境要因とトレーニングなどに関連した英語学術雑誌から原著論文を選び、その内容を抄読し発表する。それに担当教員が解説等を加え講義し、全員でその内容について議論する。	講義及びディスカッション	（予習：各回2時間） 次回に取り上げられる論文を精読しておく。 （復習：各回2時間） 当日の発表・討議の内容を踏まえ、論文のポイントを整理しておく。
4	内藤　久士 町田　修一 和気　秀文 鈴木　宏哉 福　典之 谷本　道哉 山中　航 吉原　利典 宮本　恵理	英語原著論文抄読: 受講者は、各自の研究テーマ、特に神経筋系・呼吸循環器系・内分泌系・トレーニング・特定のスポーツ競技種目・環境要因とトレーニングなどに関連した英語学術雑誌から原著論文を選び、その内容を抄読し発表する。それに担当教員が解説等を加え講義し、全員でその内容について議論する。	講義及びディスカッション	（予習：各回2時間） 次回に取り上げられる論文を精読しておく。 （復習：各回2時間） 当日の発表・討議の内容を踏まえ、論文のポイントを整理しておく。
5	内藤　久士 町田　修一 和気　秀文 鈴木　宏哉 福　典之 谷本　道哉 山中　航 吉原　利典 宮本　恵理	英語原著論文抄読: 受講者は、各自の研究テーマ、特に神経筋系・呼吸循環器系・内分泌系・トレーニング・特定のスポーツ競技種目・環境要因とトレーニングなどに関連した英語学術雑誌から原著論文を選び、その内容を抄読し発表する。それに担当教員が解説等を加え講義し、全員でその内容について議論する。	講義及びディスカッション	（予習：各回2時間） 次回に取り上げられる論文を精読しておく。 （復習：各回2時間） 当日の発表・討議の内容を踏まえ、論文のポイントを整理しておく。
6	内藤　久士 町田　修一 和気　秀文 鈴木　宏哉 福　典之 谷本　道哉 山中　航 吉原　利典 宮本　恵理	英語原著論文抄読: 受講者は、各自の研究テーマ、特に神経筋系・呼吸循環器系・内分泌系・トレーニング・特定のスポーツ競技種目・環境要因とトレーニングなどに関連した英語学術雑誌から原著論文を選び、その内容を抄読し発表する。それに担当教員が解説等を加え講義し、全員でその内容について議論する。	講義及びディスカッション	（予習：各回2時間） 次回に取り上げられる論文を精読しておく。 （復習：各回2時間） 当日の発表・討議の内容を踏まえ、論文のポイントを整理しておく。
7	内藤　久士 町田　修一 和気　秀文 鈴木　宏哉 福　典之 谷本　道哉 山中　航 吉原　利典 宮本　恵理	英語原著論文抄読: 受講者は、各自の研究テーマ、特に神経筋系・呼吸循環器系・内分泌系・トレーニング・特定のスポーツ競技種目・環境要因とトレーニングなどに関連した英語学術雑誌から原著論文を選び、その内容を抄読し発表する。それに担当教員が解説等を加え講義し、全員でその内容について議論する。	講義及びディスカッション	（予習：各回2時間） 次回に取り上げられる論文を精読しておく。 （復習：各回2時間） 当日の発表・討議の内容を踏まえ、論文のポイントを整理しておく。
8	内藤　久士 町田　修一 和気　秀文 鈴木　宏哉 福　典之 谷本　道哉 山中　航 吉原　利典 宮本　恵理	英語原著論文抄読: 受講者は、各自の研究テーマ、特に神経筋系・呼吸循環器系・内分泌系・トレーニング・特定のスポーツ競技種目・環境要因とトレーニングなどに関連した英語学術雑誌から原著論文を選び、その内容を抄読し発表する。それに担当教員が解説等を加え講義し、全員でその内容について議論する。	講義及びディスカッション	（予習：各回2時間） 次回に取り上げられる論文を精読しておく。 （復習：各回2時間） 当日の発表・討議の内容を踏まえ、論文のポイントを整理しておく。
9	内藤　久士 町田　修一 和気　秀文 鈴木　宏哉 福　典之 谷本　道哉 山中　航 吉原　利典 宮本　恵理	英語原著論文抄読: 受講者は、各自の研究テーマ、特に神経筋系・呼吸循環器系・内分泌系・トレーニング・特定のスポーツ競技種目・環境要因とトレーニングなどに関連した英語学術雑誌から原著論文を選び、その内容を抄読し発表する。それに担当教員が解説等を加え講義し、全員でその内容について議論する。	講義及びディスカッション	（予習：各回2時間） 次回に取り上げられる論文を精読しておく。 （復習：各回2時間） 当日の発表・討議の内容を踏まえ、論文のポイントを整理しておく。

10	内藤　久士 町田　修一 和気　秀文 鈴木　宏哉 福　典之 谷本　道哉 山中　航 吉原　利典 宮本　恵理	英語原著論文抄読: 受講者は、各自の研究テーマ、特に神経筋系・呼吸循環器系・内分泌系・トレーニング・特定のスポーツ競技種目・環境要因とトレーニングなどに関連した英語学術雑誌から原著論文を選び、その内容を抄読し発表する。それに担当教員が解説等を加え講義し、全員でその内容について議論する。	講義及びディスカッション	（予習：各回2時間） 次回に取り上げられる論文を精読しておく。 （復習：各回2時間） 当日の発表・討議の内容を踏まえ、論文のポイントを整理しておく。
11	内藤　久士 町田　修一 和気　秀文 鈴木　宏哉 福　典之 谷本　道哉 山中　航 吉原　利典 宮本　恵理	英語原著論文抄読: 受講者は、各自の研究テーマ、特に神経筋系・呼吸循環器系・内分泌系・トレーニング・特定のスポーツ競技種目・環境要因とトレーニングなどに関連した英語学術雑誌から原著論文を選び、その内容を抄読し発表する。それに担当教員が解説等を加え講義し、全員でその内容について議論する。	講義及びディスカッション	（予習：各回2時間） 次回に取り上げられる論文を精読しておく。 （復習：各回2時間） 当日の発表・討議の内容を踏まえ、論文のポイントを整理しておく。
12	内藤　久士 町田　修一 和気　秀文 鈴木　宏哉 福　典之 谷本　道哉 山中　航 吉原　利典 宮本　恵理	英語原著論文抄読: 受講者は、各自の研究テーマ、特に神経筋系・呼吸循環器系・内分泌系・トレーニング・特定のスポーツ競技種目・環境要因とトレーニングなどに関連した英語学術雑誌から原著論文を選び、その内容を抄読し発表する。それに担当教員が解説等を加え講義し、全員でその内容について議論する。	講義及びディスカッション	（予習：各回2時間） 次回に取り上げられる論文を精読しておく。 （復習：各回2時間） 当日の発表・討議の内容を踏まえ、論文のポイントを整理しておく。
13	内藤　久士 町田　修一 和気　秀文 鈴木　宏哉 福　典之 谷本　道哉 山中　航 吉原　利典 宮本　恵理	英語原著論文抄読: 受講者は、各自の研究テーマ、特に神経筋系・呼吸循環器系・内分泌系・トレーニング・特定のスポーツ競技種目・環境要因とトレーニングなどに関連した英語学術雑誌から原著論文を選び、その内容を抄読し発表する。それに担当教員が解説等を加え講義し、全員でその内容について議論する。	講義及びディスカッション	（予習：各回2時間） 次回に取り上げられる論文を精読しておく。 （復習：各回2時間） 当日の発表・討議の内容を踏まえ、論文のポイントを整理しておく。
14	内藤　久士 町田　修一 和気　秀文 鈴木　宏哉 福　典之 谷本　道哉 山中　航 吉原　利典 宮本　恵理	英語原著論文抄読: 受講者は、各自の研究テーマ、特に神経筋系・呼吸循環器系・内分泌系・トレーニング・特定のスポーツ競技種目・環境要因とトレーニングなどに関連した英語学術雑誌から原著論文を選び、その内容を抄読し発表する。それに担当教員が解説等を加え講義し、全員でその内容について議論する。	講義及びディスカッション	（予習：各回2時間） 次回に取り上げられる論文を精読しておく。 （復習：各回2時間） 当日の発表・討議の内容を踏まえ、論文のポイントを整理しておく。
15	内藤　久士 町田　修一 和気　秀文 鈴木　宏哉 福　典之 谷本　道哉 山中　航 吉原　利典 宮本　恵理	英語原著論文抄読: 受講者は、各自の研究テーマ、特に神経筋系・呼吸循環器系・内分泌系・トレーニング・特定のスポーツ競技種目・環境要因とトレーニングなどに関連した英語学術雑誌から原著論文を選び、その内容を抄読し発表する。それに担当教員が解説等を加え講義し、全員でその内容について議論する。	講義及びディスカッション	（予習：各回2時間） 次回に取り上げられる論文を精読しておく。 （復習：各回2時間） 当日の発表・討議の内容を踏まえ、論文のポイントを整理しておく。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ生理学（前期後半）	授業形態	講義
英語科目名	Sports Physiology	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	内藤　久士	ナンバリング	
担当教員	内藤　久士、山中　航、吉原　利典、谷本　道哉、町田　修一、和氣　秀文、福　典之、鈴木　宏哉、宮本　恵里		

授業概要	
全体内容	スポーツや運動によって生起される身体の構造や機能の変化、特に骨格筋、筋力、スキル、エネルギー供給系、最大酸素摂取量、運動強度、呼吸循環応答、運動処方、トレーニング、遺伝子、性差、発育発達、老化、環境、ストレスなどをキーワードに、基礎知識を解説し、話題性の高いトピックスについて紹介し、参加者全員でその内容について総合討論を行う。また、関連した英語学術雑誌から原著論文を選び、その内容を抄読し、それに担当教員が解説等を加え、全員でその内容について議論することもある。
到達目標	スポーツや運動によって生起される身体の構造や機能の変化を知り、その成果を健康増進あるいは競技トレーニングに応用することができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 学部で学ぶ運動生理学の内容を理解して授業に参加すること。 ［履修上の注意］ 配付された資料に基づき、キーワードとなる専門用語について復習をすること。

成績評価の方法	
評価方法	レポート （100%）を総合して評価する。
評価基準	スポーツや運動に伴う身体の機能や構造の変化を適切に理解し、健康づくりやトレーニングに応用できるかを問う（レポート課題）

試験・課題に対するフィードバック方法
対面、およびEメール等により随時実施する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
適宜指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	内藤　1号館 1階 運動生理学研究室（1117号室） 連絡先： hnaitou [at] juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 オフィスアワー：月曜日12時から13時まで（事前にメールなどで予約をすることを推奨します） 町田　1号館 1階 運動生理学研究室（1118号室） 連絡先：machidas [at] juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 オフィスアワー：月曜日10時から12時（事前にメールなどで予約をすることを推奨します） その他の教員へ連絡したい場合は、まずは町田に連絡するようにして下さい。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 ［その他］ ・災害や感染症等の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性があります。 ・この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。 ・主体的・積極的な参加を望みます。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	内藤　久士 町田　修一 和気　秀文 鈴木　宏哉 福　典之 谷本　道哉 山中　航 吉原　利典 宮本　恵理	日程、内容、履修上の注意点に触れ、スムーズな単位取得に向けてのガイダンスを行う。また、各受講生がもつ背景とニーズに合わせた動機づけを行う。	講義及びディスカッション	（予習：1時間） 各自の研究テーマ、および関心のある事項をまとめておく。 （復習：3時間） 各自の研究テーマと本授業との接点についてレポートにまとめる。
2	内藤　久士 町田　修一	スポーツ生理学発展の歴史を概観するとともに、研究方法の発展について講義し、全員でその内容について議論する。	講義及びディスカッション	（予習：2時間） スポーツ生理学に関する基礎的な事項について確認しておく。 （復習：2時間） 授業および議論の内容を復習し、ポイントをまとめておく。
3	内藤　久士 吉原　利典	身体運動のエネルギー供給系に関する研究を総覧し、エネルギー供給系のパワーと容量ならびに継続時間について講義し、全員でその内容について議論する。	講義及びディスカッション	（予習：2時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業および議論の内容を復習し、ポイントをまとめておく。
4	内藤　久士 吉原　利典	身体運動のエネルギー供給系に関する研究を総覧し、エネルギー供給系のパワーと容量ならびに継続時間について講義し、全員でその内容について議論する。	講義及びディスカッション	（予習：2時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業および議論の内容を復習し、ポイントをまとめておく。
5	町田　修一 谷本　道哉	運動を起こす原動力となる筋の力学的諸特性、特に単純な関節運動における力-速度関係ならびに力-パワー関係を文献に基づいて考究し、スポーツや運動の実施における意義について講義し、全員でその内容について議論する。	講義及びディスカッション	（予習：2時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業および議論の内容を復習し、ポイントをまとめておく。
6	町田　修一 谷本　道哉	運動を起こす原動力となる筋の力学的諸特性、特に単純な関節運動における力-速度関係ならびに力-パワー関係を文献に基づいて考究し、スポーツや運動の実施における意義について講義し、全員でその内容について議論する。	講義及びディスカッション	（予習：2時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業および議論の内容を復習し、ポイントをまとめておく。
7	和気　秀文 山中　航	各種トレーニングが循環機能に及ぼす生理学的基礎について、最近の知見をもとに講義し、全員でその内容について議論する。また、関連した英語学術雑誌から原著論文を選び、全員でその内容について議論することもある。	講義及びディスカッション	（予習：2時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業および議論の内容を復習し、ポイントをまとめておく。
8	和気　秀文 山中　航	各種トレーニングが循環機能に及ぼす生理学的基礎について、最近の知見をもとに講義し、全員でその内容について議論する。また、関連した英語学術雑誌から原著論文を選び、全員でその内容について議論することもある。	講義及びディスカッション	（予習：2時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業および議論の内容を復習し、ポイントをまとめておく。
9	鈴木　宏哉	発育発達にともなう運動能力・体力の変化について講義し、発育発達期における運動・スポーツの役割や指導の在り方などについて理解を深める。	講義及びディスカッション	（予習：2時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業および議論の内容を復習し、ポイントをまとめておく。
10	鈴木　宏哉	発育発達にともなう運動能力・体力の変化について講義し、発育発達期における運動・スポーツの役割や指導の在り方などについて理解を深める。	講義及びディスカッション	（予習：2時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業および議論の内容を復習し、ポイントをまとめておく。
11	町田　修一	老化に伴う運動能力・体力の変化について講義し、この時期における運動・スポーツの役割や指導の在り方などについて理解を深める。また、関連した英語学術雑誌から原著論文を選び、全員でその内容について議論することもある。	講義及びディスカッション	（予習：2時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業および議論の内容を復習し、ポイントをまとめておく。

12	町田　修一	老化に伴う運動能力・体力の変化について講義し、この時期における運動・スポーツの役割や指導の在り方などについて理解を深める。また、関連した英語学術雑誌から原著論文を選び、全員でその内容について議論することもある。	講義及びディスカッション	（予習：2時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業および議論の内容を復習し、ポイントをまとめておく。
13	福　典之 宮本　恵理	スポーツのパフォーマンスや競技記録に対する遺伝の影響など、遺伝とトレーニングに関わる基礎的な事柄について講義する。また、スポーツと遺伝子に関わる最新の研究動向に触れ、それに関連した諸問題について理解を深める。	講義及びディスカッション	（予習：2時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業および議論の内容を復習し、ポイントをまとめておく。
14	福　典之 宮本　恵理	スポーツのパフォーマンスや競技記録に対する遺伝の影響など、遺伝とトレーニングに関わる基礎的な事柄について講義する。また、スポーツと遺伝子に関わる最新の研究動向に触れ、それに関連した諸問題について理解を深める。	講義及びディスカッション	（予習：2時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業および議論の内容を復習し、ポイントをまとめておく。
15	内藤久士 町田修一	スポーツ生理学の重要ポイントについて、これまでの講義内容についての復習をする。この講義で扱った専門知識が健康・体力づくりや競技力向上に必要かつ重要であることを再認識するための議論を行う。	講義及びディスカッション	（予習：2時間） 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業および議論の内容を復習し、ポイントをまとめておく。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツバイオメカニクス（前期後半）	授業形態	講義
英語科目名	Sports Biomechanics	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	柳谷　登志雄	ナンバリング	
担当教員	柳谷　登志雄、窪田　敦之、谷本　道哉、坂本　彰宏、武田　剛、大田　穂、野津　将時郎		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　スポーツバイオメカニクスはスポーツ科学の複合領域であるといわれている。すなわち、身体動作やスポーツ動作を運動生理学や運動力学、解剖学的な概念をあわせて記述・分析する分野である。この授業では、スポーツバイオメカニクスの基礎的な概念を理解するとともに、実験や分析の手法を学ぶことで、スポーツ健康科学研究科博士前期課程での研究に必要となるバイオメカニクス理論に関する理解を深める。 　この授業では、アクティブラーニング形式（発表等）で、実験方法や映像データおよび数値データに対する考え方から分析手法までを学ぶ。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究、特にスポーツバイオメカニクスに関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 映像データ、力信号および生体信号処理の方法を実践できる。 5. バイオメカニクス的手法を用いた学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 運動生理学、解剖学の基本的な知識を有することが望ましい。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭発表・試問（20%）、小テスト（20%）、平常点（20%）を総合して評価する。 定期試験は実施しない予定である。
評価基準	1. スポーツバイオメカニクスの基礎的な用語の理解度を確認　（テスト） 2. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（発表・口頭試問） 5. 授業中の発言などの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
授業およびgoogle class room にてコメントを行う。 定期試験は実施しない予定である。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

1) スポーツと運動のバイオメカニクス 共著 2023年
3月 (株) メディカルサイエンスインターナショナル
Peter M. McGinnis著『Biomechanics of Sports and Exercise 4th Edition』 の日本語版
柳谷登志雄, 川本竜史, 長野明紀, 広瀬統一, 谷川 聡 監訳

その他

連絡先・オフィスアワー	柳谷登志雄 [連絡先] E-mail: tyanagi[at]juntendo.ac.jp　([at] を@に変更してください) [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　13:10～14:45 場所: 1号館3階1513室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室 宮本直和 [連絡先] E-mail： n-miyamoto●juntendo.ac.jp (●を@に変更してください) [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 原則として月曜昼休み時間帯（12:00~12:50）。ただし、他の予定等との重複を避けるため、事前にE-mailで連絡を取ることが望ましい。 〈本郷・お茶の水クラス〉 原則として担当授業の前後1時間程度にオンラインで実施。ただし、他の予定等との重複を避けるため、事前にE-mailで連絡を取ることが望ましい。

担当教員の実務経験	柳谷：日本陸上競技連盟科学委員会委員（2005-2020）
備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 ［その他］ この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	［授業内容］ テーマ：スポーツバイオメカニクスとは 授業の目的や評価方法、授業のすすめ方を説明する。授業の流れを把握するとともに、基礎的な考え方を理解する。	［授業方法］ スライドを示しながら説明する。	（予習：2時間） シラバスを読み、授業のすすめ方や学習内容を確認する。 （復習：2時間） ガイダンスを受け、自分にとっての受講の意義を確認すること。
2	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	［授業内容］ スポーツバイオメカニクスのスポーツ指導現場における実践例を学ぶ。	［授業方法］ スライドを示しながら説明する。	（予習：2時間） シラバスを読み、授業のすすめ方や学習内容を確認する。 （復習：2時間） ガイダンスを受け、自分にとっての受講の意義を確認すること。
3	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	［授業内容］ 「運動と力、力とトルク（モーメント）の概念」	［授業方法］ 講義により、運動の法則に関する説明を理解する。	（予習：2時間） ニュートンの運動の法則を思い出してみる。 （復習：2時間） 配布プリントの課題を行う。
4	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	［授業内容］ 「関節トルクから筋張力、てこを考える」	［授業方法］ 講義により、関節モデルからトルクと筋張力を計算する。	（予習：2時間） ニュートンの運動の法則を思い出してみる。 （復習：2時間） 配布プリントの課題を行う。
5	柳谷登志雄 谷本道哉 窪田敦之 坂本彰宏 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	［授業内容］ 「重心と並進運動と回転運動」	［授業方法］ 講義により、身体重心に関する講義を受けて、ディスカッションする。	（予習：2時間） 次回の授業内容を示した予告プリントをもとに予習する。 （復習：2時間） 配布プリントの課題を行う
6	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	［授業内容］ 「回転運動と慣性モーメント」	［授業方法］ 講義により、回転運動と慣性モーメントの説明に関する講義を受けてスポーツを考える。	（予習：2時間） 次回の授業内容を示した予告プリントをもとに予習する。 （復習：2時間） 配布プリントの課題を行う
7	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	［授業内容］ 「ランニングのバイオメカニクス」	［授業方法］ それぞれのテーマの説明に関する講義を受け、ディスカッションをする。実際に地面反力を計測してみる。	（予習：2時間） 次回の授業内容を示した予告プリントをもとに予習する。 （復習：2時間） 地面反力データと映像データを処理してみる。
8	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	［授業内容］ 「フットストライクパターン」	［授業方法］ それぞれのテーマの説明に関する講義を受け、ディスカッションをする。実際に地面反力を計測してみる。	（予習：2時間） 次回の授業内容を示した予告プリントをもとに予習する。 （復習：2時間） 地面反力データと映像データを処理してみる。
9	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	授業内容］ 「フットストライクパターンに関する研究論文を読んで見る」	［授業方法］ 配布された論文に関する解説を受ける。データと資料をもとに発表スライドを作成して発表する。	（予習：2時間） 事前に配布された論文を読んでくる。 （復習：2時間） お互いの発表資料を評価する

10	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	[授業内容] 「フットストライクパターン」に関する発表資料を作り発表する	[授業方法] 配布された論文に関する解説を受ける。データと資料をもとに発表スライドを作成して発表する。	（予習：2時間） 事前に配布された論文を読んでくる。 （復習：2時間） お互いの発表資料を評価する
11	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	[授業内容] 「遠心力について学ぶ」	[授業方法] それぞれのテーマの説明に関する講義を受け、ディスカッションをする。	（予習：2時間） 事前に配布された論文を読んでくる。 （復習：2時間） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
12	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	[授業内容] 「筋腱複合体のバイオメカニクス」	[授業方法] それぞれのテーマの説明に関する講義を受け、ディスカッションをする。	（予習：2時間） 事前に配布された論文を読んでくる。 （復習：2時間） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
13	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	[授業内容] 「筋腱複合体のバイオメカニクスに関する研究論文を読む」	[授業方法] テーマに関する論文を読みプレゼンテーションを作成し発表する	（予習：2時間） 事前に配布された論文を読んでくる。 （復習：2時間） 資料として使用した論文に眼を通し、お互いの発表資料を評価する
14	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	[授業内容] 「バイオメカニクスに関するプレゼンテーションを作成する」	[授業方法] テーマに関する論文を読みプレゼンテーションを作成し発表する	（予習：2時間） 事前に配布された論文を読んでくる。 （復習：2時間） 資料として使用した論文に眼を通し、お互いの発表資料を評価する
15	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	[授業内容] 「バイオメカニクスに関するプレゼンテーションを作成する」	[授業方法] 第2～14回の授業テーマに関する論文を読みプレゼンテーションを作成し発表する	（予習：2時間） 事前に配布された論文を読んでくる。 （復習：2時間） 資料として使用した論文に眼を通し、お互いの発表資料を評価する

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツバイオメカニクス（後期後半）	授業形態	講義
英語科目名	Sports Biomechanics	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	柳谷　登志雄	ナンバリング	
担当教員	柳谷　登志雄、窪田　敦之、谷本　道哉、坂本　彰宏、武田　剛、大田　穂、野津　将時郎		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　スポーツバイオメカニクスはスポーツ科学の複合領域であるといわれている。すなわち、身体動作やスポーツ動作を運動生理学や運動力学、解剖学的な概念をあわせて記述・分析する分野である。この授業では、スポーツバイオメカニクスの基礎的な概念を理解するとともに、実験や分析の手法を学ぶことで、スポーツ健康科学研究科博士前期課程での研究に必要となるバイオメカニクス理論に関する理解を深める。 　この授業では、アクティブラーニング形式（発表等）で、実験方法や映像データおよび数値データに対する考え方から分析手法までを学ぶ。
到達目標	1. スポーツ健康科学研究、特にスポーツバイオメカニクスに関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 映像データ、力信号および生体信号処理の方法を実践できる。 5. バイオメカニクス的手法を用いた学会発表・論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 運動生理学、解剖学の基本的な知識を有することが望ましい。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭発表・試問（20%）、小テスト（20%）、平常点（20%）を総合して評価する。 定期試験は実施しない予定である。
評価基準	1. スポーツバイオメカニクスの基礎的な用語の理解度を確認　（テスト） 2. 研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 3. 研究倫理を理解している（口頭試問） 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法について説明できる（発表・口頭試問） 5. 授業中の発言などの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
授業およびgoogle class room にてコメントを行う。 定期試験は実施しない予定である。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

1) スポーツと運動のバイオメカニクス 共著 2023年
3月 (株) メディカルサイエンスインターナショナル
Peter M. McGinnis著『Biomechanics of Sports and Exercise 4th Edition』 の日本語版
柳谷登志雄, 川本竜史, 長野明紀, 広瀬統一, 谷川 聡 監訳

その他

連絡先・オフィスアワー	柳谷登志雄 [連絡先] E-mail: tyanagi[at]juntendo.ac.jp　([at] を@に変更してください) [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　13:10～14:45 場所: 1号館3階1513室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室 宮本直和 [連絡先] E-mail： n-miyamoto●juntendo.ac.jp (●を@に変更してください) [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 原則として月曜昼休み時間帯（12:00~12:50）。ただし、他の予定等との重複を避けるため、事前にE-mailで連絡を取ることが望ましい。 〈本郷・お茶の水クラス〉 原則として担当授業の前後1時間程度にオンラインで実施。ただし、他の予定等との重複を避けるため、事前にE-mailで連絡を取ることが望ましい。

担当教員の実務経験	日本陸上競技連盟科学委員会委員（2005-2020）
備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 ［その他］ この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	［授業内容］ テーマ：スポーツバイオメカニクスとは 授業の目的や評価方法、授業のすすめ方を説明する。授業の流れを把握するとともに、基礎的な考え方を理解する。	［授業方法］ スライドを示しながら説明する。	（予習：2時間） シラバスを読み、授業のすすめ方や学習内容を確認する。 （復習：2時間） ガイダンスを受け、自分にとっての受講の意義を確認すること。
2	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	［授業内容］ スポーツバイオメカニクスのスポーツ指導現場における実践例を学ぶ。	［授業方法］ スライドを示しながら説明する。	（予習：2時間） シラバスを読み、授業のすすめ方や学習内容を確認する。 （復習：2時間） ガイダンスを受け、自分にとっての受講の意義を確認すること。
3	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	［授業内容］ 「運動と力、力とトルク（モーメント）の概念」	［授業方法］ 講義により、運動の法則に関する説明を理解する。	（予習：2時間） ニュートンの運動の法則を思い出してみる。 （復習：2時間） 配布プリントの課題を行う。
4	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	［授業内容］ 「関節トルクから筋張力、てこを考える」	［授業方法］ 講義により、関節モデルからトルクと筋張力を計算する。	（予習：2時間） ニュートンの運動の法則を思い出してみる。 （復習：2時間） 配布プリントの課題を行う。
5	柳谷登志雄 谷本道哉 窪田敦之 坂本彰宏 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	［授業内容］ 「重心と並進運動と回転運動」	［授業方法］ 講義により、身体重心に関する講義を受けて、ディスカッションする。	（予習：2時間） 次回の授業内容を示した予告プリントをもとに予習する。 （復習：2時間） 配布プリントの課題を行う
6	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	［授業内容］ 「回転運動と慣性モーメント」	［授業方法］ 講義により、回転運動と慣性モーメントの説明に関する講義を受けてスポーツを考える。	（予習：2時間） 次回の授業内容を示した予告プリントをもとに予習する。 （復習：2時間） 配布プリントの課題を行う
7	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	［授業内容］ 「ランニングのバイオメカニクス」	［授業方法］ それぞれのテーマの説明に関する講義を受け、ディスカッションをする。実際に地面反力を計測してみる。	（予習：2時間） 次回の授業内容を示した予告プリントをもとに予習する。 （復習：2時間） 地面反力データと映像データを処理してみる。
8	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	［授業内容］ 「フットストライクパターン」	［授業方法］ それぞれのテーマの説明に関する講義を受け、ディスカッションをする。実際に地面反力を計測してみる。	（予習：2時間） 次回の授業内容を示した予告プリントをもとに予習する。 （復習：2時間） 地面反力データと映像データを処理してみる。
9	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	授業内容］ 「フットストライクパターンに関する研究論文を読んで見る」	［授業方法］ 配布された論文に関する解説を受ける。データと資料をもとに発表スライドを作成して発表する。	（予習：2時間） 事前に配布された論文を読んでくる。 （復習：2時間） お互いの発表資料を評価する

10	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	[授業内容] 「フットストライクパターン」に関する発表資料を作り発表する	[授業方法] 配布された論文に関する解説を受ける。データと資料をもとに発表スライドを作成して発表する。	（予習：2時間） 事前に配布された論文を読んでくる。 （復習：2時間） お互いの発表資料を評価する
11	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	[授業内容] 「遠心力について学ぶ」	[授業方法] それぞれのテーマの説明に関する講義を受け、ディスカッションをする。	（予習：2時間） 事前に配布された論文を読んでくる。 （復習：2時間） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
12	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	[授業内容] 「筋腱複合体のバイオメカニクス」	[授業方法] それぞれのテーマの説明に関する講義を受け、ディスカッションをする。	（予習：2時間） 事前に配布された論文を読んでくる。 （復習：2時間） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。
13	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	[授業内容] 「筋腱複合体のバイオメカニクスに関する研究論文を読む」	[授業方法] テーマに関する論文を読みプレゼンテーションを作成し発表する	（予習：2時間） 事前に配布された論文を読んでくる。 （復習：2時間） 資料として使用した論文に眼を通し、お互いの発表資料を評価する
14	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	[授業内容] 「バイオメカニクスに関するプレゼンテーションを作成する」	[授業方法] テーマに関する論文を読みプレゼンテーションを作成し発表する	（予習：2時間） 事前に配布された論文を読んでくる。 （復習：2時間） 資料として使用した論文に眼を通し、お互いの発表資料を評価する
15	柳谷登志雄 谷本道哉 坂本彰宏 窪田敦之 武田　剛 大田　穂 野津将時郎	[授業内容] 「バイオメカニクスに関するプレゼンテーションを作成する」	[授業方法] 第2～14回の授業テーマに関する論文を読みプレゼンテーションを作成し発表する	（予習：2時間） 事前に配布された論文を読んでくる。 （復習：2時間） 資料として使用した論文に眼を通し、お互いの発表資料を評価する

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ栄養学（前期後半）	授業形態	講義
英語科目名	Sports Nutrition	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	鈴木　良雄	ナンバリング	
担当教員	鈴木　良雄		

授業概要	
全体内容	この授業では、スポーツ栄養学ついて、国際的コンセンサスとその基になった科学的エビデンスについて幅広く学び、スポーツ栄養について深く　　理解する。上記を通じて、健康やスポーツに関連した生命科学分野の研究を独自に展開し、健康科学あるいはスポーツ科学分野の発展に貢献し　得る優れた研究活動を展開してく能力を養う。
到達目標	１．スポーツ栄養学に関する深い知識を有し、栄養素や食品成分の代謝や機能の概要について説明することができる。 ２．スポーツ栄養学に関連した実験方法を理解することができる。 ３．スポーツ栄養学に関連した実験結果を纏め、的確に発表することができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 基礎栄養学の基礎知識を有していること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 自分の研究テーマに関連した英文論文を読みこなしておくこと。高い学修意欲をもちながら真摯な態度で授業に望んでほしい。

成績評価の方法	
評価方法	平常点（50%）、研究発表（口頭試問20%）ならびに論文評価（30%）を総合して評価する。
評価基準	１．栄養素や食品成分の代謝や機能性の概要について的確に解説することができる（平常点および口頭試験）。 ２．スポーツ栄養や、生化学に関連した研究を理解することができる（平常点および論文評価）。 ３．スポーツ栄養に関連した結果を纏め、的確に発表することができる（口頭試験および論文評価）。

試験・課題に対するフィードバック方法
授業の中で適時にフィードバックを行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
必要な文献・資料は講義の中で提示します

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：鈴木　良雄 E-mail: yssuzuki[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 毎週月曜日　9：00~10：00 場所: 1号館2階1223室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	鈴木良雄	（授業内容） ・ガイダンス	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。

2	鈴木良雄	（授業内容） ・エネルギー源の代謝とスポーツにおける食事の意義	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
3	鈴木良雄	（授業内容） ・エネルギー消費量の評価とエネルギーバランス	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
4	鈴木良雄	（授業内容） ・スポーツ選手の身体組成	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
5	鈴木良雄	（授業内容） ・トレーニング後と試合後のリカバリー	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
6	鈴木良雄	（授業内容） ・試合前の食事 ・スポーツ選手のたんぱく質・アミノ酸摂取（１）	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
7	鈴木良雄	（授業内容） ・スポーツ選手のたんぱく質・アミノ酸摂取（２）	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
8	鈴木良雄	（授業内容） ・スポーツ選手の骨の健康と栄養摂取	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
9	鈴木良雄	（授業内容） ・スポーツ選手の貧血予防と栄養摂取	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
10	鈴木良雄	（授業内容） ・ビタミン・抗酸化物質と運動	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
11	鈴木良雄	（授業内容） ・水分補給	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
12	鈴木良雄	（授業内容） ・スポーツ選手のウエイトコントロール	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。

13	鈴木良雄	（授業内容） ・サプリメントとエルゴジェニックエイド	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
14	鈴木良雄	（授業内容） ・ジュニアおよび女性選手の栄養摂取（１）	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
15	鈴木良雄	（授業内容） ・ジュニアおよび女性選手の栄養摂取（２）	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ栄養学（前期後半）	授業形態	講義
英語科目名	Sports Nutrition	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	鈴木　良雄	ナンバリング	
担当教員	鈴木　良雄		

授業概要	
全体内容	この授業では、スポーツ栄養学ついて、国際的コンセンサスとその基になった科学的エビデンスについて幅広く学び、スポーツ栄養について深く　　理解する。上記を通じて、健康やスポーツに関連した生命科学分野の研究を独自に展開し、健康科学あるいはスポーツ科学分野の発展に貢献し　得る優れた研究活動を展開してく能力を養う。
到達目標	１．スポーツ栄養学に関する深い知識を有し、栄養素や食品成分の代謝や機能の概要について説明することができる。 ２．スポーツ栄養学に関連した実験方法を理解することができる。 ３．スポーツ栄養学に関連した実験結果を纏め、的確に発表することができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 基礎栄養学の基礎知識を有していること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 自分の研究テーマに関連した英文論文を読みこなしておくこと。高い学修意欲をもちながら真摯な態度で授業に望んでほしい。

成績評価の方法	
評価方法	平常点（50%）、研究発表（口頭試問20%）ならびに論文評価（30%）を総合して評価する。
評価基準	１．栄養素や食品成分の代謝や機能性の概要について的確に解説することができる（平常点および口頭試験）。 ２．スポーツ栄養や、生化学に関連した研究を理解することができる（平常点および論文評価）。 ３．スポーツ栄養に関連した結果を纏め、的確に発表することができる（口頭試験および論文評価）。

試験・課題に対するフィードバック方法
授業の中で適時にフィードバックを行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
必要な文献・資料は講義の中で提示します

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：鈴木　良雄 E-mail: yssuzuki[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 毎週月曜日　9：00~10：00 場所: 1号館2階1223室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	鈴木良雄	（授業内容） ・ガイダンス	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。

2	鈴木良雄	（授業内容） ・エネルギー源の代謝とスポーツにおける食事の意義	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
3	鈴木良雄	（授業内容） ・エネルギー消費量の評価とエネルギーバランス	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
4	鈴木良雄	（授業内容） ・スポーツ選手の身体組成	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
5	鈴木良雄	（授業内容） ・トレーニング後と試合後のリカバリー	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
6	鈴木良雄	（授業内容） ・試合前の食事 ・スポーツ選手のたんぱく質・アミノ酸摂取（１）	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
7	鈴木良雄	（授業内容） ・スポーツ選手のたんぱく質・アミノ酸摂取（２）	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
8	鈴木良雄	（授業内容） ・スポーツ選手の骨の健康と栄養摂取	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
9	鈴木良雄	（授業内容） ・スポーツ選手の貧血予防と栄養摂取	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
10	鈴木良雄	（授業内容） ・ビタミン・抗酸化物質と運動	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
11	鈴木良雄	（授業内容） ・水分補給	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
12	鈴木良雄	（授業内容） ・スポーツ選手のウエイトコントロール	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。

13	鈴木良雄	（授業内容） ・サプリメントとエルゴジェニックエイド	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
14	鈴木良雄	（授業内容） ・ジュニアおよび女性選手の栄養摂取（１）	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
15	鈴木良雄	（授業内容） ・ジュニアおよび女性選手の栄養摂取（２）	この授業は、講義の授業形態です。反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：２時間） 指定する動画を視聴して内容を理解しておく。 （復習：２時間） 授業を振り返って、内容を自分のことばで整理する。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	アスレチックトレーニング論（前期後半）	授業形態	講義
英語科目名	Athletic Training	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	鹿倉　二郎	ナンバリング	
担当教員	鹿倉　二郎、井澤　秀典		

授業概要	
全体内容	アスレティックトレーニングとは、アスレティックトレーナーの活動に関わる実践学問分野であり、その領域は多岐にわたる学際的な学問分野である。スポーツ外傷・障害を中心としたテーマに取り組むなかで、多角的な視点を学び、その中から適切な解決策を選択する能力を培うことを目指す。 この授業では、スポーツ外傷・障害、アスレティックリハビリテーション、コンディショニングなどの分野に関わる文献を抄読し、研究方法などについて学び、その医科学的根拠について確認する。
到達目標	１．スポーツ健康科学にて必須となるEvidence-Based Medicine（Athletic Training）について理解できる。 ２．アスレティックトレーニング学における多角的な研究手法について理解できる。 ３．スポーツ外傷の発生メカニズムについて様々な視点から説明できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 特になし ［履修上の注意］ 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。 また、遅刻及び早退3回で、1回分の欠席としてカウントする。

成績評価の方法	
評価方法	プレゼンテーション２回（６０％）、レポート（２０％）、平常点（２０％）を総合して評価する。
評価基準	１．アスレティックトレーニング学の具体的分野についてEBMに基づいて述べることができる（レポート）。 ２．アスレティックトレーニング学における研究手法を理解している（プレゼンテーション）。 ３．スポーツ外傷の発生メカニズムについて様々な視点から述べることができる（プレゼンテーションおよびディスカッション）。 ４．グループワークの取組状況によって受講態度を評価する（平常点）。

試験・課題に対するフィードバック方法
課題レポートは翌週の授業で返却して、評価や助言を各受講者へフィードバックする。また、プレゼンテーションに対する評価や助言は、ディスカッション時に各受講者にフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
特にありません				

参考文献
１．　Sports Physical Therapy Seminar Series（有限会社NAP） 参考書であり、スポーツ外傷・障害に関して多角的視点からの研究を理解するのに参考となる。授業中に、適宜資料を配付します。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：鹿倉二郎 E-mail：jshikaku[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 ［オフィスアワー］ 日時：前期期間中の水曜日12:20から13:10 場所：研究所棟4階　9404 上記時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生の相談時間とかち合わないようにするため、できるだけ前日までにE-mailで予約して下さい。質問や予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	アスレティックトレーナーとして企業及び大学等でのスポーツチームにおけるトレーナー業務経験を有する教員が実践的な知識・技術を解説する。
備考	［学修時間］ 　この授業は、講義の授業形態による２単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	鹿倉	［授業内容］ 授業の目的、概要、到達目標、授業スケジュールなどについて説明する。 アスレティックトレーナーおよびアスレティックトレーニング学について概説する。 ［授業方法］ スライドを用いて講義を進める。	講義	（予習：3時間/回） 下記の団体のホームページを閲覧し、アスレティックトレーナー、アスレティックトレーニングの概要を確認する。 ①日本アスレティックトレーニング学会 {http://www.js-at.jp/} ②日本スポーツ協会のHP {http://www.japan-sports.or.jp/} ③NATA (National Athletic Trainers' Association) {https://www.nata.org/} （復習：1時間/回） アスレティックトレーニングについてレポートにまとめる。
2	鹿倉	［授業内容］ Evidence-Based Medicine (Athletic Training) ついて概説する。 特定のスポーツ外傷（足関節外傷）を取り上げ、その発生メカニズムに関する様々な研究アプローチについて説明する。 ［授業方法］ スライドを用いて講義を進める。また、各人が調べてきた内容をもとにグループディスカッションを行なう。	講義、グループワーク	（予習：3時間/回） Evidence-Based-Medicineの概要について調べておくこと。 （復習：1時間/回） グループディスカッションの内容をレポートにまとめる。
3	井澤	［授業内容］ アスレティックトレーナーの活動形態（チーム、個人、スポーツ現場、トレーナー室、遠征など）について概説する。 ［授業方法］ スライドを用いて講義を進める。また、各人が調べてきた内容をもとにグループディスカッションを行なう。	講義、グループワーク	（予習：3時間/回） アスレティックトレーナーの活動形態について調べておくこと。 （復習：1時間/回） グループディスカッションの内容をレポートにまとめる。
4	井澤	［授業内容］ アスレティックトレーナーの活動場所（フィールド・コートなどのスポーツ現場、トレーナー室、大会活動など）について概説する。 ［授業方法］ スライドを用いて講義を進める。また、各人が調べてきた内容をもとにグループディスカッションを行なう。	講義、グループワーク	（予習：3時間/回） アスレティックトレーナーの活動場所について調べておくこと。 （復習：1時間/回） グループディスカッションの内容をレポートにまとめる。
5-8	鹿倉、井澤	［授業内容］ 特定のスポーツ外傷を取り上げ、その発生メカニズムに関する様々な研究アプローチについて説明する。 例：足関節、膝関節、肩関節、脳しんとうなど ［授業方法］ スライドを用いて講義を進める。　また、各人が調べてきた内容をもとにグループディスカッションを行なう。	講義、グループワーク	（予習：3時間/回） 特定のスポーツ外傷（第3回授業にて指定）の病態、発生メカニズムなどについて調べる。 （復習：1時間/回） グループディスカッションの内容をレポートにまとめる。
9-10	鹿倉、井澤	［授業内容］ アスレティックトレーニングで扱う研究テーマについて理解を深める。 ［授業方法］ 文献の選定動機およびアスレティックトレーニングとの関連についてプレゼンテーションを行なうとともに、質疑応答を行なう。	プレゼンテーション	（予習：3時間/回） アスレティックトレーニングに関連する文献（1～3編）を選定し、その選定動機についての口頭でのプレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間/回） 質疑応答の内容をレポートにまとめる。
11-14	鹿倉、井澤	［授業内容］ 文献の要旨発表に対し解説を行い、その研究内容について学習する。 ［授業方法］ プレゼンテーションソフトを用いて文献の要旨発表を行い、その発表内容に関して質疑応答を行なう。	プレゼンテーション	（予習：3時間/回） 選定した文献の要旨を作成し、プレゼンテーションの準備をする。発表者以外の者も文献を読み、質問の準備をする。 （復習：1時間/回） 質疑応答の内容をレポートにまとめる。
15	鹿倉	［授業内容］ スポーツ外傷の予防プログラムについて解説する。 授業全体のまとめを行なう。 ［授業方法］ 映像を用いて外傷予防プログラムを紹介し、その内容についてディスカッションを行なう。	講義、ディスカッション	（予習：3時間/回） 特定のスポーツ外傷を予防するためのプログラムについて調べる。 （復習：1時間/回） 授業で紹介したスポーツ外傷以外の外傷の予防プログラムについても調べる。
		定期試験は実施しない。		

科目名	アスレチックトレーニング論（前期前半）	授業形態	講義
英語科目名	Athletic Training	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	門屋　悠香	ナンバリング	
担当教員	門屋　悠香、宮森　隆行		

授業概要	
全体内容	アスレティックトレーニングとは、アスレティックトレーナーの活動に関わる実践学問分野であり、その領域は多岐にわたる学際的な学問分野である。スポーツ外傷・障害を中心としたテーマに取り組むなかで、多角的な視点を学び、その中から適切な解決策を選択する能力を培うことを目指す。 　この授業では、スポーツ外傷・障害、アスレティックリハビリテーション、コンディショニングなどの分野に関わる文献を抄読し、研究方法などについて学び、その科学的根拠について確認する。
到達目標	１．スポーツ健康科学にて必須となるEvidence Based Athletic Training（Evidence Based Medicine）について理解する。 ２．アスレティックトレーニング学における多角的な研究手法について理解できる。 ３．スポーツ外傷・障害の発生メカニズムについて様々な視点から説明できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 特になし ［履修上の注意］ 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。 また、遅刻及び早退3回で、1回分の欠席としてカウントする。

成績評価の方法	
評価方法	プレゼンテーション（50%）、レポート（30%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	１．アスレティックトレーニング学の具体的分野について、科学的根拠に基づき述べることができる（レポート） ２．自ら選択したスポーツ外傷・障害について、発生メカニズムを先行研究に基づき説明できる（プレゼンテーション） ３．アスレティックトレーニング学に関する研究計画を、先行研究に基づき作成・議論できる（プレゼンテーション・デスカッション） ４．グループワークの取組状況によって受講態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
課題レポートは翌週の授業で返却して、評価や助言を各受講者へフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
［テキスト・参考書等］ 授業中に、適宜資料を配付します。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：門屋　悠香 E-mail：hkadoya [at] juntendo.ac.jp （ [at] を@に変更してください） ［オフィスアワー］ ・事前にご連絡いただいたき、日時を調整いたします。 ・授業がない期間は、教務課を通してE-mailで予約してください。 〈さくらキャンパス〉 日時：不定期 場所：非常勤講師室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 不定期 場所： センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	スポーツ健康科学分野および医学関連分野での学位を修め、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを有する教員が、スポーツ現場における理論と実践について解説する
備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ 授業の教材や資料の共有には、大学アカウントで使用できるGoogleドライブや、Google Classroomを使用します。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1-2	宮森 門屋	［授業内容］ 授業の目的、概要、到達目標、授業スケジュールなどについて説明する。 アスレティックトレーナーおよびアスレティックトレーニング学について概説する。 ［授業方法］ プリントとスライドを用いて講義を進める。	講義 討議	（予習：2時間/回） 下記の団体のホームページを閲覧し、アスレティックトレーナー、アスレティックトレーニングの概要を確認する。 ①日本アスレティックトレーニング学会 ②日本スポーツ協会 ③NATA（National Athletic Trainers' Association） （復習：2時間/回） アスレティックトレーニングについてレポートにまとめる。
3-4	宮森 門屋	［授業内容］ Evidence Based Athletic Training（またはEvidence Based Medicine）ついて概説する。 ［授業方法］ プリントとスライドを用いて講義を進める。また、各人が調べてきた内容をもとにグループディスカッションを行なう。	講義 討議	（予習：3時間/回） Evidence Based Medicineの概要について調べておくこと。 （復習：3時間/回） グループディスカッションの内容をレポートにまとめる。
5-8	宮森 門屋	［授業内容］ 特定のスポーツ外傷を取り上げ、その発生メカニズムに関する様々な研究アプローチについて説明する。 ［授業方法］ プリントとスライドを用いて講義を進める。　また、各人が調べてきた内容をもとにグループディスカッションを行なう。	講義 討議	（予習：2時間/回） 特定のスポーツ外傷（第4回授業にて指定）の病態、発生メカニズムなどについての先行研究を調べる。 先行研究に関するプレゼンテーションの準備をおこなう。 （復習：2時間/回） グループディスカッションの内容をレポートにまとめる。
9-10	宮森 門屋	［授業内容］ アスレティックトレーニングで扱う研究テーマについて理解を深める。 研究デザイン、研究倫理について理解を深める。 ［授業方法］ 文献の選定動機およびアスレティックトレーニングとの関連についてプレゼンテーションを行なうとともに、質疑応答を行なう。	演習 発表・討議	（予習：2時間/回） アスレティックトレーニングに関連する文献（1～3編）を選定し、研究内容についての口頭でのプレゼンテーションの準備をする。 （復習：2時間/回） 文献をもとに、新たな研究課題と研究計画を作成し、口頭でのプレゼンテーションの準備をする。
11-15	宮森 門屋	［授業内容］ 文献の要旨発表に対し解説を行い、その研究内容について学習する。 文献をもとに新たな研究計画を作成し、プレゼンテーションをおこなう。 ［授業方法］ プレゼンテーションソフトを用いて ①文献の要旨と研究計画について発表を行う ②他者の発表内容に関して質疑応答を行う	演習 発表・討議	（予習：2時間/回） 選定した文献の要旨を作成し、プレゼンテーションの準備をする。 他者の準備した文献を読み、質問の準備をする。 （復習：2時間/回） 質疑応答の内容をレポートにまとめる。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	測定系スポーツの指導理論と方法 （陸上競技）(後期前半)	授業形態	演習
英語科目名	Coaching and Method of Metrical Sports	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	青木　和浩	ナンバリング	
担当教員	青木　和浩、鯉川　なつえ、仲村　明、高梨　雄太、山崎　一彦、杉林　孝法		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 測定系スポーツの中で、陸上競技を対象にしている。本授業では、陸上競技の短距離・ハードル、長距離、跳躍、投擲というカテゴリーに分け、それぞれの指導理論や種目特性を理解し、専門的知識を獲得する。また、当該競技におけるコーチング方法の実践能力を養いための方法を理解する。 この授業では、陸上競技種目の中で、各カテゴリー別に授業を実施し、各種目の専門的知識を修得し、コーチング事例などの実践的な取り組みを紹介する。
到達目標	[授業の到達目標] 1.測定系スポーツの陸上競技に関する基礎知識を理解し、説明できる。 2.各種目の専門的な知識について理解し、説明できる。 3.各種目の実践的な取り組み事例を理解し、説明できる。 4.測定系スポーツにおけるワールドスタンダードな指導法的を理解できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 専門的な講義があるので、スポーツ経験を有している学生の受講が望ましい。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 授業内口頭テストは、授業時に回答をフィードバックする。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の基準] 1.陸上競技に関する基礎知識を理解し、説明できる。（レポート） 2.各種目の専門的な知識について理解し、説明できる。（レポート） 3.各種目の実践的な取り組み事例を理解し、説明できる。（口頭テスト） 4.測定系スポーツにおけるワールドスタンダードな指導法的を理解できる。（口頭テスト）
評価基準	[成績評価の方法] 各授業内での口頭テスト（ディスカッション）60%、授業内レポート40%の割合で評価する。

試験・課題に対するフィードバック方法
[試験・レポート等の課題に対するフィードバックの方法] 授業時にて返却し、模範解答や評価のポイントを説明する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
陸上競技のコーチング学	日本陸上競技学会　編	大修館書店	978-4-469-26880-5	

参考文献
[テキスト・参考書等] 授業中に適宜、資料を配布します。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：青木　和浩 E-mail: k-aoki[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　12:10～12:50 場所: 1号館5階1509室 ※それ以外の時間帯はE-mailで連絡すること。 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度 場所: センチュリータワー南5階教員控室 ※授業が無い期間はE-mailで連絡すること。
担当教員の実務経験	【実務経験のある教員による授業】 陸上競技においてオリンピック出場経験、実業団活動経験のある教員、日本スポーツ協会公認コーチ資格、JOCナショナルコーチアカデミー修了を持つ教員、日本代表監督およびコーチ経験のある教員が、指導現場において求められる知識や実践論をわかりやすく解説します。

備考	［学修時間］ この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 ［その他］ ・この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。 ・複数の担当教員のため、授業内容が前後する場合もあります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	青木、山崎、鯉川、杉林、仲村、高梨	［授業内容］ テーマ：ガイダンス・陸上競技総論 ［授業方法］ 授業の進め方、陸上競技の基礎的事項について講義を行う。	講義	（予習：2時間） 陸上競技種目を調べておく。 （復習：2時間） 授業計画の確認、陸上競技種目の競技内容を復習する。
2	山崎	［授業内容］ テーマ：短距離走・ハードル走のコーチングⅠ ［授業方法］ 短距離種目の特性とコーチング事例を講義する。口頭テストを行う。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 短距離走の種目と特徴を調べておく。 （復習：2時間） 短距離種目における技術とトレーニング方法を整理する。
3	山崎	［授業内容］ テーマ：短距離走・ハードル走のコーチングⅡ ［授業方法］ ハードル走の専門的知識とコーチング事例を講義する。口頭テストを行う。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） ハードルの戦術や年間計画の知見を得ておく。 （復習：2時間） ハードルの技術を復習し、まとめておく。
4	山崎	［授業内容］ テーマ：日本における強化と育成 ［授業方法］ 日本陸上競技界における強化と育成について講義し、ディスカッションを行う。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 日本の陸上競技の強化策と育成システムを見ておく。 （復習：2時間） ディスカッションの内容を整理する。
5	鯉川	［授業内容］ テーマ：中長距離走のコーチング理論と方法 ［授業方法］ 中長距離種目を題材にしたコーチングとトレーニング科学の事例を講義する。ディスカッションを行う。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 中長距離のトレーニング科学における現状について知見を得ておく。 （復習：2時間） トレーニング科学の事例をまとめておく。
6	鯉川	［授業内容］ テーマ：女性トレーニングのコーチング ［授業方法］ 女性トレーニングを題材とした現状の問題点を講義し、ディスカッションを行う。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 女性トレーニングの指導現場で抱える問題点を探す。 （復習：2時間） ディスカッションの内容を整理する。
7	仲村	［授業内容］ テーマ：中長距離走の種目特性について ［授業方法］ 中長距離の種目に関する専門的知識と実践方法を講義する。口頭テストを行う。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 中長距離の種目の特性について、その概要を調べておく。 （復習：2時間） 講義内容にについてまとめ、復習しておく。
8	仲村	［授業内容］ テーマ：箱根駅伝に向けたチームビルディングと各大学の戦略 ［授業方法］ 箱根駅伝を題材として、各大学の戦略などを講義する。口頭テストを行う。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 箱根駅伝の各大学の戦績などを調べておく。 （復習：2時間） ディスカッションの内容を整理する。
9	高梨	［授業内容］ テーマ：投擲競技の体力特性とトレーニングⅠ ［授業方法］ 投擲種目のトレーニング方法について、実践事例の講義を行い、ディスカッションする。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 投擲競技に関するトレーニング事例を調べておく。 （復習：2時間） ディスカッションの内容を整理する。
10	高梨	［授業内容］ テーマ：投擲種目の体力要素とコーチングⅡ ［授業方法］ 投擲競技中や練習中の事故例を講義し、安全対策をディスカッションする。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 投擲競技の練習や競技中の事故例を探す。 （復習：2時間） ディスカッションの内容を整理し、適切な安全対策をまとめる。
11	杉林	［授業内容］ テーマ：跳躍種目のコーチング（総論） ［授業方法］ 各跳躍種目の特性を映像で紹介する。各種目の基本的技能を講義する。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 跳躍種目の映像を見ておく。 （復習：2時間） 各跳躍種目の特性を理解し、整理しておく。
12	杉林	［授業内容］ テーマ：跳躍種目のトレーニング計画 ［授業方法］ 跳躍種目のトレーニング計画について、期分けを基に講義を行う。口頭テストを行う。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 跳躍種目のトレーニング計画を調べておく。 （復習：2時間） トレーニング計画のまとめを整理しておく。

13	青木	［授業内容］ テーマ：フィールド種目における体力値について ［授業方法］ 跳躍を中心としたフィールド種目の体力値について紹介する。口頭テストを行う。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） フィールド種目に必要な体力を調べておく。 （復習：2時間） ディスカッションから得られた内容をまとめる。
14	青木	［授業内容］ テーマ：フィールドテスト ［授業方法］ パワー系種目を中心としたフィールドテストを活用した研究成果を講義し、ディスカッションする。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） スポーツのフィールドテストを調べておく。 （復習：2時間） 競技パフォーマンスとフィールドテストの関係についてまとめる。
15	山崎	［授業内容］ テーマ：海外のコーチングと組織 ［授業方法］ 諸外国の陸上競技に関わるコーチングを紹介し、ディスカッションする。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 諸外国の陸上競技のコーチングを調べておく。 （復習：2時間） 諸外国の強化策や組織についてまとめる。
		定期試験は実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	測定系スポーツの指導理論と方法 （陸上競技）(後期後半)	授業形態	演習
英語科目名	Coaching and Method of Metrical Sports	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	青木　和浩	ナンバリング	
担当教員	青木　和浩、鯉川　なつえ、仲村　明、高梨　雄太、山崎　一彦、杉林　孝法		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 測定系スポーツの中で、陸上競技を対象にしている。本授業では、陸上競技の短距離・ハードル、長距離、跳躍、投擲というカテゴリーに分け、それぞれの指導理論や種目特性を理解し、専門的知識を獲得する。また、当該競技におけるコーチング方法の実践能力を養いための方法を理解する。 この授業では、陸上競技種目の中で、各カテゴリー別に授業を実施し、各種目の専門的知識を修得し、コーチング事例などの実践的な取り組みを紹介する。
到達目標	[授業の到達目標] 1.測定系スポーツの陸上競技に関する基礎知識を理解し、説明できる。 2.各種目の専門的な知識について理解し、説明できる。 3.各種目の実践的な取り組み事例を理解し、説明できる。 4.測定系スポーツにおけるワールドスタンダードな指導法的を理解できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 専門的な講義があるので、スポーツ経験を有している学生の受講が望ましい。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 授業内口頭テストは、授業時に回答をフィードバックする。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の基準] 1.陸上競技に関する基礎知識を理解し、説明できる。（レポート） 2.各種目の専門的な知識について理解し、説明できる。（レポート） 3.各種目の実践的な取り組み事例を理解し、説明できる。（口頭テスト） 4.測定系スポーツにおけるワールドスタンダードな指導法的を理解できる。（口頭テスト）
評価基準	[成績評価の方法] 各授業内での口頭テスト（ディスカッション）60%、授業内レポート40%の割合で評価する。

試験・課題に対するフィードバック方法
[試験・レポート等の課題に対するフィードバックの方法] 授業時にて返却し、模範解答や評価のポイントを説明する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
陸上競技のコーチング学	日本陸上競技学会　編	大修館書店	978-4-469-26880-5	

参考文献
[テキスト・参考書等] 授業中に適宜、資料を配布します。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：青木　和浩 E-mail: k-aoki[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　12:10～12:50 場所: 1号館5階1509室 ※それ以外の時間帯はE-mailで連絡すること。 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度 場所: センチュリータワー南5階教員控室 ※授業が無い期間はE-mailで連絡すること。
担当教員の実務経験	【実務経験のある教員による授業】 陸上競技においてオリンピック出場経験、実業団活動経験のある教員、日本スポーツ協会公認コーチ資格、JOCナショナルコーチアカデミー修了を持つ教員、日本代表監督およびコーチ経験のある教員が、指導現場において求められる知識や実践論をわかりやすく解説します。

備考	［学修時間］ この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 ［その他］ ・この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。 ・複数の担当教員のため、授業内容が前後する場合もあります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	青木、山崎、鯉川、杉林、高梨	［授業内容］ テーマ：ガイダンス・陸上競技総論 ［授業方法］ 授業の進め方、陸上競技の基礎的事項について講義を行う。	講義	（予習：2時間） 陸上競技種目を調べておく。 （復習：2時間） 授業計画の確認、陸上競技種目の競技内容を復習する。
2	山崎	［授業内容］ テーマ：短距離走・ハードル走のコーチングⅠ ［授業方法］ 短距離種目の特性とコーチング事例を講義する。口頭テストを行う。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 短距離走の種目と特徴を調べておく。 （復習：2時間） 短距離種目における技術とトレーニング方法を整理する。
3	山崎	［授業内容］ テーマ：短距離走・ハードル走のコーチングⅡ ［授業方法］ ハードル走の専門的知識とコーチング事例を講義する。口頭テストを行う。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） ハードルの戦術や年間計画の知見を得ておく。 （復習：2時間） ハードルの技術を復習し、まとめておく。
4	山崎	［授業内容］ テーマ：日本における強化と育成 ［授業方法］ 日本陸上競技界における強化と育成について講義し、ディスカッションを行う。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 日本の陸上競技の強化策と育成システムを見ておく。 （復習：2時間） ディスカッションの内容を整理する。
5	鯉川	［授業内容］ テーマ：持久系種目のコーチングⅠ ［授業方法］ 中長距離種目を題材にしたコーチングとトレーニング科学の事例を講義する。ディスカッションを行う。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 中距離のトレーニング科学における現状について知見を得ておく。 （復習：2時間） トレーニング科学の事例をまとめておく。
6	鯉川	［授業内容］ テーマ：持久系種目のコーチング理論と方法Ⅱ ［授業方法］ 長距離種目を題材にしたコーチングとトレーニング科学の事例を講義する。ディスカッションを行う。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 中距離のトレーニング科学における現状について知見を得ておく。 （復習：2時間） ディスカッションの内容を整理する。
7	鯉川	［授業内容］ テーマ：女性アスリートのコーチングⅠ ［授業方法］ 女性アスリートにかかわるコーチングの基礎を講義する。口頭テストを行う。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 女性アスリートの特性について、その概要を調べておく。 （復習：2時間） 講義内容にについてまとめ、復習しておく。
8	鯉川	［授業内容］ テーマ：女性アスリートのコーチングⅡ ［授業方法］ 女性アスリートにかかわるコーチングの諸問題や実践方法を講義する。口頭テストを行う。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 女性アスリートにおける諸問題を調べておく。 （復習：2時間） ディスカッションの内容を整理する。
9	高梨	［授業内容］ テーマ：投擲競技の体力特性とトレーニングⅠ ［授業方法］ 投擲種目のトレーニング方法について、実践事例の講義を行い、ディスカッションする。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 投擲競技に関するトレーニング事例を調べておく。 （復習：2時間） ディスカッションの内容を整理する。
10	高梨	［授業内容］ テーマ：投擲種目の体力要素とコーチングⅡ ［授業方法］ 投擲競技中や練習中の事故例を講義し、安全対策をディスカッションする。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 投擲競技の練習や競技中の事故例を探す。 （復習：2時間） ディスカッションの内容を整理し、適切な安全対策をまとめる。
11	杉林	［授業内容］ テーマ：跳躍種目のコーチング（総論） ［授業方法］ 各跳躍種目の特性を映像で紹介する。各種目の基本的技能を講義する。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 跳躍種目の映像を見ておく。 （復習：2時間） 各跳躍種目の特性を理解し、整理しておく。
12	杉林	［授業内容］ テーマ：跳躍種目のトレーニング計画 ［授業方法］ 跳躍種目のトレーニング計画について、期分けを基に講義を行う。口頭テストを行う。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 跳躍種目のトレーニング計画を調べておく。 （復習：2時間） トレーニング計画のまとめを整理しておく。

13	青木	［授業内容］ テーマ：フィールド種目における体力値について ［授業方法］ 跳躍を中心としたフィールド種目の体力値について紹介する。口頭テストを行う。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） フィールド種目に必要な体力を調べておく。 （復習：2時間） ディスカッションから得られた内容をまとめる。
14	青木	［授業内容］ テーマ：フィールドテスト ［授業方法］ パワー系種目を中心としたフィールドテストを活用した研究成果を講義し、ディスカッションする。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） スポーツのフィールドテストを調べておく。 （復習：2時間） 競技パフォーマンスとフィールドテストの関係についてまとめる。
15	山崎	［授業内容］ テーマ：海外のコーチングと組織 ［授業方法］ 諸外国の陸上競技に関わるコーチングを紹介し、ディスカッションする。	講義・ディスカッション	（予習：2時間） 諸外国の陸上競技のコーチングを調べておく。 （復習：2時間） 諸外国の強化策や組織についてまとめる。
		定期試験は実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	測定系スポーツの指導理論と方法 （水泳競技）（後期後半）	授業形態	演習
英語科目名	Coaching and Method of Metrical Sports	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	武田　剛	ナンバリング	
担当教員	武田　剛		

授業概要	
全体内容	競技力向上を目指す競泳選手のコーチングを行う際の科学的根拠に基づいた理論を学ぶ。また測定系スポーツに特徴的なコーチング現場の問題点や指導方法についても学習する。
到達目標	距離別の種目に応じた代謝系の貢献度を正しく理解している。 四泳法の共通する基本的な推進メカニズムについて理解している。 代表的な競泳のトレーニング方法の目的と意図を科学的な根拠を元に説明できる。 トレーニング科学に基づいた競泳選手のトレーニング計画を立てられる。 競泳競技全体の強化システムの問題点を指摘できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	[履修要件] とくにないが、大学学部において運動生理学、バイオメカニクス、トレーニング科学等の単位を取得していることが望ましい。 [履修上の注意（科目独自のルール）] １回の授業について、3分の２以上の出席がない場合は、その授業の平常点は評価されない。

成績評価の方法	
評価方法	平常点（30%） 課題レポート（70%） を総合して評価する。
評価基準	距離別の種目に応じた代謝系の貢献度を正しく理解している。（レポート） 四泳法の共通する基本的な推進メカニズムについて理解している。（レポート） 代表的な競泳のトレーニング方法の目的と意図を科学的な根拠を元に説明できる。（レポート） トレーニング科学に基づいた競泳選手のトレーニング計画を立てられる。（レポート） 競泳競技全体の強化システムの問題点を指摘できる。（レポート） 授業中のグループディスカッション中の発言や、授業中の質問の内容を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
課題レポートの評価とコメントはEmailかJ-PASSを通じて個別にフィードバックを行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
水泳コーチ教本（公益財団法人日本水泳連盟、大修館書店、第三版）＊購入の必要はない。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：武田　剛 Email: tutakeda[at]juntendo.ac.jp *[at]を@に変更してください。 [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 授業期間中の木曜日　12:10～12:50 場所：1号館4階1405室（水泳研究室） 上記の時間には予約に無しに対応しますが、他の学生との時間調整のためできるだけ前日までにEmailで予約をしてください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。 ＜本郷キャンパス＞ 各授業後の30分に対応します。他の学生との時間調整のためできるだけ前日までにEmailで予約をしてください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。 ＊授業期間外でも対応するため、Emailで予約をしてください。
担当教員の実務経験	競泳のバイオメカニクス分野の関する研究実績を持ち、かつ競泳コーチング経験を持つ教員が、研究上の課題や競泳トレーニング現場での課題について具体例を交えながら解説する。
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 ［その他］ ・この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。 ・受講者数等の事情により授業計画等に変更が生じる可能性があります。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	武田剛	授業の進め方のガイダンスを行う。授業概要、成績評価方法、履修上の注意点を説明する。活発なディスカッションを促すためのアイスブレイクプログラム等を行う。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して実施する。画面共有機能等を利用したグループディスカッションも行う。	（復習：４時間） アイスブレイクプログラムやコミュニケーション方法等の内容をノートにまとめる。
2	武田剛	水泳競技の概要を解説する。競泳の競技特定や競技規則を解説する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して講義を行う。講義後にグループディスカッションも行う。	（予習：２時間） 競泳の競技規則と競技会の審判法について調べてくる。 （復習：２時間） 今後の水泳競技が発展する具体的なアイディアをノートにまとめる。
3	武田剛	競泳競技の生理学について解説する。運動時間と代謝系システム、部分練習と運動強度について学習する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して講義を行う。講義後にグループディスカッションも行う。	（予習：２時間） ATP再合成を行うエネルギー供給系のメカニズム、運動時間と各系の動員様式を調べてくる。 （復習：２時間） 各種目別、各距離別でトレーニング処方で留意すべき点をノートにまとめる。
4	武田剛	競泳の力学について解説する。重力と浮力による水中トルク、姿勢制御に関わる力のモーメントについて学習する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して講義を行う。講義後にグループディスカッションも行う。	（予習：２時間） 浮力、重力、重心、力のモーメントについて理解を深めてくる。 （復習：２時間） 授業で解説した泳法以外における水中トルクや力のモーメントについてノートにまとめる。
5	武田剛	競泳の流体力学について解説する。抗力、揚力、粘性、定常状態と非定常状態の流体力学について学習する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して講義を行う。講義後にグループディスカッションも行う。	（予習：２時間） 抗力、揚力、粘性について理解を深めてくる。 （復習：２時間） 非定常理論を応用していると考えられる授業で紹介した泳法以外の推進動作を取り上げて推進メカニズムをノートに解説する。
6	武田剛	競泳のトレーニング科学、計画の立案理論について解説する。ピーキング、テーパリング、高強度インターバルトレーニングについて学習する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して講義を行う。講義後にグループディスカッションも行う。	（予習：２時間） 超回復理論、ピリオダイゼーション、インターバルトレーニングに関する理解を深めてくる。 （復習：２時間） 高強度トレーニング理論に基づいた新しいトレーニング計画の立て方にも続いた年間スケジュールを作成して理論の理解を深める。
7	武田剛	クロール、背泳ぎの推進理論、ドリルワークの解説を行う。一流選手の速さの秘密や練習方法を紹介する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して講義を行う。講義後にグループディスカッションも行う。	（復習：４時間） 授業で紹介された動画をみて、一流選手に見られる泳ぎの特徴を取り上げてノートにまとめる。
8	武田剛	平泳ぎとバタフライの推進理論、ドリルワークの解説を行う。一流選手の速さの秘密や練習方法を紹介する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して講義を行う。講義後にグループディスカッションも行う。	（復習：４時間） 授業で紹介された動画をみて、一流選手に見られる泳ぎの特徴を取り上げてノートにまとめる。
9	武田剛	競技団体（NF）による競技会強化や強化システムについて解説する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して講義を行う。講義後にグループディスカッションも行う。	（復習：４時間） 水泳以外の競技団体の競技会強化と強化システムを調べて、競泳との違いをノートにまとめる。

10	武田剛	測定系スポーツ（水泳）にコーチングの事例を紹介し、目標設定と戦術に関して解説する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して講義を行う。講義後にグループディスカッションも行う。	（予習：２時間） 競泳競技における標準記録（大会参加基準、強化指定選手基準）について調べてくる。 （復習：２時間） グループディスカッションを経て得られた自分にはない考え方をノートにまとめる。また授業で取り上げた事例について自分の答えをノートにまとめる。
11	武田剛	競泳の最新科学研究知見を解説する。トレーニング理論、方法論の基礎となる研究知見に触れて、解釈の仕方を学習する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して講義を行う。講義後にグループディスカッションも行う。	（予習：2時間） 水泳に関する科学論文を２編読み、わからない用語や考察部分をノートにまとめて授業中に質問できる準備を行う。 （復習：2時間） 授業で取り上げられた科学論文の原本を読み、授業で紹介された以外の詳細について理解を深める。
12	武田剛	競泳競技のコーチング論について解説する。優れたコーチの考え方、データに基づいた指導法、選手とのコミュニケーション方法、チームビルディング等について事例を用いて学習する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して受講生が予習して準備をしたプレゼンテーションを実施し、質疑応答を受講生同士で行う。	（予習：3時間） 競泳のコーチング論に関する書籍を事前に読んで理解を深めてから受講する。推薦図書（書籍）は授業内で提示する。 （復習：1時間） 自身の持つコーチング論と、優れたコーチのコーチング論とのギャップをまとめる。
13	武田剛	競泳に関する科学論文の要旨のプレゼンテーション、質疑応答を通じてさらに理解を深めて、科学論文の読み方を学習する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して受講生が予習して準備をしたプレゼンテーションを実施し、質疑応答を受講生同士で行う。	発表者（予習：4時間／復習：なし） 授業で発表する論文を読み、プレゼンテーションを作成する。 発表者以外（予習なし／復習：4時間） 発表された論文を1つ取り上げ、原本を読んで理解を深める。
14	武田剛	競泳に関する科学論文の要旨のプレゼンテーション、質疑応答を通じてさらに理解を深めて、科学論文の読み方を学習する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して受講生が予習して準備をしたプレゼンテーションを実施し、質疑応答を受講生同士で行う。	発表者（予習：4時間／復習：なし） 授業で発表する論文を読み、プレゼンテーションを作成する。 発表者以外（予習なし／復習：4時間） 発表された論文を1つ取り上げ、原本を読んで理解を深める。
15	武田剛	競泳に関する科学論文の要旨のプレゼンテーション、質疑応答を通じてさらに理解を深めて、科学論文の読み方を学習する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して受講生が予習して準備をしたプレゼンテーションを実施し、質疑応答を受講生同士で行う。	発表者（予習：4時間／復習：なし） 授業で発表する論文を読み、プレゼンテーションを作成する。 発表者以外（予習なし／復習：4時間） 発表された論文を1つ取り上げ、原本を読んで理解を深める。
		定期試験は実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	測定系スポーツの指導理論と方法 （水泳競技）（後期前半）	授業形態	演習
英語科目名	Coaching and Method of Metrical Sports	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	武田　剛	ナンバリング	
担当教員	武田　剛		

授業概要	
全体内容	競技力向上を目指す競泳選手のコーチングを行う際の科学的根拠に基づいた理論を学ぶ。また測定系スポーツに特徴的なコーチング現場の問題点や指導方法についても学習する。
到達目標	距離別の種目に応じた代謝系の貢献度を正しく理解している。 四泳法の共通する基本的な推進メカニズムについて理解している。 代表的な競泳のトレーニング方法の目的と意図を科学的な根拠を元に説明できる。 トレーニング科学に基づいた競泳選手のトレーニング計画を立てられる。 競泳競技全体の強化システムの問題点を指摘できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	[履修要件] とくにないが、大学学部において運動生理学、バイオメカニクス、トレーニング科学等の単位を取得していることが望ましい。 [履修上の注意（科目独自のルール）] １回の授業について、3分の２以上の出席がない場合は、その授業の平常点は評価されない。

成績評価の方法	
評価方法	平常点（30%） 課題レポート（70%） を総合して評価する。
評価基準	距離別の種目に応じた代謝系の貢献度を正しく理解している。（レポート） 四泳法の共通する基本的な推進メカニズムについて理解している。（レポート） 代表的な競泳のトレーニング方法の目的と意図を科学的な根拠を元に説明できる。（レポート） トレーニング科学に基づいた競泳選手のトレーニング計画を立てられる。（レポート） 競泳競技全体の強化システムの問題点を指摘できる。（レポート） 授業中のグループディスカッション中の発言や、授業中の質問の内容を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
課題レポートの評価とコメントはEmailかJ-PASSを通じて個別にフィードバックを行う。

テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
水泳コーチ教本（公益財団法人日本水泳連盟、大修館書店、第三版）＊購入の必要はない。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：武田　剛 Email: tutakeda[at]juntendo.ac.jp *[at]を@に変更してください。 [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 授業期間中の木曜日　12:10～12:50 場所：1号館4階1405室（水泳研究室） 上記の時間には予約に無しに対応しますが、他の学生との時間調整のためできるだけ前日までにEmailで予約をしてください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。 ＜本郷キャンパス＞ 各授業後の30分に対応します。他の学生との時間調整のためできるだけ前日までにEmailで予約をしてください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。 ＊授業期間外でも対応するため、Emailで予約をしてください。
担当教員の実務経験	競泳のバイオメカニクス分野の関する研究実績を持ち、かつ競泳コーチング経験を持つ教員が、研究上の課題や競泳トレーニング現場での課題について具体例を交えながら解説する。
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 ［その他］ ・この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。 ・受講者数等の事情により授業計画等に変更が生じる可能性があります。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	武田剛	授業の進め方のガイダンスを行う。授業概要、成績評価方法、履修上の注意点を説明する。活発なディスカッションを促すためのアイスブレイクプログラム等を行う。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して実施する。画面共有機能等を利用したグループディスカッションも行う。	（復習：４時間） アイスブレイクプログラムやコミュニケーション方法等の内容をノートにまとめる。
2	武田剛	水泳競技の概要を解説する。競泳の競技特定や競技規則を解説する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して講義を行う。講義後にグループディスカッションも行う。	（予習：２時間） 競泳の競技規則と競技会の審判法について調べてくる。 （復習：２時間） 今後の水泳競技が発展する具体的なアイディアをノートにまとめる。
3	武田剛	競泳競技の生理学について解説する。運動時間と代謝系システム、部分練習と運動強度について学習する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して講義を行う。講義後にグループディスカッションも行う。	（予習：２時間） ATP再合成を行うエネルギー供給系のメカニズム、運動時間と各系の動員様式を調べてくる。 （復習：２時間） 各種目別、各距離別でトレーニング処方で留意すべき点をノートにまとめる。
4	武田剛	競泳の力学について解説する。重力と浮力による水中トルク、姿勢制御に関わる力のモーメントについて学習する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して講義を行う。講義後にグループディスカッションも行う。	（予習：２時間） 浮力、重力、重心、力のモーメントについて理解を深めてくる。 （復習：２時間） 授業で解説した泳法以外における水中トルクや力のモーメントについてノートにまとめる。
5	武田剛	競泳の流体力学について解説する。抗力、揚力、粘性、定常状態と非定常状態の流体力学について学習する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して講義を行う。講義後にグループディスカッションも行う。	（予習：２時間） 抗力、揚力、粘性について理解を深めてくる。 （復習：２時間） 非定常理論を応用していると考えられる授業で紹介した泳法以外の推進動作を取り上げて推進メカニズムをノートに解説する。
6	武田剛	競泳のトレーニング科学、計画の立案理論について解説する。ピーキング、テーパリング、高強度インターバルトレーニングについて学習する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して講義を行う。講義後にグループディスカッションも行う。	（予習：２時間） 超回復理論、ピリオダイゼーション、インターバルトレーニングに関する理解を深めてくる。 （復習：２時間） 高強度トレーニング理論に基づいた新しいトレーニング計画の立て方にも続いた年間スケジュールを作成して理論の理解を深める。
7	武田剛	クロール、背泳ぎの推進理論、ドリルワークの解説を行う。一流選手の速さの秘密や練習方法を紹介する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して講義を行う。講義後にグループディスカッションも行う。	（復習：４時間） 授業で紹介された動画をみて、一流選手に見られる泳ぎの特徴を取り上げてノートにまとめる。
8	武田剛	平泳ぎとバタフライの推進理論、ドリルワークの解説を行う。一流選手の速さの秘密や練習方法を紹介する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して講義を行う。講義後にグループディスカッションも行う。	（復習：４時間） 授業で紹介された動画をみて、一流選手に見られる泳ぎの特徴を取り上げてノートにまとめる。
9	武田剛	競技団体（NF）による競技会強化や強化システムについて解説する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して講義を行う。講義後にグループディスカッションも行う。	（復習：４時間） 水泳以外の競技団体の競技会強化と強化システムを調べて、競泳との違いをノートにまとめる。

10	武田剛	測定系スポーツ（水泳）にコーチングの事例を紹介し、目標設定と戦術に関して解説する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して講義を行う。講義後にグループディスカッションも行う。	（予習：２時間） 競泳競技における標準記録（大会参加基準、強化指定選手基準）について調べてくる。 （復習：２時間） グループディスカッションを経て得られた自分にはない考え方をノートにまとめる。また授業で取り上げた事例について自分の答えをノートにまとめる。
11	武田剛	競泳の最新科学研究知見を解説する。トレーニング理論、方法論の基礎となる研究知見に触れて、解釈の仕方を学習する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して講義を行う。講義後にグループディスカッションも行う。	（予習：2時間） 水泳に関する科学論文を２編読み、わからない用語や考察部分をノートにまとめて授業中に質問できる準備を行う。 （復習：2時間） 授業で取り上げられた科学論文の原本を読み、授業で紹介された以外の詳細について理解を深める。
12	武田剛	競泳競技のコーチング論について解説する。優れたコーチの考え方、データに基づいた指導法、選手とのコミュニケーション方法、チームビルディング等について事例を用いて学習する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して受講生が予習して準備をしたプレゼンテーションを実施し、質疑応答を受講生同士で行う。	（予習：3時間） 競泳のコーチング論に関する書籍を事前に読んで理解を深めてから受講する。推薦図書（書籍）は授業内で提示する。 （復習：1時間） 自身の持つコーチング論と、優れたコーチのコーチング論とのギャップをまとめる。
13	武田剛	競泳に関する科学論文の要旨のプレゼンテーション、質疑応答を通じてさらに理解を深めて、科学論文の読み方を学習する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して受講生が予習して準備をしたプレゼンテーションを実施し、質疑応答を受講生同士で行う。	発表者（予習：4時間／復習：なし） 授業で発表する論文を読み、プレゼンテーションを作成する。 発表者以外（予習なし／復習：4時間） 発表された論文を1つ取り上げ、原本を読んで理解を深める。
14	武田剛	競泳に関する科学論文の要旨のプレゼンテーション、質疑応答を通じてさらに理解を深めて、科学論文の読み方を学習する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して受講生が予習して準備をしたプレゼンテーションを実施し、質疑応答を受講生同士で行う。	発表者（予習：4時間／復習：なし） 授業で発表する論文を読み、プレゼンテーションを作成する。 発表者以外（予習なし／復習：4時間） 発表された論文を1つ取り上げ、原本を読んで理解を深める。
15	武田剛	競泳に関する科学論文の要旨のプレゼンテーション、質疑応答を通じてさらに理解を深めて、科学論文の読み方を学習する。	オンラインミーティングツール（Zoomを予定）を使用して受講生が予習して準備をしたプレゼンテーションを実施し、質疑応答を受講生同士で行う。	発表者（予習：4時間／復習：なし） 授業で発表する論文を読み、プレゼンテーションを作成する。 発表者以外（予習なし／復習：4時間） 発表された論文を1つ取り上げ、原本を読んで理解を深める。
		定期試験は実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	表現系スポーツの指導理論と方法 （ダンス）(後期後半)	授業形態	講義
英語科目名	Coaching and Method of Phenotypic Sports	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	伊藤　まこと	ナンバリング	
担当教員	伊藤　まこと、中村　恭子		

授業概要	
全体内容	［授業全体の概要］ 　各種ダンスの種目特性と発展の歴史について、他の運動領域と比較しながら理解する。ダンスの美的表現原理について理解し、指導の要点として活用できるようにする。多様なダンス種目における表現形式の特徴や、中学・高校のダンス領域における学習内容や指導方法について理解し、効果的な指導計画を作成できるようにする。
到達目標	［到達目標］ 1.ダンスの種類と機能、運動特性、構造と構成要素、美的表現原理について理解できる。 2.多様なダンス種目や学校体育ダンス領域の指導理論と方法について理解し、効果的な指導計画を立てることができる。 3.ダンスの分析法や実践実証方法について学び、多様な研究の視点を知り、活用・発案できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 　高等学校保健体育科専修教員免許取得を志している学生の履修を薦める。 スポーツ健康科学部開講科目の「スポーツコーチング演習（ダンス）」または「ダンス」実技を受講していることが望ましい。 ［履修上の注意］ 　欠席・遅刻・早退をする場合は、あらかじめメールにて連絡すること。 　30分以上の遅刻や早退は欠席扱いにする場合もある。

成績評価の方法	
評価方法	［評価方法］ 　毎時の課題発表とレポート40%、指導計画・指導案30%、授業態度・演習や討議に取り組む姿勢30%
評価基準	［評価基準］ 1.ダンスの種類と機能、運動特性、構造と構成要素、美的表現原理について理解し、記述できる。（課題発表・レポート） 2.多様なダンス種目や学校体育ダンス領域の指導理論に基づいた効果的な指導計画・指導案を作成できる。（指導計画・指導案） 3.ダンスの分析法や実践実証方法について理解し、ダンスの指導や研究に活用・発案できる。（演習・討議）

試験・課題に対するフィードバック方法
［試験等の課題に対するフィードバックの方法］ 課題発表については、その場で評価を返す。 　指導計画と指導案については、改善点を記入し返却する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版　明日からトライ！ダンスの授業	全国ダンス・表現運動授業研究会編	大修館書店	9784469269185	

参考文献

1.『世界のダンス-民族の踊り、その歴史と文化-』　ジェラルド・ジョイナス、大修館書店、2000
2.『コンテンポラリー・ダンス徹底ガイド』乗越たかお、作品社、2003
3.『ダンストレーニングの科学』　P.M.クラークソン・M.スクライナー、不昧堂出版、1999
4.『中学校学習指導要領解説保健体育編』文部科学省、東山書房、2018
5.『高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編』東山書房、2019
　その他、必要に応じて資料やプリント授業時に配布する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：伊藤まこと E-mail：m.ito.rt [at] juntendo.ac.jp ※ [at] を@に変更してください。 ［オフィスアワー］ 〈さくらキャンパス〉 日時：前期：水曜日12:00-17:00, 木曜日10:30-12:00, 後期：水曜日12:00-17:00, 金曜日10:30-12:00 場所：1号館2階1206 教員室 ただし、上記の時間帯においても会議等で不在の場合もあるので、前日までにE-mail等で確認・予約すること。
担当教員の実務経験	

備考	［学修時間］ 　この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間と予習・復習60時間）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ 　この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられている。 　テキストと学習指導要領解説を精読したうえで授業に臨み、理解を深めるよう、指導者としての心構えをもって受講すること。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中村恭子	［授業内容］ ダンスの種類と発展の歴史 ［授業方法］ 講義および映像資料から世界各地・各年代に発祥したダンスの種類について、映像資料も用いて解説する。	講義と討議	（予習：2時間） テキスト理論編を読んで学校体育のダンス学習内容について理解する。 （復習：2時間） 多種多様なダンスの映像をネット上で検索して鑑賞する。
2	中村恭子	［授業内容］ ダンスの美的原理と構成要素 ［授業方法］ 基本的なダンスの美的原理と構成要素について解説した後、各種ダンスの美的原理と構成要素について討議する。	講義と討議	（予習：2時間） 各種ダンスの表現形式や表現技法について文献等で調べる。 （復習：2時間） 各種ダンスの美的原理と構成要素についてまとめる。
3	中村恭子	［授業内容］ リズム系ダンスの種類と特徴 ［授業方法］ 担当者の課題発表と質疑応答、討議を行う。 現代的なリズムのダンスの学習指導について映像資料を用いながら解説する。	課題発表と質疑応答、討議	（予習：2時間） 課題発表① リズム系ダンスのうち担当種目について、その発祥や踊り方の特徴、伝承方法について調べてレポートにまとめ、発表準備をする。 （復習：2時間） 授業で学習したリズム系ダンスの種類と特徴についてまとめる。
4	中村恭子	［授業内容］ リズム系ダンスの表現技能と指導理論 ［授業方法］ リズム系ダンスの基本技能と指導理論について解説した後、効果的な指導法について討議する。	講義と討議	（予習：2時間） 自分が担当したリズム系ダンスの基本技能について調べてレポートにまとめ、発表準備をする。 （復習：2時間） 各種リズム系ダンスの基本技能と指導理論についてまとめる。
5	中村恭子	［授業内容］ 表現系ダンスの種類と特徴 ［授業方法］ 担当者の課題発表と質疑応答、討議を行う。 創作ダンスの学習指導について映像資料を用いながら解説する。	課題発表と質疑応答、討議	（予習：2時間） 課題発表② 表現系ダンスのうち担当種目について、その発祥や踊り方の特徴、伝承方法について調べてレポートにまとめ、発表準備をする。 （復習：2時間） 授業で学習した各種表現系ダンスの種類と特徴についてまとめる。
6	中村恭子	［授業内容］ 表現系ダンスの表現技能と指導理論 ［授業方法］ 表現系ダンスの基本技能と指導理論について解説した後、効果的な指導法について討議する。	講義と討議	（予習：2時間） 自分が担当した表現系ダンスの基本技能と指導方法について調べてレポートにまとめ、発表準備をする。 （復習：2時間） 表現系ダンスの基本技能と指導理論についてまとめる。
7	中村恭子	［授業内容］ 民族系ダンスの種類と特徴 ［授業方法］ 担当者の課題発表と質疑応答、討議を行う。 日本の民踊や民俗芸能について映像資料を用いながら解説する。	講義と討議	（予習：2時間） 課題発表③ 民族系ダンスのうち担当種目について、その発祥や踊り方の特徴、伝承方法について調べてレポートにまとめ、発表準備をする。 （復習：2時間） 授業で学習した各種民族系ダンスの種類と特徴についてまとめる。
8	中村恭子	［授業内容］ 民族系ダンスの表現技能と指導理論 ［授業方法］ 民族系ダンスの基本技能と指導理論について解説した後、効果的な指導法について討議する。	講義と討議	（予習：2時間） 自分が担当した民族系ダンスの基本技能と指導方法について調べてレポートにまとめ、発表準備をする。 （復習：4時間） 授業で学習した各種民族系ダンスの基本技能と指導理論についてまとめる。

9	中村恭子	［授業内容］ ダンス研究法①運動生理学的アプローチ ［授業方法］ 担当者の課題発表と質疑応答、討議を行う。 ダンス動作の筋活動についての研究を紹介し、内容と方法について討議する。	課題発表と質疑応答、討議	（予習：2時間） 課題発表④ ダンスを対象とした運動生理学的な先行研究を調べてレポートにまとめ、発表準備をする。 （復習：2時間） 授業で学習した運動生理学的な各種研究方法についてまとめる。
10	中村恭子	［授業内容］ ダンス研究法②バイオメカニクス的アプローチ ［授業方法］ 担当者の課題発表と質疑応答、討議を行う。 ダンス動作の動き方についての研究を紹介し、内容と方法について討議する。	課題発表と質疑応答、討議	（予習：2時間） 課題発表⑤ ダンスを対象としたバイオメカニクス的な先行研究を調べてレポートにまとめ、発表準備をする。 （復習：2時間） 授業で学習したバイオメカニクス的な各種研究方法についてまとめる。
11	中村恭子	［授業内容］ ダンス研究法③鑑賞評価からのアプローチ ［授業方法］ 担当者の課題発表と質疑応答、討議を行う。 ダンスの鑑賞評価に関する研究を紹介し、内容と方法について討議する。	課題発表と質疑応答、討議	（予習：2時間） 課題発表⑥ ダンスの鑑賞評価に関する先行研究を調べてレポートにまとめ、発表準備をする。 （復習：2時間） 授業で学習したダンスの鑑賞評価に関する各種研究方法についてまとめる。
12	中村恭子	［授業内容］ ダンス研究法④授業評価からのアプローチ ［授業方法］ 担当者の課題発表と質疑応答、討議を行う。 ダンスの学習評価および授業評価に関する研究を紹介し、内容と方法について討議する。	課題発表と質疑応答、討議	（予習：2時間） 課題発表⑦ ダンスの学習評価および授業評価に関する先行研究を調べてレポートにまとめ、発表準備をする。 （復習：2時間） 授業で学習したダンスの学習評価および授業評価に関する各種研究方法についてまとめる。
13	中村恭子	［授業内容］ ダンス指導計画の要点 ［授業方法］ ダンスの指導計画を作成する。 各自の指導計画について個別にアドバイスする。	演習と個別指導	（予習：3時間） 取り上げてみたい各種ダンスや学校体育ダンス領域の指導計画を立案する。 （復習：1時間） 自分が提案した指導計画について指摘された点を検討・修正する。
14	中村恭子	［授業内容］ ダンス指導案の作成 ［授業方法］ 主体的・対話的で深い学びにつなげるダンスの指導案（時案）を作成する。 各自の指導案について個別にアドバイスする。	演習と個別指導	（復習：3時間） ダンスの単元計画と指導時案を完成させる。 （復習：1時間） 自分の単元計画と指導時案について、指摘された点を検討・修正する。
15	中村恭子	ダンス指導実習	作成した指導案をもとに模擬授業形式の指導実習を実施し、相互評価と協議を行う。	（予習：3時間） 作成した指導時案のうち、課題提示部分の指導実習ができるように教材準備と指導練習をする。 （復習：1時間） 指導実習に対して指摘された点を踏まえ、指導時案を修正し、反省レポートを提出する。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	表現系スポーツの指導理論と方法 （体操競技）(後期前半)	授業形態	演習
英語科目名	Coaching and Method of Phenotypic Sports	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	冨田　洋之	ナンバリング	
担当教員	冨田　洋之、原田　睦巳		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 本授業は、器械運動及び体操競技における歴史や発展経過を学ぶとともに、体操競技における専門知識に触れ、採点競技の特性や器械運動および、体操競技特有の実践的指導方法を理解を深めることを目的とし、実践に役立てることができるように授業を展開していく。 さらに、スポーツ健康科学の幅広い知識と教養及びそれらの活用能力として技術の観察や分析する能力を養い、コーチング科学を中心とした知識と技能及び観察力に優れたスポーツ指導者の育成を目指す。
到達目標	[授業の到達目標] 1. 技を習得するために、自己観察能力、および他者観察能力の重要性について理解できるようになる。 2. 体操競技における専門的知識や採点競技の特性について深く理解し、実践の教育・指導の場面に役立てられるようになる。 3. 器械運動及び体操競技における歴史や発展経過について理解し、系統的・段階的な指導を展開することが出来るようになる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 特に設けないが、体操競技を専門とするもの、また体操競技に関する知識に興味関心が高い学生が望ましい。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 課題レポート（６０%）、平常点（４０%）を総合して評価する。
評価基準	［成績評価の基準］ 1. 技を習得するために、自己観察能力、および他者観察能力の重要性について説明できる。（課題レポート） 2. 体操競技における専門的知識や採点競技の特性について説明できる。（課題レポート） 3. 器械運動及び体操競技における歴史や発展経過について説明できる。（課題レポート） 4.　授業やプレゼンテーションの取り組みなど受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
［課題に対するフィードバックの方法］ 課題レポートは翌週の授業において、評価や助言をフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
体操競技のコーチング	金子明友	大修館書店		
わざの伝承	金子明友	明和出版		
スポーツ運動学	クルト・マイネル	大修館書店		
自分を操る	冨田洋之	産業編集センター	978-4-86311-306-0	

参考文献
授業中に関しては適宜、資料を配布する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 原田　睦巳 e-mail ： mtharada[at]juntendo.ac.jp ※ [at]を@に変更してください。 冨田洋之 e-mail ： htomita[at]juntendo.ac.jp ※ [at]を@に変更してください。 ［オフィスアワー］ ＜さくらキャンパス＞ 日時：さくらキャンパスでの授業時間後の１時間程度。※できる限り、前日までにE-Mailでお知らせください。 場所：１号館5階　1511 体操競技研究室 ＜本郷・御茶ノ水キャンパス＞ 日時：本郷での担当授業後の１時間程度。※できる限り、前日までにE-Mailでお知らせください。 場所：センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	国際体操連盟において技術委員の業務にあたっていた経験を生かし、体操競技の指導現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説します。

備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1回	原田・冨田	[授業内容] 体操競技におけるオリンピックの歴史及び現在の取り組みについて説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 日本オリンピック委員会（JOC）のホームページ（http://www.joc.or.jp/）を閲覧し、体操競技におけるオリンピックの歴史について調べること。 (復習:2時間) JOCのホームページから調べた体操競技の歴史と本授業で得た体操競技の歴史との相違点や追加点を検証し、その内容をまとめること。
2回	原田・冨田	[授業内容] 世界における体操競技の歴史とその特性及びその内容を説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 「体操競技のコーチング」第1章[体操競技の概念]を読み、疑問点について調べてくること。 (復習:2時間) 当該授業で得た源流を探る登場人物について、図書やインターネット等を用いて調べること。
3回	原田・冨田	[授業内容] 日本における体操競技の歴史とその特性及びその内容を説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 図書及びインターネット等を用いて、日本の体操競技の歴史について調べ、最も印象に残る人物について詳細に調べること。又は、最も印象に残る大会についてでも良い。 (復習:2時間) 予習に手調べた人物及び大会について、授業で得た内容との相違点や加筆・修正部分を検討し、その内容をまとめること。
4回	原田・冨田	[授業内容] 採点規則の変遷とその内容を学習する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) （公財）日本体操協会のホームページ（http://www.jpn-gym.or.jp/）から「体操競技ルール概要」のページへアクセスし、その内容をよく調べること。 (復習:2時間) 採点規則の発展について得た内容から、事前に調べた現行の採点規則との相違点について検討を加えその内容をまとめること。
5回	原田・冨田	[授業内容] 指導現場で行われているコーチングの方法論とその概要を説明する。 [授業方法] グループディスカッションおよび発表を行う。	グループワーク	(予習:2時間) 自身の専門種目（又は以前行っていた）競技種目におけるコーチング方法について、具体的に受けている（又は受けた）コーチング内容についてレポートにまとめること。 (復習:2時間) 事前にレポート課題として記入した内容と、授業時に実施したグループディスカッションで得られた他種目の内容とを比較検討し、その内容を詳細にまとめること。
6回	原田・冨田	[授業内容] 体操競技の要求されるべき体力とその精神力を説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 「体操競技のコーチング」第4章. [トレーニング計画]を読み、疑問点について調べてくること。 (復習:2時間) 「アスリートの精神力の向上」について図書・インターネット等を用いて調べ、レポートに詳細にまとめること。
7回	原田・冨田	[授業内容] 運動（技）を指導するための様々な運動課題の解決法を説明する。（前半） [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 「体操競技のコーチング」第5章. [技の構造]を読み、疑問点について詳細に調べてくること。 (復習:2時間) 「スポーツ運動学」第3章. 2[スポーツの運動経過における本質的徴表]を読み、その内容をレポートにまとめること。

8回	原田・冨田	[授業内容] 運動（技）を指導するための様々な運動課題の解決法を説明する。（後半） [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 「体操競技のコーチング」第5章. [技の構造]を読み、疑問点について詳細に調べてくること。 (復習:2時間) 「スポーツ運動学」第3章. 2[スポーツの運動経過における本質的徴表]を読み、その内容をレポートにまとめること。
9回	原田・冨田	[授業内容] 運動（技）の系統性の理解及び、段階的指導の必要性とその概要を説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 「体操競技のコーチング」第6章. [技の指導法 1. 技のコーチングの一般的基礎]を読み、疑問点・不明点を洗い出し、その内容を調べてくること。 (復習:2時間) 授業内でのキーワードについて、図書やインターネット等を用いて詳細に調べ、レポートにまとめること。
10回	原田・冨田	[授業内容] 運動（技）の良否の価値判断基準となる「質」を把握するための視点について説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 「体操競技のコーチング」第6章. 2[技のコーチングの運動形態学的認識]を読み、疑問点や不明点について調べてくること。 (復習:2時間) 「質とは何か」ということについて図書やインターネット等を用いてその内容を調べてまとめること。（参考図書：クルト・マイネル著「動きの感性学」）
11回	原田・冨田	[授業内容] 運動（技）が持つ「一回性の現象」についての理解や観察することの重要性について説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 「１回性の現象」とは何かを参考図書等を用いて調べ、その内容をまとめること。 (復習:2時間) 身近にある運動や動きを例に挙げ、「１回性の現象」の内容をレポートに詳細にまとめること。
12回	原田・冨田	[授業内容] 自己観察・他者観察の重要性及び「みる」ということについて説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 「体操競技のコーチング」第６章. [《2》技の自己観察の意義・《3》技の客観観察の意義]を読み、疑問点について調べること。 (復習:2時間) 「印象分析」　について図書やインターネット等を用いて調べレポートにまとめること。（参考図書：金子明友著「身体知の形成」上・下）
13回	原田・冨田	[授業内容] 補助と幇助の違い、及びその内容について説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 「体操競技のコーチング」第６章. 《４》幇助の意義とその技術を読み、疑問点・不明点について調べること。 (復習:2時間) 体操競技及び器械運動の指導者になった場合を想定し、課題技を例に挙げて具体的な幇助方法を検討し、レポートにまとめること。
14回	原田・冨田	[授業内容] 器械・器具の発達と技術発展の関連性について説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 受講生それぞれの専門競技種目(又は以前行っていた競技種目）における用具や用品の歴史について調べてまとめること。 (復習:2時間) 体操競技における器械・器具の変遷と技術発達が関連するように、受講生それぞれの専門競技種目(又は以前行っていた競技種目）における用具や用品の変遷と技術発達や記録更新について調べること。
15回	原田・冨田	[授業内容] 現在の世界における状況及び今後の発展性について説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 当該年度の主要国際大会の大会結果をインターネット等を用いて調べてまとめること。 (復習:2時間) 当該年度の主要国際大会における各種目の優勝者の得点から、前年度の優勝者の得点と比較し、その内容を詳細に調べてまとめること。
		定期試験は実施しない		

科目名	表現系スポーツの指導理論と方法 （体操競技）(後期後半)	授業形態	演習
英語科目名	Coaching and Method of Phenotypic Sports	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	冨田　洋之	ナンバリング	
担当教員	冨田　洋之、原田　睦巳		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 本授業は、器械運動及び体操競技における歴史や発展経過を学ぶとともに、体操競技における専門知識に触れ、採点競技の特性や器械運動および、体操競技特有の実践的指導方法を理解を深めることを目的とし、実践に役立てることができるように授業を展開していく。 さらに、スポーツ健康科学の幅広い知識と教養及びそれらの活用能力として技術の観察や分析する能力を養い、コーチング科学を中心とした知識と技能及び観察力に優れたスポーツ指導者の育成を目指す。
到達目標	[授業の到達目標] 1. 技を習得するために、自己観察能力、および他者観察能力の重要性について理解できるようになる。 2. 体操競技における専門的知識や採点競技の特性について深く理解し、実践の教育・指導の場面に役立てられるようになる。 3. 器械運動及び体操競技における歴史や発展経過について理解し、系統的・段階的な指導を展開することが出来るようになる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 特に設けないが、体操競技を専門とするもの、また体操競技に関する知識に興味関心が高い学生が望ましい。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 課題レポート（６０%）、平常点（４０%）を総合して評価する。
評価基準	［成績評価の基準］ 1. 技を習得するために、自己観察能力、および他者観察能力の重要性について説明できる。（課題レポート） 2. 体操競技における専門的知識や採点競技の特性について説明できる。（課題レポート） 3. 器械運動及び体操競技における歴史や発展経過について説明できる。（課題レポート） 4.　授業やプレゼンテーションの取り組みなど受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
［課題に対するフィードバックの方法］ 課題レポートは翌週の授業において、評価や助言をフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
体操競技のコーチング	金子明友	大修館書店		
わざの伝承	金子明友	明和出版		
スポーツ運動学	クルト・マイネル	大修館書店		
自分を操る	冨田洋之	産業編集センター	978-4-86311-306-0	

参考文献
授業中に関しては適宜、資料を配布する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 原田　睦巳 e-mail ： mtharada[at]juntendo.ac.jp ※ [at]を@に変更してください。 冨田洋之 e-mail ： htomita[at]juntendo.ac.jp ※ [at]を@に変更してください。 ［オフィスアワー］ ＜さくらキャンパス＞ 日時：さくらキャンパスでの授業時間後の１時間程度。※できる限り、前日までにE-Mailでお知らせください。 場所：１号館5階　1511 体操競技研究室 ＜本郷・御茶ノ水キャンパス＞ 日時：本郷での担当授業後の１時間程度。※できる限り、前日までにE-Mailでお知らせください。 場所：センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	国際体操連盟において技術委員の業務にあたっていた経験を生かし、体操競技の指導現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説します。

備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1回	原田・冨田	[授業内容] 体操競技におけるオリンピックの歴史及び現在の取り組みについて説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 日本オリンピック委員会（JOC）のホームページ（http://www.joc.or.jp/）を閲覧し、体操競技におけるオリンピックの歴史について調べること。 (復習:2時間) JOCのホームページから調べた体操競技の歴史と本授業で得た体操競技の歴史との相違点や追加点を検証し、その内容をまとめること。
2回	原田・冨田	[授業内容] 世界における体操競技の歴史とその特性及びその内容を説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 「体操競技のコーチング」第1章[体操競技の概念]を読み、疑問点について調べてくること。 (復習:2時間) 当該授業で得た源流を探る登場人物について、図書やインターネット等を用いて調べること。
3回	原田・冨田	[授業内容] 日本における体操競技の歴史とその特性及びその内容を説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 図書及びインターネット等を用いて、日本の体操競技の歴史について調べ、最も印象に残る人物について詳細に調べること。又は、最も印象に残る大会についてでも良い。 (復習:2時間) 予習に手調べた人物及び大会について、授業で得た内容との相違点や加筆・修正部分を検討し、その内容をまとめること。
4回	原田・冨田	[授業内容] 採点規則の変遷とその内容を学習する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) （公財）日本体操協会のホームページ（http://www.jpn-gym.or.jp/）から「体操競技ルール概要」のページへアクセスし、その内容をよく調べること。 (復習:2時間) 採点規則の発展について得た内容から、事前に調べた現行の採点規則との相違点について検討を加えその内容をまとめること。
5回	原田・冨田	[授業内容] 指導現場で行われているコーチングの方法論とその概要を説明する。 [授業方法] グループディスカッションおよび発表を行う。	グループワーク	(予習:2時間) 自身の専門種目（又は以前行っていた）競技種目におけるコーチング方法について、具体的に受けている（又は受けた）コーチング内容についてレポートにまとめること。 (復習:2時間) 事前にレポート課題として記入した内容と、授業時に実施したグループディスカッションで得られた他種目の内容とを比較検討し、その内容を詳細にまとめること。
6回	原田・冨田	[授業内容] 体操競技の要求されるべき体力とその精神力を説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 「体操競技のコーチング」第4章. [トレーニング計画]を読み、疑問点について調べてくること。 (復習:2時間) 「アスリートの精神力の向上」について図書・インターネット等を用いて調べ、レポートに詳細にまとめること。
7回	原田・冨田	[授業内容] 運動（技）を指導するための様々な運動課題の解決法を説明する。（前半） [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 「体操競技のコーチング」第5章. [技の構造]を読み、疑問点について詳細に調べてくること。 (復習:2時間) 「スポーツ運動学」第3章. 2[スポーツの運動経過における本質的徴表]を読み、その内容をレポートにまとめること。

8回	原田・冨田	[授業内容] 運動（技）を指導するための様々な運動課題の解決法を説明する。（後半） [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 「体操競技のコーチング」第5章. [技の構造]を読み、疑問点について詳細に調べてくること。 (復習:2時間) 「スポーツ運動学」第3章. 2[スポーツの運動経過における本質的徴表]を読み、その内容をレポートにまとめること。
9回	原田・冨田	[授業内容] 運動（技）の系統性の理解及び、段階的指導の必要性とその概要を説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 「体操競技のコーチング」第6章. [技の指導法 1. 技のコーチングの一般的基礎]を読み、疑問点・不明点を洗い出し、その内容を調べてくること。 (復習:2時間) 授業内でのキーワードについて、図書やインターネット等を用いて詳細に調べ、レポートにまとめること。
10回	原田・冨田	[授業内容] 運動（技）の良否の価値判断基準となる「質」を把握するための視点について説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 「体操競技のコーチング」第6章. 2[技のコーチングの運動形態学的認識]を読み、疑問点や不明点について調べてくること。 (復習:2時間) 「質とは何か」ということについて図書やインターネット等を用いてその内容を調べてまとめること。（参考図書：クルト・マイネル著「動きの感性学」）
11回	原田・冨田	[授業内容] 運動（技）が持つ「一回性の現象」についての理解や観察することの重要性について説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 「１回性の現象」とは何かを参考図書等を用いて調べ、その内容をまとめること。 (復習:2時間) 身近にある運動や動きを例に挙げ、「１回性の現象」の内容をレポートに詳細にまとめること。
12回	原田・冨田	[授業内容] 自己観察・他者観察の重要性及び「みる」ということについて説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 「体操競技のコーチング」第６章. [《2》技の自己観察の意義・《3》技の客観観察の意義]を読み、疑問点について調べること。 (復習:2時間) 「印象分析」　について図書やインターネット等を用いて調べレポートにまとめること。（参考図書：金子明友著「身体知の形成」上・下）
13回	原田・冨田	[授業内容] 補助と幇助の違い、及びその内容について説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 「体操競技のコーチング」第６章. 《４》幇助の意義とその技術を読み、疑問点・不明点について調べること。 (復習:2時間) 体操競技及び器械運動の指導者になった場合を想定し、課題技を例に挙げて具体的な幇助方法を検討し、レポートにまとめること。
14回	原田・冨田	[授業内容] 器械・器具の発達と技術発展の関連性について説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 受講生それぞれの専門競技種目(又は以前行っていた競技種目）における用具や用品の歴史について調べてまとめること。 (復習:2時間) 体操競技における器械・器具の変遷と技術発達が関連するように、受講生それぞれの専門競技種目(又は以前行っていた競技種目）における用具や用品の変遷と技術発達や記録更新について調べること。
15回	原田・冨田	[授業内容] 現在の世界における状況及び今後の発展性について説明する。 [授業方法] 配布資料およびスライドを用いて講義を進める。	講義およびグループワーク	(予習:2時間) 当該年度の主要国際大会の大会結果をインターネット等を用いて調べてまとめること。 (復習:2時間) 当該年度の主要国際大会における各種目の優勝者の得点から、前年度の優勝者の得点と比較し、その内容を詳細に調べてまとめること。
		定期試験は実施しない		

科目名	表現系スポーツの指導理論と方法 （ダンス）(後期後半)	授業形態	講義
英語科目名	Coaching and Method of Phenotypic Sports	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	伊藤　まこと	ナンバリング	
担当教員	伊藤　まこと、中村　恭子		

授業概要	
全体内容	［授業全体の概要］ 　各種ダンスの種目特性と発展の歴史について、他の運動領域と比較しながら理解する。ダンスの美的表現原理について理解し、指導の要点として活用できるようにする。多様なダンス種目における表現形式の特徴や、中学・高校のダンス領域における学習内容や指導方法について理解し、効果的な指導計画を作成できるようにする。
到達目標	［到達目標］ 1.ダンスの種類と機能、運動特性、構造と構成要素、美的表現原理について理解できる。 2.多様なダンス種目や学校体育ダンス領域の指導理論と方法について理解し、効果的な指導計画を立てることができる。 3.ダンスの分析法や実践実証方法について学び、多様な研究の視点を知り、活用・発案できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 　高等学校保健体育科専修教員免許取得を志している学生の履修を薦める。 スポーツ健康科学部開講科目の「スポーツコーチング演習（ダンス）」または「ダンス」実技を受講していることが望ましい。 ［履修上の注意］ 　欠席・遅刻・早退をする場合は、あらかじめメールにて連絡すること。 　30分以上の遅刻や早退は欠席扱いにする場合もある。

成績評価の方法	
評価方法	［評価方法］ 　毎時の課題発表とレポート40%、指導計画・指導案30%、授業態度・演習や討議に取り組む姿勢30%
評価基準	［評価基準］ 1.ダンスの種類と機能、運動特性、構造と構成要素、美的表現原理について理解し、記述できる。（課題発表・レポート） 2.多様なダンス種目や学校体育ダンス領域の指導理論に基づいた効果的な指導計画・指導案を作成できる。（指導計画・指導案） 3.ダンスの分析法や実践実証方法について理解し、ダンスの指導や研究に活用・発案できる。（演習・討議）

試験・課題に対するフィードバック方法
［試験等の課題に対するフィードバックの方法］ 課題発表については、その場で評価を返す。 　指導計画と指導案については、改善点を記入し返却する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版　明日からトライ！ダンスの授業	全国ダンス・表現運動授業研究会編	大修館書店	9784469269185	

参考文献

1.『世界のダンス-民族の踊り、その歴史と文化-』　ジェラルド・ジョイナス、大修館書店、2000
2.『コンテンポラリー・ダンス徹底ガイド』乗越たかお、作品社、2003
3.『ダンストレーニングの科学』　P.M.クラークソン・M.スクライナー、不昧堂出版、1999
4.『中学校学習指導要領解説保健体育編』文部科学省、東山書房、2018
5.『高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編』東山書房、2019
　その他、必要に応じて資料やプリント授業時に配布する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：伊藤まこと E-mail：m.ito.rt [at] juntendo.ac.jp ※ [at] を@に変更してください。 ［オフィスアワー］ 〈さくらキャンパス〉 日時：前期：水曜日12:00-17:00, 木曜日10:30-12:00, 後期：水曜日12:00-17:00, 金曜日10:30-12:00 場所：1号館2階1206 教員室 ただし、上記の時間帯においても会議等で不在の場合もあるので、前日までにE-mail等で確認・予約すること。
担当教員の実務経験	

備考	［学修時間］ 　この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間と予習・復習60時間）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ 　この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられている。 　テキストと学習指導要領解説を精読したうえで授業に臨み、理解を深めるよう、指導者としての心構えをもって受講すること。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中村恭子	［授業内容］ ダンスの種類と発展の歴史 ［授業方法］ 講義および映像資料から世界各地・各年代に発祥したダンスの種類について、映像資料も用いて解説する。	講義と討議	（予習：2時間） テキスト理論編を読んで学校体育のダンス学習内容について理解する。 （復習：2時間） 多種多様なダンスの映像をネット上で検索して鑑賞する。
2	中村恭子	［授業内容］ ダンスの美的原理と構成要素 ［授業方法］ 基本的なダンスの美的原理と構成要素について解説した後、各種ダンスの美的原理と構成要素について討議する。	講義と討議	（予習：2時間） 各種ダンスの表現形式や表現技法について文献等で調べる。 （復習：2時間） 各種ダンスの美的原理と構成要素についてまとめる。
3	中村恭子	［授業内容］ リズム系ダンスの種類と特徴 ［授業方法］ 担当者の課題発表と質疑応答、討議を行う。 現代的なリズムのダンスの学習指導について映像資料を用いながら解説する。	課題発表と質疑応答、討議	（予習：2時間） 課題発表① リズム系ダンスのうち担当種目について、その発祥や踊り方の特徴、伝承方法について調べてレポートにまとめ、発表準備をする。 （復習：2時間） 授業で学習したリズム系ダンスの種類と特徴についてまとめる。
4	中村恭子	［授業内容］ リズム系ダンスの表現技能と指導理論 ［授業方法］ リズム系ダンスの基本技能と指導理論について解説した後、効果的な指導法について討議する。	講義と討議	（予習：2時間） 自分が担当したリズム系ダンスの基本技能について調べてレポートにまとめ、発表準備をする。 （復習：2時間） 各種リズム系ダンスの基本技能と指導理論についてまとめる。
5	中村恭子	［授業内容］ 表現系ダンスの種類と特徴 ［授業方法］ 担当者の課題発表と質疑応答、討議を行う。 創作ダンスの学習指導について映像資料を用いながら解説する。	課題発表と質疑応答、討議	（予習：2時間） 課題発表② 表現系ダンスのうち担当種目について、その発祥や踊り方の特徴、伝承方法について調べてレポートにまとめ、発表準備をする。 （復習：2時間） 授業で学習した各種表現系ダンスの種類と特徴についてまとめる。
6	中村恭子	［授業内容］ 表現系ダンスの表現技能と指導理論 ［授業方法］ 表現系ダンスの基本技能と指導理論について解説した後、効果的な指導法について討議する。	講義と討議	（予習：2時間） 自分が担当した表現系ダンスの基本技能と指導方法について調べてレポートにまとめ、発表準備をする。 （復習：2時間） 表現系ダンスの基本技能と指導理論についてまとめる。
7	中村恭子	［授業内容］ 民族系ダンスの種類と特徴 ［授業方法］ 担当者の課題発表と質疑応答、討議を行う。 日本の民踊や民俗芸能について映像資料を用いながら解説する。	講義と討議	（予習：2時間） 課題発表③ 民族系ダンスのうち担当種目について、その発祥や踊り方の特徴、伝承方法について調べてレポートにまとめ、発表準備をする。 （復習：2時間） 授業で学習した各種民族系ダンスの種類と特徴についてまとめる。
8	中村恭子	［授業内容］ 民族系ダンスの表現技能と指導理論 ［授業方法］ 民族系ダンスの基本技能と指導理論について解説した後、効果的な指導法について討議する。	講義と討議	（予習：2時間） 自分が担当した民族系ダンスの基本技能と指導方法について調べてレポートにまとめ、発表準備をする。 （復習：4時間） 授業で学習した各種民族系ダンスの基本技能と指導理論についてまとめる。

9	中村恭子	［授業内容］ ダンス研究法①運動生理学的アプローチ ［授業方法］ 担当者の課題発表と質疑応答、討議を行う。 ダンス動作の筋活動についての研究を紹介し、内容と方法について討議する。	課題発表と質疑応答、討議	（予習：2時間） 課題発表④ ダンスを対象とした運動生理学的な先行研究を調べてレポートにまとめ、発表準備をする。 （復習：2時間） 授業で学習した運動生理学的な各種研究方法についてまとめる。
10	中村恭子	［授業内容］ ダンス研究法②バイオメカニクス的アプローチ ［授業方法］ 担当者の課題発表と質疑応答、討議を行う。 ダンス動作の動き方についての研究を紹介し、内容と方法について討議する。	課題発表と質疑応答、討議	（予習：2時間） 課題発表⑤ ダンスを対象としたバイオメカニクス的な先行研究を調べてレポートにまとめ、発表準備をする。 （復習：2時間） 授業で学習したバイオメカニクス的な各種研究方法についてまとめる。
11	中村恭子	［授業内容］ ダンス研究法③鑑賞評価からのアプローチ ［授業方法］ 担当者の課題発表と質疑応答、討議を行う。 ダンスの鑑賞評価に関する研究を紹介し、内容と方法について討議する。	課題発表と質疑応答、討議	（予習：2時間） 課題発表⑥ ダンスの鑑賞評価に関する先行研究を調べてレポートにまとめ、発表準備をする。 （復習：2時間） 授業で学習したダンスの鑑賞評価に関する各種研究方法についてまとめる。
12	中村恭子	［授業内容］ ダンス研究法④授業評価からのアプローチ ［授業方法］ 担当者の課題発表と質疑応答、討議を行う。 ダンスの学習評価および授業評価に関する研究を紹介し、内容と方法について討議する。	課題発表と質疑応答、討議	（予習：2時間） 課題発表⑦ ダンスの学習評価および授業評価に関する先行研究を調べてレポートにまとめ、発表準備をする。 （復習：2時間） 授業で学習したダンスの学習評価および授業評価に関する各種研究方法についてまとめる。
13	中村恭子	［授業内容］ ダンス指導計画の要点 ［授業方法］ ダンスの指導計画を作成する。 各自の指導計画について個別にアドバイスする。	演習と個別指導	（予習：3時間） 取り上げてみたい各種ダンスや学校体育ダンス領域の指導計画を立案する。 （復習：1時間） 自分が提案した指導計画について指摘された点を検討・修正する。
14	中村恭子	［授業内容］ ダンス指導案の作成 ［授業方法］ 主体的・対話的で深い学びにつなげるダンスの指導案（時案）を作成する。 各自の指導案について個別にアドバイスする。	演習と個別指導	（復習：3時間） ダンスの単元計画と指導時案を完成させる。 （復習：1時間） 自分の単元計画と指導時案について、指摘された点を検討・修正する。
15	中村恭子	ダンス指導実習	作成した指導案をもとに模擬授業形式の指導実習を実施し、相互評価と協議を行う。	（予習：3時間） 作成した指導時案のうち、課題提示部分の指導実習ができるように教材準備と指導練習をする。 （復習：1時間） 指導実習に対して指摘された点を踏まえ、指導時案を修正し、反省レポートを提出する。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	球技の指導理論と方法（後期後半）	授業形態	演習
英語科目名	Coaching and Method of Ball Sports	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	吉村　雅文	ナンバリング	
担当教員	吉村　雅文、濵野　礼奈、中嶽　誠、中田　学、鈴木　宏哉、大田　穂		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 理想のコーチになるためには、「選手を育成する環境」「競技に打ち込む情熱・勇気・思いやり・粘り強さ・目標達成意識・信念・無私無欲・忍耐力」といった選手の勝利志向、勝利達成に結実する要素を育み、やる気を引き出すコーチの能力を獲得しなければならない。そしてコーチの能力を獲得するためのもっともの重要な方法は、コーチ自身がその能力の獲得方法を編み出そうとする姿勢を持っているかどうかである。この授業では、ディスカッションを重ねながら「選手の大きな成長という成果を出せる信頼厚いコーチ」について学習する。
到達目標	［授業の到達目標］ 1.理想のコーチに近づくためには、コーチが自分自身を磨くことの重要性を説明できる。 2.指導対象となる選手を教え、導き、育てるコーチング能力、コミュニケーション能力について説明できる。 3.信頼厚いコーチになるために必要な考え方について説明できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 以下の事を心がけ受講して頂きたい。 ・「コーチング」に関する書籍は、スポーツの分野を対象にしたものから組織・企業を対象にした物、数多く出版されています。できるだけそれらの本を読んで授業に参加していただく事を希望します。 ・スポーツ界やスポーツ指導が抱える課題や問題についての情報収集に努めること。 ・講義内で紹介する理論については自身の所属するスポーツ組織などの身近な事例に当てはめて理解するように努めること。 ・講義内で紹介する文献（書籍）については、自主的に取り寄せ、精読すること。 ・必要に応じ、授業時に文献、参考図書等について紹介するので、積極的に読むこと。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ 特になし。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 平常点20%（履修者間でのコミュニケーションをしっかり取りながら受講できる態度や姿勢）、課題のプレゼンテーション40%（パワーポイントを駆使し分かりやすく伝える能力）、およびレポート課題40%（課題の理解度、文章表現力、国語力）を総合して評価する。
評価基準	［成績評価の基準］ 1.理想のコーチに近づくためには、コーチが自分自身を磨くことの重要性を説明できる。（レポート・プレゼンテーション） 2.指導対象となる選手を教え、導き、育てるコーチング能力、コミュニケーション能力について説明できる。（レポート・プレゼンテーション） 3.信頼厚いコーチになるために必要な考え方について説明できる。（レポート・プレゼンテーション）

試験・課題に対するフィードバック方法
［課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法］ 授業にて返却し、模範解答や評価のポイントを提示し解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業の際に指示する。				

参考文献
授業の際に提示する。

その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］E-mail 吉村雅文　msyoshi@juntendo.ac.jp 鈴木宏哉　ko-suzuki@juntendo.ac.jp 中嶽　誠　mknakada@]juntendo.ac.jp 濵野礼奈　r.hamano.uo@juntendo.ac.jp 中田　学　m-nakata@juntendo.ac.jp 大田　穂　m.ota.tr@juntendo.ac.jp ［オフィスアワー］さくらキャンパス：授業の前後1時間 １号館5F1528研究室（吉村） 医科学研究所3F9303研究室（鈴木） １号館5F1520研究室（中嶽） １号館5F1526研究室（濱野） １号館5F1530研究室（中田） １号館4F1422研究室（大田） 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約があった学生を優先します。 できる限り、前日までにE-mailで予約するように心がけてください。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、演習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	濵野礼奈	［授業内容］ 球技における指導理論(戦略と戦術)について、具体的かつ多角的に理解する。	［授業方法］ 球技の指導現場における課題やパフォーマンス向上のために必要な戦略と戦術について解説する。また、履修生の現状についてグループディスカッションと発表を行う。	（予習：2h） 自身の専門とする競技における指導法についてまとめておくこと。 （復習：2h） 指導理論を理解した上で、自身の専門競技におきかえて整理する。
2	濵野礼奈	［授業内容］ 球技(主にバレーボール)における指導現場でのチーム作りについて、具体的かつ多角的に理解する。	［授業方法］ 球技(主にバレーボール)の指導現場でのチーム作りにおけるプレイヤーズセンタードについて解説する。また、履修生の競技における現状についてグループディスカッションと発表を行う。	（予習：2h） 球技(主にバレーボール)の指導現場でのチーム作りにおけるプレイヤーズセンタードについて解説する。また、履修生の競技における現状についてグループディスカッションと発表を行う。 （復習：2h） 指導者ととして、自身の競技における理論に基づいた指導法をまとめる。
3	吉村雅文	［授業内容］ 「運動学習理論」について理解する。	［授業方法］ 「運動学習理論」について解説し、その後ディスカッションして、グループ発表を行う。	（予習：2h） 「運動学習理論」について十分調べてくること。 （復習：2h） 「運動学習理論」についてディスカッションした内容について整理する。
4	吉村雅文	［授業内容］ 「やる気を引き出すコーチの能力」について理解する。	［授業方法］ 「やる気を引き出すコーチ」の能力について解説し、その後ディスカッションして、グループ発表を行う。	（予習：2h） 「やる気を引き出すコーチ」とはどういうことか調べてくること。 （復習：2h） 「やる気を引き出すコーチ」の能力ついて整理する。
5	吉村雅文	［授業内容］ コーチングは、「プレーヤーの自己決定を引き出すこと」であることを理解する。	［授業方法］ 「プレーヤーの自己決定を引き出す」コーチングについて解説し、その後ディスカッションして、グループ発表を行う。	（予習：2h） 「自己決定を引き出すコーチング」とは何かについて十分調べてくること。 （復習：2h） 「自己決定を引き出すコーチング」について整理する。

6	吉村雅文	［授業内容］ 「エコロジカル・アプローチ」について理解する。	［授業方法］ 「エコロジカル・アプローチ」について解説し、その後ディスカッションをして、グループ発表を行う。	（予習：2h） 「エコロジカル・アプローチ」とは何かについて調べてくること。 （復習：2h） 「エコロジカル・アプローチ」について整理する。
7	大田　穂	［授業内容］ 球技におけるパフォーマンス評価の方法について、多角的に理解する。	［授業方法］ 球技の競技現場におけるパフォーマンス評価の必要性及びその難しさについて解説する。また、それぞれの実例についてグループディスカッションと発表を行う。	（予習：2h） 自身の専門とする競技や興味関心のある競技におけるパフォーマンス評価方法について調べておくこと。 （復習：2h） 球技の競技現場におけるパフォーマンス評価の方法について整理しておくこと。
8	大田　穂	［授業内容］ 球技におけるパフォーマンス評価の課題について、多角的に理解する。	［授業方法］ 球技の競技現場での感覚（イメージ）と実際の現象とのギャップについて解説する。また、それぞれの実例についてグループディスカッションと発表を行う。	（予習：2h） 自身の専門とする競技や興味関心のある競技におけるパフォーマンス評価の課題について調べておくこと。 （復習：2h） 球技の競技現場におけるパフォーマンス評価の課題について整理しておくこと。
9	中田　学	［授業内容］ バレーボール競技における指導現場でのコーチングについての問題点や現状を理解する。	［授業方法］ バレーボール競技の指導現場におけるコーチングの現状を解説する。	（予習：2h） これまでに自身が受けてきた指導法についてまとめておくこと。 （復習：2h） 指導の在り方について考え、自身で「良い」指導とは何か、考えを深める。
10	中田　学	［授業内容］ 球技における指導現場でのコーチングについての現状を理解し、自身の考える良い指導、指導者像とは何かを考え発表する。	［授業方法］ スポーツの指導現場におけるコーチングの現状を解説する。また、自身の考えるコーチング論についての発表を行う。	（予習：2h） 自身の専門とする競技や興味関心のある競技におけるチーム作りの課題について調べておくこと。 （復習：2h） 良い指導および指導者像について考え、まとめる。
11	鈴木宏哉	［授業内容］ スポーツをデータ化する方法とその現状について理解する。	［授業方法］ サッカー競技を題材に、球技をデータ化する方法を概観する。また、実例についてグループディスカッションと発表を行う。	（予習：2h） スポーツ現場におけるデータ収集の事例について調べておくこと。 （復習：2h） 授業中に配布したワークシートを読み直し、スポーツ現象のデータ化の方法について整理しておくこと。
12	鈴木宏哉	［授業内容］ スポーツ現象のデータ化の実例を踏まえ、データの加工と読み取り方について理解する。	［授業方法］ スポーツ現場で活用できるデータ化のアイディアについてグループディスカッションと発表を行う。	（予習：2h） 統計学の基本統計量（記述統計）について調べておくこと。 （復習：2h） スポーツデータの加工法とその解釈について整理しておくこと。
13	中嶽　誠	［授業内容］ 競技の持っている特性を、経験だけでなく様々な角度から理解する。	［授業方法］ 球技（バスケットボール）の様々な角度からの競技特性について解説する。	（予習：2h） 自分の競技特性について調べてくること。 （復習：2h） 様々な角度からの競技特性について整理する。
14	中嶽　誠	［授業内容］ 指導者と審判員の連携について理解する。	［授業方法］ バスケットボールにおける指導者と審判員との連携について解説する。	（予習：2h） 審判員の資格制度について調べてくること。 （復習：2h） 指導者と審判員の連携について整理する。

15	濱野礼奈	［授業内容］ まとめ	［授業方法］ グループディスカッションと発表を行う。	（予習：2h） 講義全体を復習する。 （復習：2h） 各担当教員の課題を作成する。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	球技の指導理論と方法（後期前半）	授業形態	演習
英語科目名	Coaching and Method of Ball Sports	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	吉村　雅文	ナンバリング	
担当教員	吉村　雅文、濵野　礼奈、中嶽　誠、中田　学、鈴木　宏哉、大田　穂		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 理想のコーチになるためには、「選手を育成する環境」「競技に打ち込む情熱・勇気・思いやり・粘り強さ・目標達成意識・信念・無私無欲・忍耐力」といった選手の勝利志向、勝利達成に結実する要素を育み、やる気を引き出すコーチの能力を獲得しなければならない。そしてコーチの能力を獲得するためのもっともの重要な方法は、コーチ自身がその能力の獲得方法を編み出そうとする姿勢を持っているかどうかである。この授業では、ディスカッションを重ねながら「選手の大きな成長という成果を出せる信頼厚いコーチ」について学習する。
到達目標	［授業の到達目標］ 1.理想のコーチに近づくためには、コーチが自分自身を磨くことの重要性を説明できる。 2.指導対象となる選手を教え、導き、育てるコーチング能力、コミュニケーション能力について説明できる。 3.信頼厚いコーチになるために必要な考え方について説明できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 以下の事を心がけ受講して頂きたい。 ・「コーチング」に関する書籍は、スポーツの分野を対象にしたものから組織・企業を対象にした物、数多く出版されています。できるだけそれらの本を読んで授業に参加していただく事を希望します。 ・スポーツ界やスポーツ指導が抱える課題や問題についての情報収集に努めること。 ・講義内で紹介する理論については自身の所属するスポーツ組織などの身近な事例に当てはめて理解するように努めること。 ・講義内で紹介する文献（書籍）については、自主的に取り寄せ、精読すること。 ・必要に応じ、授業時に文献、参考図書等について紹介するので、積極的に読むこと。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ 特になし。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 平常点20%（履修者間でのコミュニケーションをしっかり取りながら受講できる態度や姿勢）、課題のプレゼンテーション40%（パワーポイントを駆使し分かりやすく伝える能力）、およびレポート課題40%（課題の理解度、文章表現力、国語力）を総合して評価する。
評価基準	［成績評価の基準］ 1.理想のコーチに近づくためには、コーチが自分自身を磨くことの重要性を説明できる。（レポート・プレゼンテーション） 2.指導対象となる選手を教え、導き、育てるコーチング能力、コミュニケーション能力について説明できる。（レポート・プレゼンテーション） 3.信頼厚いコーチになるために必要な考え方について説明できる。（レポート・プレゼンテーション）

試験・課題に対するフィードバック方法
［課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法］ 授業にて返却し、模範解答や評価のポイントを提示し解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業の際に指示する。				

参考文献
授業の際に提示する。

その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］E-mail 吉村雅文　msyoshi@juntendo.ac.jp 鈴木宏哉　ko-suzuki@juntendo.ac.jp 中嶽　誠　mknakada@]juntendo.ac.jp 濵野礼奈　r.hamano.uo@juntendo.ac.jp 中田　学　m-nakata@juntendo.ac.jp 大田　穂　m.ota.tr@juntendo.ac.jp ［オフィスアワー］さくらキャンパス：授業の前後1時間 １号館5F1528研究室（吉村） 医科学研究所3F9303研究室（鈴木） １号館5F1520研究室（中嶽） １号館5F1526研究室（濱野） １号館5F1530研究室（中田） １号館4F1422研究室（大田） 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約があった学生を優先します。 できる限り、前日までにE-mailで予約するように心がけてください。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ 　この授業は、演習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ 　この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	濵野礼奈	［授業内容］ 球技における指導理論(戦略と戦術)について、具体的かつ多角的に理解する。	［授業方法］ 球技の指導現場における課題やパフォーマンス向上のために必要な戦略と戦術について解説する。また、履修生の現状についてグループディスカッションと発表を行う。	（予習：2h） 自身の専門とする競技における指導法についてまとめておくこと。 （復習：2h） 指導理論を理解した上で、自身の専門競技におきかえて整理する。
2	濵野礼奈	［授業内容］ 球技(主にバレーボール)における指導現場でのチーム作りについて、具体的かつ多角的に理解する。	［授業方法］ 球技(主にバレーボール)の指導現場でのチーム作りにおけるプレイヤーズセンタードについて解説する。また、履修生の競技における現状についてグループディスカッションと発表を行う。	（予習：2h） 球技(主にバレーボール)の指導現場でのチーム作りにおけるプレイヤーズセンタードについて解説する。また、履修生の競技における現状についてグループディスカッションと発表を行う。 （復習：2h） 指導者ととして、自身の競技における理論に基づいた指導法をまとめる。
3	吉村雅文	［授業内容］ 「運動学習理論」について理解する。	［授業方法］ 「運動学習理論」について解説し、その後ディスカッションして、グループ発表を行う。	（予習：2h） 「運動学習理論」について十分調べてくること。 （復習：2h） 「運動学習理論」についてディスカッションした内容について整理する。
4	吉村雅文	［授業内容］ 「やる気を引き出すコーチの能力」について理解する。	［授業方法］ 「やる気を引き出すコーチ」の能力について解説し、その後ディスカッションして、グループ発表を行う。	（予習：2h） 「やる気を引き出すコーチ」とはどういうことか調べてくること。 （復習：2h） 「やる気を引き出すコーチ」の能力ついて整理する。
5	吉村雅文	［授業内容］ コーチングは、「プレーヤーの自己決定を引き出すこと」であることを理解する。	［授業方法］ 「プレーヤーの自己決定を引き出す」コーチングについて解説し、その後ディスカッションして、グループ発表を行う。	（予習：2h） 「自己決定を引き出すコーチング」とは何かについて十分調べてくること。 （復習：2h） 「自己決定を引き出すコーチング」について整理する。

6	吉村雅文	［授業内容］ 「エコロジカル・アプローチ」について理解する。	［授業方法］ 「エコロジカル・アプローチ」について解説し、その後ディスカッションをして、グループ発表を行う。	（予習：2h） 「エコロジカル・アプローチ」とは何かについて調べてくること。 （復習：2h） 「エコロジカル・アプローチ」について整理する。
7	大田　穂	［授業内容］ 球技におけるパフォーマンス評価の方法について、多角的に理解する。	［授業方法］ 球技の競技現場におけるパフォーマンス評価の必要性及びその難しさについて解説する。また、それぞれの実例についてグループディスカッションと発表を行う。	（予習：2h） 自身の専門とする競技や興味関心のある競技におけるパフォーマンス評価方法について調べておくこと。 （復習：2h） 球技の競技現場におけるパフォーマンス評価の方法について整理しておくこと。
8	大田　穂	［授業内容］ 球技におけるパフォーマンス評価の課題について、多角的に理解する。	［授業方法］ 球技の競技現場での感覚（イメージ）と実際の現象とのギャップについて解説する。また、それぞれの実例についてグループディスカッションと発表を行う。	（予習：2h） 自身の専門とする競技や興味関心のある競技におけるパフォーマンス評価の課題について調べておくこと。 （復習：2h） 球技の競技現場におけるパフォーマンス評価の課題について整理しておくこと。
9	中田　学	［授業内容］ バレーボール競技における指導現場でのコーチングについての問題点や現状を理解する。	［授業方法］ バレーボール競技の指導現場におけるコーチングの現状を解説する。	（予習：2h） これまでに自身が受けてきた指導法についてまとめておくこと。 （復習：2h） 指導の在り方について考え、自身で「良い」指導とは何か、考えを深める。
10	中田　学	［授業内容］ 球技における指導現場でのコーチングについての現状を理解し、自身の考える良い指導、指導者像とは何かを考え発表する。	［授業方法］ スポーツの指導現場におけるコーチングの現状を解説する。また、自身の考えるコーチング論についての発表を行う。	（予習：2h） 自身の専門とする競技や興味関心のある競技におけるチーム作りの課題について調べておくこと。 （復習：2h） 良い指導および指導者像について考え、まとめる。
11	鈴木宏哉	［授業内容］ スポーツをデータ化する方法とその現状について理解する。	［授業方法］ サッカー競技を題材に、球技をデータ化する方法を概観する。また、実例についてグループディスカッションと発表を行う。	（予習：2h） スポーツ現場におけるデータ収集の事例について調べておくこと。 （復習：2h） 授業中に配布したワークシートを読み直し、スポーツ現象のデータ化の方法について整理しておくこと。
12	鈴木宏哉	［授業内容］ スポーツ現象のデータ化の実例を踏まえ、データの加工と読み取り方について理解する。	［授業方法］ スポーツ現場で活用できるデータ化のアイディアについてグループディスカッションと発表を行う。	（予習：2h） 統計学の基本統計量（記述統計）について調べておくこと。 （復習：2h） スポーツデータの加工法とその解釈について整理しておくこと。
13	中嶽　誠	［授業内容］ 競技の持っている特性を、経験だけでなく様々な角度から理解する。	［授業方法］ 球技（バスケットボール）の様々な角度からの競技特性について解説する。	（予習：2h） 自分の競技特性について調べてくること。 （復習：2h） 様々な角度からの競技特性について整理する。
14	中嶽　誠	［授業内容］ 指導者と審判員の連携について理解する。	［授業方法］ バスケットボールにおける指導者と審判員との連携について解説する。	（予習：2h） 審判員の資格制度について調べてくること。 （復習：2h） 指導者と審判員の連携について整理する。

15	濱野礼奈	［授業内容］ まとめ	［授業方法］ グループディスカッションと発表を行う。	（予習：2h） 講義全体を復習する。 （復習：2h） 各担当教員の課題を作成する。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	武道の指導理論と方法（後期後半）	授業形態	演習
英語科目名	Coaching and Method of Metrical Sports	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	廣瀬　伸良	ナンバリング	
担当教員	廣瀬　伸良、中村　充、竹澤　稔裕		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 柔道・剣道をはじめとした武道は、スポーツである一方で我が国の伝統的身体運動文化である。そのため、武士道思想を根底におきながら歴史的および社会的背景により、柔術から柔道ならびに剣術から剣道が成立した過程を概観し、スポーツまたは武道の価値について検証する。そして、国際的は普及や発展を遂げた経緯も踏まえながら、競技特性について技術や戦術の推移を辿ることで指導理論とその方法についても検討する。 また、武道として学校体育への導入に際する、教育的意義ならびに指導上の課題について討議する。さらに、現状の選手育成システムや指導内容・方法などに関する資料を収集し、今後の展望について検討する。
到達目標	1.　武道の成立過程や特性を説明できる。 2.　日本伝講道館柔道の成立過程について教育的観点から説明できる。 3.　剣術から剣道への成立過程について武士道思想の観点から説明できる。 4.　武道教育の現在の緒課題や今後の展望について自己の考えを述べることができる。
授業の位置づけ	この授業科目は専門応用科目の選択科目（A：スポーツ科学系科目）として位置付けられています。また、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目です。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 武道経験者、または中学・高校・大学等で武道種目を履修していること。 現代スポーツ史などを履修していることが望ましい。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その授業を欠席扱いとする。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 平常点（20%）課題発表（40%）ならびに課題レポート（40%）を総合して評価する。
評価基準	［成績評価の基準］ 1.　武道の成立過程や特性を説明できる。（課題発表、課題レポート） 2.　日本伝講道館柔道の成立過程について教育的観点から説明できる。（課題発表、課題レポート） 3.　剣術から剣道への成立過程について武士道思想の観点から説明できる。（課題発表、課題レポート） 4.　授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
課題レポートは翌週の授業で返却し、解説を行う。定期試験後には。要望があれば個別に解説や指導を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Text	Instruct in class.			授業中に指示

参考文献
［テキスト・参考書等］ 武道誕生　井上俊著　吉川弘文館 競技柔道の国際化　尾形敬史他　不昧堂出版 ゼミナール現代剣道　全国教育系大学剣道連盟　窓社

その他	
連絡先・オフィスアワー	［開講］ この授業はさくらキャンパス開講です。 ［連絡先］ 担当：中村　充 E-mail:mtnakamu[at]juntendo.ac.jp [at]を@に変更してください ［オフィスアワー］ 日時：火曜日10:00~12:30 場所：１号館５階　1505室 上記の時間帯は予約なしでも対応しますが、予約があった学生を優先します。できる限り、事前にE-mailで予約するように心がけてください。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、演習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 ガイダンス、スポーツと武道（1） 本授業の概要および進め方を説明する。スポーツと武道の概念について、その歴史的背景から理解し、それぞれの価値について検討する。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 　シラバスを理解し、スポーツの起源と価値について調べる。 （復習：1.5時間） 　スポーツと武道の概念の違いならびに価値についてまとめる。
2	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 スポーツと武道（2） スポーツと武道の概念について、その歴史的背景から解説し、それぞれの価値について検討する。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 武道の価値について調べる。 （復習：1.5時間） 　スポーツと武道の概念の違いならびに価値についてまとめる。
3	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 武士道についての考証（１） 武士道の発生を理解し、その変遷について理解する。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 武士の発生と意義について調べる。 （復習：1.5時間） 武士道の考え方についてまとめる。
4	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 武士道についての考証（２） 新渡戸稲造の「武士道」について理解を深め、現代に息づく武士道思想について検討する。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 武士道の考え方の変化について時代考証する。 （復習：1.5時間） 明治以降の新しい武士道像について理解を深める。
5	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 剣術から剣道へ（1） 武士の起こりから剣術中心の時代背景について解説し、その指導法の源流について考える。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 剣術の発生について調べる。 （復習：1.5時間） 剣術の時代的発展についてまとめる。
6	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 剣術から剣道へ（2） 剣術から現代剣道の成立過程について解説し、競技スポーツとしての剣道の在り方について検討する。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 剣術から剣道への変遷について調べる。 （復習：1.5時間） 現代剣道が成立した社会背景についてまとめる。
7	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 柔術から柔道へ（1） 徒手格闘術の発生と柔術の成立，柔道への成立を学ぶ。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 柔術の発生について調べる。 （復習：1.5時間） 柔術と柔道の相違についてまとめる。
8	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 柔術から柔道へ（2） 柔道の国際化、嘉納治五郎のコーチングとオリンピックへの貢献について理解を深める。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 嘉納治五郎とオリンピックについて調べる。 （復習：1.5時間） 嘉納治五郎と東京オリンピックについてまとめる。
9	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 スポーツコーチングと武道コーチング（１） 現代のスポーツコーチングの在り方と武道コーチングの在り方について、具体例を交えながら解説し、その効果を検討する。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 現代のスポーツコーチングの在り方について調べる。 （復習：1.5時間） 武道におけるコーチングのメリット・デメリットについてまとめる。
10	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 競技スポーツとしての武道（２） 技の捉え方（概念）と武道独特の指導方法について検討する。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 様々な教授法について調べる。 （復習：1.5時間） スポーツと武道の技術に対する概念についてまとめる。
11	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 競技スポーツとしての武道（１） 柔道と剣道における体力と技術について解説し、効果的な検証法を検討する。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 現在の競技スポーツとしての柔道と剣道について考える。 （復習：1.5時間） 技術論と競技分析データの収集法・分析法をまとめる。

12	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 競技スポーツとしての武道（2） 国際的な武道の位置づけを解説し、今後の展望を検討する。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 武道はスポーツか？否か？について考える。 （復習：1.5時間） 国際化の中での柔道と剣道の方向性についてまとめる。
13	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 発表およびディスカッション（1） 本科目にて抽出された課題について、発表およびディスカッションして理解や思考を深める。	〔授業方法〕 受講生による課題発表・質疑応答した後に、発表内容について討議する。	（予習：2.5時間） 課題発表の準備を行う。 （復習：1.5時間） ディスカッションの内容をまとめる。
14	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 発表およびディスカッション（2） 本科目にて抽出された課題について、発表およびディスカッションして理解や思考を深める。	〔授業方法〕 受講生による課題発表・質疑応答した後に、発表内容について討議する。	（予習：2.5時間） 課題発表の準備を行う。 （復習：1.5時間） ディスカッションの内容をまとめる。
15	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 本科目のまとめを行い、課題レポートを提出する。	〔授業方法〕 本科目の総括を解説し、受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 課題レポートの作成する。 （復習：1.5時間） 授業全体の振り返りを行う。
		定期試験は行わない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	武道の指導理論と方法（後期前半）	授業形態	演習
英語科目名	Coaching and Method of Metrical Sports	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	廣瀬　伸良	ナンバリング	
担当教員	廣瀬　伸良、中村　充、竹澤　稔裕		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 柔道・剣道をはじめとした武道は、スポーツである一方で我が国の伝統的身体運動文化である。そのため、武士道思想を根底におきながら歴史的および社会的背景により、柔術から柔道ならびに剣術から剣道が成立した過程を概観し、スポーツまたは武道の価値について検証する。そして、国際的は普及や発展を遂げた経緯も踏まえながら、競技特性について技術や戦術の推移を辿ることで指導理論とその方法についても検討する。 また、武道として学校体育への導入に際する、教育的意義ならびに指導上の課題について討議する。さらに、現状の選手育成システムや指導内容・方法などに関する資料を収集し、今後の展望について検討する。
到達目標	1.　武道の成立過程や特性を説明できる。 2.　日本伝講道館柔道の成立過程について教育的観点から説明できる。 3.　剣術から剣道への成立過程について武士道思想の観点から説明できる。 4.　武道教育の現在の緒課題や今後の展望について自己の考えを述べることができる。
授業の位置づけ	この授業科目は専門応用科目の選択科目（A：スポーツ科学系科目）として位置付けられています。また、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目です。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 武道経験者、または中学・高校・大学等で武道種目を履修していること。 現代スポーツ史などを履修していることが望ましい。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その授業を欠席扱いとする。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 平常点（20%）課題発表（40%）ならびに課題レポート（40%）を総合して評価する。
評価基準	［成績評価の基準］ 1.　武道の成立過程や特性を説明できる。（課題発表、課題レポート） 2.　日本伝講道館柔道の成立過程について教育的観点から説明できる。（課題発表、課題レポート） 3.　剣術から剣道への成立過程について武士道思想の観点から説明できる。（課題発表、課題レポート） 4.　授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
課題レポートは翌週の授業で返却し、解説を行う。定期試験後には。要望があれば個別に解説や指導を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Text	Instruct in class.			授業中に指示

参考文献
［テキスト・参考書等］ 武道誕生　井上俊著　吉川弘文館 競技柔道の国際化　尾形敬史他　不昧堂出版 ゼミナール現代剣道　全国教育系大学剣道連盟　窓社

その他	
連絡先・オフィスアワー	［開講］ この授業は本郷・御茶ノ水キャンパス開講です。 ［連絡先］ 担当：中村　充 E-mail:mtnakamu[at]juntendo.ac.jp [at]を@に変更してください ［オフィスアワー］ 日時：火曜日10:00~12:30 場所：１号館５階　1505室 上記の時間帯は予約なしでも対応しますが、予約があった学生を優先します。できる限り、事前にE-mailで予約するように心がけてください。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、演習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 ガイダンス、スポーツと武道（1） 本授業の概要および進め方を説明する。スポーツと武道の概念について、その歴史的背景から理解し、それぞれの価値について検討する。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 　シラバスを理解し、スポーツの起源と価値について調べる。 （復習：1.5時間） 　スポーツと武道の概念の違いならびに価値についてまとめる。
2	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 スポーツと武道（2） スポーツと武道の概念について、その歴史的背景から解説し、それぞれの価値について検討する。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 武道の価値について調べる。 （復習：1.5時間） 　スポーツと武道の概念の違いならびに価値についてまとめる。
3	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 武士道についての考証（１） 武士道の発生を理解し、その変遷について理解する。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 武士の発生と意義について調べる。 （復習：1.5時間） 武士道の考え方についてまとめる。
4	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 武士道についての考証（２） 新渡戸稲造の「武士道」について理解を深め、現代に息づく武士道思想について検討する。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 武士道の考え方の変化について時代考証する。 （復習：1.5時間） 明治以降の新しい武士道像について理解を深める。
5	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 剣術から剣道へ（1） 武士の起こりから剣術中心の時代背景について解説し、その指導法の源流について考える。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 剣術の発生について調べる。 （復習：1.5時間） 剣術の時代的発展についてまとめる。
6	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 剣術から剣道へ（2） 剣術から現代剣道の成立過程について解説し、競技スポーツとしての剣道の在り方について検討する。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 剣術から剣道への変遷について調べる。 （復習：1.5時間） 現代剣道が成立した社会背景についてまとめる。
7	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 柔術から柔道へ（1） 徒手格闘術の発生と柔術の成立，柔道への成立を学ぶ。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 柔術の発生について調べる。 （復習：1.5時間） 柔術と柔道の相違についてまとめる。
8	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 柔術から柔道へ（2） 柔道の国際化、嘉納治五郎のコーチングとオリンピックへの貢献について理解を深める。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 嘉納治五郎とオリンピックについて調べる。 （復習：1.5時間） 嘉納治五郎と東京オリンピックについてまとめる。
9	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 スポーツコーチングと武道コーチング（１） 現代のスポーツコーチングの在り方と武道コーチングの在り方について、具体例を交えながら解説し、その効果を検討する。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 現代のスポーツコーチングの在り方について調べる。 （復習：1.5時間） 武道におけるコーチングのメリット・デメリットについてまとめる。
10	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 競技スポーツとしての武道（２） 技の捉え方（概念）と武道独特の指導方法について検討する。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 様々な教授法について調べる。 （復習：1.5時間） スポーツと武道の技術に対する概念についてまとめる。
11	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 競技スポーツとしての武道（１） 柔道と剣道における体力と技術について解説し、効果的な検証法を検討する。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 現在の競技スポーツとしての柔道と剣道について考える。 （復習：1.5時間） 技術論と競技分析データの収集法・分析法をまとめる。

12	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 競技スポーツとしての武道（2） 国際的な武道の位置づけを解説し、今後の展望を検討する。	〔授業方法〕 講義方法で解説・質疑応答した後に、各課題について受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 武道はスポーツか？否か？について考える。 （復習：1.5時間） 国際化の中での柔道と剣道の方向性についてまとめる。
13	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 発表およびディスカッション（1） 本科目にて抽出された課題について、発表およびディスカッションして理解や思考を深める。	〔授業方法〕 受講生による課題発表・質疑応答した後に、発表内容について討議する。	（予習：2.5時間） 課題発表の準備を行う。 （復習：1.5時間） ディスカッションの内容をまとめる。
14	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 発表およびディスカッション（2） 本科目にて抽出された課題について、発表およびディスカッションして理解や思考を深める。	〔授業方法〕 受講生による課題発表・質疑応答した後に、発表内容について討議する。	（予習：2.5時間） 課題発表の準備を行う。 （復習：1.5時間） ディスカッションの内容をまとめる。
15	中村 廣瀬 竹澤	〔授業内容〕 本科目のまとめを行い、課題レポートを提出する。	〔授業方法〕 本科目の総括を解説し、受講生による討議を行う。	（予習：2.5時間） 課題レポートの作成する。 （復習：1.5時間） 授業全体の振り返りを行う。
		定期試験は行わない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ運動学（後期前半）	授業形態	講義
英語科目名	Sports Movement	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	原田　睦巳	ナンバリング	
担当教員	原田　睦巳、冨田　洋之		

授業概要	
全体内容	スポーツ運動学は、教育・指導の実践場面におけるスポーツ運動学習を人間科学的・運動学的立場から理解する事の出来る知識を深めることを目的とし、運動技術、運動構造、運動観察、運動経過の質的把握などの観点から、スポーツ運動学的な知識の理解を深め、実践に役立てることができるように授業を展開していく。また、スポーツ運動学を発展させた発生運動学的見地についても触れ、現在のスポーツ運動学の研究に関する見地や現象学的見地についても紹介していく。
到達目標	1. スポーツ運動を習得するために、自分の動く感じ（動感）の能力、また動ける身体の発生・習熟について理解できるようになる。 2. 人間科学的・運動学的な知識を、実践の教育・指導の場面に役立てられるようになる。 3. 運動の質的把握に関して、スポーツ運動学的見地からの質の把握が理解でき、具体的な運動に当てはめて考えることが出来る。
授業の位置づけ	入力不要（教務課にて後日入力）
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 実際にスポーツ活動を実践している学生が望ましい。将来的に、スポーツ活動を指導する立場につく人が望ましい。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 著しく授業態度に問題がある場合（遅刻・途中退出等）には、単位認定を認めないこととする。また、授業内レポートの提出がない場合には、出席の代返とみなし、同じく単位認定を認めない。

成績評価の方法	
評価方法	授業内発言、ディスカッション時の等取り組む姿勢等10%、提出課題（レポート等）20%、レポート試験（筆記）70% 授業態度が授業進行上においてふさわしくないと判断した場合は、減点の対象とします。また、遅刻に対しては厳正に対処します。代返が発覚した場合、原則として単位を認めません。
評価基準	1. スポーツ運動学における定義や概念を理解しているかを評価する。（レポート課題） 2. 運動感覚世界について、スポーツ運動学の見地からみた概念や定義を理解しているかを評価する。（レポート課題） 3. 運動技術、運動構造、運動観察、運動経過の質的把握等を理解しているかを評価する。（レポート課題） 4. 「コツ」と「カン」について、具体的な動きを例示して説明する事が出来るかを評価する。（レポート課題） 5. その他、学習意欲や態度、ディスカッションの積極性を発言や発表等で評価する。　（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[試験・レポート等の課題に対するフィードバックの方法] 授業時に返却し、その内容の解説や評価のポイントを明示する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

K. マイネル（金子明友訳）：スポーツ運動学, 大修館書店（1979）
谷　徹：これが現象学だ,講談社現代新書（2002）
金子明友：わざの伝承, 明和出版（2002）
金子明友：身体地の形成（上・下）, 明和出版（2005）
金子明友：スポーツ運動学, 明和出版（2009）
金子一秀：スポーツ運動学入門, 明和出版（2015）

その他	
連絡先・オフィスアワー	担当：原田睦巳 （1号館5階1511 体操競技研究室） mtharada[at]juntendo.ac.jp　※[at]を@に変更してください。 [オフィスアワー] 火曜日　10：40～12：00 木曜日　10：00～12：00
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1回	原田睦巳	（授業内容） スポーツ運動学の目的と役割, そしてその概念についての基礎を学習する。	（授業方法） 人間科学的な学問及び研究方法について説明する。 スポーツ運動学的見地について概念を説明する。	（予習：2時間） スポーツにおける科学的研究方法や分析方法について、その具体的な方法を調査する。 （復習：2時間） スポーツ運動学の概念やその目的と役割について、復習する。
2回	原田睦巳	（授業内容） 運動研究の史的変遷について理解を深める。	（授業方法） 自然科学と人間科学の史的変遷から、K.マイネルのスポーツ運動学について説明する。	（予習：2時間） スポーツ競技と研究や科学的分析の関係性について調査し、まとめる。 （復習：2時間） 自然科学と人間科学の史的変遷について、及びK.マイネルのスポーツ運動学について復習する。
3回	原田睦巳	（授業内容） 人間の運動系の内容と運動学習についての概念の理解を深める。	（授業方法） 人間の運動系には2つの運動系が存在する事について説明する。 運動を習得するにあたっての「位相」という概念について説明する。	（予習：2時間） インターネットや動画閲覧サイトを利用し、幼児期の運動の映像、青年期の運動の映像を閲覧し、それぞれの運動の特徴についてまとめる。 また、本能における反射について調べ、その内容をまとめる。 （復習：2時間） 人間の運動系の2分類についてまとめる。 K.マイネルの「運動学習の三位相」について復習する。
4回	原田睦巳	（授業内容） 運動技術の概念とその特性、またその階層性について理解を深める。	（授業方法） 運動の技術に定義について説明をし、その特性についても説明をする。技術は時代と共に変遷する事を具体的な例を示しながら説明する。	（予習：2時間） 運動技術について、自分のスポーツ種目等から具体的な例示を示しながら検討する。 （復習：3時間） 運動技術の定義についてまとめる。 運動技術の階層性についてそれぞれの階層においての特性を復習する。 技術の習得方法について、2つの習得方法についての内容を具体的な例示を示しながら整理しまとめる。
5回	原田睦巳	（授業内容） 運動におけるその構造についてその概念を説明し理解する。	（授業方法） 構造と言われるその他のものと運動構造との相違や類似性について説明する。 また、運動における”合理的”という表現について理解する。	（予習：2時間） 構造といわれるものについて調査しまとめる。 また、それぞれの概念についても調査しまとめる。 （復習：2時間） 運動における構造についてその概念を具体的な例示を示して説明しまとめる。 運動経過における運動構造の三形態とその局面構造について復習する。
6回	原田睦巳	（授業内容） 運動の経過におけるその運動の質的把握について説明する。	（授業方法） K.マイネルが提唱する”8つのカテゴリー”について、その内容を説明する。	（予習：3時間） 運動の経過とは？」という概念を我々はどう捉えているのかを調査しまとめる。 動きの良し悪しをどう判断しているのかを自身の意見としてまとめる。 （復習：2時間） K.マイネルの8つのカテゴリーによる質的把握について具体的な例示を示しながら復習する。
7回	原田睦巳	（授業内容） 運動指導における運動観察の意義について、理解を深める。	（授業方法） 運動観察における「自己観察」と「他者観察」の2つの方法について説明する。 印象分析についても説明し、理解を深める。	（予習：2時間） スポーツ現場において「運動を観察する」とはどの様なものかを自身のスポーツ種目においての例示を示しながらまとめる。 （復習：2時間） 運動観察における「自己観察」と「他者観察」の2つの方法それぞれについて具体的な例示を示しながらまとめる。 印象分析について、具体的な例示を示しながらまとめる。
8回	原田睦巳	（授業内容） 各ジェネレーションによる運動発達のモルフォロギー的認識について説明し、理解を深める。	（授業方法） 各ジェネレーションによる運動の発達段階について説明し、その特徴を理解する。	（予習：2時間） 自身の運動の発達時期について振り返りながら考えをまとめる。 生涯スポーツの定義や功罪について調査しまとめる。 （復習：2時間） 新生児から高齢者までの運動発達の運動学的特性について具体的な例示を示しながらまとめる。

9回	原田睦巳	（授業内容） 発生論的運動学の概念についての基礎を学習する。	（授業方法） 従来の運動学との違いについて説明する。 形成位相論におけるマイネルの3位相と、金子の5位相の特徴と違いについて説明する。	（予習：3時間） マイネルの運動学における3領域（動きの質、運動発達、学習位相）の内容と特徴についてあらかじめ確認しておく。 （復習：2時間） 金子の5位相について、自分自身の具体的な運動場面に当てはめながら復習する。
10回	原田睦巳	（授業内容） 人間の運動とはどのようなものか、運動学的立場から学習する。	（授業方法） 人間の運動に付きまとうパトス的背景について説明する。また、人は運動をどのように捉えるのかを理解するため、共感、移入、内部視点と外部視点について説明する。 動感運動の匿名性について説明する。	（予習：2時間） 自分自身の動きをどのように把握しているのか、自身の運動場面を振り返って検討する。 （復習：2時間） 運動共感について具体的な例をいくつか挙げる。 内部視点と外部視点の違いについてまとめる。
11回	原田睦巳	（授業内容） 運動観察の方法と重要性について理解する。以前学習した自己観察、他者観察の概念をさらに深め、具体的な運動場面に置きかえて理解できるようにする。	（授業方法） スポーツ学習現場の選手やコーチに不可欠な運動観察について説明する。 自己観察、他者観察について、映像を用いながら説明する。	（予習：2時間） スポーツ現場において運動観察はどのように行われているのかについて挙げ、それぞれの特徴について理解しておく。 （復習：2時間） 自身の専門種目の映像を確認しながら、修正点を見つける。その際、なぜその点を挙げたのかについて、運動学的に考察する。（キーワード：「移入」「潜勢自己運動」「運動共感」「先読み」）
12回	原田睦巳	（授業内容） 覚える身体知（創発身体知）について理解する。	（授業方法） 創発身体知の概要について説明する。 始原身体知における体感領域、時間化領域について説明する。	（予習：2時間） 創発身体知の概要について調べる。 （参考図書『わざの伝承（金子，2002）』、『身体知の形成（上）、身体知の形成（下）（金子、2005）』） （復習：2時間） 体感領域における定位感、遠近感、気配感の具体的例証を挙げる。
13回	原田睦巳	（授業内容） 教える身体知（促発身体知）について理解する。	（授業方法） 促発身体知の概要について理解する。 促発に不可欠な観察分析、交信分析、代行分析、処方分析について説明する。	（予習：2時間） 促発分析の概要について調べる。 （参考図書『わざの伝承（金子，2002）』、『身体知の形成（上）、身体知の形成（下）（金子、2005）』） （復習：2時間） 自身の専門種目の指導現場において促発指導を行う場合の指導計画と方法を立案する。
14回	原田睦巳	(授業内容) 1回から13回までの運動学的見地を踏まえた運動指導の実践について説明し、その後グループディスカッションを行う。	（授業方法） 具体提な例示種目や対象となる技術を例に挙げ、スポーツ運動学的見地からその指導方法の立案、指導、観察、修正をグループディスカッションし、最後に発表する。	（予習：1.5時間） 自身のスポーツ種目における具体提な対象となる技術を例に挙げ、スポーツ運動学的見地からその指導方法の立案、指導、観察、修正をまとめ、グループディスカッションの準備を整える。 （復習：2時間） グループディスカッションの内容を整理し、グループ内の他の学生の内容を理解し、整理する。
15	原田睦巳	（授業内容） これまでの授業内容を総合的に把握し、具体的な例を明示しプレゼンテーションを行う	授業方法） 具体提な例示種目や対象となる技術を例に挙げ、スポーツ運動学的見地からその指導方法の立案、指導、観察、修正をプレゼンテーションする。	（予習：1.5時間） 自身のスポーツ種目における具体提な対象となる技術を例に挙げ、スポーツ運動学的見地からその指導方法の立案、指導、観察、修正をまとめ、プレゼンテーションの準備を整える。
定期試験	原田睦巳	授業内容の理解度を把握するため、定期試験を実施する	筆記問題による定期試験を実施する	

科目名	スポーツ運動学（後期後半）	授業形態	講義
英語科目名	Sports Movement	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	原田　睦巳	ナンバリング	
担当教員	原田　睦巳、冨田　洋之		

授業概要	
全体内容	スポーツ運動学は、教育・指導の実践場面におけるスポーツ運動学習を人間科学的・運動学的立場から理解する事の出来る知識を深めることを目的とし、運動技術、運動構造、運動観察、運動経過の質的把握などの観点から、スポーツ運動学的な知識の理解を深め、実践に役立てることができるように授業を展開していく。また、スポーツ運動学を発展させた発生運動学的見地についても触れ、現在のスポーツ運動学の研究に関する見地や現象学的見地についても紹介していく。
到達目標	1. スポーツ運動を習得するために、自分の動く感じ（動感）の能力、また動ける身体の発生・習熟について理解できるようになる。 2. 人間科学的・運動学的な知識を、実践の教育・指導の場面に役立てられるようになる。 3. 運動の質的把握に関して、スポーツ運動学的見地からの質の把握が理解でき、具体的な運動に当てはめて考えることが出来る。
授業の位置づけ	入力不要（教務課にて後日入力）
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 実際にスポーツ活動を実践している学生が望ましい。将来的に、スポーツ活動を指導する立場につく人が望ましい。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 著しく授業態度に問題がある場合（遅刻・途中退出等）には、単位認定を認めないこととする。また、授業内レポートの提出がない場合には、出席の代返とみなし、同じく単位認定を認めない。

成績評価の方法	
評価方法	授業内発言、ディスカッション時の等取り組む姿勢等10%、提出課題（レポート等）20%、レポート試験（筆記）70% 授業態度が授業進行上においてふさわしくないと判断した場合は、減点の対象とします。また、遅刻に対しては厳正に対処します。代返が発覚した場合、原則として単位を認めません。
評価基準	1. スポーツ運動学における定義や概念を理解しているかを評価する。（レポート課題） 2. 運動感覚世界について、スポーツ運動学の見地からみた概念や定義を理解しているかを評価する。（レポート課題） 3. 運動技術、運動構造、運動観察、運動経過の質的把握等を理解しているかを評価する。（レポート課題） 4. 「コツ」と「カン」について、具体的な動きを例示して説明する事が出来るかを評価する。（レポート課題） 5. その他、学習意欲や態度、ディスカッションの積極性を発言や発表等で評価する。　（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[試験・レポート等の課題に対するフィードバックの方法] 授業時に返却し、その内容の解説や評価のポイントを明示する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

K. マイネル（金子明友訳）：スポーツ運動学, 大修館書店（1979）
谷　徹：これが現象学だ,講談社現代新書（2002）
金子明友：わざの伝承, 明和出版（2002）
金子明友：身体地の形成（上・下）, 明和出版（2005）
金子明友：スポーツ運動学, 明和出版（2009）
金子一秀：スポーツ運動学入門, 明和出版（2015）

その他	
連絡先・オフィスアワー	担当：原田睦巳 （1号館5階1511 体操競技研究室） mtharada[at]juntendo.ac.jp　※[at]を@に変更してください。 [オフィスアワー] 火曜日　10：40～12：00 木曜日　10：00～12：00
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1回	原田睦巳	（授業内容） スポーツ運動学の目的と役割, そしてその概念についての基礎を学習する。	（授業方法） 人間科学的な学問及び研究方法について説明する。 スポーツ運動学的見地について概念を説明する。	（予習：2時間） スポーツにおける科学的研究方法や分析方法について、その具体的な方法を調査する。 （復習：2時間） スポーツ運動学の概念やその目的と役割について、復習する。
2回	原田睦巳	（授業内容） 運動研究の史的変遷について理解を深める。	（授業方法） 自然科学と人間科学の史的変遷から、K.マイネルのスポーツ運動学について説明する。	（予習：2時間） スポーツ競技と研究や科学的分析の関係性について調査し、まとめる。 （復習：2時間） 自然科学と人間科学の史的変遷について、及びK.マイネルのスポーツ運動学について復習する。
3回	原田睦巳	（授業内容） 人間の運動系の内容と運動学習についての概念の理解を深める。	（授業方法） 人間の運動系には2つの運動系が存在する事について説明する。 運動を習得するにあたっての「位相」という概念について説明する。	（予習：2時間） インターネットや動画閲覧サイトを利用し、幼児期の運動の映像、青年期の運動の映像を閲覧し、それぞれの運動の特徴についてまとめる。 また、本能における反射について調べ、その内容をまとめる。 （復習：2時間） 人間の運動系の2分類についてまとめる。 K.マイネルの「運動学習の三位相」について復習する。
4回	原田睦巳	（授業内容） 運動技術の概念とその特性、またその階層性について理解を深める。	（授業方法） 運動の技術に定義について説明をし、その特性についても説明をする。技術は時代と共に変遷する事を具体的な例を示しながら説明する。	（予習：2時間） 運動技術について、自分のスポーツ種目等から具体的な例示を示しながら検討する。 （復習：3時間） 運動技術の定義についてまとめる。 運動技術の階層性についてそれぞれの階層においての特性を復習する。 技術の習得方法について、2つの習得方法についての内容を具体的な例示を示しながら整理しまとめる。
5回	原田睦巳	（授業内容） 運動におけるその構造についてその概念を説明し理解する。	（授業方法） 構造と言われるその他のものと運動構造との相違や類似性について説明する。 また、運動における”合理的”という表現について理解する。	（予習：2時間） 構造といわれるものについて調査しまとめる。 また、それぞれの概念についても調査しまとめる。 （復習：2時間） 運動における構造についてその概念を具体的な例示を示して説明しまとめる。 運動経過における運動構造の三形態とその局面構造について復習する。
6回	原田睦巳	（授業内容） 運動の経過におけるその運動の質的把握について説明する。	（授業方法） K.マイネルが提唱する”8つのカテゴリー”について、その内容を説明する。	（予習：3時間） 運動の経過とは？」という概念を我々はどう捉えているのかを調査しまとめる。 動きの良し悪しをどう判断しているのかを自身の意見としてまとめる。 （復習：2時間） K.マイネルの8つのカテゴリーによる質的把握について具体的な例示を示しながら復習する。
7回	原田睦巳	（授業内容） 運動指導における運動観察の意義について、理解を深める。	（授業方法） 運動観察における「自己観察」と「他者観察」の2つの方法について説明する。 印象分析についても説明し、理解を深める。	（予習：2時間） スポーツ現場において「運動を観察する」とはどの様なものかを自身のスポーツ種目においての例示を示しながらまとめる。 （復習：2時間） 運動観察における「自己観察」と「他者観察」の2つの方法それぞれについて具体的な例示を示しながらまとめる。 印象分析について、具体的な例示を示しながらまとめる。
8回	原田睦巳	（授業内容） 各ジェネレーションによる運動発達のモルフォロギー的認識について説明し、理解を深める。	（授業方法） 各ジェネレーションによる運動の発達段階について説明し、その特徴を理解する。	（予習：2時間） 自身の運動の発達時期について振り返りながら考えをまとめる。 生涯スポーツの定義や功罪について調査しまとめる。 （復習：2時間） 新生児から高齢者までの運動発達の運動学的特性について具体的な例示を示しながらまとめる。

9回	原田睦巳	（授業内容） 発生論的運動学の概念についての基礎を学習する。	（授業方法） 従来の運動学との違いについて説明する。 形成位相論におけるマイネルの3位相と、金子の5位相の特徴と違いについて説明する。	（予習：3時間） マイネルの運動学における3領域（動きの質、運動発達、学習位相）の内容と特徴についてあらかじめ確認しておく。 （復習：2時間） 金子の5位相について、自分自身の具体的な運動場面に当てはめながら復習する。
10回	原田睦巳	（授業内容） 人間の運動とはどのようなものか、運動学的立場から学習する。	（授業方法） 人間の運動に付きまとうパトス的背景について説明する。また、人は運動をどのように捉えるのかを理解するため、共感、移入、内部視点と外部視点について説明する。 動感運動の匿名性について説明する。	（予習：2時間） 自分自身の動きをどのように把握しているのか、自身の運動場面を振り返って検討する。 （復習：2時間） 運動共感について具体的な例をいくつか挙げる。 内部視点と外部視点の違いについてまとめる。
11回	原田睦巳	（授業内容） 運動観察の方法と重要性について理解する。以前学習した自己観察、他者観察の概念をさらに深め、具体的な運動場面に置きかえて理解できるようにする。	（授業方法） スポーツ学習現場の選手やコーチに不可欠な運動観察について説明する。 自己観察、他者観察について、映像を用いながら説明する。	（予習：2時間） スポーツ現場において運動観察はどのように行われているのかについて挙げ、それぞれの特徴について理解しておく。 （復習：2時間） 自身の専門種目の映像を確認しながら、修正点を見つける。その際、なぜその点を挙げたのかについて、運動学的に考察する。（キーワード：「移入」「潜勢自己運動」「運動共感」「先読み」）
12回	原田睦巳	（授業内容） 覚える身体知（創発身体知）について理解する。	（授業方法） 創発身体知の概要について説明する。 始原身体知における体感領域、時間化領域について説明する。	（予習：2時間） 創発身体知の概要について調べる。 （参考図書『わざの伝承（金子，2002）』、『身体知の形成（上）、身体知の形成（下）（金子、2005）』） （復習：2時間） 体感領域における定位感、遠近感、気配感の具体的例証を挙げる。
13回	原田睦巳	（授業内容） 教える身体知（促発身体知）について理解する。	（授業方法） 促発身体知の概要について理解する。 促発に不可欠な観察分析、交信分析、代行分析、処方分析について説明する。	（予習：2時間） 促発分析の概要について調べる。 （参考図書『わざの伝承（金子，2002）』、『身体知の形成（上）、身体知の形成（下）（金子、2005）』） （復習：2時間） 自身の専門種目の指導現場において促発指導を行う場合の指導計画と方法を立案する。
14回	原田睦巳	(授業内容) 1回から13回までの運動学的見地を踏まえた運動指導の実践について説明し、その後グループディスカッションを行う。	（授業方法） 具体提な例示種目や対象となる技術を例に挙げ、スポーツ運動学的見地からその指導方法の立案、指導、観察、修正をグループディスカッションし、最後に発表する。	（予習：1.5時間） 自身のスポーツ種目における具体提な対象となる技術を例に挙げ、スポーツ運動学的見地からその指導方法の立案、指導、観察、修正をまとめ、グループディスカッションの準備を整える。 （復習：2時間） グループディスカッションの内容を整理し、グループ内の他の学生の内容を理解し、整理する。
15	原田睦巳	（授業内容） これまでの授業内容を総合的に把握し、具体的な例を明示しプレゼンテーションを行う	授業方法） 具体提な例示種目や対象となる技術を例に挙げ、スポーツ運動学的見地からその指導方法の立案、指導、観察、修正をプレゼンテーションする。	（予習：1.5時間） 自身のスポーツ種目における具体提な対象となる技術を例に挙げ、スポーツ運動学的見地からその指導方法の立案、指導、観察、修正をまとめ、プレゼンテーションの準備を整える。
定期試験	原田睦巳	授業内容の理解度を把握するため、定期試験を実施する	筆記問題による定期試験を実施する	

科目名	スポーツ統計学（後期前半）	授業形態	講義
英語科目名	Sports Statistics	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	廣津　信義	ナンバリング	
担当教員	廣津　信義、山田　泰行		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] スポーツ健康科学の分野において、統計学の知識が必須になりつつある。この授業では、統計学の基礎的な 概念を理解するとともに、実データを基に統計計算することで、スポーツ健康科学研究科博士前期課程での研究に必要となる統計理論に関する理解を深める。この授業では、分散分析の考え方をベースに、データの見方から統計手法の適用の仕方まで、具体的なデータを扱い受講生同士で討議しつつ問題意識を高める。理論面については講義で説明し、統計ソフトを使用したデータ解析の実習も併行して行う。
到達目標	1. スポーツ健康科学にて必須となる統計学の専門用語を理解できる。 2. 分散、標準偏差、標準得点など基本的な統計量の計算ができる。 3. 推定・検定、相関や回帰分析に関する計算ができる。 4. 測定や調査・実験にて得られたデータの解析にあたって、目的に応じた統計手法を選び、統計ソフトを利用して計算できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 「統計学」についての基礎知識を得た後に、この授業を履修することが望ましい。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 課題レポート２回（40%）、授業内での計算レポート（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. スポーツ健康科学にて必須となる統計用語を説明できる（レポート）。 2. 分散、標準偏差、標準得点など基本的な統計量の計算ができる（レポート）。 3. 推定・検定、相関や回帰分析に関する計算ができる（レポート）。 4. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）。

試験・課題に対するフィードバック方法
課題レポートについては、J-PASS上で模範解答を示す。授業中に課す計算レポートについては、授業内で解説を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基礎統計学(栄養科学シリーズNEXT)	鈴木良雄・ 廣津信義	講談社	978-4-06-155348-4	
統計学は最強の学問である	西内啓	ダイヤモンド社	978-4478022214	

参考文献
この科目では、必ず用意しなければならないテキストはありません。必要な資料は、授業中に配布する。 上記の2点は、レポート作成の際や準備学習での参考書として薦めます。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：廣津信義 E-mail:nhirotsu[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：さくらキャンパスでの担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：　1号館2階非常勤講師室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：　本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	国立スポーツ科学センターでのスポーツデータの分析業務の経験を生かし、スポーツ統計学が博士前期課程の研究で有用となることを織り込みながら授業をします。
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	廣津	［授業内容］ テーマ：統計学とは 授業目的や評価方法と授業の進め方について 説明する。授業の流れを把握するとともに、 基礎的な統計学の考え方を理解する。	講義／グループワーク	（予習：2時間） シラバスを読み他の授業との違いを確認する。 （復習：2時間） ガイダンスを受け、自分にとっての受講の意義を確認すること。
2	廣津	［授業内容］ テーマ：データの収集方法 データの収集方法について説明する。卒業研究などで実践した方法を発表する。	講義／グループワーク	（予習：3時間） 各自の卒業研究でのデータ収集方法を説明できるようにしておく。指数関数とベクトルについて調べておく （復習： 3時間） 配布プリントの数学の課題を行うこと。
3	廣津	［授業内容］ テーマ：記述統計の基礎 統計の基礎となる記述統計としてメジアン、モード、平均値、分散、標準偏差など基本的な統計量について理解する。	講義／グループワーク	（予習：2時間） 微積分や行列について調べておくこと （復習： 2時間） 配布プリントの数学の課題を行うこと。
4	廣津	［授業内容］ テーマ：推測統計の基礎 推測統計の概念を把握する。母集団と標本、正規分布など統計学の基礎概念を理解する。	講義／グループワーク	（予習：2時間） 統計ソフトについて疑問点を調べておくこと （復習： 2時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。
5	廣津 山田	［授業内容］ テーマ：統計ソフトの使い方 統計ソフトでのデータの扱い方や要約統計量の算出などについて実習する。 プリントで配布された課題を行うことでPythonとExcel分析ツールの操作方法を理解する	講義／グループワーク	（予習：2時間） 統計ソフトについて疑問点を調べておくこと （復習： 2時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。
6	廣津	［授業内容］ テーマ：仮説検定 仮説検定の考え方について学び、母平均値の検定の方法を学習する。中心極限定理や仮説検定について解説する。	講義／グループワーク	（予習：2時間） なぜ検定が必要なのか考えておくこと （復習 ： 2時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。
7	廣津	［授業内容］ テーマ：平均値の差の検定 平均値の差の検定について学ぶ。t検定について、具体的な計算手法を例示する。	講義／グループワーク	（予習：2時間） 統計ソフトでt検定を行ってみること。 （復習 ： 2時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。
8	廣津	［授業内容］ テーマ：対応のあるｔ検定 対応のあるｔ検定について説明する。統計ソフトを用いて計算の実習を行う。	講義／グループワーク	（予習：2時間） 対応のあるt検定について調べておくこと。 （復習:2時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。
9	廣津	［授業内容］ テーマ：母分散の検定 母分散の検定について説明する。統計ソフトを用いて計算の実習を行う。	講義／グループワーク	（予習：2時間） F検定について調べておくこと。 （復習 ： 2時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。
10	廣津	［授業内容］ テーマ：分散分析 分散分析の考え方を学び、統計ソフトを用いて計算の実習を行う。	講義／グループワーク	（予習：3時間） 分散分析が使われている論文を読んでみること （復習 ： 2時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。
11	廣津 山田	［授業内容］ テーマ：多重比較 多重比較の考え方を解説し、統計ソフトを用いて計算の実習を行う。	講義／グループワーク	（予習：2時間） 多重比較を行っている論文を読んでみること （復習 ： 2時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。
12	廣津 山田	［授業内容］ テーマ：重回帰分析 重回帰分析の考え方を解説し、統計ソフトを用いて計算の実習を行う。	講義／グループワーク	（予習：2時間） 重回帰分析を行っている論文を読んでみること （復習 ： 2時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。
13	廣津 山田	［授業内容］ テーマ：分割表の検定 分割表としてのデータのまとめ方の考え方を解説し、統計ソフトを用いて計算の実習を行う。	講義／グループワーク	（予習：2時間） カイ２乗検定を行っている論文を探しておくこと （復習 ： 2時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。
14	廣津 山田	［授業内容］ テーマ：ノンパラメトリック法 ノンパラメトリックの考え方を解説し、統計ソフトを用いて計算の実習を行う。	講義／グループワーク	（予習：2時間） ノンパラメトリック法を行っている論文を探してみること （復習 ： 1時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。

15	廣津 山田	まとめと質疑応答	授業全体を通してのまとめや補足事項を説明する。質疑応答を行う。	（予習：1時間） 授業全体を通しての不明点などについて把握する （復習 ： 1時間） 質疑応答の内容を基に調べる
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ統計学（後期前半）	授業形態	講義
英語科目名	Sports Statistics	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	廣津　信義	ナンバリング	
担当教員	廣津　信義、山田　泰行		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] スポーツ健康科学の分野において、統計学の知識が必須になりつつある。この授業では、統計学の基礎的な 概念を理解するとともに、実データを基に統計計算することで、スポーツ健康科学研究科博士前期課程での研究に必要となる統計理論に関する理解を深める。この授業では、分散分析の考え方をベースに、データの見方から統計手法の適用の仕方まで、具体的なデータを扱い受講生同士で討議しつつ問題意識を高める。理論面については講義で説明し、統計ソフトを使用し たデータ解析の実習も併行して行う。
到達目標	1. スポーツ健康科学にて必須となる統計学の専門用語を理解できる。 2. 分散、標準偏差、標準得点など基本的な統計量の計算ができる。 3. 推定・検定、相関や回帰分析に関する計算ができる。 4. 測定や調査・実験にて得られたデータの解析にあたって、目的に応じた統計手法を選び、統計ソフトを利用して計算できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 「統計学」についての基礎知識を得た後に、この授業を履修することが望ましい。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 課題レポート２回（40%）、授業内での計算レポート（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. スポーツ健康科学にて必須となる統計用語を説明できる（レポート）。 2. 分散、標準偏差、標準得点など基本的な統計量の計算ができる（レポート）。 3. 推定・検定、相関や回帰分析に関する計算ができる（レポート）。 4. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する（平常点）。

試験・課題に対するフィードバック方法
課題レポートについては、J-PASS上で模範解答を示す。授業中に課す計算レポートについては、授業内で解説を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基礎統計学(栄養科学シリーズNEXT)	鈴木良雄・ 廣津信義	講談社	978-4-06-155348-4	
統計学は最強の学問である	西内啓	ダイヤモンド社	978-4478022214	

参考文献
この科目では、必ず用意しなければならないテキストはありません。必要な資料は、授業中に配布する。 上記の2点は、レポート作成の際や準備学習での参考書として薦めます。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：廣津信義 E-mail:nhirotsu[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：さくらキャンパスでの担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：1号館2F非常勤講師室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	国立スポーツ科学センターでのスポーツデータの分析業務の経験を生かし、スポーツ統計学が博士前期課程の研究で有用となることを織り込みながら授業をします。
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	廣津	［授業内容］ テーマ：統計学とは 授業目的や評価方法と授業の進め方について 説明する。授業の流れを把握するとともに、 基礎的な統計学の考え方を理解する。	講義／グループワーク	（予習：2時間） シラバスを読み他の授業との違いを確認する。 （復習：2時間） ガイダンスを受け、自分にとっての受講の意義を確認すること。
2	廣津	［授業内容］ テーマ：データの収集方法 データの収集方法について説明する。卒業研究などで実践した方法を発表する。	講義／グループワーク	（予習：3時間） 各自の卒業研究でのデータ収集方法を説明できるようにしておく。指数関数とベクトルについて調べておく （復習： 3時間） 配布プリントの数学の課題を行うこと。
3	廣津	［授業内容］ テーマ：記述統計の基礎 統計の基礎となる記述統計としてメジアン、モード、平均値、分散、標準偏差など基本的な統計量について理解する。	講義／グループワーク	（予習：2時間） 微積分や行列について調べておくこと （復習： 2時間） 配布プリントの数学の課題を行うこと。
4	廣津	［授業内容］ テーマ：推測統計の基礎 推測統計の概念を把握する。母集団と標本、正規分布など統計学の基礎概念を理解する。	講義／グループワーク	（予習：2時間） 統計ソフトについて疑問点を調べておくこと （復習： 2時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。
5	廣津 山田	［授業内容］ テーマ：統計ソフトの使い方 統計ソフトでのデータの扱い方や要約統計量の算出などについて実習する。 プリントで配布された課題を行うことでPythonとExcel分析ツールの操作方法を理解する	講義／グループワーク	（予習：2時間） 統計ソフトについて疑問点を調べておくこと （復習： 2時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。
6	廣津	［授業内容］ テーマ：仮説検定 仮説検定の考え方について学び、母平均値の検定の方法を学習する。中心極限定理や仮説検定について解説する。	講義／グループワーク	（予習：2時間） なぜ検定が必要なのか考えておくこと （復習 ： 2時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。
7	廣津	［授業内容］ テーマ：平均値の差の検定 平均値の差の検定について学ぶ。t検定について、具体的な計算手法を例示する。	講義／グループワーク	（予習：2時間） 統計ソフトでt検定を行ってみること。 （復習 ： 2時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。
8	廣津	［授業内容］ テーマ：対応のあるｔ検定 対応のあるｔ検定について説明する。統計ソフトを用いて計算の実習を行う。	講義／グループワーク	（予習：2時間） 対応のあるt検定について調べておくこと。 （復習:2時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。
9	廣津	［授業内容］ テーマ：母分散の検定 母分散の検定について説明する。統計ソフトを用いて計算の実習を行う。	講義／グループワーク	（予習：2時間） F検定について調べておくこと。 （復習 ： 2時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。
10	廣津	［授業内容］ テーマ：分散分析 分散分析の考え方を学び、統計ソフトを用いて計算の実習を行う。	講義／グループワーク	（予習：3時間） 分散分析が使われている論文を読んでみること （復習 ： 2時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。
11	廣津 山田	［授業内容］ テーマ：多重比較 多重比較の考え方を解説し、統計ソフトを用いて計算の実習を行う。	講義／グループワーク	（予習：2時間） 多重比較を行っている論文を読んでみること （復習 ： 2時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。
12	廣津 山田	［授業内容］ テーマ：重回帰分析 重回帰分析の考え方を解説し、統計ソフトを用いて計算の実習を行う。	講義／グループワーク	（予習：2時間） 重回帰分析を行っている論文を読んでみること （復習 ： 2時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。
13	廣津 山田	［授業内容］ テーマ：分割表の検定 分割表としてのデータのまとめ方の考え方を解説し、統計ソフトを用いて計算の実習を行う。	講義／グループワーク	（予習：2時間） カイ２乗検定を行っている論文を探しておくこと （復習 ： 2時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。
14	廣津 山田	［授業内容］ テーマ：ノンパラメトリック法 ノンパラメトリックの考え方を解説し、統計ソフトを用いて計算の実習を行う。	講義／グループワーク	（予習：2時間） ノンパラメトリック法を行っている論文を探してみること （復習 ： 1時間） 配布プリントの統計の基礎の課題を行うこと。

15	廣津 山田	まとめと質疑応答	授業全体を通してのまとめや補足事項を説明する。質疑応答を行う。	（予習：1時間） 授業全体を通しての不明点などについて把握する （復習 ： 1時間） 質疑応答の内容を基に調べる
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ心理学（前期前半）	授業形態	講義
英語科目名	Sports Psychology	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	川田　裕次郎	ナンバリング	
担当教員	川田　裕次郎		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業では、スポーツ場面で生じる心理的な現象や問題について、これまで蓄積されてきたスポーツ心理学の理論や枠組みについて講義を通して理解する。スポーツ心理学分野の学術論文を自ら調べてまとめ、プレゼンテーションを行い研究方法（質的研究、量的研究、ミックス法など）について学ぶ。学習内容をスポーツ現場で応用する力を、心理テスト、グループディスカッション、グループワーク、事例検討を通して身につける。授業内のディスカッションで発表する自分の意見を事前にまとめることが求められる。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ心理学の理論や枠組みを説明できる。 2. スポーツ心理学の研究方法を自分の言葉で説明できる。 3. スポーツ心理学の知見をコーチング、体育授業、運動の指導に応用できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修条件] 特になし [履修上の注意（科目独自のルール）] 特になし

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 下記の項目を総合して評価する。 ①授業でのプレゼンテーションとディスカッション（40%） ②レポート試験（40%） ③小テスト（20%）
評価基準	[成績評価の評価基準] 1. スポーツ心理学の理論や枠組みを説明できる（小テスト）。 2. スポーツ心理学の研究方法を自分の言葉で説明できる（プレゼンテーションとディスカッション、小テスト）。 3. スポーツ心理学の知見をスポーツ現場に応用する方法を提案できる（レポート）。

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 小テストとレポートのフィードバックは授業中に返却して解説を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
				この科目では必ず用意しなければならないテキストはありません。必要な資料は授業中に適宜配布します。
				There is no textbook that you must prepare for this course. The necessary materials will be distributed as needed during the class.

参考文献
[テキスト・参考書] ただし、下記の3点の書籍はレポートの作成や準備学習での参考書として薦めます。 1. 最新スポーツ心理学-その軌跡と展望，日本スポーツ心理学会（編）（大修館書店） 2. スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版，日本スポーツ心理学会（編）（大修館書店） 3. スポーツ心理学事典，日本スポーツ心理学会（編）（大修館書店）

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：川田裕次郎 E-mail: yuukawa[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 日時：火曜日 昼休み（12:10～13:10）、水曜日 昼休み（12:10～13:10） 場所：1号館2階　スポーツ心理学研究室（1215室）またはオンライン会議システム 他の学生の相談時間と重ならないようにするため、できる限り前日までにE-mailで予約してください。 質問や相談は予約のあった方を優先します。

担当教員の実務経験	公認心理師（国家資格）とスポーツメンタルトレーニング指導士の資格を取得しており、プロフェッショナルアスリート、国民スポーツ大会出場選手、大学生アスリートのメンタルパフォーマンスコーチの実務経験のある教員が授業を担当する。
備考	[学習時間] この授業は、講義形式の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学習を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 [その他] この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられている。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	川田	[授業内容] テーマ：授業のオリエンテーションとスポーツ心理学の定義 スポーツ心理学の歴史、定義、研究内容、現状と課題、期待されていることなどを理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。グループでのディスカッションを通して、スポーツ心理学の重要性について学ぶ。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 授業のシラバスを丁寧に読んでくる。スポーツ心理学の定義について事前に調べてくる。授業で学びたいと考えている内容を３つ考えてくる。 （復習：2時間） 授業のオリエンテーションの内容について理解を深めるために授業資料を読み返す。スポーツ心理学がどのような学問であるのかについて復習する。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
2	川田	[授業内容] テーマ：心理状態とパフォーマンス関係 不安、緊張、逆Ｕ字曲線、最適な緊張感、スランプ、プラトーを理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。グループでのディスカッションを通して、最適な緊張感をどのように生み出すかについて学ぶ。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。「心理状態とパフォーマンス関係」について事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
3	川田	[授業内容] テーマ：スポーツにおけるストレッサーとストレス対処行動 ストレッサー、ストレス対処行動、ストレス反応などを理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。グループでのディスカッションを通して、ストレスにどのように対処することができるのかについて考える。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。「ストレッサーとストレス対処行動」ついて事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
4	川田	[授業内容] テーマ：スポーツと心理的発達 パーソナリティの発達、社会性の発達などを理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。グループでのディスカッションを通して、スポーツがどのように心理的発達に役立つのかについて考える。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。スポーツが心の発達にどのような意味をもつのかについて事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
5	川田	[授業内容] テーマ：スポーツにおける動機づけ 期待−価値理論、統制感、原因帰属理論などを理解する [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。グループでのディスカッションを通して、動機づけを高める指導方法ついて考える。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。スポーツにおける動機づけについて事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
6	川田	[授業内容] テーマ：チームワークを高めるチームづくり 組織の構造、集団凝集性、集団のモラールなどを理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。グループでのディスカッションを通して、集団凝集性を高める方法ついて考える。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。チームワークを高めるチームづくりについて事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。

7	川田	[授業内容] テーマ：スポーツにおけるハラスメントと体罰の理解と予防 パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、体罰などを理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。グループでのディスカッションを通して、スポーツでのハラスメントの防止方法について考える。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。スポーツにおけるハラスメントと体罰について事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
8	川田	[授業内容] テーマ：アンチドーピング アンチドーピングを理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。グループでのディスカッションを通して、ドーピングの予防法ついて考える。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。アンチドーピングについて事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
9	川田	[授業内容] テーマ：スポーツ心理学で用いられている「質的研究」 インタビュー、フォーカスグループインタビューなどについて理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。ディスカッションを通して「質的研究」のメリットとデメリットを整理する。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。「質的研究（インタビューとフォーカスグループ）」について事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく
10	川田	[授業内容] テーマ：スポーツ心理学で用いられている「量的研究」（横断研究とコホート研究） 横断研究とコホート研究について理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。横断研究とコホート研究について理解する。ディスカッションを通して、「横断研究とコホート研究」のメリットデメリットを整理する。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。「量的研究（横断研究とコホート研究）」について事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
11	川田	[授業内容] テーマ：スポーツ心理学で用いられている「量的研究」（ケースコントロール研究） ケースコントロール研究について理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。ディスカッションを通して、「ケースコントロール研究」のメリットデメリットを整理する。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。「量的研究（ケースコントロール研究）」について事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
12	川田	[授業内容] テーマ：スポーツ心理学で用いられている「ミックス法」 ミックス法について理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。ディスカッションを通して、「ミックス法」のメリットデメリットを整理する。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。「ミックス法」について事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
13	川田	[授業内容] テーマ：スポーツ心理学に関連するリサーチクエスチョンに基づく研究計画の作成① [授業方法] リサーチクエスチョンに基づいて研究計画を作成する。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。事前に出されたリサーチクエスチョンを達成するための研究計画について事前に考えてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
14	川田	[授業内容] テーマ：スポーツ心理学に関連するリサーチクエスチョンに基づく研究計画の作成② [授業方法] リサーチクエスチョンに基づいて作成した研究計画の発表を行い、研究計画をよりよくするにはどのようにすれば良いのかについてディスカッションを行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。優れたリサーチクエスチョンについて事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。

15	川田	[授業内容] テーマ：1回～14回の授業内容の振り返り レポート課題の解説とスポーツ心理学の授業のまとめを行う。 [授業方法] スポーツ心理学の基礎的な理論、「質的研究」「量的研究」「ミックス法」について振り返る。ディスカッションを通して、それぞれの研究手法がどのようなスポーツ心理学のリサーチクエスチョンに対応できるのかについてディスカッションする。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。レポート課題についてのポイントを解説する。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 1回～14回の授業内容の復習をしっかりと行う。レポート課題（スポーツ心理学をコーチング、体育指導、運動指導などに応用する方法の提案）を実施して提出する。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ心理学（前期後半）	授業形態	講義
英語科目名	Sports Psychology	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	川田　裕次郎	ナンバリング	
担当教員	川田　裕次郎		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業では、スポーツ場面で生じる心理的な現象や問題について、これまで蓄積されてきたスポーツ心理学の理論や枠組みについて講義を通して理解する。スポーツ心理学分野の学術論文を自ら調べてまとめ、プレゼンテーションを行い研究方法（質的研究、量的研究、ミックス法など）について学ぶ。学習内容をスポーツ現場で応用する力を、心理テスト、グループディスカッション、グループワーク、事例検討を通して身につける。授業内のディスカッションで発表する自分の意見を事前にまとめることが求められる。
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ心理学の理論や枠組みを説明できる。 2. スポーツ心理学の研究方法を自分の言葉で説明できる。 3. スポーツ心理学の知見をコーチング、体育授業、運動の指導に応用できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修条件] 特になし [履修上の注意（科目独自のルール）] 特になし

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 下記の項目を総合して評価する。 ①授業でのプレゼンテーションとディスカッション（40%） ②レポート試験（40%） ③小テスト（20%）
評価基準	[成績評価の評価基準] 1. スポーツ心理学の理論や枠組みを説明できる（小テスト）。 2. スポーツ心理学の研究方法を自分の言葉で説明できる（プレゼンテーションとディスカッション、小テスト）。 3. スポーツ心理学の知見をコーチング、体育授業、運動の指導に応用できる（レポート）。

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 小テストとレポートのフィードバックは授業中に返却して解説を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
				この科目では必ず用意しなければならないテキストはありません。必要な資料は授業中に適宜配布します。
				There is no required textbook for this course. Necessary materials will be distributed in class as needed.

参考文献
[テキスト・参考書] ただし、下記の3点の書籍はレポートの作成や準備学習での参考書として薦めます。 1. 最新スポーツ心理学-その軌跡と展望，日本スポーツ心理学会（編）（大修館書店） 2. スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版，日本スポーツ心理学会（編）（大修館書店） 3. スポーツ心理学事典，日本スポーツ心理学会（編）（大修館書店）

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：川田裕次郎 E-mail: yuukawa[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 日時：火曜日 昼休み（12:00～12:50）、水曜日 昼休み（12:00～12:50） 場所：1号館2階　スポーツ心理学研究室（1215室））またはオンライン会議システム 他の学生の相談時間と重ならないようにするため、できる限り前日までにE-mailで予約してください。 質問や相談は予約のあった方を優先します。
担当教員の実務経験	公認心理師（国家資格）とスポーツメンタルトレーニング指導士の資格を取得しており、プロフェッショナルアスリート、国民体育大会出場選手、大学生アスリートのメンタルパフォーマンスコーチの実務経験のある教員が授業を担当する。

備考	[学習時間] この授業は、講義形式の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学習を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 [その他] この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられている。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	川田	[授業内容] テーマ：授業のオリエンテーションとスポーツ心理学の定義 スポーツ心理学の歴史、定義、研究内容、現状と課題、期待されていることなどを理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。グループでのディスカッションを通して、スポーツ心理学の重要性について学ぶ。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 授業のシラバスを丁寧に読んでくる。スポーツ心理学の定義について事前に調べてくる。授業で学びたいと考えている内容を３つ考えてくる。 （復習：2時間） 授業のオリエンテーションの内容について理解を深めるために授業資料を読み返す。スポーツ心理学がどのような学問であるのかについて復習する。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
2	川田	[授業内容] テーマ：心理状態とパフォーマンス関係 不安、緊張、逆Ｕ字曲線、最適な緊張感、スランプ、プラトーを理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。グループでのディスカッションを通して、最適な緊張感をどのように生み出すかについて学ぶ。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。「心理状態とパフォーマンス関係」について事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
3	川田	[授業内容] テーマ：スポーツにおけるストレッサーとストレス対処行動 ストレッサー、ストレス対処行動、ストレス反応などを理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。グループでのディスカッションを通して、ストレスにどのように対処することができるのかについて考える。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。「ストレッサーとストレス対処行動」ついて事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
4	川田	[授業内容] テーマ：スポーツと心理的発達 パーソナリティの発達、社会性の発達などを理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。グループでのディスカッションを通して、スポーツがどのように心理的発達に役立つのかについて考える。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。スポーツが心の発達にどのような意味をもつのかについて事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
5	川田	[授業内容] テーマ：スポーツにおける動機づけ 期待-価値理論、統制感、原因帰属理論などを理解する [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。グループでのディスカッションを通して、動機づけを高める指導方法ついて考える。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。スポーツにおける動機づけについて事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
6	川田	[授業内容] テーマ：チームワークを高めるチームづくり 組織の構造、集団凝集性、集団のモラールなどを理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。グループでのディスカッションを通して、集団凝集性を高める方法ついて考える。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。チームワークを高めるチームづくりについて事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。

7	川田	[授業内容] テーマ：スポーツにおけるハラスメントと体罰の理解と予防 パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、体罰などを理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。グループでのディスカッションを通して、スポーツでのハラスメントの防止方法について考える。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。スポーツにおけるハラスメントと体罰について事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
8	川田	[授業内容] テーマ：アンチドーピング アンチドーピングを理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。グループでのディスカッションを通して、ドーピングの予防法ついて考える。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。アンチドーピングについて事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
9	川田	[授業内容] テーマ：スポーツ心理学で用いられている「質的研究」 インタビュー、フォーカスグループインタビューなどについて理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。ディスカッションを通して「質的研究」のメリットとデメリットを整理する。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。「質的研究（インタビューとフォーカスグループ）」について事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく
10	川田	[授業内容] テーマ：スポーツ心理学で用いられている「量的研究」（横断研究とコホート研究） 横断研究とコホート研究について理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。横断研究とコホート研究について理解する。ディスカッションを通して、「横断研究とコホート研究」のメリットデメリットを整理する。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。「量的研究（横断研究とコホート研究）」について事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
11	川田	[授業内容] テーマ：スポーツ心理学で用いられている「量的研究」（ケースコントロール研究） ケースコントロール研究について理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。ディスカッションを通して、「ケースコントロール研究」のメリットデメリットを整理する。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。「量的研究（ケースコントロール研究）」について事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
12	川田	[授業内容] テーマ：スポーツ心理学で用いられている「ミックス法」 ミックス法について理解する。 [授業方法] スライドとプリントを用いて講義を進める。ディスカッションを通して、「ミックス法」のメリットデメリットを整理する。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。「ミックス法」について事前に調べてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
13	川田	[授業内容] テーマ：スポーツ心理学に関連するリサーチクエスチョンに基づく研究計画の作成① [授業方法] リサーチクエスチョンに基づいて研究計画を作成する。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。事前に出されたリサーチクエスチョンを達成するための研究計画について事前に考えてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。
14	川田	[授業内容] テーマ：スポーツ心理学に関連するリサーチクエスチョンに基づく研究計画の作成 [授業方法] リサーチクエスチョンに基づいて作成した研究計画の発表を行い、研究計画をよりよくするにはどのようにすれば良いのかについてディスカッションを行う。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 資料の該当部分を丁寧に読んでくる。優れたリサーチクエスチョンについて事前に考えてくる。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。復習時に疑問に思ったことについて調べ、わからなければ質問をできる準備をしておく。

15	川田	[授業内容] テーマ：1回～14回の授業内容の振り返り レポート課題の解説とスポーツ心理学の授業のまとめを行う。 [授業方法] スポーツ心理学の基礎的な理論、「質的研究」「量的研究」「ミックス法」について振り返る。ディスカッションを通して、それぞれの研究手法がどのようなスポーツ心理学のリサーチクエスチョンに対応できるのかについてディスカッションする。小テストを通して、授業内容の理解度を把握し、小テストの解説を行う。レポート課題についてのポイントを解説する。	講義、討議、発表	（予習：2時間） 1回～14回の授業内容の復習をしっかりと行う。レポート課題（スポーツ心理学をコーチング、体育指導、運動指導などに応用する方法の提案）を実施して提出する。 （復習：2時間） 授業資料を読み返す。ディスカッションで出された意見についてまとめる。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ社会学（前期後半）	授業形態	講義
英語科目名	Sociology of Sport	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	渡　正	ナンバリング	
担当教員	渡　正		

授業概要	
全体内容	スポーツ社会学は、スポーツという社会的・文化的現象を通して、私たちの生きるこの社会についての洞察を深めることを目指す分野である。社会的現象としてのスポーツは、単に競技やレジャーであるわけではなく、さまざまな意味や価値が付与されたものである。そのためスポーツそのものが抱える文化的・社会的意義や課題を理解することを目指すとともに、現代社会においてスポーツという社会現象が占める位置について考察する。スポーツ社会学では、量的調査とともに質的調査も重要な方法であることから、その調査方法にも理解を深める。
到達目標	1.スポーツ社会学の基礎的な知識を理解することができる。 2.スポーツについてみずからの経験等を踏まえ、批判的な議論を行う事ができる。 3.社会現象としてのスポーツを社会学の用語で説明できるようになる。 4.質的調査法について理解し、シンプルな調査および分析を行うことができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 特になし [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、プレゼンテーション、（30%）、ディスカッション(30%)を総合して評価する。
評価基準	1.スポーツ社会学の基礎的な知識を理解し説明することができる（プレゼンテーション） 2.スポーツについてみずからの経験等を踏まえ、批判的な議論を行う事ができる（ディスカッション） 3.社会現象としてのスポーツを社会学の用語で説明できるようになる（課題レポート） 4.質的調査法について理解し、シンプルな調査および分析を行うことができる（課題レポート）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題および学生同士のディスカッションにおける課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に用いるテキストについては、オープンアクセスで入手可能な論文を授業内にて提示する。 各自、取得すること。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：渡　正 E-mail: t-watari[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時:13:00～14:30 場所: 1号館3階1321室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 [その他] この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	WATARI	オリエンテーションおよび授業の進め方について説明する。また、社会学・スポーツ社会学の基本的な考え方、概念などを学習する。	プリントとスライドを用いて講義形式で行う。提示されたワークを行い、提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
2	渡	第1回に引き続き社会学・スポーツ社会学の基本的な考え方、概念などを学習する。	プリントとスライドを用いて講義形式で行う。提示されたワークを行い、提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
3	渡	社会科学における研究法（質問紙・インタビュー・フィールドワーク）の概要と特徴を学習する。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
4	渡	社会科学における研究法（テキスト分析・文献調査）の概要と特徴を学習する。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
5	渡	オリンピックなどのメガ・スポーツイベントの社会性／政治性について課題の論文を下敷きに議論し考察する。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
6	渡	オリンピックなどのメガ・スポーツイベントの社会性／政治性について課題の論文を下敷きに議論し考察する。議論の内容を踏まえた解説を行う。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
7	渡	ナショナリズムとグローバリズムについて基本的な内容を理解し、スポーツがその両者から影響をうけ、影響を与える状況を理解する。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。

8	渡	ナショナリズムとグローバリズムについて理解し、スポーツがその両者から影響をうけ、影響を与えるあり方について課題論文を下敷きに議論し考察する。また議論の内容を踏まえた解説を行う。 社会科学における研究法としてフィールドワークについて学ぶ。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
9	渡	スポーツとジェンダー・セクシュアリティの関連性について、フェミニズムの歴史を学ぶ。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：3時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：3時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
10	渡	スポーツとジェンダー・セクシュアリティの関連性について課題論文を下敷きに議論し考察する。また議論の内容を踏まえた解説を行う。 社会科学の研究法として質問紙調査の方法と分析法について学ぶ。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
11	渡	スポーツと障害者の関係について、障害の社会モデルを理解し、パラリンピックや障害者スポーツの実践について学ぶ。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
12	渡	スポーツと障害者の関係について、パラリンピックや障害者スポーツの実践について課題論文を下敷きに議論し考察する。また議論の内容を踏まえた解説を行う。 社会科学の研究方としてインタビュー調査の技法と分析を学ぶ。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
13	渡	教育・体育やスポーツコーチングにおける諸課題についてスポーツ社会学の立論を理解する。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：3時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：3時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。

14	渡	教育・体育やスポーツコーチングにおける諸課題についてスポーツ社会学の立論を理解する。また議論の内容を踏まえた解説を行う。 社会科学の研究方としてエスノメソドロジーについて学び、実践する。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
15	渡	スポーツ社会学の現代的課題について理解する。また議論の内容を踏まえた解説を行う。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
		定期試験 授業の到達目標に達しているかどうかを課題の内容によって判断する。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ社会学（前期前半）	授業形態	講義
英語科目名	Sociology of Sport	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	渡　正	ナンバリング	
担当教員	渡　正		

授業概要	
全体内容	スポーツ社会学は、スポーツという社会的・文化的現象を通して、私たちの生きるこの社会についての洞察を深めることを目指す分野である。社会的現象としてのスポーツは、単に競技やレジャーであるわけではなく、さまざまな意味や価値が付与されたものである。そのためスポーツそのものが抱える文化的・社会的意義や課題を理解することを目指すとともに、現代社会においてスポーツという社会現象が占める位置について考察する。スポーツ社会学では、量的調査とともに質的調査も重要な方法であることから、その調査方法にも理解を深める。
到達目標	1.スポーツ社会学の基礎的な知識を理解することができる。 2.スポーツについてみずからの経験等を踏まえ、批判的な議論を行う事ができる。 3.社会現象としてのスポーツを社会学の用語で説明できるようになる。 4.質的調査法について理解し、シンプルな調査および分析を行うことができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 特になし [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。
成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（40%）、プレゼンテーション、（30%）、ディスカッション(30%)を総合して評価する。
評価基準	1.スポーツ社会学の基礎的な知識を理解し説明することができる（プレゼンテーション） 2.スポーツについてみずからの経験等を踏まえ、批判的な議論を行う事ができる（ディスカッション） 3.社会現象としてのスポーツを社会学の用語で説明できるようになる（課題レポート） 4.質的調査法について理解し、シンプルな調査および分析を行うことができる（課題レポート）
試験・課題に対するフィードバック方法	
レポート、課題および学生同士のディスカッションにおける課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に用いるテキストについては、オープンアクセスで入手可能な論文を授業内にて提示する。 各自、取得すること。
その他

連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：渡　正 E-mail: t-watari[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時:13:00～14:30 場所: 1号館3階1321室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。
授業計画	

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	WATARI	オリエンテーションおよび授業の進め方について説明する。また、社会学・スポーツ社会学の基本的な考え方、概念などを学習する。	プリントとスライドを用いて講義形式で行う。提示されたワークを行い、提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
2	渡	第1回に引き続き社会学・スポーツ社会学の基本的な考え方、概念などを学習する。	プリントとスライドを用いて講義形式で行う。提示されたワークを行い、提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
3	渡	社会科学における研究法（質問紙・インタビュー・フィールドワーク）の概要と特徴を学習する。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
4	渡	社会科学における研究法（テキスト分析・文献調査）の概要と特徴を学習する。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
5	渡	オリンピックなどのメガ・スポーツイベントの社会性／政治性について課題の論文を下敷きに議論し考察する。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
6	渡	オリンピックなどのメガ・スポーツイベントの社会性／政治性について課題の論文を下敷きに議論し考察する。議論の内容を踏まえた解説を行う。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
7	渡	ナショナリズムとグローバリズムについて基本的な内容を理解し、スポーツがその両者から影響をうけ、影響を与える状況を理解する。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。

8	渡	ナショナリズムとグローバリズムについて理解し、スポーツがその両者から影響をうけ、影響を与えるあり方について課題論文を下敷きに議論し考察する。また議論の内容を踏まえた解説を行う。 社会科学における研究法としてフィールドワークについて学ぶ。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
9	渡	スポーツとジェンダー・セクシュアリティの関連性について、フェミニズムの歴史を学ぶ。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
10	渡	スポーツとジェンダー・セクシュアリティの関連性について課題論文を下敷きに議論し考察する。また議論の内容を踏まえた解説を行う。 社会科学の研究法として質問紙調査の方法と分析法について学ぶ。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
11	渡	スポーツと障害者の関係について、障害の社会モデルを理解し、パラリンピックや障害者スポーツの実践について学ぶ。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
12	渡	スポーツと障害者の関係について、パラリンピックや障害者スポーツの実践について課題論文を下敷きに議論し考察する。また議論の内容を踏まえた解説を行う。 社会科学の研究方としてインタビュー調査の技法と分析を学ぶ。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
13	渡	教育・体育やスポーツコーチングにおける諸課題についてスポーツ社会学の立論を理解する。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。

14	渡	教育・体育やスポーツコーチングにおける諸課題についてスポーツ社会学の立論を理解する。また議論の内容を踏まえた解説を行う。 社会科学の研究方としてエスノメソドロジーについて学び、実践する。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間） 授業内容や資料を読み返し、理解を深めておく。
15	渡	スポーツ社会学の現代的課題について理解する。また議論の内容を踏まえた解説を行う。	プリントとスライドを用いて講義形式および指定されたテキストの内容を履修者が発表する。提示されたワークを行い履修者同士でディスカッションし小レポートを提出する。	（予習：2時間） 課題となっているテキストについて、全員理解できるまで読み込むとともに、発表者はプレゼン資料を作成しておく。 （復習：2時間）
		定期試験 授業の到達目標に達しているかどうかを課題の内容によって判断する。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ国際文化論（前期後半）	授業形態	講義
英語科目名	Sports International Culture	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	菊　幸一	ナンバリング	
担当教員	菊　幸一		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ文化の現代的可能性と課題について、グローバリゼーションをめぐる議論の視点から捉え、理解することを目的とする。講義形式を基本とするが、履修者による発表とディスカッションも交えながら行う。
到達目標	スポーツをめぐる国際的な議論の状況を整理し、国際社会の情勢と現代スポーツのかかわりについて理解できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「高い倫理観」、「スポーツ健康科学に関する高度な専門的知識」及び「スポーツ健康科学に関する研究能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 国際社会の情勢および現代スポーツと政治、経済、文化とのかかわりについて関心を持っていること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] プレゼンテーションや質疑応答への積極的な取り組みを望む。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート2回（80%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1．スポーツ文化論の観点から、テキストで担当したトピックスを解説し、発展的な見解を述べることができる（レポート） 2．授業全体の学習成果に基づいて、新たなスポーツ国際文化論に関するテーマを設定し、その解決の方向性を論じることができる（レポート） 3．予習に基づく授業中の発言やプレゼンテーションの成果を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
発表・討議を通じて必要な知識や改善内容をフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかるスポーツ文化論	井上俊・菊幸一	ミネルヴァ書房	9784623061181	2012発行
（補足テキスト：同上改訂版）	（同上）	（同上）	(9784623088393)	(2020発行)

参考文献

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：菊　幸一 E-mail: kiku.koichi.ga[at]u.tsukuba.ac.jp（[at]を@に変更してください） [オフィスアワー] E-mailで連絡すること。
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] ※新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合もある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	菊	[授業内容] スポーツ文化の発生と展開① プレイ論　労働論　系統論	[授業方法] 講義の他、プレゼンテーション、討議形式も交えて実施する。	（予習：2時間） 左記の授業内容に関し自分なりの考えをまとめておく □ （復習：2時間） 受講時のコメント等を踏まえ自分の考えを構築する
2	菊	[授業内容] スポーツ文化の発生と展開② AGSX系とラテン系　禁欲と快楽	[授業方法] 講義の他、プレゼンテーション、討議形式も交えて実施する。	（予習：2時間） 前回の授業時に示された文献を読む （復習：2時間） 受講時のコメント等を踏まえ自分の考えを構築する

3	菊	［授業内容］ 近代スポーツの文化的特性① ブルジョワジー　ジェントリー	［授業方法］ 講義の他、プレゼンテーション、討議形式も交えて実施する。	（予習：2時間） 前回の授業時に示された課題について文章にまとめる （復習：2時間） 受講時のコメント等を踏まえ自分の考えを構築する
4	菊	［授業内容］ スポーツプロモーションの諸相	［授業方法］ スポーツプロモーションの具体的な諸相を分析し、ディスカッションする。	（予習：2時間） 『現代スポーツのパースペクティブ』の第Ⅱ部「スポーツプロモーションの諸相」を予習する。 （復習：2時間） 受講時のコメント等を踏まえ自分の考えを構築する
5	菊	［授業内容］ 近代スポーツの文化的特性③ 教育性　知・技術性　組織性	［授業方法］ 講義の他、プレゼンテーション、討議形式も交えて実施する。	（予習：2時間） 前回の授業時に示された課題について文章にまとめる （復習：2時間） 受講時のコメント等を踏まえ自分の考えを構築する
6	菊	［授業内容］ 近代スポーツの文化的発展① 植民化　国際化　国際競技会	［授業方法］ 講義の他、プレゼンテーション、討議形式も交えて実施する。	（予習：2時間） 前回の授業時に示された課題について文章にまとめる （復習：2時間） 受講時のコメント等を踏まえ自分の考えを構築する
7	菊	［授業内容］ 近代スポーツの文化的発展② 近代オリンピック　帝国主義	［授業方法］ 講義の他、プレゼンテーション、討議形式も交えて実施する。	（予習：2時間） 前回の授業時に示された課題について文章にまとめる （復習：2時間） 受講時のコメント等を踏まえ自分の考えを構築する
8	菊	［授業内容］ 近代スポーツの文化的発展③ 国民国家　スポーツの政治化	［授業方法］ 講義の他、プレゼンテーション、討議形式も交えて実施する。	（予習：2時間） 前回の授業時に示された課題について文章にまとめる （復習：2時間） 受講時のコメント等を踏まえ自分の考えを構築する
9	菊	［授業内容］ 現代スポーツと国際化① テレビ放映　メディアスポーツ	［授業方法］ 講義の他、プレゼンテーション、討議形式も交えて実施する。	（予習：2時間） 前回の授業時に示された課題について文章にまとめる （復習：2時間） 受講時のコメント等を踏まえ自分の考えを構築する
10	菊	［授業内容］ 現代スポーツと国際化② 世界大会　グローバリズム	［授業方法］ 講義の他、プレゼンテーション、討議形式も交えて実施する。	（予習：2時間） 前回の授業時に示された課題について文章にまとめる （復習：2時間） 受講時のコメント等を踏まえ自分の考えを構築する
11	菊	［授業内容］ スポーツグローバリゼーション① エスノスケープ	［授業方法］ 講義の他、プレゼンテーション、討議形式も交えて実施する。	（予習：2時間） 前回の授業時に示された課題について文章にまとめる （復習：2時間） 受講時のコメント等を踏まえ自分の考えを構築する
12	菊	［授業内容］ スポーツグローバリゼーション② テクノスケープ	［授業方法］ 講義の他、プレゼンテーション、討議形式も交えて実施する。	（予習：2時間） 前回の授業時に示された課題について文章にまとめる （復習：2時間） 受講時のコメント等を踏まえ自分の考えを構築する
13	菊	［授業内容］ スポーツグローバリゼーション③ メディアスケープ	［授業方法］ 講義の他、プレゼンテーション、討議形式も交えて実施する。	（予習：2時間） 前回の授業時に示された課題について文章にまとめる （復習：2時間） 受講時のコメント等を踏まえ自分の考えを構築する
14	菊	［授業内容］ スポーツグローバリゼーション④ ファイナンススケープ	［授業方法］ 講義の他、プレゼンテーション、討議形式も交えて実施する。	（予習：2時間） 前回の授業時に示された課題について文章にまとめる （復習：2時間） 受講時のコメント等を踏まえ自分の考えを構築する
15	菊	［授業内容］ 現代スポーツ文化をめぐるグローバル課題	［授業方法］ 講義の他、プレゼンテーション、討議形式も交えて実施する。	（予習：2時間） 前回の授業時に示された課題について文章にまとめる （予習：2時間） 受講時のコメント等を踏まえ自分の考えを構築する

		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ組織開発論（後期後半）	授業形態	講義
英語科目名	Theory of Sports Organizational Development	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	水野　基樹	ナンバリング	
担当教員	水野　基樹		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　スポーツにおける組織論の課題解明に必要な諸理論を学び、また適宜グループワークも取り入れながら、経営学のマネジメント領域（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論など）と産業・組織心理学スポーツ心理学などの応用心理学領域に関連する研究遂行に必要な基礎的な能力を養います。 　あらゆる組織体は、その目標の達成、組織内システムの維持および外部環境への適応に努力を重ねています。もちろん組織体の行為主体は組織成員の全てであるが、とりわけリーダーの担う役割は大きいことは明らかです。よって本講義では、①マネジメントに必要な「人間」と「組織」に関する基礎的な理論を解説し、②人間をマネジメントするときに発生する問題の構造を解説します。そして、③組織的な問題の原因を分析し解決するために必要な能力を身に付け、④組織の構造と過程のダイナミックな関係を習得します。また、⑤グループディスカッションを通じて、組織における個人行動と組織ダイナミクスに影響を及ぼすことのできるスキルを獲得し、組織開発（チームビルディング）のために必要な意思決定と行動を学習します。さらに、企業組織やスポーツ組織など、あらゆる組織の開発においてリーダーが求められる普遍的な問題等も取り上げ、解説していきます。
到達目標	[授業の到達目標] １．マネジメントに必要な「人間」と「組織」に関する基礎理論を論理的に説明できる。 ２．組織における個人行動と組織ダイナミクスの関係を理解できる。 ３．スポーツ組織をはじめとする様々な組織体における今日的課題を発見し、解決策が提言できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 積極的な授業参加と自主的な事前・事後学習を心掛け、講義内で紹介する理論については自身の所属するスポーツ組織などの身近な事例に当てはめて理解するように努めるてください。 講義内で紹介する文献（書籍）については、自主的に取り寄せ、精読してください。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 特になし。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 1.レポート試験での評価（40%） 2.グループワーク、ディスカッションに取り組む姿勢の評価（40%） 3.課題に対するプレゼンテーションの評価（20%）
評価基準	[成績評価の基準] 1.組織のなかで自分の持ち味をどのように活かすかについて、その根拠を具体的に述べることができる（レポート） 2.組織開発およびチームビルディングに関する基本的な用語の意味を理解している（レポート） 3.授業中の発言やグループワークの取組状況によって受講態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法] 授業にて返却し、模範解答や評価のポイントを提示し解説します。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
				テキスト・参考書はありませんが、必要に応じて、資料を配付、もしくはJ-PASSに事前添付いたします。

参考文献
授業の際に提示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 　担当：水野基樹 　E-mail: mtmizuno[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 　日時：火曜日　14:40～16:10 　場所：1号館3階1324室 　※上記の時間帯は予約が無くても対応しますが、予約があった学生を優先します。 　※できる限り、前日までにE-Mailで予約するように心掛けてください。 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 　日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 　場所：センチュリータワー南5階教員控室 　※授業がない期間はE-mailで予約すること。

担当教員の実務経験				
備考		この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。		
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1回	水野基樹	（授業内容） 【組織開発および組織行動学の学問的位置づけ】 ミクロ組織論とマクロ組織論の学問領域を概観し、組織開発の組織論における位置づけを解説する。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 講義（座学）形式によるマネジメント（経営学）の対象領域を説明することで組織論を俯瞰する。	（予習：3h） 組織論やマネジメント（経営学）とはどういうものか学説を中心に調べること。 （復習：3h） マネジメントの生成から現代までの一連の流れを復習する。 授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。
2回	水野基樹	（授業内容） 【組織開発および組織行動学の学問的位置づけ②】 個人のパーソナリティと組織における人間行動や対人認知、また、パーソナリティについて解説する。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 講義（座学）形式を中心としながらも、グループワークも適宜取り入れる。授業内容の理解と体験をシンクロナイズすることで、ダイナミックな授業方法を試みる。	（予習：2h） 当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。 （復習：2h） 授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。
3回	水野基樹	（授業内容） 【組織成員の動機づけ（3 次元モチベーション理論）】 モチベーション理論における欲求系・認知系・報酬系を包含する三次元理論を解説する。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 講義（座学）形式を中心としながらも、体験学習としてグループワークも適宜取り入れる。	（予習：2h） 当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。 （復習：2h） 授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。
4回	水野基樹	（授業内容） 【組織成員の動機づけ（3 次元モチベーション理論）②】 学んだ理論を基に、ツールを用いて実践的学習の方法論を学ぶ。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 講義（座学）形式を中心としながらも、体験学習としてグループワーク（ディスカッション）も行う。	（予習：2h） 当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。 （復習：2h） 授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。
5回	水野基樹	（授業内容） 【効果的コミュニケーションと情報フィードバック】 対人的コミュニケーションおよび組織における効果的なコミュニケーション戦略を解説する。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 講義（座学）形式を中心としながらも、体験学習としてグループワークも適宜取り入れる。	（予習：2h） 当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。 （復習：2h） 授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。
6回	水野基樹	（授業内容） 【効果的コミュニケーションと情報フィードバック②】 学んだ理論を基に、対人間コミュニケーションに関する実践的学習の方法論を学ぶ。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 講義（座学）形式を中心としながらも、体験学習としてグループワークも適宜取り入れる。	（予習：2h） 当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。 （復習：2h） 授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。

7回	水野基樹	（授業内容） 【リーダーシップ理論の俯瞰】 管理者の役割とリーダーシップ理論を俯瞰し、リーダーシップ戦略の有効性を探る。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 講義（座学）形式を中心としながらも、体験学習としてグループワークも適宜取り入れる。	（予習：2h） 当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。 （復習：2h） 授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。
8回	水野基樹	【リーダーシップ理論の俯瞰②】 学んだ理論を基に、リーダーシップに関する実践的学習の方法論を学ぶ。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 講義（座学）形式を中心としながらも、体験学習としてグループワークも適宜取り入れる。	（予習：2h） 当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。 （復習：2h） 授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。
9回	水野基樹	（授業内容） 【組織変革と組織開発】 組織変革の実践事例を紹介し、管理者の在り方やチームビルディングの方法を考える。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 講義（座学）形式を中心としながらも、体験学習としてグループワークも適宜取り入れる。	（予習：2h） 当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。 （復習：2h） 授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。
10回	水野基樹	（授業内容） 【組織変革と組織開発②】 学んだ理論を基に、組織変革・組織開発・チームビルディングに関する実践的学習の方法論を学ぶ。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 講義（座学）形式を中心としながらも、体験学習としてグループワークも適宜取り入れる。	（予習：2h） 当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。 （復習：2h） 授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。
11回	水野基樹	（授業内容） 【ケースメソッド(1)：東京ディズニーランド】 モチベーションの高いキャスト（従業員）のケースを基にグループ討議、ディスカッションを行う。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 受講者参加（主導）型のケーススタディ法を用いる。	（予習：2h） 当該ケースに関するケースレポートを事前に配布し、リーディング・アサインメントを課し、ケースの事前理解を深める。 （復習：2h） グループ討議、ディスカッションの続きと発表の準備。
12回	水野基樹	（授業内容） 【ケースメソッド(1)：東京ディズニーランド②】 グループごとの発表・ディスカッション、総括を行う。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 受講者参加（主導）型のケーススタディ法を用いる。	（予習：2h） グループごとの発表の準備 （復習：2h） ケースメソッドによるグループディスカッションを踏まえた課題レポートを課し、提出させる。
13回	水野基樹	（授業内容） 【ケースメソッド(2)：MLB オークランドアスレティックス】 貧乏球団を強豪チームに変身させたGMのケースを基に、グループ討議、ディスカッションを行う。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 受講者参加（主導）型のケーススタディ法を用いる。	（予習：2h） 当該ケースに関するケースレポートを事前に配布し、リーディング・アサインメントを課し、ケースの事前理解を深める。 （復習：2h） グループ討議、ディスカッションの続きと発表の準備。
14回	水野基樹	（授業内容） 【ケースメソッド(2)：MLB オークランドアスレティックス②】 グループごとの発表・ディスカッション、総括を行う。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 受講者参加（主導）型のケーススタディ法を用いる。	（予習：3h） グループごとの発表の準備 （復習：3h） ケースメソッドによるグループディスカッションを踏まえた課題レポートを課し、提出させる。
15回	水野基樹	（授業内容） まとめ	（授業方法） 受講者全員によるディスカッション	（予習：2h） 講義を通しての復習 （復習：2h） 各担当からの課題作成
		定期試験なし		

科目名	スポーツ組織開発論（後期前半）	授業形態	講義
英語科目名	Theory of Sports Organizational Development	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	水野　基樹	ナンバリング	
担当教員	水野　基樹		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　スポーツにおける組織論の課題解明に必要な諸理論を学び、また適宜グループワークも取り入れながら、経営学のマネジメント領域（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論など）と産業・組織心理学スポーツ心理学などの応用心理学領域に関連する研究遂行に必要な基礎的な能力を養います。 　あらゆる組織体は、その目標の達成、組織内システムの維持および外部環境への適応に努力を重ねています。もちろん組織体の行為主体は組織成員の全てであるが、とりわけリーダーの担う役割は大きいことは明らかです。よって本講義では、①マネジメントに必要な「人間」と「組織」に関する基礎的な理論を解説し、②人間をマネジメントするときに発生する問題の構造を解説します。そして、③組織的な問題の原因を分析し解決するために必要な能力を身に付け、④組織の構造と過程のダイナミックな関係を習得します。また、⑤グループディスカッションを通じて、組織における個人行動と組織ダイナミクスに影響を及ぼすことのできるスキルを獲得し、組織開発（チームビルディング）のために必要な意思決定と行動を学習します。さらに、企業組織やスポーツ組織など、あらゆる組織の開発においてリーダーが求められる普遍的な問題等も取り上げ、解説していきます。
到達目標	[授業の到達目標] １．マネジメントに必要な「人間」と「組織」に関する基礎理論を論理的に説明できる。 ２．組織における個人行動と組織ダイナミクスの関係を理解できる。 ３．スポーツ組織をはじめとする様々な組織体における今日的課題を発見し、解決策が提言できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 積極的な授業参加と自主的な事前・事後学習を心掛け、講義内で紹介する理論については自身の所属するスポーツ組織などの身近な事例に当てはめて理解するように努めるてください。 講義内で紹介する文献（書籍）については、自主的に取り寄せ、精読してください。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 特になし。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] 1.レポート試験での評価（40%） 2.グループワーク、ディスカッションに取り組む姿勢の評価（40%） 3.課題に対するプレゼンテーションの評価（20%）
評価基準	[成績評価の基準] 1.組織のなかで自分の持ち味をどのように活かすかについて、その根拠を具体的に述べることができる（レポート） 2.組織開発およびチームビルディングに関する基本的な用語の意味を理解している（レポート） 3.授業中の発言やグループワークの取組状況によって受講態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法] 授業にて返却し、模範解答や評価のポイントを提示し解説します。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
				テキスト・参考書はありませんが、必要に応じて、資料を配付、もしくはJ-PASSに事前添付いたします。

参考文献
授業の際に提示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 　担当：水野基樹 　E-mail: mtmizuno[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 　日時：火曜日　14:40～16:10 　場所：1号館3階1324室 　※上記の時間帯は予約が無くても対応しますが、予約があった学生を優先します。 　※できる限り、前日までにE-Mailで予約するように心掛けてください。 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 　日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 　場所：センチュリータワー南5階教員控室 　※授業がない期間はE-mailで予約すること。

担当教員の実務経験				
備考		この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。		
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1回	水野基樹	（授業内容） 【組織開発および組織行動学の学問的位置づけ】 ミクロ組織論とマクロ組織論の学問領域を概観し、組織開発の組織論における位置づけを解説する。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 講義（座学）形式によるマネジメント（経営学）の対象領域を説明することで組織論を俯瞰する。	（予習：3h） 組織論やマネジメント（経営学）とはどういうものか学説を中心に調べること。 （復習：3h） マネジメントの生成から現代までの一連の流れを復習する。 授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。
2回	水野基樹	（授業内容） 【組織開発および組織行動学の学問的位置づけ②】 個人のパーソナリティと組織における人間行動や対人認知、また、パーソナリティについて解説する。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 講義（座学）形式を中心としながらも、グループワークも適宜取り入れる。授業内容の理解と体験をシンクロナイズすることで、ダイナミックな授業方法を試みる。	（予習：2h） 当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。 （復習：2h） 授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。
3回	水野基樹	（授業内容） 【組織成員の動機づけ（3 次元モチベーション理論）】 モチベーション理論における欲求系・認知系・報酬系を包含する三次元理論を解説する。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 講義（座学）形式を中心としながらも、体験学習としてグループワークも適宜取り入れる。	（予習：2h） 当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。 （復習：2h） 授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。
4回	水野基樹	（授業内容） 【組織成員の動機づけ（3 次元モチベーション理論）②】 学んだ理論を基に、ツールを用いて実践的学習の方法論を学ぶ。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 講義（座学）形式を中心としながらも、体験学習としてグループワーク（ディスカッション）も行う。	（予習：2h） 当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。 （復習：2h） 授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。
5回	水野基樹	（授業内容） 【効果的コミュニケーションと情報フィードバック】 対人的コミュニケーションおよび組織における効果的なコミュニケーション戦略を解説する。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 講義（座学）形式を中心としながらも、体験学習としてグループワークも適宜取り入れる。	（予習：2h） 当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。 （復習：2h） 授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。
6回	水野基樹	（授業内容） 【効果的コミュニケーションと情報フィードバック②】 学んだ理論を基に、対人間コミュニケーションに関する実践的学習の方法論を学ぶ。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 講義（座学）形式を中心としながらも、体験学習としてグループワークも適宜取り入れる。	（予習：2h） 当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。 （復習：2h） 授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。

7回	水野基樹	（授業内容） 【リーダーシップ理論の俯瞰①】 管理者の役割とリーダーシップ理論を俯瞰し、リーダーシップ戦略の有効性を探る。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 講義（座学）形式を中心としながらも、体験学習としてグループワークも適宜取り入れる。	（予習：2h） 当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。 （復習：2h） 授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。
8回	水野基樹	【リーダーシップ理論の俯瞰②】 学んだ理論を基に、リーダーシップに関する実践的学習の方法論を学ぶ。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 講義（座学）形式を中心としながらも、体験学習としてグループワークも適宜取り入れる。	（予習：2h） 当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。 （復習：2h） 授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。
9回	水野基樹	（授業内容） 【組織変革と組織開発】 組織変革の実践事例を紹介し、管理者の在り方やチームビルディングの方法を考える。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 講義（座学）形式を中心としながらも、体験学習としてグループワークも適宜取り入れる。	（予習：2h） 当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。 （復習：2h） 授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。
10回	水野基樹	（授業内容） 【組織変革と組織開発②】 学んだ理論を基に、組織変革・組織開発・チームビルディングに関する実践的学習の方法論を学ぶ。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 講義（座学）形式を中心としながらも、体験学習としてグループワークも適宜取り入れる。	（予習：2h） 当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。 （復習：2h） 授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。
11回	水野基樹	（授業内容） 【ケースメソッド(1)：東京ディズニーランド】 モチベーションの高いキャスト（従業員）のケースを基にグループ討議、ディスカッションを行う。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 受講者参加（主導）型のケーススタディ法を用いる。	（予習：2h） 当該ケースに関するケースレポートを事前に配布し、リーディング・アサインメントを課し、ケースの事前理解を深める。 （復習：2h） グループ討議、ディスカッションの続きと発表の準備。
12回	水野基樹	（授業内容） 【ケースメソッド(1)：東京ディズニーランド②】 グループごとの発表・ディスカッション、総括を行う。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 受講者参加（主導）型のケーススタディ法を用いる。	（予習：2h） グループごとの発表の準備 （復習：2h） ケースメソッドによるグループディスカッションを踏まえた課題レポートを課し、提出させる。
13回	水野基樹	（授業内容） 【ケースメソッド(2)：MLB オークランドアスレティックス】 貧乏球団を強豪チームに変身させたGMのケースを基に、グループ討議、ディスカッションを行う。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 受講者参加（主導）型のケーススタディ法を用いる。	（予習：2h） 当該ケースに関するケースレポートを事前に配布し、リーディング・アサインメントを課し、ケースの事前理解を深める。 （復習：2h） グループ討議、ディスカッションの続きと発表の準備。
14回	水野基樹	（授業内容） 【ケースメソッド(2)：MLB オークランドアスレティックス②】 グループごとの発表・ディスカッション、総括を行う。	（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 受講者参加（主導）型のケーススタディ法を用いる。	（予習：3h） グループごとの発表の準備 （復習：3h） ケースメソッドによるグループディスカッションを踏まえた課題レポートを課し、提出させる。
15回	水野基樹	（授業内容） まとめ	（授業方法） 受講者全員によるディスカッション	（予習：2h） 講義を通しての復習 （復習：2h） 各担当からの課題作成
		定期試験なし		

科目名	生涯スポーツ国際比較論（後期後半）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Lifelong Sport International Comparison	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	下窪　拓也	ナンバリング	
担当教員	下窪　拓也		

授業概要	
全体内容	本授業科目では、学生一人ひとりが高い倫理観を持ち、スポーツ社会科学に関する高度な専門的知識及び実践応力、研究能力を身につけ、生涯スポーツを多角的な視点から捉えることができる力を養成することを目標に授業を進める。本授業では人々の運動の実施を阻害あるいは促進要因とスポーツ観戦の規定要因およびその社会的影響について、世界各国で蓄積されてきた統計分析に基づく実証的な先行研究を採り上げ、理論、現状そして今後の展望等について理解を深める。
到達目標	1. 世界の生涯スポーツの潮流と方向性を理解することができる。 2. スポーツ参加の規定要因に関する先行研究の抄読を通じて、スポーツ参加に関する理論的な理解を深めることができる。 3. 世界のスポーツ政策に関する本を分担翻訳し、ディスカッションを行うことができる。 4. 個別のプレゼンテーションとレポートを作成することができる。 これからの生涯スポーツのあり方について、自分なりの判断基準と考え方を持つことを目指す。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。また、中学校教諭専修免許状（保健体育）・高等校教諭専修免許状（保健体育）の指定科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力および 得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力
履修上の注意、履修要件	【受講要件（科目独自のルール】 英文の文献や論文を読めることが望ましい。 【学生に望むこと】 抄読する文献には統計学の知識を必要とする。統計については授業内でも説明をするが、自主的な学習もしてきてほしい。 スポーツ参加を規定する要因に関する理解や考察および諸外国のスポーツ政策の比較考察を通し、生涯スポーツに関する高度な専門的知識及び研究能力のみならず、スポーツや健康政策を立案・提言することができる社会的実践力も身につけてほしい。

成績評価の方法	
評価方法	生涯スポーツ政策の国際比較に関する専門的知識及び実践能力・研究能力の獲得、授業参加、課題レポート、プレゼン、ディスカッションなどにより、総合的に判断する。具体的には、個別プレゼンテーション（60点）、最終レポート（40点）によって総合評価する。
評価基準	1. スポーツ参加に関する先行研究の抄読を通して、スポーツ参加に関わる諸要因の理論を理解することができる。 2. 生涯スポーツに関連する先行研究の抄読を通して、世界の生涯スポーツの潮流と方向性を理解することができる。 3. 個別のプレゼンテーションとグループレポートを作成することができる。 4. これからの生涯スポーツのあり方について、自分なりの判断基準と考え方を持つことを目指すことができる。 1から4の能力が身についているかどうか、プレゼンテーション、最終レポートで評価する。その他、学習意欲や態度についても、授業内で行うグループワークやディスカッションを通して評価する。

試験・課題に対するフィードバック方法
プレゼンおよびディスカッションについては授業内で評価のポイントを提示し、解説する。最終レポートを踏まえた総合評価については、査読結果をJpass等で連絡する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

1. Kirstin Hallrnann and Karen Petry, Comparative Sport Development - Systems, participati on and Public Policy - , The Springer Science and Business Media, 2013.
その他、抄読する文献は授業内で紹介する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：下窪　拓也 メールアドレス：　t.shimokubo.of[at]juntendo.ac.jp [at]を@に修正してください。 【オフィスアワー】 ＜さくらキャンパス＞ 日時：後期期間中の月曜日12:10～12:50、16：30～17:00 この時間以外の来室は事前にE-mailで連絡を取ることが望ましい。 場所：1号館1206室 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 本郷クラスの学生は、事前にE-mailで連絡を取ることが望ましい。
担当教員の実務経験	該当しない

備考	【学修時間】 　この授業は、演習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 　※授業時間は1回あたり90分とする。 【その他】 　この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。 受講生によるプレゼンを中心に講義を展開するため、受講者数によっては授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1、2	下窪	＜ガイダンス＞ 授業の進め方、授業計画、成績評価、履修にあたっての留意点など。統計調査を用いた研究手法について概説する。発表担当者を決める。 （キーワード） スポーツ参加の規定要因、統計調査	講義	（予習：3時間） スポーツ参加の規定要因に関する先行研究や社会科学領域で用いられる統計的手法について調べてくること。 （復習：1時間） 講義で取り上げた箇所についてテキスト及び参考文献等を読み、事後理解を深める。
3-6	下窪	＜「する」スポーツ・身体活動の規定要因＞ 運動・スポーツ参加の規定要因について知り、現代社会の課題を理解する。統計調査を用いた論文を抄読し、議論をする。 （キーワード） スポーツ参加の規定要因、国際的な研究動向	講義、ディスカッション	（予習：３時間） 授業内で示した参考文献の内容を理解しておくこと。文献で出てきた統計分析の手法を理解しておくこと。 （復習：1時間） 講義で取り上げた参考文献および関連論文を読み、事後理解を深める。
7-10	下窪	＜「みる」スポーツ・身体活動の規定要因と社会的影響＞ 運動・スポーツ参加の規定要因について知り、現代社会の課題を理解する。メガイベントの社会的影響の検証方法について理解する。統計調査を用いた論文を抄読し、議論をする。 （キーワード） スポーツ参加の規定要因、メガイベントのインパクト評価、国際的な研究動向	講義、ディスカッション	（予習：3時間） 授業内で示した参考文献の内容を理解しておくこと。 （復習：1時間） 講義で取り上げた参考文献および関連論文を読み、事後理解を深める。
11-15	下窪	＜スポーツ政策の国際比較＞ 世界のスポーツ政策を比較考察し、現状、課題、今後の展望を議論する。 ［授業方法］ 授業内で指示した各国のスポーツ政策に関する文献から、受講生が１カ国を選択し、概要についてプレゼンを行い、その後、ディスカッションする。	発表、ディスカッション	（予習：3時間） 授業内で示した参考文献の内容を理解しておくこと。 （復習：1時間） 講義で取り上げた参考文献および関連論文を読み、事後理解を深める。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	生涯スポーツ国際比較論（後期後半）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Lifelong Sport International Comparison	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	下窪　拓也	ナンバリング	
担当教員	下窪　拓也		

授業概要	
全体内容	本授業科目では、学生一人ひとりが高い倫理観を持ち、スポーツ社会科学に関する高度な専門的知識及び実践応力、研究能力を身につけ、生涯スポーツを多角的な視点から捉えることができる力を養成することを目標に授業を進める。本授業では人々の運動の実施を阻害あるいは促進要因とスポーツ観戦の規定要因およびその社会的影響について、世界各国で蓄積されてきた統計分析に基づく実証的な先行研究を採り上げ、理論、現状そして今後の展望等について理解を深める。
到達目標	1. 世界の生涯スポーツの潮流と方向性を理解することができる。 2. スポーツ参加の規定要因に関する先行研究の抄読を通じて、スポーツ参加に関する理論的な理解を深めることができる。 3. 世界のスポーツ政策に関する本を分担翻訳し、ディスカッションを行うことができる。 4. 個別のプレゼンテーションとレポートを作成することができる。 これからの生涯スポーツのあり方について、自分なりの判断基準と考え方を持つことを目指す。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。また、中学校教諭専修免許状（保健体育）・高等校教諭専修免許状（保健体育）の指定科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力および 得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力
履修上の注意、履修要件	【受講要件（科目独自のルール】 英文の文献や論文を読めることが望ましい。 【学生に望むこと】 抄読する文献には統計学の知識を必要とする。統計については授業内でも説明をするが、自主的な学習もしてきてほしい。 スポーツ参加を規定する要因に関する理解や考察および諸外国のスポーツ政策の比較考察を通し、生涯スポーツに関する高度な専門的知識及び研究能力のみならず、スポーツや健康政策を立案・提言することができる社会的実践力も身につけてほしい。

成績評価の方法	
評価方法	生涯スポーツ政策の国際比較に関する専門的知識及び実践能力・研究能力の獲得、授業参加、課題レポート、プレゼン、ディスカッションなどにより、総合的に判断する。具体的には、個別プレゼンテーション（60点）、最終レポート（40点）によって総合評価する。
評価基準	1. スポーツ参加に関する先行研究の抄読を通して、スポーツ参加に関わる諸要因の理論を理解することができる。 2. 生涯スポーツに関連する先行研究の抄読を通して、世界の生涯スポーツの潮流と方向性を理解することができる。 3. 個別のプレゼンテーションとグループレポートを作成することができる。 4. これからの生涯スポーツのあり方について、自分なりの判断基準と考え方を持つことを目指すことができる。 1から4の能力が身についているかどうか、プレゼンテーション、最終レポートで評価する。その他、学習意欲や態度についても、授業内で行うグループワークやディスカッションを通して評価する。

試験・課題に対するフィードバック方法
プレゼンおよびディスカッションについては授業内で評価のポイントを提示し、解説する。最終レポートを踏まえた総合評価については、査読結果をJpass等で連絡する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

1. Kirstin Hallrnann and Karen Petry, Comparative Sport Development - Systems, participati on and Public Policy - , The Springer Science and Business Media, 2013.
その他、抄読する文献は授業内で紹介する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：下窪　拓也 メールアドレス：　t.shimokubo.of[at]juntendo.ac.jp [at]を@に修正してください。 【オフィスアワー】 ＜さくらキャンパス＞ 日時：後期期間中の月曜日12:10～12:50、16：30～17:00 この時間以外の来室は事前にE-mailで連絡を取ることが望ましい。 場所：1号館1206室 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 本郷クラスの学生は、事前にE-mailで連絡を取ることが望ましい。
担当教員の実務経験	該当しない

備考	【学修時間】 　この授業は、演習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 　※授業時間は1回あたり90分とする。 【その他】 　この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。 受講生によるプレゼンを中心に講義を展開するため、受講者数によっては授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1、2	下窪	＜ガイダンス＞ 授業の進め方、授業計画、成績評価、履修にあたっての留意点など。統計調査を用いた研究手法について概説する。発表担当者を決める。 （キーワード） スポーツ参加の規定要因、統計調査	講義	（予習：3時間） スポーツ参加の規定要因に関する先行研究や社会科学領域で用いられる統計的手法について調べてくること。 （復習：1時間） 講義で取り上げた箇所についてテキスト及び参考文献等を読み、事後理解を深める。
3-6	下窪	＜「する」スポーツ・身体活動の規定要因＞ 運動・スポーツ参加の規定要因について知り、現代社会の課題を理解する。統計調査を用いた論文を抄読し、議論をする。 （キーワード） スポーツ参加の規定要因、国際的な研究動向	講義、ディスカッション	（予習：３時間） 授業内で示した参考文献の内容を理解しておくこと。文献で出てきた統計分析の手法を理解しておくこと。 （復習：1時間） 講義で取り上げた参考文献および関連論文を読み、事後理解を深める。
7-10	下窪	＜「みる」スポーツ・身体活動の規定要因と社会的影響＞ 運動・スポーツ参加の規定要因について知り、現代社会の課題を理解する。メガイベントの社会的影響の検証方法について理解する。統計調査を用いた論文を抄読し、議論をする。 （キーワード） スポーツ参加の規定要因、メガイベントのインパクト評価、国際的な研究動向	講義、ディスカッション	（予習：3時間） 授業内で示した参考文献の内容を理解しておくこと。 （復習：1時間） 講義で取り上げた参考文献および関連論文を読み、事後理解を深める。
11-15	下窪	＜スポーツ政策の国際比較＞ 世界のスポーツ政策を比較考察し、現状、課題、今後の展望を議論する。 ［授業方法］ 授業内で指示した各国のスポーツ政策に関する文献から、受講生が１カ国を選択し、概要についてプレゼンを行い、その後、ディスカッションする。	発表、ディスカッション	（予習：3時間） 授業内で示した参考文献の内容を理解しておくこと。 （復習：1時間） 講義で取り上げた参考文献および関連論文を読み、事後理解を深める。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツマネジメント論（後期後半）	授業形態	講義
英語科目名	Theory of Sports Management	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	小笠原　悦子	ナンバリング	
担当教員	小笠原　悦子		

授業概要	
全体内容	【授業の目的) 日本および世界におけるスポーツマネジメントの現状を理論とともに学修し、将来の我が国のスポーツマネジメントの方向性についても考える力を養うことを目標にして実施される。 スポーツマネジメントの定義を理解した上で、スポーツマネジメントの概観を行う。また、国内外の文献を読み、まとめて発表を行い、ディスカッションを行う。
到達目標	１．スポーツマネジメント論を概観することができる。 ２．スポーツマネジメント研究に必要な学術論文の読み方を学修することができる。特に、英語の学術論文を読むことに対するチャレンジ精神を養うことができる。 ３．研究論文のスライドの作成とプレゼンテーション能力を養うことができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	【履修条件】 どのようなバックグラウンドでも授業内容に興味があれば受講は可能。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の基準] 1.スポーツマネジメントの最新の話題について、その背景を具体的に述べることができる(レポート) 2.和文および英語論文を読んで理解することができる（PPでの発表） 4.授業中の発言やグループワークの取組状況によって受講態度を評価する(平常点) [成績評価の方法] 課題レポート2回(40%)、和文・英文研究論文発表(50%)、平常点(10%)を総合して評価する。 【課題に対するフィードバック方法】 課題レポート、和文・英文研究論文発表は毎回の発表直後に、評価や助言を各受講者へフィードバックする。
評価基準	１．スポーツマネジメント論を概観すること（授業中のディスカッション内容の評価）。 ２．スポーツマネジメント研究に必要な学術論文の読み方を学修すること。特に、英語の学術論文を読むことに対するチャレンジ精神を養うこと（授業中の発表内容の評価）。 ３．研究論文のスライドの作成とプレゼンテーション能力を養うこと（授業中の発表方法の評価）。

試験・課題に対するフィードバック方法
毎回の課題（発表）にはコメントを行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
スポーツマネジメント（改訂版）	原田宗彦・小笠原悦子	大修館書店	978-4469267839	

参考文献

【テキスト・参考書】
スポーツマネジメント(改訂版）の教科書を必ず入手し、予習をしてから授業に臨むこと。
必要なときは、別途、事前に資料を提供する。
スポーツマネジメント研究，その他（SPORTDiscus等Databaseからの文献）についても授業で指示する。

後半は、日本語の論文からスタートするが、大半は英語の論文を各自で集める。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：小笠原悦子 E-mail: eogasawa@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　2時間目 場所: 1号館3階1329室 【本郷・お茶の水キャンパス】 日時： 本郷での担当授業の前後30分程度　※授業前はE-mailで予約すること。 場所: 担当授業が行われる教室
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による２単位の科目であり、授業60時間と準備学習30時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	小笠原	（授業内容） オリエンテーション 授業の目的及び概要、授業の進め方、評価方法等を概説する。	PPTを用いたレクチャー	復習　（２時間）：教科書の読み方とまとめ方を検討する 予習（3時間）：第1・2章を読み、まとめる
2	小笠原	【授業内容】 第1章　スポーツマネジメントをめぐる社会的背景 第2章　スポーツマネジメントの発展	学生による各章の発表と、講師によるPPTを用いた解説	復習　(2時間)　第1・2章のハイライトをまとめる 予習　（３時間）　第3・4章を読んでまとめる
3	小笠原	【授業内容】 第3章　スポーツ関連組織のマネジメント 第4章　組織行動と発展	学生による各章の発表と、講師によるPPTを用いた解説	復習　（２時間）　ダイバーシティマネジメントについてまとめる 予習　（３時間）　第5・6・7章を読み、まとめる
4	小笠原	【授業内容】 第5章　スポーツマネジメントに必要な法的知識 第6章　スポーツチームのマネジメント 第7章　スポーツリーグのマネジメント	学生による各章の発表と、講師によるPPTを用いた解説	復習（2時間）：　スポーツリーグのマネジメント体制について整理する 予習（３時間）：　第8・9・10章を読み、まとめる
5	小笠原	【授業内容】 第8章　トップスポーツ選手のマネジメント 第9章　スポーツ組織のマネジメント 第10章　スポーツファンのマネジメント	学生による各章の発表と、講師によるPPTを用いた解説	復習　(2時間)：エージェントの役割を整理する 予習（2時間）：スポーツマネジメント研究の総説論文を読み、PPTにまとめる
6	小笠原	【授業内容】 スポーツマネジメント研究① 割り当てられた文献をまとめて発表	学生のPPTを用いた発表、それに対するディスカッションと補足解説	復習　(2時間)：発表における課題の整理 予習　(2時間)：スポーツマネジメント研究の割り当てられた論文を読み、PPTにまとめる
7	小笠原	【授業内容】 スポーツマネジメント研究② 割り当てられた文献をまとめて発表	学生のPPTを用いた発表、それに対するディスカッションと補足解説	復習　(2時間)：発表における課題の整理 予習　(2時間)：自ら収集した文献を読み、PPTにまとめる
8	小笠原	【授業内容】 海外文献① 論文内容の発表とディスカッション	学生によるPPTによる発表とディスカッション	復習　(2時間)：発表における課題の整理 予習　(2時間)：自ら収集した文献を読み、PPTにまとめる
9	小笠原	【授業内容】 海外文献② 論文内容の発表とディスカッション	学生によるPPTによる発表とディスカッション	復習　(2時間)：発表における課題の整理 予習　(2時間)：自ら収集した文献を読み、PPTにまとめる
10	小笠原	【授業内容】 海外文献③ 論文内容の発表とディスカッション	学生によるPPTによる発表とディスカッション	復習　(2時間)：発表における課題の整理 予習　(2時間)：自ら収集した文献を読み、PPTにまとめる
11	小笠原	【授業内容】 海外文献④ 論文内容の発表とディスカッション	学生によるPPTによる発表とディスカッション	復習　(2時間)：発表における課題の整理 予習　(2時間)：自ら収集した文献を読み、PPTにまとめる
12	小笠原	【授業内容】 海外文献⑤ 論文内容の発表とディスカッション	学生によるPPTによる発表とディスカッション	復習　(2時間)：発表における課題の整理 予習　(2時間)：自ら収集した文献を読み、PPTにまとめる
13	小笠原	【授業内容】 海外文献⑥ 論文内容の発表とディスカッション	学生によるPPTによる発表とディスカッション	復習　(2時間)：発表における課題の整理 予習　(2時間)：自ら収集した文献を読み、PPTにまとめる
14-15	小笠原	【授業内容】 海外文献⑦⑧ 論文内容の発表とディスカッション	学生によるPPTによる発表とディスカッション	復習（４時間）：これまでの学習成果を自己評価し、今後の学習方法を検討する
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツマネジメント論（後期前半）	授業形態	講義
英語科目名	Theory of Sports Management	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	小笠原　悦子	ナンバリング	
担当教員	小笠原　悦子		

授業概要	
全体内容	【授業の目的) 日本および世界におけるスポーツマネジメントの現状を理論とともに学修し、将来の我が国のスポーツマネジメントの方向性についても考える力を養うことを目標にして実施される。 スポーツマネジメントの定義を理解した上で、スポーツマネジメントの概観を行う。また、国内外の文献を読み、まとめて発表を行い、ディスカッションを行う。
到達目標	１．スポーツマネジメント論を概観することができる。 ２．スポーツマネジメント研究に必要な学術論文の読み方を学修することができる。特に、英語の学術論文を読むことに対するチャレンジ精神を養うことができる。 ３．研究論文のスライドの作成とプレゼンテーション能力を養うことができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	【履修条件】 どのようなバックグラウンドでも授業内容に興味があれば受講は可能。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の基準] 1.スポーツマネジメントの最新の話題について、その背景を具体的に述べることができる(レポート) 2.和文および英語論文を読んで理解することができる（PPでの発表） 3.授業中の発言やグループワークの取組状況によって受講態度を評価する(平常点) [成績評価の方法] 課題レポート2回(40%)、和文・英文研究論文発表(50%)、平常点(10%)を総合して評価する。 【課題に対するフィードバック方法】 課題レポート、和文・英文研究論文発表は毎回の発表直後に、評価や助言を各受講者へフィードバックする。
評価基準	１．スポーツマネジメント論を概観すること（授業中のディスカッション内容の評価）。 ２．スポーツマネジメント研究に必要な学術論文の読み方を学修すること。特に、英語の学術論文を読むことに対するチャレンジ精神を養うこと（授業中の発表内容の評価）。 ３．研究論文のスライドの作成とプレゼンテーション能力を養うこと（授業中の発表方法の評価）。

試験・課題に対するフィードバック方法
毎回の課題（発表）にはコメントを行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
スポーツマネジメント（改訂版）	原田宗彦・小笠原悦子	大修館書店	978-4469267839	

参考文献

【テキスト・参考書】
スポーツマネジメント(改訂版）の教科書を必ず入手し、予習をしてから授業に臨むこと。
必要なときは、別途、事前に資料を提供する。
スポーツマネジメント研究，その他（SPORTDiscus等Databaseからの文献）についても授業で指示する。

後半は、日本語の論文からスタートするが、大半は英語の論文を各自で集める。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：小笠原悦子 E-mail: eogasawa@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日　2時間目 場所: 1号館3階1329室 【本郷・お茶の水キャンパス】 日時： 本郷での担当授業の前後30分程度　※授業前はE-mailで予約すること。 場所: 担当授業が行われる教室
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による２単位の科目であり、授業60時間と準備学習30時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	小笠原	（授業内容） オリエンテーション 授業の目的及び概要、授業の進め方、評価方法等を概説する。	PPTを用いたレクチャー	復習　（２時間）：教科書の読み方とまとめ方を検討する 予習（3時間）：第1・2章を読み、まとめる
2	小笠原	【授業内容】 第1章　スポーツマネジメントをめぐる社会的背景 第2章　スポーツマネジメントの発展	学生による各章の発表と、講師によるPPTを用いた解説	復習　(2時間)　第1・2章のハイライトをまとめる 予習　（３時間）　第3・4章を読んでまとめる
3	小笠原	【授業内容】 第3章　スポーツ関連組織のマネジメント 第4章　組織行動と発展	学生による各章の発表と、講師によるPPTを用いた解説	復習　（２時間）　ダイバーシティマネジメントについてまとめる 予習　（３時間）　第5・6・7章を読み、まとめる
4	小笠原	【授業内容】 第5章　スポーツマネジメントに必要な法的知識 第6章　スポーツチームのマネジメント 第7章　スポーツリーグのマネジメント	学生による各章の発表と、講師によるPPTを用いた解説	復習（2時間）：　スポーツリーグのマネジメント体制について整理する 予習（３時間）：　第8・9・10章を読み、まとめる
5	小笠原	【授業内容】 第8章　トップスポーツ選手のマネジメント 第9章　スポーツ組織のマネジメント 第10章　スポーツファンのマネジメント	学生による各章の発表と、講師によるPPTを用いた解説	復習　(2時間)：エージェントの役割を整理する 予習（2時間）：スポーツマネジメント研究の総説論文を読み、PPTにまとめる
6	小笠原	【授業内容】 スポーツマネジメント研究① 割り当てられた文献をまとめて発表	学生のPPTを用いた発表、それに対するディスカッションと補足解説	復習　(2時間)：発表における課題の整理 予習　(2時間)：スポーツマネジメント研究の割り当てられた論文を読み、PPTにまとめる
7	小笠原	【授業内容】 スポーツマネジメント研究② 割り当てられた文献をまとめて発表	学生のPPTを用いた発表、それに対するディスカッションと補足解説	復習　(2時間)：発表における課題の整理 予習　(2時間)：自ら収集した文献を読み、PPTにまとめる
8	小笠原	【授業内容】 海外文献① 論文内容の発表とディスカッション	学生によるPPTによる発表とディスカッション	復習　(2時間)：発表における課題の整理 予習　(2時間)：自ら収集した文献を読み、PPTにまとめる
9	小笠原	【授業内容】 海外文献② 論文内容の発表とディスカッション	学生によるPPTによる発表とディスカッション	復習　(2時間)：発表における課題の整理 予習　(2時間)：自ら収集した文献を読み、PPTにまとめる
10	小笠原	【授業内容】 海外文献③ 論文内容の発表とディスカッション	学生によるPPTによる発表とディスカッション	復習　(2時間)：発表における課題の整理 予習　(2時間)：自ら収集した文献を読み、PPTにまとめる
11	小笠原	【授業内容】 海外文献④ 論文内容の発表とディスカッション	学生によるPPTによる発表とディスカッション	復習　(2時間)：発表における課題の整理 予習　(2時間)：自ら収集した文献を読み、PPTにまとめる
12	小笠原	【授業内容】 海外文献⑤ 論文内容の発表とディスカッション	学生によるPPTによる発表とディスカッション	復習　(2時間)：発表における課題の整理 予習　(2時間)：自ら収集した文献を読み、PPTにまとめる
13	小笠原	【授業内容】 海外文献⑥ 論文内容の発表とディスカッション	学生によるPPTによる発表とディスカッション	復習　(2時間)：発表における課題の整理 予習　(2時間)：自ら収集した文献を読み、PPTにまとめる
14-15	小笠原	【授業内容】 海外文献⑦⑧ 論文内容の発表とディスカッション	学生によるPPTによる発表とディスカッション	復習（４時間）：これまでの学習成果を自己評価し、今後の学習方法を検討する
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ国際イベント論（後期後半）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Sports International Event	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	和田　由佳子	ナンバリング	
担当教員	和田　由佳子、芳地　泰幸		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］□ 　本講義は国内外で開催される国際的なスポーツイベントを取り上げ、スポーツ消費者、スポーツツーリズム、スポーツイベント開催による社会・経済的な影響について、理論（研究）と実践への理解を深めることを目的とする。 １）国内外で開催されるスポーツ国際イベントの開催背景、主催団体など実務に基づいた知見と、２）これらのイベントについてどのような研究がされているのか論文精読を行うとともに、３）今後どのような研究が実務とアカデミックに貢献できるのかに関するディスカッションを行う。
到達目標	1. スポーツ国際イベントの概要および各イベントの開催目的、特性、および社会経済的な存在意義を説明できる。 2. スポーツ国際イベントに関する国内外の学術論文を精読し、スポーツ国際ベントに関する研究の視座および動向を説明できる。 3. スポーツ国際イベントの学術及び実務への貢献として、今後求められるスポーツ国際ベントの在り方や研究について議論ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 　特になし ［履修上の注意（科目独自のルール）］ 　この授業科目では、受講生による発表（PPT）および議論が中心です。特に学術論文は英語論文を検索し、精読したうえでPPTでの発表となるため、能動的に取り組んでください。またディスカッションは、発表者以外の事前準備が重要になるため、担当日以外もしっかりと準備をして受講してください。
成績評価の方法	
評価方法	スポーツイベントに関するプレゼンテーション30%、論文精読発表40%、ディスカッション30%を総合して評価する。
評価基準	1. スポーツ国際イベントの概要および各イベントの開催目的、特性、および社会経済的な存在意義について理解し、説明およびディスカッションができる（PPTによる発表およびディスカッションへの内容と貢献度の評価）。 2. スポーツ国際イベントに関する学術論文を適切に選択し、その内容を理解するとともに説明およびディスカッションができる（PPTによる発表およびディスカッションへの内容と貢献度の評価）。 3. 発表時の質疑への適切な対応ができる（担当回に関わる準備と発表内容にかかわる理解に対する評価）。 4. 授業への積極的な参加（発表準備、発表、ディスカッションに対する積極性に対する評価）。
試験・課題に対するフィードバック方法	
授業内で随時情報の共有やフィードバック（コメント）を行います。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に適宜提示いたします。
その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 和田　由佳子　y.wada.qv[at]juntendo.ac.jp ※：[at]を@に変更してください。 ［オフィスアワー］ まずはメールで連絡をお願いします。その後内容に応じて、メールまたは面談（対面/Zoom）を用いて対応いたします。
担当教員の実務経験	・スポーツ国際イベントへの諸外国チームの招致に関わる業務に携わった経験を活かし、スポーツ国際イベントの参加者の参加・スポーツ実施動機に関する講義や論文の解説を行う。 ・競技団体の評議員を務めている経験を活かし、スポーツ国際イベントの経済・社会的意義について講義や論文の解説を行う。 ・スポーツ国際イベントの成果の測定を行っている経験を活かし、スポーツ国際イベントに関わる成果の概念、測定方法、評価を把握するために必要な知識やスキルについて講義や論文の解説を行う。
備考	［学修時間］ 　この授業は、演習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成しています。 ［その他］ 受講人数によって、授業の構成に変更が生じる場合があります。また、内容によってはゲストスピーカーをお招きして授業を実施する場合があります。その際は事前に授業内でお知らせいたします。
授業計画	

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	和田由佳子 芳地泰幸	（授業内容）□ オリエンテーション□ 授業の目的及び概要、授業の進め方、評価方法等の説明	講義と受講生による発表	（予習：2時間）□ 受講生は以下の準備をして参加してください。 ・修士論文のテーマを説明 ・スポーツイベントと自身の興味、経験、関りなどを踏まえたプレゼンテーションを準備してください。 （復習：2 時間） ・講義内容に基づいて、自身の興味のあるスポーツイベントについてより深い情報を収集しまとめる。
2	和田由佳子	（授業内容）□ スポーツイベントの概要、意義と種類 スポーツイベントに関する情報収集	講義と受講生による発表・質疑応答	（予習：2時間） ・配布資料に基づいて、スポーツイベントの社会的効果について調べる。 ・自身の最も興味のあるスポーツイベントについて調べる。 （復習：2 時間） ・講義内容に基づいて、スポーツイベントの社会的効果について復習する。 ・講義内容に基づいて、自身の興味のあるスポーツイベントについてより深い情報を収集しまとめる。
3	和田由佳子	（授業内容）□ スポーツイベント① イベントの概要などのプレゼンテーションとディスカッション	受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：2時間） 発表者：自ら選んだスポーツイベントについて情報を収集し、PPTにまとめる。 発表者以外：取り上げるスポーツイベントについて、自分なりに調べて疑問やでディスカッションのポイントを検討する。 （復習：2時間） 発表およびディスカッションの課題の整理
4	和田由佳子	（授業内容）□ スポーツイベント② イベントの概要などのプレゼンテーションとディスカッション	受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：2時間） 発表者：自ら選んだスポーツイベントについて情報を収集し、PPTにまとめる。 発表者以外：取り上げるスポーツイベントについて、自分なりに調べて疑問やでディスカッションのポイントを検討する。 （復習：2時間） 発表およびディスカッションの課題の整理
5	和田由佳子	（授業内容）□ スポーツイベント③ イベントの概要などのプレゼンテーションとディスカッション	受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：2時間） 発表者：自ら選んだスポーツイベントについて情報を収集し、PPTにまとめる。 発表者以外：取り上げるスポーツイベントについて、自分なりに調べて疑問やでディスカッションのポイントを検討する。 （復習：2時間） 発表およびディスカッションの課題の整理
6	和田由佳子	（授業内容）□ スポーツイベント④ イベントの概要などのプレゼンテーションとディスカッション	受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：2時間） 発表者：自ら選んだスポーツイベントについて情報を収集し、PPTにまとめる。 発表者以外：取り上げるスポーツイベントについて、自分なりに調べて疑問やでディスカッションのポイントを検討する。 （復習：2時間） 発表およびディスカッションの課題の整理
7	和田由佳子	（授業内容）□ スポーツイベントに関する振り返りと スポーツイベントに関する学術論文の選定 論文のアブストラクトの読み方	講義と受講生によるオンラインを用いたスポーツイベントに関する学術論文の検索と選定	（予習：3時間） 発表に用いる論文の候補を用意する。 （復習：1時間） 論文の検索方法の振り返りと、選定した論文のアブストラクトを理解する。
8	和田由佳子	（授業内容） 海外文献 論文内容の発表とディスカッション	受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：3時間） 発表者：選んだ論文を他の受講生に共有するとともに、その内容をPPTにまとめる。 発表者以外：共有された論文について疑問やでディスカッションのポイントを検討する。 （復習：1時間） 発表およびディスカッションの課題の整理

9	芳地泰幸	（授業内容） 学術論文 論文内容の発表とディスカッション	受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：2時間） 発表者：選んだ論文を他の受講生に共有するとともに、その内容をPPTにまとめる。 発表者以外：共有された論文について疑問やでディスカッションのポイントを検討する。 （復習：2時間） 発表およびディスカッションの課題の整理
10	芳地泰幸	（授業内容） 学術論文 論文内容の発表とディスカッション	受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：2時間） 発表者：選んだ論文を他の受講生に共有するとともに、その内容をPPTにまとめる。 発表者以外：共有された論文について疑問やでディスカッションのポイントを検討する。 （復習：2時間） 発表およびディスカッションの課題の整理
11	芳地泰幸	（授業内容） 学術論文 論文内容の発表とディスカッション	受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：2時間） 発表者：選んだ論文を他の受講生に共有するとともに、その内容をPPTにまとめる。 発表者以外：共有された論文について疑問やでディスカッションのポイントを検討する。 （復習：2時間） 発表およびディスカッションの課題の整理
12	芳地泰幸	（授業内容） 海外文献 論文内容の発表とディスカッション	受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：2時間） 発表者：選んだ論文を他の受講生に共有するとともに、その内容をPPTにまとめる。 発表者以外：共有された論文について疑問やでディスカッションのポイントを検討する。 （復習：2時間） 発表およびディスカッションの課題の整理
13	芳地泰幸	（授業内容） 海外文献 論文内容の発表とディスカッション	受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：2時間） 発表者：選んだ論文を他の受講生に共有するとともに、その内容をPPTにまとめる。 発表者以外：共有された論文について疑問やでディスカッションのポイントを検討する。 （復習：2時間） 発表およびディスカッションの課題の整理
14	芳地泰幸	（授業内容） 今後の研究と実務の視座 スポーツ国際イベントの学術および実務への貢献の検討	講義と受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：2時間） これまでの学習を振り返り、自らが研究を行うときの研究テーマとその手法、および学術および実務への貢献をを検討する。 （復習：2時間） 発表およびディスカッションの課題の整理
15	和田由佳子 芳地泰幸	（授業内容） 今後の研究と実務の視座 スポーツ国際イベントの学術および実務への貢献の検討	講義と受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：4時間） これまでの学習を振り返り、自らが研究を行うときの研究テーマとその手法、および学術および実務への貢献をを検討する。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ国際イベント論（後期後半）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Sports International Event	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	和田　由佳子	ナンバリング	
担当教員	和田　由佳子、芳地　泰幸		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］□ 　本講義は国内外で開催される国際的なスポーツイベントを取り上げ、スポーツ消費者、スポーツツーリズム、スポーツイベント開催による社会・経済的な影響について、理論（研究）と実践への理解を深めることを目的とする。 １）国内外で開催されるスポーツ国際イベントの開催背景、主催団体など実務に基づいた知見と、２）これらのイベントについてどのような研究がされているのか論文精読を行うとともに、３）今後どのような研究が実務とアカデミックに貢献できるのかに関するディスカッションを行う。
到達目標	1. スポーツ国際イベントの概要および各イベントの開催目的、特性、および社会経済的な存在意義を説明できる。 2. スポーツ国際イベントに関する国内外の学術論文を精読し、スポーツ国際ベントに関する研究の視座および動向を説明できる。 3. スポーツ国際イベントの学術及び実務への貢献として、今後求められるスポーツ国際ベントの在り方や研究について議論ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 　特になし ［履修上の注意（科目独自のルール）］ 　この授業科目では、受講生による発表（PPT）および議論が中心です。特に学術論文は英語論文を検索し、精読したうえでPPTでの発表となるため、能動的に取り組んでください。またディスカッションは、発表者以外の事前準備が重要になるため、担当日以外もしっかりと準備をして受講してください。
成績評価の方法	
評価方法	スポーツイベントに関するプレゼンテーション30%、論文精読発表40%、ディスカッション30%を総合して評価する。
評価基準	1. スポーツ国際イベントの概要および各イベントの開催目的、特性、および社会経済的な存在意義について理解し、説明およびディスカッションができる（PPTによる発表およびディスカッションへの内容と貢献度の評価）。 2. スポーツ国際イベントに関する学術論文を適切に選択し、その内容を理解するとともに説明およびディスカッションができる（PPTによる発表およびディスカッションへの内容と貢献度の評価）。 3. 発表時の質疑への適切な対応ができる（担当回に関わる準備と発表内容にかかわる理解に対する評価）。 4. 授業への積極的な参加（発表準備、発表、ディスカッションに対する積極性に対する評価）。
試験・課題に対するフィードバック方法	
授業内で随時情報の共有やフィードバック（コメント）を行います。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に適宜提示いたします。
その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 和田　由佳子　y.wada.qv[at]juntendo.ac.jp ※：[at]を@に変更してください。 ［オフィスアワー］ まずはメールで連絡をお願いします。その後内容に応じて、メールまたは面談（対面/Zoom）を用いて対応いたします。
担当教員の実務経験	・スポーツ国際イベントへの諸外国チームの招致に関わる業務に携わった経験を活かし、スポーツ国際イベントの参加者の参加・スポーツ実施動機に関する講義や論文の解説を行う。 ・競技団体の評議員を務めている経験を活かし、スポーツ国際イベントの経済・社会的意義について講義や論文の解説を行う。 ・スポーツ国際イベントの成果の測定を行っている経験を活かし、スポーツ国際イベントに関わる成果の概念、測定方法、評価を把握するために必要な知識やスキルについて講義や論文の解説を行う。
備考	［学修時間］ 　この授業は、演習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成しています。 ［その他］ 受講人数によって、授業の構成に変更が生じる場合があります。また、内容によってはゲストスピーカーをお招きして授業を実施する場合があります。その際は事前に授業内でお知らせいたします。
授業計画	

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	和田由佳子 芳地泰幸	（授業内容）□ オリエンテーション□ 授業の目的及び概要、授業の進め方、評価方法等の説明	講義と受講生による発表	（予習：2時間）□ 受講生は以下の準備をして参加してください。 ・修士論文のテーマを説明 ・スポーツイベントと自身の興味、経験、関りなどを踏まえたプレゼンテーションを準備してください。 （復習：2 時間） ・講義内容に基づいて、自身の興味のあるスポーツイベントについてより深い情報を収集しまとめる。
2	和田由佳子	（授業内容）□ スポーツイベントの概要、意義と種類 スポーツイベントに関する情報収集	講義と受講生による発表・質疑応答	（予習：2時間） ・配布資料に基づいて、スポーツイベントの社会的効果について調べる。 ・自身の最も興味のあるスポーツイベントについて調べる。 （復習：2時間） ・講義内容に基づいて、スポーツイベントの社会的効果について復習する。 ・講義内容に基づいて、自身の興味のあるスポーツイベントについてより深い情報を収集しまとめる。
3	和田由佳子	（授業内容）□ スポーツイベント① イベントの概要などのプレゼンテーションとディスカッション	受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：2時間） 発表者：自ら選んだスポーツイベントについて情報を収集し、PPTにまとめる。 発表者以外：取り上げるスポーツイベントについて、自分なりに調べて疑問やでディスカッションのポイントを検討する。 （復習：2時間） 発表およびディスカッションの課題の整理
4	和田由佳子	（授業内容）□ スポーツイベント② イベントの概要などのプレゼンテーションとディスカッション	受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：2時間） 発表者：自ら選んだスポーツイベントについて情報を収集し、PPTにまとめる。 発表者以外：取り上げるスポーツイベントについて、自分なりに調べて疑問やでディスカッションのポイントを検討する。 （復習：2時間） 発表およびディスカッションの課題の整理
5	和田由佳子	（授業内容）□ スポーツイベント③ イベントの概要などのプレゼンテーションとディスカッション	受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：2時間） 発表者：自ら選んだスポーツイベントについて情報を収集し、PPTにまとめる。 発表者以外：取り上げるスポーツイベントについて、自分なりに調べて疑問やでディスカッションのポイントを検討する。 （復習：2時間） 発表およびディスカッションの課題の整理
6	和田由佳子	（授業内容）□ スポーツイベント④ イベントの概要などのプレゼンテーションとディスカッション	受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：2時間） 発表者：自ら選んだスポーツイベントについて情報を収集し、PPTにまとめる。 発表者以外：取り上げるスポーツイベントについて、自分なりに調べて疑問やでディスカッションのポイントを検討する。 （復習：2時間） 発表およびディスカッションの課題の整理
7	和田由佳子	（授業内容）□ スポーツイベントに関する振り返りと スポーツイベントに関する学術論文の選定 論文のアブストラクトの読み方	講義と受講生によるオンラインを用いたスポーツイベントに関する学術論文の検索と選定	（予習：3時間） 発表に用いる論文の候補を用意する。 （復習：1時間） 論文の検索方法の振り返りと、選定した論文のアブストラクトを理解する。
8	和田由佳子	（授業内容） 海外文献 論文内容の発表とディスカッション	受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：3時間） 発表者：選んだ論文を他の受講生に共有するとともに、その内容をPPTにまとめる。 発表者以外：共有された論文について疑問やでディスカッションのポイントを検討する。 （復習：1時間） 発表およびディスカッションの課題の整理

9	芳地泰幸	（授業内容） 学術論文 論文内容の発表とディスカッション	受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：2時間） 発表者：選んだ論文を他の受講生に共有するとともに、その内容をPPTにまとめる。 発表者以外：共有された論文について疑問やでディスカッションのポイントを検討する。 （復習：1時間） 発表およびディスカッションの課題の整理
10	芳地泰幸	（授業内容） 学術論文 論文内容の発表とディスカッション	受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：2時間） 発表者：選んだ論文を他の受講生に共有するとともに、その内容をPPTにまとめる。 発表者以外：共有された論文について疑問やでディスカッションのポイントを検討する。 （復習：1時間） 発表およびディスカッションの課題の整理
11	芳地泰幸	（授業内容） 学術論文 論文内容の発表とディスカッション	受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：2時間） 発表者：選んだ論文を他の受講生に共有するとともに、その内容をPPTにまとめる。 発表者以外：共有された論文について疑問やでディスカッションのポイントを検討する。 （復習：2時間） 発表およびディスカッションの課題の整理
12	芳地泰幸	（授業内容） 海外文献 論文内容の発表とディスカッション	受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：2時間） 発表者：選んだ論文を他の受講生に共有するとともに、その内容をPPTにまとめる。 発表者以外：共有された論文について疑問やでディスカッションのポイントを検討する。 （復習：2時間） 発表およびディスカッションの課題の整理
13	芳地泰幸	（授業内容） 海外文献 論文内容の発表とディスカッション	受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：2時間） 発表者：選んだ論文を他の受講生に共有するとともに、その内容をPPTにまとめる。 発表者以外：共有された論文について疑問やでディスカッションのポイントを検討する。 （復習：2時間） 発表およびディスカッションの課題の整理
14	芳地泰幸	（授業内容） 今後の研究と実務の視座 スポーツ国際イベントの学術および実務への貢献の検討	講義と受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：2時間） これまでの学習を振り返り、自らが研究を行うときの研究テーマとその手法、および学術および実務への貢献をを検討する。 （復習：2時間） 発表およびディスカッションの課題の整理
15	和田由佳子 芳地泰幸	（授業内容） 今後の研究と実務の視座 スポーツ国際イベントの学術および実務への貢献の検討	講義と受講生によるPPTを用いた発表、ディスカッション	（予習：4時間） これまでの学習を振り返り、自らが研究を行うときの研究テーマとその手法、および学術および実務への貢献をを検討する。
定期試験は実施しない				

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	メンタルヘルス（後期前半）	授業形態	講義
英語科目名	Mental Health	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	黄田　常嘉	ナンバリング	
担当教員	黄田　常嘉		

授業概要	
全体内容	（授業全体の内容） メンタルヘルスは保健医療領域はもとより、教育、産業、司法など幅広いさまざまな領域に跨る重要な問題である。本授業では、代表的な精神疾患の疫学、症状、経過、治療について概説すると共に、症状形成の背景理論や関連法規や社会制度の概略についても学習し、現代社会におけるメンタルヘルスの問題点について考える力を身につける。
到達目標	1. 精神保健に関連する文献の考証と課題について理解し、自ら研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	履修条件は特に設けていない。

成績評価の方法	
評価方法	レポート評定(30%)、平常点(70%)を総合して評価する。
評価基準	1．精神保健に関して、自ら文献考証を進めていけるだけの基本的事項について理解し、説明することができる。（レポート試験） 2．出席状況や授業内での発言など授業態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
定期試験は実施しない。レポート、課題については、Juntendo Passportや順天堂メールでフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

指定教科書はない。
参考文献：DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル　APA編　高橋三郎監訳　医学書院　ISBN：978-4260052184
適宜講義資料を配布する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	黄田常嘉(ota＊juntendo.ac.jp)　（＊を@に読み替えて下さい） 本郷キャンパスでは金曜１８時以降に大賀ビル7階の精神医学講座医局、さくらキャンパスでは木曜　1・2限に1216号研究室に在室していることが多いが、診療業務等により不在のこともあるため、事前にメールか内線に連絡をすること。
担当教員の実務経験	科目責任者は、精神科専門医、精神保健指定医、公認心理師、臨床心理士として、外来・入院の診療活動、精神鑑定、学校や企業の健康管理室、特別支援教育専門家検診など多彩な業務経験を有している。それらの経験を活かしながら、精神科医療、精神保健における実践的な講義内容を展開する。
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 [その他] この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられる。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	黄田　常嘉	（内容） オリエンテーション 精神医学の諸問題の紹介 抑鬱評価尺度CES-D、QIDSの実施、解析	（方法） スライド提示 スクリーニングツールの実践 統計学的解析	（予習：２時間） 最近の事件などで、精神保健、精神医学的な問題を含むものについて調査する。 厚生労働省のストレスチェック制度について学習しておく。 （復習：２時間） 講義内容について文献調査する。
2	黄田　常嘉	（内容） 産業領域に於けるメンタルヘルス： NIOSH職業ストレスモデル 労働者の心の健康の保持増進のための指針 過労死の労災認定基準 心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援 障碍者の就労支援	（方法） スライド提示	（予習：2時間） 労働とメンタルヘルスの問題について思索を巡らせておく。 （復習：2時間） 講義内容を発展させて文献調査する。

3	黄田　常嘉	（内容） 不安症群、強迫症群： 自己理論、マズローの欲求段階説、防衛機制、神経症概念の変遷、fear-circuitry dysfunction、ポリヴェーガル理論	（方法） スライド提示	（予習時間：2時間） ストレスの身体に及ぼす機序について調査する。 （復習時間：2時間） パニック症の認知療法について調査する。
4	黄田　常嘉	（内容） 心的外傷およびストレス因関連症群、解離症群、身体症状症及び関連症群： 適応的情報処理モデル、抑圧の理論	（方法） スライド提示	（予習時間：2時間） ヒステリーについて調べておく。 （復習時間：2時間） トラウマとメンタルヘルスの関連について文献調査を通して理解を深める。
5	黄田　常嘉	（内容） 神経発達症群： 感覚特性、心の理論、共同注意、dorsal stream vulnerability、Weak central coherence 神経発達症群／神経発達障害群（限局性学習症、発達性協調運動障害） ニューロダイバーシティ、ワーキングメモリー、読字の二重経路モデル	（方法） スライド提示	（予習：2時間） 「定型発達症候群」について調査しておくこと。 自閉スペクトラム症を巡る困難について思索を巡らせ、学校や就労場面でどのような支援ができるのかを考えること。 （復習：2時間） 限局性学習症をもつ児童・生徒への学習支援法について調査すること。
6	黄田　常嘉	（内容） 児童思春期の精神障害 認知、人格の発達	（方法） スライド提示	（予習：2時間） 児童思春期に生じるメンタルヘルスの問題について考えておくこと。 （復習：2時間） 発達のマイルストーン、ピアジェの認知発達理論、フロイトの精神性的発達論、エリクソンの心理社会的発達理論、マーラーの乳幼児の分離-固体化論、ボウルビィの愛着理論について調べておくこと。
7	黄田　常嘉	（内容） 双極症群、抑鬱症群： 古典的モノアミン仮説、受容体 up - regulation 仮説、神経可塑性仮説	（方法） スライド提示	（予習：2時間） 気分変調症や双極症について調べておく。 （復習：2時間） 鬱病に対する認知療法について勉強する。
8	黄田　常嘉	（内容） 物質関連症および嗜癖症 アルコール、麻薬、覚醒剤、大麻、ギャンブル、ゲーム、クレプトマニア、オニオマニア、パラフィリア	（方法） スライド提示	（予習：2時間） 依存対象の種類について思索を巡らすこと。 最近の依存症報道についての感想を整理しておくこと。 （復習：2時間） 相互援助グループについてインターネットで検索すること。
9	黄田　常嘉	（内容） 統合失調症スペクトラム症および他の精神症群 シュナイダーの一級症状、幻覚、妄想、ブロイラーの基本症状、抗精神病薬	（方法） スライド提示	（予習：2時間） 幻覚や妄想の種類について調べておくこと。 （復習：2時間） 統合失調症の経過、予後について調べてみること。
１０	黄田　常嘉	（内容） 精神医療と法律 精神鑑定、精神保健福祉法、医療観察法	（方法） スライド提示	（予習：2時間） 記憶に残る事件の精神鑑定事案について調査してみること。 （復習：2時間） 「原因について自由な行為」とは如何なるものか検索すること。
１１	黄田　常嘉	内容） 神経認知障害群： 認知症の診断と治療	（方法） スライド提示	予習：2時間） 認知症の種類について調べておくこと。 （復習：2時間） 認知症の薬物療法の現状について調査してみること。
１２	黄田　常嘉	内容） 神経認知障害群： 認知症の介護、パーソンセンタードケア、ユマニチュード	（方法） スライド提示	予習：2時間） 認知症介護を巡る困難について聞き取り調査をしておくこと。 （復習：2時間） 身近なケースについてパーソンセンタードケアの観点でフォーミュレーションしてみること。

１３	黄田　常嘉	（内容） パーソナリティ症群： ボーダーラインパーソナリティ症に見られる自傷行為、自殺、原始的防衛機制、早期不適応スキーマ	（方法） スライド提示	（予習：2時間） 気質と性格と人格とパーソナリティの相違について調べておくこと。 （復習：2時間） ボーダーラインパーソナリティ症患者の支援の在り方について考えること。
１４	黄田　常嘉	（内容） 食行動症及び摂食症群： 神経性痩せ症、神経性大食症、むちゃ食い症、リフィーディング症候群、EAT26、SRSED	（方法） スライド提示 自記式評価尺度の体験	（予習2時間） DSM-５の摂食障害の種類について調査すること。 （復習２時間） 摂食障害の治療上の注意点について調査してみること。
15	黄田　常嘉	総括： 14回までの授業の振り返りと14回までの授業で扱いきれなかった精神障害に関する質疑。 レポート課題についての説明。	（方法） ディスカッション	（予習2時間） メンタルヘルスに関する疑問点を整理しておくこと。 （復習2時間） 特に興味を持ったメンタルヘルスを巡る課題について調査してみること。
定期試験は実施しない。				

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	メンタルヘルス（前期後半）	授業形態	講義
英語科目名	Mental Health	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	黄田　常嘉	ナンバリング	
担当教員	黄田　常嘉		

授業概要	
全体内容	（授業全体の内容） メンタルヘルスは保健医療領域はもとより、教育、産業、司法など幅広いさまざまな領域に跨る重要な問題である。本授業では、代表的な精神疾患の疫学、症状、経過、治療について概説すると共に、症状形成の背景理論や関連法規や社会制度の概略についても学習し、現代社会におけるメンタルヘルスの問題点について考える力を身につける。
到達目標	1. 精神保健に関連する文献の考証と課題について理解し、自ら研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	履修条件は特に設けていない。

成績評価の方法	
評価方法	レポート評定(30%)、平常点(70%)を総合して評価する。
評価基準	1．精神保健に関して、自ら文献考証を進めていけるだけの基本的事項について理解し、説明することができる。（レポート試験） 2．出席状況や授業内での発言など授業態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
定期試験は実施しない。レポート、課題については、Juntendo Passportや順天堂メールでフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

指定教科書はない。
参考文献：DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル　APA編　高橋三郎監訳　医学書院　ISBN：978-4260052184
適宜講義資料を配布する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	黄田常嘉(ota＊juntendo.ac.jp)　（＊を@に読み替えて下さい） 本郷キャンパスでは金曜１８時以降に大賀ビル7階の精神医学講座医局、さくらキャンパスでは木曜　1・2限に1216号研究室に在室していることが多いが、診療業務等により不在のこともあるため、事前にメールか内線に連絡をすること。
担当教員の実務経験	科目責任者は、精神科専門医、精神保健指定医、公認心理師、臨床心理士として、外来・入院の診療活動、精神鑑定、学校や企業の健康管理室、特別支援教育専門家検診など多彩な業務経験を有している。それらの経験を活かしながら、精神科医療、精神保健における実践的な講義内容を展開する。
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 [その他] この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられる。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	黄田　常嘉	（内容） オリエンテーション 精神医学の諸問題の紹介 抑鬱評価尺度CES-D、QIDSの実施、解析	（方法） スライド提示 スクリーニングツールの実践 統計学的解析	（予習：２時間） 最近の事件などで、精神保健、精神医学的な問題を含むものについて調査する。 厚生労働省のストレスチェック制度について学習しておく。 （復習：２時間） 講義内容について文献調査する。
2	黄田　常嘉	（内容） 産業領域に於けるメンタルヘルス： NIOSH職業ストレスモデル 労働者の心の健康の保持増進のための指針 過労死の労災認定基準 心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援 障碍者の就労支援	（方法） スライド提示	（予習：2時間） 労働とメンタルヘルスの問題について思索を巡らせておく。 （復習：2時間） 講義内容を発展させて文献調査する。

3	黄田　常嘉	（内容） 不安症群、強迫症群： 自己理論、マズローの欲求段階説、防衛機制、神経症概念の変遷、fear-circuitry dysfunction、ポリヴェーガル理論	（方法） スライド提示	（予習時間：2時間） ストレスの身体に及ぼす機序について調査する。 （復習時間：2時間） パニック症の認知療法について調査する。
4	黄田　常嘉	（内容） 心的外傷およびストレス因関連症群、解離症群、身体症状症及び関連症群： 適応的情報処理モデル、抑圧の理論	（方法） スライド提示	（予習時間：2時間） ヒステリーについて調べておく。 （復習時間：2時間） トラウマとメンタルヘルスの関連について文献調査を通して理解を深める。
5	黄田　常嘉	（内容） 神経発達症群： 感覚特性、心の理論、共同注意、dorsal stream vulnerability、Weak central coherence 神経発達症群／神経発達障害群（限局性学習症、発達性協調運動障害） ニューロダイバーシティ、ワーキングメモリー、読字の二重経路モデル	（方法） スライド提示	（予習：2時間） 「定型発達症候群」について調査しておくこと。 自閉スペクトラム症を巡る困難について思索を巡らせ、学校や就労場面でどのような支援ができるのかを考えること。 （復習：2時間） 限局性学習症をもつ児童・生徒への学習支援法について調査すること。
6	黄田　常嘉	（内容） 児童思春期の精神障害 認知、人格の発達	（方法） スライド提示	（予習：2時間） 児童思春期に生じるメンタルヘルスの問題について考えておくこと。 （復習：2時間） 発達のマイルストーン、ピアジェの認知発達理論、フロイトの精神性的発達論、エリクソンの心理社会的発達理論、マーラーの乳幼児の分離-固体化論、ボウルビィの愛着理論について調べておくこと。
7	黄田　常嘉	（内容） 双極症群、抑鬱症群： 古典的モノアミン仮説、受容体 up - regulation 仮説、神経可塑性仮説	（方法） スライド提示	（予習：2時間） 気分変調症や双極症について調べておく。 （復習：2時間） 鬱病に対する認知療法について勉強する。
8	黄田　常嘉	（内容） 物質関連症および嗜癖症 アルコール、麻薬、覚醒剤、大麻、ギャンブル、ゲーム、クレプトマニア、オニオマニア、パラフィリア	（方法） スライド提示	（予習：2時間） 依存対象の種類について思索を巡らすこと。 最近の依存症報道についての感想を整理しておくこと。 （復習：2時間） 相互援助グループについてインターネットで検索すること。
9	黄田　常嘉	（内容） 統合失調症スペクトラム症および他の精神症群 シュナイダーの一級症状、幻覚、妄想、ブロイラーの基本症状、抗精神病薬	（方法） スライド提示	（予習：2時間） 幻覚や妄想の種類について調べておくこと。 （復習：2時間） 統合失調症の経過、予後について調べてみること。
１０	黄田　常嘉	（内容） 精神医療と法律 精神鑑定、精神保健福祉法、医療観察法	（方法） スライド提示	（予習：2時間） 記憶に残る事件の精神鑑定事案について調査してみること。 （復習：2時間） 「原因について自由な行為」とは如何なるものか検索すること。
１１	黄田　常嘉	内容） 神経認知障害群： 認知症の診断と治療	（方法） スライド提示	予習：2時間） 認知症の種類について調べておくこと。 （復習：2時間） 認知症の薬物療法の現状について調査してみること。
１２	黄田　常嘉	内容） 神経認知障害群： 認知症の介護、パーソンセンタードケア、ユマニチュード	（方法） スライド提示	予習：2時間） 認知症介護を巡る困難について聞き取り調査をしておくこと。 （復習：2時間） 身近なケースについてパーソンセンタードケアの観点でフォーミュレーションしてみること。

１３	黄田　常嘉	（内容） パーソナリティ症群： ボーダーラインパーソナリティ症に見られる自傷行為、自殺、原始的防衛機制、早期不適応スキーマ	（方法） スライド提示	（予習：2時間） 気質と性格と人格とパーソナリティの相違について調べておくこと。 （復習：2時間） ボーダーラインパーソナリティ症患者の支援の在り方について考えること。
１４	黄田　常嘉	（内容） 食行動症及び摂食症群： 神経性痩せ症、神経性大食症、むちゃ食い症、リフィーディング症候群、EAT26、SRSED	（方法） スライド提示 自記式評価尺度の体験	（予習2時間） DSM-５の摂食障害の種類について調査すること。 （復習２時間） 摂食障害の治療上の注意点について調査してみること。
15	黄田　常嘉	総括： 14回までの授業の振り返りと14回までの授業で扱いきれなかった精神障害に関する質疑。 レポート課題についての説明。	（方法） ディスカッション	（予習2時間） メンタルヘルスに関する疑問点を整理しておくこと。 （復習2時間） 特に興味を持ったメンタルヘルスを巡る課題について調査してみること。
定期試験は実施しない。				

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	環境健康科学（後期前半）	授業形態	講義
英語科目名	Environmental Health Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	佐々木　啓	ナンバリング	
担当教員	佐々木　啓		

授業概要	
全体内容	私たちを取り巻く環境と健康との関係性について教科書を中心に学ぶ。また、環境問題や健康被害の現状、それらの解決方法について、専門書やインターネット上の様々な情報源（信頼できる情報源）を利用して学生自らが調べ、まとめてプレゼンテーションを行う。そのプレゼンテーションを基にクラス全体で議論を行い、問題点を整理し、それらの解決策を模索する。
到達目標	１．　自然環境や生活環境の現状と問題点を理解できる。 ２．　特に、環境と健康の関係性を科学的に理解できる。 ３．　環境問題を解決するための国際社会や日本政府の取組みなどを知ることができる。 ４．　未解決の環境問題を科学的に理解する力、皆で議論する力、解決策を提案する力を取得できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 特になし。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 講義中の私語やスマートホン操作は厳禁。

成績評価の方法	
評価方法	平常点（30%）、各自選択した環境問題に関するプレゼンテーション（50%）、レポート（20%）を総合して評価する。
評価基準	１．　授業への取組み姿勢と出席率を査定する（議論での積極的発言、参加を評価：平常点）。 ２．　各自選択した課題のプレゼンテーションを実施し、この授業の「到達目標」に照らしながらプレゼン内容（課題に対する掘り下げ方、まとめ方など）を査定する（プレゼン）。 ３．　必要に応じて課題を設定し、レポートを提出することで、この授業の「到達目標」に照らしながらレポート内容を査定する（レポート）。

試験・課題に対するフィードバック方法
プレゼンの講評は毎回プレゼン後に伝える。レポートは学生の考え方を知り、随時授業の参考にするために課すので、採点はしない（提出=満点）。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
暮らしと環境科学	日本化学会編	東京化学同人	4-8079-0574-0	

参考文献
授業中、適宜資料を配布する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：佐々木啓 E-mail: hirakus[at]juntendo.ac.jp *[at]は@に変更してください。 [オフィスアワー] 日時：後期前半期間中の水曜日12:20から13:10 場所：さくらキャンパス1号館4階1410号室 　上記の時間帯には、予約なしで質問や相談に応じますが、重複を避けるため、出来るだけ前日までにe-mailで予約をしてください。質問や相談は予約を優先します。
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、講義と演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] 　・この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。 　・受講者数や、プレゼンテーションの日程調整の結果によって、下記の授業の内容や順番が変更となる。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	佐々木	[授業内容] ・ガイダンスと講義 　この授業に関するガイダンスと、環境科学入門的な講義。	[授業方法] 　資料プリントとスライドを用いて、ガイダンスと講義を行う。	（予習：2時間） 　ガイダンス終了後、環境科学の入門的な講義をするので、教科書やその他の媒体で学んでおく。 （復習：2時間） 　講義の内容や教科書の当該個所を復習する。各自、プレゼンテーションの課題を選択しておく。
2	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーションの調整と講義 　プレゼンテーションの課題と日程の調整を行う。また、生命科学に関する基礎的な理解を深める。	[授業方法] 　各自のプレゼンテーションの課題と日程を決める。 　資料プリントとスライドを用いて、講義を行う。	（予習：3時間） 　生物進化と生命科学史について予習をしておく。 （復習：1時間） 　講義中配布した資料プリントを基に講義内容を復習する。
3	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(1)と討論 　教科書の「地球の自然環境と生物（前半）」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 　資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 　大気とオゾン層、地下資源、地殻と土壌等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 　授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
4	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(2)と討論 教科書の「地球の自然環境と生物（校半）」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 　資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 　水と生命、水圏生態系、土壌生態系、生物圏のしくみ、物質循環等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 　授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
5	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(3)と討論 教科書の「地球規模の環境問題（前半）」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 　資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 　環境問題と国際的取組み、地球温暖化、オゾン層破壊等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 　授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
6	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(4)と討論 教科書の「地球規模の環境問題（後半）」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 　資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 　酸性雨、有機物と海洋汚染、森林減少、野生生物の減少等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 　授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
7	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(5)と討論 教科書の「水と食と環境（前半）」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 　資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 　飲料水の安全と環境、食と環境等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 　授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
8	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(6)と討論 教科書の「水と食と環境（後半）」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 　資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 　食品の安全性、水と食の安全に関するこれからの方向性等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 　授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。

9	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(7)と討論 教科書の「住まいと環境」に関するプレゼンと討論。 。	[授業方法] 資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する	（予習：3時間） 住まいの中の化学物質、室内環境が健康に与える影響等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
10	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(8)と討論 教科書の「ごみとリサイクル」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 廃棄物対策の原則、リサイクルと廃棄物処理の実態等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
11	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(9)と討論 教科書の「経済活動と環境安全」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 消費活動と環境汚染の関連性、環境問題を解決するための技術開発、環境教育とその実効性等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
12	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(10)と討論 教科書の「環境政策とその実現の手法」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 日本の環境政策の基本法、環境基本計画の考え方、地球環境保全への国際的協力等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
13	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(11)と討論 教科書の「科学・技術と社会（前半）」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 科学技術の恩恵、科学技術のダークサイド等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
14	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(12)と討論 教科書の「科学・技術と社会（後半）」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 前回に続いて、科学技術の恩恵、科学技術のダークサイド等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
15	佐々木	[授業内容] ・これまでの環境科学に関するプレゼンを総括し、今後の課題について討論。	[授業方法] 資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） これまでの環境科学を総括して現状と課題について議論する。プレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	環境健康科学（前期後半）	授業形態	講義
英語科目名	Environmental Health Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	佐々木　啓	ナンバリング	
担当教員	佐々木　啓		

授業概要	
全体内容	私たちを取り巻く環境と健康との関係性について教科書を中心に学ぶ。また、環境問題や健康被害の現状、それらの解決方法について、専門書やインターネット上の様々な情報源（信頼できる情報源）を利用して学生自らが調べ、まとめてプレゼンテーションを行う。そのプレゼンテーションを基にクラス全体で議論を行い、問題点を整理し、それらの解決策を模索する。
到達目標	１．　自然環境や生活環境の現状と問題点を理解できる。 ２．　特に、環境と健康の関係性を科学的に理解できる。 ３．　環境問題を解決するための国際社会や日本政府の取組みなどを知ることができる。 ４．　未解決の環境問題を科学的に理解する力、皆で議論する力、解決策を提案する力を取得できる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 特になし。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 講義中の私語やスマートホン操作は厳禁。

成績評価の方法	
評価方法	平常点（30%）、各自選択した環境問題に関するプレゼンテーション（50%）、レポート（20%）を総合して評価する。
評価基準	１．　授業への取組み姿勢と出席率を査定する（議論での積極的発言、参加を評価：平常点）。 ２．　各自選択した課題のプレゼンテーションを実施し、この授業の「到達目標」に照らしながらプレゼン内容（課題に対する掘り下げ方、まとめ方など）を査定する（プレゼン）。 ３．　必要に応じて課題を設定し、レポートを提出することで、この授業の「到達目標」に照らしながらレポート内容を査定する（レポート）。

試験・課題に対するフィードバック方法
プレゼンの講評は毎回プレゼン後に伝える。レポートは学生の考え方を知り、随時授業の参考にするために課すので、採点はしない（提出=満点）。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
暮らしと環境科学	日本化学会編	東京化学同人	4-8079-0574-0	

参考文献
授業中、適宜資料を配布する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：佐々木啓 E-mail: hirakus[at]juntendo.ac.jp *[at]は@に変更してください。 [オフィスアワー] 日時：後期前半期間中の水曜日12:20から13:10 場所：さくらキャンパス1号館4階1410号室 　上記の時間帯には、予約なしで質問や相談に応じますが、重複を避けるため、出来るだけ前日までにe-mailで予約をしてください。質問や相談は予約を優先します。
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] 　この授業は、講義と演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] 　・この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。 　・受講者数や、プレゼンテーションの日程調整の結果によって、下記の授業の内容や順番が変更となる。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	佐々木	[授業内容] ・ガイダンスと講義 　この授業に関するガイダンスと、環境科学入門的な講義。	[授業方法] 　資料プリントとスライドを用いて、ガイダンスと講義を行う。	（予習：2時間） 　ガイダンス終了後、環境科学の入門的な講義をするので、教科書やその他の媒体で学んでおく。 （復習：2時間） 　講義の内容や教科書の当該個所を復習する。各自、プレゼンテーションの課題を選択しておく。
2	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーションの調整と講義 　プレゼンテーションの課題と日程の調整を行う。また、生命科学に関する基礎的な理解を深める。	[授業方法] 　各自のプレゼンテーションの課題と日程を決める。 　資料プリントとスライドを用いて、講義を行う。	（予習：3時間） 　生物進化と生命科学史について予習をしておく。 （復習：1時間） 　講義中配布した資料プリントを基に講義内容を復習する。
3	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(1)と討論 　教科書の「地球の自然環境と生物（前半）」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 　資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 　大気とオゾン層、地下資源、地殻と土壌等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 　授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
4	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(2)と討論 教科書の「地球の自然環境と生物（校半）」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 　資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 　水と生命、水圏生態系、土壌生態系、生物圏のしくみ、物質循環等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 　授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
5	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(3)と討論 教科書の「地球規模の環境問題（前半）」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 　資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 　環境問題と国際的取組み、地球温暖化、オゾン層破壊等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 　授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
6	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(4)と討論 教科書の「地球規模の環境問題（後半）」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 　資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 　酸性雨、有機物と海洋汚染、森林減少、野生生物の減少等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 　授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
7	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(5)と討論 教科書の「水と食と環境（前半）」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 　資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 　飲料水の安全と環境、食と環境等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 　授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
8	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(6)と討論 教科書の「水と食と環境（後半）」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 　資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 　食品の安全性、水と食の安全に関するこれからの方向性等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 　授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。

9	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(7)と討論 教科書の「住まいと環境」に関するプレゼンと討論。 。	[授業方法] 資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する	（予習：3時間） 住まいの中の化学物質、室内環境が健康に与える影響等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
10	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(8)と討論 教科書の「ごみとリサイクル」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 廃棄物対策の原則、リサイクルと廃棄物処理の実態等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
11	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(9)と討論 教科書の「経済活動と環境安全」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 消費活動と環境汚染の関連性、環境問題を解決するための技術開発、環境教育とその実効性等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
12	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(10)と討論 教科書の「環境政策とその実現の手法」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 日本の環境政策の基本法、環境基本計画の考え方、地球環境保全への国際的協力等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
13	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(11)と討論 教科書の「科学・技術と社会（前半）」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 科学技術の恩恵、科学技術のダークサイド等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
14	佐々木	[授業内容] ・プレゼンテーション(12)と討論 教科書の「科学・技術と社会（後半）」に関するプレゼンと討論。	[授業方法] 資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） 前回に続いて、科学技術の恩恵、科学技術のダークサイド等について教科書を中心に予習する。また、この課題に関するプレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
15	佐々木	[授業内容] ・これまでの環境科学に関するプレゼンを総括し、今後の課題について討論。	[授業方法] 資料プリントとスライドを用いて、学生がプレゼンを行う。また、その内容について全員で討論する。	（予習：3時間） これまでの環境科学を総括して現状と課題について議論する。プレゼンテーション担当者は、これらについてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1時間） 授業中配布した資料プリントと教科書を基に授業内容を復習する。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	ヘルスプロモーション論（前期前半）	授業形態	講義
英語科目名	Health Promotion	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	松山　毅	ナンバリング	
担当教員	松山　毅、鈴木　美奈子		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 健康の概念や健康行動について幅広い視点から学ぶとともに、グローバルヘルスの中核的な概念の一つであるヘルスプロモーションについて、その起源や発展過程を通して理解を深める。また、ヘルスプロモーションを展開するために、地域（行政）、学校、職場（企業）、病院（保健医療施設）といったセッティングアプローチの視点から、その具体的な活動を紹介しながら知識や視野を拡げていく。また、ディスカッションやプレゼンテーションを通して、自らも企画や提案をすることでより応用力や創造力を育んでいく。
到達目標	1. 健康の概念について、多様性を考慮した上で健康支援について考察することができる。 2. ヘルスプロモーションに関するオタワ憲章とバンコク憲章の歴史的意義とその推進方法を理解できる。 3. ハイリスクアプローチやポピュレーションアプローチの意味を理解し、個人への支援とそれを取り巻く環境づくりについて提案することができる。 4. 健康の社会的決定要因（SDH）について探ることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特にないが、学際的な視点を活かして学ぶ講義であることを理解して受講していただきたい。 【履修上の注意（科目独自ルール）】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その会の授業を欠席扱いとする。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（50%）、プレゼンテーション（40%）、平常点（10%）を総合して評価する。
評価基準	1. 健康の概念について、多様性を考慮し、幅広い視点から考察することができているか。 2. オタワ憲章とバンコク憲章の歴史的意義とその推進方法について説明することができるか。 3. ハイリスクアプローチやポピュレーションアプローチの意味を理解し、個人への支援とそれを取り巻く環境づくりについて説明・提案することができるか。 4. 健康の社会的決定要因（SDH）について理解し、説明することができるか。

試験・課題に対するフィードバック方法
【課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法】 レポート等の課題については、講義形式で解説を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
テキストは使用しません。資料を適宜配布します。				

参考文献
＊授業内で適宜紹介します

その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：松山毅　E-mail：tmatsuya [at] juntendo.ac.jp 担当：鈴木美奈子　E-mail ：mina-suzuki [at] juntendo.ac.jp ※　[at] を@に変更してください。 【オフィスアワー】 事前にメールでご連絡ください。面談希望の際は日程調整致します。 また、メールでの質問もお受けいたします。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による 2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 [その他] この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	鈴木 美奈子	＜授業内容＞ WHOの健康の定義や持続可能な開発目標（SDGs）との関連を考える。ヘルスプロモーション誕生の経緯について解説する。	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 自分の考える健康の定義についてまとめておく （復習：1時間） 人びとの健康観の傾向、WHOの健康の定義について整理する
2	鈴木 美奈子	＜授業内容＞ ヘルスプロモーションの概念や定義、プロセス、オタワ憲章・バンコク憲章の相違について解説する。	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） WHOヘルスプロモーションについて調べておく （復習：1時間） WHOのオタワ憲章（1986）とバンコク憲章（2005）について整理する
3	松山毅	＜授業内容＞ ハイリスクアプローチからヘルスプロモーションを考える （１）貧困・格差問題を中心に①	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
4	松山毅	＜授業内容＞ ハイリスクアプローチからヘルスプロモーションを考える （１）貧困・格差問題を中心に②	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
5	松山毅	＜授業内容＞ ハイリスクアプローチからヘルスプロモーションを考える （２）障害者の健康支援を中心に①	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
6	松山毅	＜授業内容＞ ハイリスクアプローチからヘルスプロモーションを考える （２）障害者の健康支援を中心に②	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
7	松山毅	＜授業内容＞ ハイリスクアプローチからヘルスプロモーションを考える （３）要介護高齢者の健康支援を中心に①	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
8	松山毅	＜授業内容＞ ハイリスクアプローチからヘルスプロモーションを考える （３）要介護高齢者の健康支援を中心に②	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
9	鈴木美奈子	＜授業内容＞ ポピュレーションアプローチからヘルスプロモーションを考える （１）地域におけるヘルスプロモーション①	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
10	鈴木美奈子	＜授業内容＞ ポピュレーションアプローチからヘルスプロモーションを考える （１）地域におけるヘルスプロモーション②	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
11	鈴木美奈子	＜授業内容＞ ポピュレーションアプローチからヘルスプロモーションを考える （２）産業におけるヘルスプロモーション①	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
12	鈴木美奈子	＜授業内容＞ ポピュレーションアプローチからヘルスプロモーションを考える （２）産業におけるヘルスプロモーション②	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
13	松山毅・鈴木美奈子	＜授業内容＞ ヘルスプロモーションの授業を通して社会の健康課題解決について考える① ①グループワーク	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる

14	松山毅・鈴木美奈子	＜授業内容＞ ヘルスプロモーションの授業を通して社会の健康課題解決について考える② ②グループごとの発表と講評	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
15	松山毅・鈴木美奈子	＜授業内容＞ まとめと個人課題の作成	＜授業方法＞ スライド、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
		定期試験は行わない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	ヘルスプロモーション論（前期前半）	授業形態	講義
英語科目名	Health Promotion	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	松山　毅	ナンバリング	
担当教員	松山　毅、鈴木　美奈子		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 健康の概念や健康行動について幅広い視点から学ぶとともに、グローバルヘルスの中核的な概念の一つであるヘルスプロモーションについて、その起源や発展過程を通して理解を深める。また、ヘルスプロモーションを展開するために、地域（行政）、学校、職場（企業）、病院（保健医療施設）といったセッティングアプローチの視点から、その具体的な活動を紹介しながら知識や視野を拡げていく。また、ディスカッションやプレゼンテーションを通して、自らも企画や提案をすることでより応用力や創造力を育んでいく。
到達目標	1. 健康の概念について、多様性を考慮した上で健康支援について考察することができる。 2. ヘルスプロモーションに関するオタワ憲章とバンコク憲章の歴史的意義とその推進方法を理解できる。 3. ハイリスクアプローチやポピュレーションアプローチの意味を理解し、個人への支援とそれを取り巻く環境づくりについて提案することができる。 4. 健康の社会的決定要因（SDH）について探ることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特にないが、学際的な視点を活かして学ぶ講義であることを理解して受講していただきたい。 【履修上の注意（科目独自ルール）】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その会の授業を欠席扱いとする。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（50%）、プレゼンテーション（40%）、平常点（10%）を総合して評価する。
評価基準	1. 健康の概念について、多様性を考慮し、幅広い視点から考察することができているか。 2. オタワ憲章とバンコク憲章の歴史的意義とその推進方法について説明することができるか。 3. ハイリスクアプローチやポピュレーションアプローチの意味を理解し、個人への支援とそれを取り巻く環境づくりについて説明・提案することができるか。 4. 健康の社会的決定要因（SDH）について理解し、説明することができるか。

試験・課題に対するフィードバック方法
【課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法】 レポート等の課題については、講義形式で解説を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
テキストは使用しません。資料を適宜配布します。				

参考文献
＊授業内で適宜紹介します

その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：松山毅　E-mail：tmatsuya [at] juntendo.ac.jp 担当：鈴木美奈子　E-mail ：mina-suzuki [at] juntendo.ac.jp ※　[at] を@に変更してください。 【オフィスアワー】 事前にメールでご連絡ください。面談希望の際は日程調整致します。 また、メールでの質問もお受けいたします。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による 2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 [その他] この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	鈴木 美奈子	＜授業内容＞ WHOの健康の定義や持続可能な開発目標（SDGs）との関連を考える。ヘルスプロモーション誕生の経緯について解説する。	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 自分の考える健康の定義についてまとめておく （復習：1時間） 人びとの健康観の傾向、WHOの健康の定義について整理する
2	鈴木 美奈子	＜授業内容＞ ヘルスプロモーションの概念や定義、プロセス、オタワ憲章・バンコク憲章の相違について解説する。	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） WHOヘルスプロモーションについて調べておく （復習：1時間） WHOのオタワ憲章（1986）とバンコク憲章（2005）について整理する
3	松山毅	＜授業内容＞ ハイリスクアプローチからヘルスプロモーションを考える （１）貧困・格差問題を中心に①	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
4	松山毅	＜授業内容＞ ハイリスクアプローチからヘルスプロモーションを考える （１）貧困・格差問題を中心に②	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
5	松山毅	＜授業内容＞ ハイリスクアプローチからヘルスプロモーションを考える （２）障害者の健康支援を中心に①	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
6	松山毅	＜授業内容＞ ハイリスクアプローチからヘルスプロモーションを考える （２）障害者の健康支援を中心に②	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
7	松山毅	＜授業内容＞ ハイリスクアプローチからヘルスプロモーションを考える （３）要介護高齢者の健康支援を中心に①	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
8	松山毅	＜授業内容＞ ハイリスクアプローチからヘルスプロモーションを考える （３）要介護高齢者の健康支援を中心に②	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
9	鈴木美奈子	＜授業内容＞ ポピュレーションアプローチからヘルスプロモーションを考える （１）地域におけるヘルスプロモーション①	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
10	鈴木美奈子	＜授業内容＞ ポピュレーションアプローチからヘルスプロモーションを考える （１）地域におけるヘルスプロモーション②	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
11	鈴木美奈子	＜授業内容＞ ポピュレーションアプローチからヘルスプロモーションを考える （２）産業におけるヘルスプロモーション①	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
12	鈴木美奈子	＜授業内容＞ ポピュレーションアプローチからヘルスプロモーションを考える （２）産業におけるヘルスプロモーション②	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
13	松山毅・鈴木美奈子	＜授業内容＞ ヘルスプロモーションの授業を通して社会の健康課題解決について考える① ①グループワーク	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる

14	松山毅・鈴木美奈子	＜授業内容＞ ヘルスプロモーションの授業を通して社会の健康課題解決について考える② ②グループごとの発表と講評	＜授業方法＞ スライド、講義資料、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
15	松山毅・鈴木美奈子	＜授業内容＞ まとめと個人課題の作成	＜授業方法＞ スライド、グループワーク	（予習：3時間） 事前配布の資料を読み、課題について調べておく （復習：1時間） 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べる
		定期試験は行わない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	障害者と特別支援教育（後期前半）	授業形態	演習
英語科目名	The Disabled and Special Needs Education	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	渡邉　貴裕	ナンバリング	
担当教員	渡邉　貴裕、尾高　邦生、村上　祐介		

授業概要	
全体内容	この科目は、知的・発達障害児者等の障害特性とその支援方法に関する基礎的な知識を習得し、特別支援教育の推進のための制度にについて理解することを目的とする。 知的・発達障害児者の障害特性について文献や事例をもとに解説する。また、知的・発達障害児者の自立や社会参加に向けて、保育、教育、心理、医療、福祉、労働などの関係者がどのような支援を行っているのかについて紹介する。フィールドワークやグループディスカッション等を行うことでより理解を深めていく。
到達目標	１）知的・発達障害児者等の障害特性（学習上・生活上の困難さ）について理解することができる。 ２）知的・発達障害児者への具体的な支援方法について理解することができる。 ３）特別支援教育を推進するための制度について説明できるようになる。 ４）知的・発達障害児者の自立や社会参加に向けた、保育、教育、心理、医療、福祉、労働等の役割について説明できるようになる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 1. 特別支援学校教員免許状を取得しているもの、もしくは学部時代に特別支援教育に関する授業を履修しているもの。 2. 現在学校教育現場に勤務しているもの、もしくは将来教職を目指すもの。 3. フィールドワークを行うため、授業時間外指導に参加できるもの。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 特別支援教育について理解することは、共生社会の実現に向けて有益な視点を提供してくれるはずである。そのため、本授業では専門的知識を身に付けることはもちろんのこと、参加者のディスカッションを大事にしたい。資料の抄読や論点の確認など、授業までの準備を大切にして望んで欲しい。
成績評価の方法	
評価方法	最終レポート（20%）、プレゼンテーションやコメントの内容（50%）、議論への貢献度（30%）を総合して評価する。定期試験は実施しない。
評価基準	１）障害特性とその具体的な支援方法を理解しているかを、担当するプレゼンテーションによって評価する。 ２）特別支援教育の推進について議論することができるかを、学生同士のディスカッションから評価する。 ３）フィールドワークによって得た知見を活用し、障害者の自立と社会参加について自らの意見を考察することができるかをプレゼンテーションと最終レポートから評価する。
試験・課題に対するフィードバック方法	
学生同士のディスカッションに対しては、毎回の授業中に解説をすることでフィードバックする。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
［テキスト・参考書等］ 渡邉貴裕　他　編：教職課程コアカリキュラム対応版キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育＆教育相談・生徒指導・キャリア教育、福村出版、2020
その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：渡邉　貴裕 E-mail：tkwatana[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 ［オフィスアワー］ 〈さくらキャンパス〉 日時：火曜日　13時～15時　　木曜日　10時～12時 場所：1号館2階1218号室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：　本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	特別支援学校教諭としての勤務経験に基づき、障害を持つ人への指導に関する実践的な知識をわかりやすく解説する。

備考	［学修時間］ この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、60時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 ［その他］ この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	渡邉、尾高、村上、前鼻	授業の目的、シラバスの概要、評価方法、授業の進め方について理解する。またレポート作成方法を学習する。	授業の目的、シラバスの概要及び評価方法を解説する。また、レポートの作成方法を解説したのち、本講義のレポート作成の実習を行う。	（予習：2時間） 授業の目的及びシラバスを読み、本講義担当者の情報を収集しておく。 （復習：2時間） レポートの作成方法を復習し、次回講義の資料を読み課題を作成する。
2	渡邉、尾高、村上、前鼻	特別支援教育研究におけるトピックと問題について理解する。	配布された資料をもとにディスカッションを行う。	（予習：2時間） 関連する研究の文献を収集する。 （復習：2時間） 配布された論文を講読し要約する。
3	渡邉、尾高、村上、前鼻	歴史研究の意義について理解を深める。	特別支援教育の歴史研究について文献から学ぶ。	（予習：2時間） 関連する研究の文献を収集する。 （復習：2時間） 配布された論文を講読し要約する。
4	渡邉、尾高、村上、前鼻	指導法の研究について理解を深める。	アセスメントから教育評価までの指導プログラムについて文献から学ぶ。	（予習：2時間） 関連する研究の文献を収集する。 （復習：2時間） 配布された論文を講読し要約する。
5	渡邉、尾高、村上、前鼻	調査研究について理解を深める。	保護者、関係者、地域へのニーズ調査研究について文献から学ぶ。	（予習：2時間） 関連する研究の文献を収集する。 （復習：2時間） 配布された論文を講読し要約する。
6	渡邉、尾高、村上、前鼻	各障害特性について理解を深める。	障害児の特性理解の研究の理解と方法（グループ研究、調査研究）について文献から学ぶ。	（予習：2時間） 関連する研究の文献を収集する。 （復習：2時間） 配布された論文を講読し要約する。
7	渡邉、尾高、村上、前鼻	学校教育現場における教育方法とその課題について理解を深める。	学校教育現場における研究の理解（遊びの指導、日常生活の指導）について文献から学ぶ。	（予習：2時間） 関連する研究の文献を収集する。 （復習：2時間） 配布された論文を講読し要約する。
8	渡邉、尾高、村上、前鼻	事例研究について理解を深める。	個に応じた指導プログラムの研究法と教育技法について文献から学ぶ。	（予習：2時間） 関連する研究の文献を収集する。 （復習：2時間） 配布された論文を講読し要約する。
9	渡邉、尾高、村上、前鼻	事例研究について理解を深める。	実践記録（学校の紀要及び連絡帳等）の研究法について文献から学ぶ。	（予習：2時間） 関連する研究の文献を収集する。 （復習：2時間） 配布された論文を講読し要約する。
10	渡邉、尾高、村上、前鼻	教材・教具の意義と役割について理解する。	教材・教具の開発とその活用に関する研究法について文献から学ぶ。	（予習：2時間） 関連する研究の文献を収集する。 （復習：2時間） 配布された論文を講読し要約する。
11	渡邉、尾高、村上、前鼻	フィールドワークを行い、教育現場等の実情を理解する。	各自のフィールドにて見学や調査を行う。	（予習：2時間） 学校及び施設の概要について調べる。 （復習：2時間） 事例を取り上げその日の指導内容及び方法をまとめる。
12	渡邉、尾高、村上、前鼻	フィールドワークを行い、教育現場等の実情を理解する。	各自のフィールドにて見学や調査を行う。	（予習：2時間） 学校及び施設の年間指導計画について調べる。 （復習：2時間） その日の活動内容についてまとめる。
13	渡邉、尾高、村上、前鼻	フィールドワークを行い、教育現場等の実情を理解する。	各自のフィールドにて見学や調査を行う。	（予習：2時間） 学校及び施設の地域連携について調べる。 （復習：2時間） 調査内容の検討をする。

14	渡邉、尾高、村上、前鼻	各自のフィールドにて見学や調査を行う。	フィールドワークにより得られた結果をスライドにまとめ発表する。また発表を受けてグループディスカッションを行う。	（予習：2時間） 各自レポートや発表の準備を行う。 （復習：2時間） 発表の改善点についてまとめを行う。
15	渡邉、尾高、村上、前鼻	各自のフィールドにて見学や調査を行う。	フィールドワークにより得られた結果をスライドにまとめ発表する。また発表を受けてグループディスカッションを行う。	（予習：2時間） 各自レポートや発表の準備を行う。 （復習：2時間） 発表の改善点についてまとめを行う。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	障害者と特別支援教育（前期後半）	授業形態	演習
英語科目名	The Disabled and Special Needs Education	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	渡邉　貴裕	ナンバリング	
担当教員	渡邉　貴裕、尾高　邦生、村上　祐介		

授業概要	
全体内容	この科目は、知的・発達障害児者等の障害特性とその支援方法に関する基礎的な知識を習得し、特別支援教育の推進のための制度にについて理解することを目的とする。 知的・発達障害児者の障害特性について文献や事例をもとに解説する。また、知的・発達障害児者の自立や社会参加に向けて、保育、教育、心理、医療、福祉、労働などの関係者がどのような支援を行っているのかについて紹介する。フィールドワークやグループディスカッション等を行うことでより理解を深めていく。
到達目標	１）知的・発達障害児者等の障害特性（学習上・生活上の困難さ）について理解することができる。 ２）知的・発達障害児者への具体的な支援方法について理解することができる。 ３）特別支援教育を推進するための制度について説明できるようになる。 ４）知的・発達障害児者の自立や社会参加に向けた、保育、教育、心理、医療、福祉、労働等の役割について説明できるようになる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 1. 特別支援学校教員免許状を取得しているもの、もしくは学部時代に特別支援教育に関する授業を履修しているもの。 2. 現在学校教育現場に勤務しているもの、もしくは将来教職を目指すもの。 3. フィールドワークを行うため、授業時間外指導に参加できるもの。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 特別支援教育について理解することは、共生社会の実現に向けて有益な視点を提供してくれるはずである。そのため、本授業では専門的知識を身に付けることはもちろんのこと、参加者のディスカッションを大事にしたい。資料の抄読や論点の確認など、授業までの準備を大切にして望んで欲しい。
成績評価の方法	
評価方法	最終レポート（20%）、プレゼンテーションやコメントの内容（50%）、議論への貢献度（30%）を総合して評価する。定期試験は実施しない。
評価基準	１）障害特性とその具体的な支援方法を理解しているかを、担当するプレゼンテーションによって評価する。 ２）特別支援教育の推進について議論することができるかを、学生同士のディスカッションから評価する。 ３）フィールドワークによって得た知見を活用し、障害者の自立と社会参加について自らの意見を考察することができるかをプレゼンテーションと最終レポートから評価する。
試験・課題に対するフィードバック方法	
学生同士のディスカッションに対しては、毎回の授業中に解説をすることでフィードバックする。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
［テキスト・参考書等］ 渡邉貴裕　他　編：教職課程コアカリキュラム対応版キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育＆教育相談・生徒指導・キャリア教育、福村出版、2020
その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：渡邉　貴裕 E-mail：tkwatana[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 ［オフィスアワー］ 〈さくらキャンパス〉 日時：火曜日　13時～15時　　木曜日　10時～12時 場所：1号館2階1218号室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：　本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	特別支援学校教諭としての勤務経験に基づき、障害を持つ人への指導に関する実践的な知識をわかりやすく解説する。

備考	［学修時間］ この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、60時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 ［その他］ この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	渡邉、尾高、村上、前鼻	授業の目的、シラバスの概要、評価方法、授業の進め方について理解する。またレポート作成方法を学習する。	授業の目的、シラバスの概要及び評価方法を解説する。また、レポートの作成方法を解説したのち、本講義のレポート作成の実習を行う。	（予習：2時間） 授業の目的及びシラバスを読み、本講義担当者の情報を収集しておく。 （復習：2時間） レポートの作成方法を復習し、次回講義の資料を読み課題を作成する。
2	渡邉、尾高、村上、前鼻	特別支援教育研究におけるトピックと問題について理解する。	配布された資料をもとにディスカッションを行う。	（予習：2時間） 関連する研究の文献を収集する。 （復習：2時間） 配布された論文を講読し要約する。
3	渡邉、尾高、村上、前鼻	歴史研究の意義について理解を深める。	特別支援教育の歴史研究について文献から学ぶ。	（予習：2時間） 関連する研究の文献を収集する。 （復習：2時間） 配布された論文を講読し要約する。
4	渡邉、尾高、村上、前鼻	指導法の研究について理解を深める。	アセスメントから教育評価までの指導プログラムについて文献から学ぶ。	（予習：2時間） 関連する研究の文献を収集する。 （復習：2時間） 配布された論文を講読し要約する。
5	渡邉、尾高、村上、前鼻	調査研究について理解を深める。	保護者、関係者、地域へのニーズ調査研究について文献から学ぶ。	（予習：2時間） 関連する研究の文献を収集する。 （復習：2時間） 配布された論文を講読し要約する。
6	渡邉、尾高、村上、前鼻	各障害特性について理解を深める。	障害児の特性理解の研究の理解と方法（グループ研究、調査研究）について文献から学ぶ。	（予習：2時間） 関連する研究の文献を収集する。 （復習：2時間） 配布された論文を講読し要約する。
7	渡邉、尾高、村上、前鼻	学校教育現場における教育方法とその課題について理解を深める。	学校教育現場における研究の理解（遊びの指導、日常生活の指導）について文献から学ぶ。	（予習：2時間） 関連する研究の文献を収集する。 （復習：2時間） 配布された論文を講読し要約する。
8	渡邉、尾高、村上、前鼻	事例研究について理解を深める。	個に応じた指導プログラムの研究法と教育技法について文献から学ぶ。	（予習：2時間） 関連する研究の文献を収集する。 （復習：2時間） 配布された論文を講読し要約する。
9	渡邉、尾高、村上、前鼻	事例研究について理解を深める。	実践記録（学校の紀要及び連絡帳等）の研究法について文献から学ぶ。	（予習：2時間） 関連する研究の文献を収集する。 （復習：2時間） 配布された論文を講読し要約する。
10	渡邉、尾高、村上、前鼻	教材・教具の意義と役割について理解する。	教材・教具の開発とその活用に関する研究法について文献から学ぶ。	（予習：2時間） 関連する研究の文献を収集する。 （復習：2時間） 配布された論文を講読し要約する。
11	渡邉、尾高、村上、前鼻	フィールドワークを行い、教育現場等の実情を理解する。	各自のフィールドにて見学や調査を行う。	（予習：2時間） 学校及び施設の概要について調べる。 （復習：2時間） 事例を取り上げその日の指導内容及び方法をまとめる。
12	渡邉、尾高、村上、前鼻	フィールドワークを行い、教育現場等の実情を理解する。	各自のフィールドにて見学や調査を行う。	（予習：2時間） 学校及び施設の年間指導計画について調べる。 （復習：2時間） その日の活動内容についてまとめる。
13	渡邉、尾高、村上、前鼻	フィールドワークを行い、教育現場等の実情を理解する。	各自のフィールドにて見学や調査を行う。	（予習：2時間） 学校及び施設の地域連携について調べる。 （復習：2時間） 調査内容の検討をする。

14	渡邉、尾高、村上、前鼻	各自のフィールドにて見学や調査を行う。	フィールドワークにより得られた結果をスライドにまとめ発表する。また発表を受けてグループディスカッションを行う。	（予習：2時間） 各自レポートや発表の準備を行う。 （復習：2時間） 発表の改善点についてまとめを行う。
15	渡邉、尾高、村上、前鼻	各自のフィールドにて見学や調査を行う。	フィールドワークにより得られた結果をスライドにまとめ発表する。また発表を受けてグループディスカッションを行う。	（予習：2時間） 各自レポートや発表の準備を行う。 （復習：2時間） 発表の改善点についてまとめを行う。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	アダプテッド・スポーツ論（後期前半）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Sports for the Disabled	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	村上　祐介	ナンバリング	
担当教員	村上　祐介、前鼻　啓史		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 この授業科目は、スポーツ健康科学において重要な領域であるアダプテッド・スポーツ（Adapted Physical Activity）に関する基礎的な知識と理解を深めることを通して、基礎的な健康づくり、体育などの教育活動、地域でのスポーツ活動、そして生きがいとしてのスポーツなど、障害のある人や多様な人々にとってのスポーツの在り方を考え、その意義と役割を検討する。 この授業では、アクティブラーニング形式で、知識面については講義で説明を行い、各種グループワークを用いた演習や発表も併用して行う。
到達目標	【授業の到達目標】 1.アダプテッド・スポーツに関する基礎的な知識と実態を説明できる。 2.障害のある人やスポーツへの参加に何らかの支援を必要とする人々及びその支援者に対して、適切な助言ができる。 3.対象となる人に合わせたスポーツ活動の実施について、基礎的な環境づくりの助言ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 障害のある人々やダイバーシティ（個々の違い）に関する基礎的な理解があり、興味関心が高いこと。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 各授業で配布される授業資料を活用し、主体的に学ぶこと。

成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 1.　授業中の各種グループワークや討論への取り組み　30点 2.　授業の中で課せられるプレゼンテーションや質疑応答　30点 3.　普段の授業で実施する小レポート課題　20点 4.　定期試験による知識や理解　20点
評価基準	【成績の評価の基準】 1. 自分の考えや他人の意見、調べた情報などを総合的に考察し、意見を述べたり、小レポートとして記述できる。（平常点） 2.　授業中の各種グループワークや討論に積極的に取り組むことができる。(平常点) 3.　取得した知識・理解に関する質問に答えたり、プレゼンテーション等によって説明する。(定期試験)

試験・課題に対するフィードバック方法
【課題（試験やレポート等)に対するフィードバックの方法】 1.　小レポート等に対するフィードバックは次の授業において授業内で実施する。 2.　知識や理解に関する質問やプレゼンテーションへのフィードバックは授業内でその都度実施する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
【テキスト・参考書など】 随時、独自に制作された配布資料を用い、その中で参考書などを紹介する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当: 村上祐介 E-mail: y.murakami.az[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 〈さくらキャンパス〉 日時: 火曜日3限、木曜日3限 場所:１号館２階 心身障害心理学研究室 (1219) 上記以外の時間にも対応しますが、事前に連絡すること。 〈本郷・お茶ノ水キャンパス〉 日時:火曜日の授業前 18:00-18:30 場所:センチュリータワー南　５階 教員控室 上記以外は、さくらキャンパスにいるため、事前にE-mailなどで連絡する。
担当教員の実務経験	特別支援学校における勤務経験を活かし、障害児者の体育指導及び、障害者の親の会と連携したスポーツ活動への支援を活かして、知識や技術をわかりやすく解説する。

備考	【学修時間】 この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 【その他】 ・この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。 ・この授業科目は、話の傾聴のみでは、理解を深めることが難しいため、視聴覚教材を多用し、時には各種討論や実践的な演習を体験するなど、5感や各種心情に訴えることがあります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	村上祐介	【授業内容】 テーマ: オリエンテーション 本授業の目的及び目標の解説をし、授業の進め方を説明する。	【授業方法】 講義	【予習:２時間】 各種メディアでアダプテッド・スポーツに関連する記事を調べる。 【復習:2時間】 授業資料や各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 アダプテッド・スポーツ
2	村上祐介	【授業内容】 テーマ: アダプテッド・スポーツとは アダプテッド・スポーツという用語の意味や関連する概念を紹介し、アダプテッド・スポーツの基礎的な考え方を解説する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	【予習:２時間】 各種メディアでアダプテッド・スポーツに関連する記事を調べる。 【復習:２時間】 授業資料や各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 アダプテッド・スポーツ
3	村上祐介	【授業内容】 テーマ: アダプテッドの基礎となる運動発達研究の理解 アダプテッドの考え方の基礎となる人間の運動発達研究の動向を紹介し、その考え方の変遷について解説する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	【予習:２時間】 運動発達研究に関連する国内外の本を調べる。 【復習:２時間】 授業資料や各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 motor development
4	村上祐介	【授業内容】 テーマ: アダプテッドの基礎となる運動発達研究の理解 アダプテッドの考え方の基礎となる人間の運動発達研究の動向を紹介し、その考え方の変遷について解説する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	【予習:２時間】 運動発達研究に関連する国内外の本を調べる。 【復習:２時間】 授業資料や各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 motor development
5	村上祐介	【授業内容】 テーマ: 運動発達の多様性とその支援の在り方 運動発達の考え方に基づき、多様な人々の発達特性にアダプテッドした支援の在り方を探る。	【授業方法】 講義、ディスカッション	【予習:２時間】 神経発達障害に関する国内外の本を調べる。 【復習:２時間】 授業資料と各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 Neurodevelopmental Disorders
6	村上祐介	【授業内容】 テーマ: 運動発達の多様性とその支援の在り方 運動発達の考え方に基づき、多様な人々の発達特性にアダプテッドした支援の在り方を探る。	【授業方法】 講義、ディスカッション	【予習:２時間】 神経発達障害に関する国内外の本を調べる。 【復習:２時間】 授業資料と各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 Neurodevelopmental Disorders

7	村上祐介	【授業内容】 テーマ: アダプテッド・スポーツの研究動向 国内外におけるアダプテッド・スポーツに関連する本や論文を読み、アダプテッド・スポーツの在り方やその可能性について解説する。	【授業方法】 発表、ディスカッション	【予習:2時間】 国内のアダプテッド・スポーツに関連する本や論文を調べる。 【復習:2時間】 授業資料と各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 アダプテッド　障害　個々の違い
8	村上祐介	【授業内容】 テーマ: アダプテッド・スポーツの研究動向 国内外におけるアダプテッド・スポーツに関連する本や論文を読み、アダプテッド・スポーツの在り方やその可能性について解説する。	【授業方法】 発表、ディスカッション	【予習:２時間】 国外のアダプテッド・スポーツに関連する本や論文を調べる。 【復習:２時間】 授業資料と各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 アダプテッド　障害　個々の違い
9	前鼻啓史	【授業内容】 テーマ: アダプテッドにおける用具やルールの工夫とその実際 アダプテッド・スポーツに関わる実践的な例を示しながら、対象に合わせた環境づくりや指導法について解説する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	【予習:２時間】 興味のある対象に関するアダプテッド・スポーツの実践について調べる。 【復習:２時間】 授業資料と各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 用具　ルール　指導法
10	前鼻啓史	【授業内容】 テーマ: アダプテッドにおける用具やルールの工夫とその実際 アダプテッド・スポーツに関わる実践的な例を示しながら、対象に合わせた環境づくりや指導法について解説する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	【予習:２時間】 興味のある対象に関するアダプテッド・スポーツの実践について調べる。 【復習:２時間】 授業資料と各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 用具　ルール　指導法
11	前鼻啓史	【授業内容】 テーマ: アダプテッドとさまざまなスポーツ活動 国内外のアダプテッドに関連する競技スポーツ大会やスポーツ活動を紹介し、その実際や課題について議論する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	【予習:２時間】 興味のあるアダプテッド・スポーツに関わる競技大会やそのルール等の実践について調べる。 【復習:２時間】 授業資料と各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 ルール　クラシフィケーション　指導法
12	前鼻啓史	【授業内容】 テーマ: アダプテッドとさまざまなスポーツ活動 国内外のアダプテッドに関連する競技スポーツ大会やスポーツ活動を紹介し、その実際や課題について議論する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	【予習:２時間】 興味のあるアダプテッド・スポーツに関わる競技大会やそのルール等の実践について調べる。 【復習:２時間】 授業資料と各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 ルール　クラシフィケーション　指導法
13	前鼻啓史	【授業内容】 テーマ: アダプテッド・スポーツの課題と今後の展開 アダプテッド・スポーツにおける課題を整理し、今後どのように展開していくことが求められるのかを解説する。	【授業方法】 発表、ディスカッション	【予習:２時間】 アダプテッド・スポーツに関する最新の取り組みや関連領域とのつながりについて調べる。 【復習:２時間】 授業資料と各自のノートに従い、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 関連領域　学際性
14	前鼻啓史	【授業内容】 テーマ: アダプテッドの学際性 これまでのアダプテッド・スポーツに関する学びを各自で整理し、自分たちの専門分野との関わりやその可能性について解説する。	【授業方法】 発表、ディスカッション	【予習:2時間】 自分たちの専門分野とアダプテッド・スポーツのつながりについて調べる。 【復習:2時間】 授業資料と各自のノートに従い、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 つながり

15	村上・前鼻	【授業内容】 テーマ: アダプテッド・スポーツのまとめと今後の課題 これまでのアダプテッド・スポーツに関する学びを各自で整理し、今後の可能性について議論する。	【授業方法】 発表、ディスカッション	【予習:2時間】 自分たちの専門分野や関連領域とアダプテッド・スポーツのつながりについて調べる。 【復習:２時間】 授業資料と各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	アダプテッド・スポーツ論（後期後半）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Sports for the Disabled	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	村上　祐介	ナンバリング	
担当教員	村上　祐介、前鼻　啓史		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 この授業科目は、スポーツ健康科学において重要な領域であるアダプテッド・スポーツ（Adapted Physical Activity）に関する基礎的な知識と理解を深めることを通して、基礎的な健康づくり、体育などの教育活動、地域でのスポーツ活動、そして生きがいとしてのスポーツなど、障害のある人や多様な人々にとってのスポーツの在り方を考え、その意義と役割を検討する。 この授業では、アクティブラーニング形式で、知識面については講義で説明を行い、各種グループワークを用いた演習も併用して行う。
到達目標	【授業の到達目標】 1.アダプテッド・スポーツに関する基礎的な知識と実態を説明できる。 2.障害のある人やスポーツへの参加に何らかの支援を必要とする人々及びその支援者に対して、適切な助言ができる。 3.対象となる人に合わせたスポーツ活動の実施について、基礎的な環境づくりの助言ができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 障害のある人々やダイバーシティ（個々の違い）に関する基礎的な理解があり、興味関心が高いこと。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 各授業で配布される授業資料を活用し、主体的に学ぶこと。

成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 1.　授業中の各種グループワークや討論への取り組み　30点 2.　授業の中で課せられるプレゼンテーションや質疑応答　30点 3.　普段の授業で実施する小レポート課題　20点 4.　定期試験による知識や理解　20点
評価基準	【成績の評価の基準】 1. 自分の考えや他人の意見、調べた情報などを総合的に考察し、意見を述べたり、小レポートとして記述できる。（平常点） 2.　授業中の各種グループワークや討論に積極的に取り組むことができる。(平常点) 3.　取得した知識・理解に関する質問に答えたり、プレゼンテーション等によって説明する。(定期試験)

試験・課題に対するフィードバック方法
【課題（試験やレポート等)に対するフィードバックの方法】 1.　小レポート等に対するフィードバックは次の授業において授業内で実施する。 2.　知識や理解に関する質問やプレゼンテーションへのフィードバックは授業内でその都度実施する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
【テキスト・参考書など】 随時、独自に制作された配布資料を用い、その中で参考書などを紹介する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当: 村上祐介 E-mail: y.murakami.az[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 〈さくらキャンパス〉 日時: 火曜日3限、木曜日3限 場所:１号館２階 心身障害心理学研究室 (1219) 上記以外の時間にも対応しますが、事前に連絡すること。 〈本郷・お茶ノ水キャンパス〉 日時:火曜日の授業前 18:00-18:30 場所:センチュリータワー南　５階 教員控室 上記以外は、さくらキャンパスにいるため、事前にE-mailなどで連絡する。
担当教員の実務経験	特別支援学校における勤務経験を活かし、障害児者の体育指導及び、障害者の親の会と連携したスポーツ活動への支援を活かして、知識や技術をわかりやすく解説する。

備考	【学修時間】 この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 【その他】 ・この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。 ・この授業科目は、話の傾聴のみでは、理解を深めることが難しいため、視聴覚教材を多用し、時には各種討論や実践的な演習を体験するなど、5感や各種心情に訴えることがあります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	村上祐介	【授業内容】 テーマ: オリエンテーション 本授業の目的及び目標の解説をし、授業の進め方を説明する。	【授業方法】 講義	【予習:２時間】 各種メディアでアダプテッド・スポーツに関連する記事を調べる。 【復習:2時間】 授業資料や各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 アダプテッド・スポーツ
2	村上祐介	【授業内容】 テーマ: アダプテッド・スポーツとは アダプテッド・スポーツという用語の意味や関連する概念を紹介し、アダプテッド・スポーツの基礎的な考え方を解説する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	【予習:２時間】 各種メディアでアダプテッド・スポーツに関連する記事を調べる。 【復習:２時間】 授業資料や各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 アダプテッド・スポーツ
3	村上祐介	【授業内容】 テーマ: アダプテッドの基礎となる運動発達研究の理解 アダプテッドの考え方の基礎となる人間の運動発達研究の動向を紹介し、その考え方の変遷について解説する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	【予習:２時間】 運動発達研究に関連する国内外の本を調べる。 【復習:２時間】 授業資料や各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 motor development
4	村上祐介	【授業内容】 テーマ: アダプテッドの基礎となる運動発達研究の理解 アダプテッドの考え方の基礎となる人間の運動発達研究の動向を紹介し、その考え方の変遷について解説する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	【予習:２時間】 運動発達研究に関連する国内外の本を調べる。 【復習:２時間】 授業資料や各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 motor development
5	村上祐介	【授業内容】 テーマ: 運動発達の多様性とその支援の在り方 運動発達の考え方に基づき、多様な人々の発達特性にアダプテッドした支援の在り方を探る。	【授業方法】 講義、ディスカッション	【予習:２時間】 神経発達障害に関する国内外の本を調べる。 【復習:２時間】 授業資料と各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 Neurodevelopmental Disorders
6	村上祐介	【授業内容】 テーマ: 運動発達の多様性とその支援の在り方 運動発達の考え方に基づき、多様な人々の発達特性にアダプテッドした支援の在り方を探る。	【授業方法】 講義、ディスカッション	【予習:２時間】 神経発達障害に関する国内外の本を調べる。 【復習:２時間】 授業資料と各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 Neurodevelopmental Disorders

7	村上祐介	【授業内容】 テーマ: アダプテッド・スポーツの研究動向 国内外におけるアダプテッド・スポーツに関連する本や論文を読み、アダプテッド・スポーツの在り方やその可能性について解説する。	【授業方法】 発表、ディスカッション	【予習:2時間】 国内のアダプテッド・スポーツに関連する本や論文を調べる。 【復習:2時間】 授業資料と各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 アダプテッド　障害　個々の違い
8	村上祐介	【授業内容】 テーマ: アダプテッド・スポーツの研究動向 国内外におけるアダプテッド・スポーツに関連する本や論文を読み、アダプテッド・スポーツの在り方やその可能性について解説する。	【授業方法】 発表、ディスカッション	【予習:２時間】 国外のアダプテッド・スポーツに関連する本や論文を調べる。 【復習:２時間】 授業資料と各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 アダプテッド　障害　個々の違い
9	前鼻啓史	【授業内容】 テーマ: アダプテッドにおける用具やルールの工夫とその実際 アダプテッド・スポーツに関わる実践的な例を示しながら、対象に合わせた環境づくりや指導法について解説する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	【予習:２時間】 興味のある対象に関するアダプテッド・スポーツの実践について調べる。 【復習:２時間】 授業資料と各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 用具　ルール　指導法
10	前鼻啓史	【授業内容】 テーマ: アダプテッドにおける用具やルールの工夫とその実際 アダプテッド・スポーツに関わる実践的な例を示しながら、対象に合わせた環境づくりや指導法について解説する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	【予習:２時間】 興味のある対象に関するアダプテッド・スポーツの実践について調べる。 【復習:２時間】 授業資料と各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 用具　ルール　指導法
11	前鼻啓史	【授業内容】 テーマ: アダプテッドとさまざまなスポーツ活動 国内外のアダプテッドに関連する競技スポーツ大会やスポーツ活動を紹介し、その実際や課題について議論する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	【予習:２時間】 興味のあるアダプテッド・スポーツに関わる競技大会やそのルール等の実践について調べる。 【復習:２時間】 授業資料と各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 ルール　クラシフィケーション　指導法
12	前鼻啓史	【授業内容】 テーマ: アダプテッドとさまざまなスポーツ活動 国内外のアダプテッドに関連する競技スポーツ大会やスポーツ活動を紹介し、その実際や課題について議論する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	【予習:２時間】 興味のあるアダプテッド・スポーツに関わる競技大会やそのルール等の実践について調べる。 【復習:２時間】 授業資料と各自のノートに従って、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 ルール　クラシフィケーション　指導法
13	前鼻啓史	【授業内容】 テーマ: アダプテッド・スポーツの課題と今後の展開 アダプテッド・スポーツにおける課題を整理し、今後どのように展開していくことが求められるのかを解説する。	【授業方法】 発表、ディスカッション	【予習:2時間】 アダプテッド・スポーツに関する最新の取り組みや関連領域とのつながりについて調べる。 【復習:2時間】 授業資料と各自のノートに従い、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 関連領域　学際性
14	前鼻啓史	【授業内容】 テーマ:アダプテッドと学際性 これまでのアダプテッド・スポーツに関する学びを各自で整理し、自分たちの専門分野との関わりやその可能性について解説する。	【授業方法】 発表、ディスカッション	【予習:2時間】 自分たちの専門分野とアダプテッド・スポーツのつながりについて調べる。 【復習:2時間】 授業資料と各自のノートに従い、授業を整理し、まとめる。 【キーワード】 つながり

15	村上・前鼻	【授業内容】 テーマ:アダプテッドのまとめと今後の課題 これまでのアダプテッド・スポーツに関する学びを各自で整理し、今後のアダプテッドの可能性について議論する。	【授業方法】 発表、ディスカッション	【予習:2時間】 自分たちの専門分野や関連領域とアダプテッド・スポーツのつながりについて調べる。 【復習:2時間】 授業資料と各自のノートに従い、授業を整理し、まとめる。
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	健康運動指導論（後期後半）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Teaching Healthy Exercise	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	涌井　佐和子	ナンバリング	
担当教員	涌井　佐和子、沢田　秀司		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、健康づくりの変遷や現状、健康づくり指導法および健康運動指導法についての理解を深める。また、国内外の雑誌に発表されている論文を読み、身体活動習慣の獲得・維持のための理論や介入方法について考究する。授業は講義だけではなく、プレゼンテーションを課し、発表および議論する能力の向上を目指す。 具体的には、健康づくりの変遷や現状、健康づくりのための身体活動基準2013、健診結果と生活習慣病判定、メタボシックシンドロームと運動プログラムの実際、生活習慣病や介護予防のための運動プログラムの実際、ウィーキング、レジスタンストレーニング、ストレッチング指導法の基礎、身体活動推進に応用されている健康行動変容理論、健康づくりのための身体活動介入の研究デザイン、学校・地域・職域における身体活動介入事例と問題点について理解を深める。また、国内外の雑誌に発表されている論文を読み、身体活動習慣の獲得・維持のための理論や介入方法について考究する。授業は講義だけではなく、プレゼンテーションを課し、発表および議論する能力の向上を目指す。
到達目標	[授業の到達目標] 1.健康づくりの変遷や現状について理解を深め、関連する学術的資料について説明することができる。 2.健康づくりのための身体活動基準2013について理解を深め、関連する学術的資料を説明することができる。 3.健診結果と生活習慣病判定、メタボシックシンドロームと運動プログラムの実際について理解を深め、関連する学術的資料を説明することができる。 4.生活習慣病や介護予防のための運動プログラムの実際について理解を深め、関連する学術的資料について説明することができる。 5.ウォーキングの指導法、歩行スピードからの運動強度推定方法、について理解を深め、関連する学術的資料を説明することができる。 6.健康づくりのためのレジスタンストレーニングの指導法の基礎について理解する。 7.ストレッチングの種類、運動効果、指導方法について理解する。 8.身体活動推進に応用されている各種健康行動変容理論について、関連する学術的資料とともに理解する。 9.身体活動介入の研究デザインの基礎について理解する。 10.学校・地域・職域における身体活動介入事例と問題点について理解する。 11.国内外の雑誌に発表されている論文を読み、身体活動習慣の獲得・維持のための理論や介入方法について考究できる。 [学生に望むこと] 健康づくりのための身体活動推進、支援法について、単なる運動処方にとどまらず、行動変容のための各種学術的理論に基づいた個人・集団指導の方法、地域・職域での展開などの基本について、学術的資料と関連づけながら習得してください。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　なし [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] ①授業態度・取り組む姿勢：ディスカッションへの積極性、発表内容、出席カードへの授業コメント等を総合的に平常点としA（50点）、B（40点）、C（30点）、D（20点）判定を行う。 ②レポート課題：１課題についてA（20点）、B（15点）、C（10点）、D（5点）、未提出（0点）判定を行い、加算する。最終的に合計得点を50点満点に換算する。 最終的に①②を合計する。
評価基準	[成績評価の基準] 1.健康づくりの変遷や現状について理解を深め、関連する学術的資料について説明することができる（レポート） 2.健康づくりのための身体活動基準2013について理解を深め、関連する学術的資料を説明することができる（レポート）。 3.健診結果と生活習慣病判定、メタボシックシンドロームと運動プログラムの実際について理解を深め、関連する学術的資料を説明することができる（レポート） 4.生活習慣病や介護予防のための運動プログラムの実際について理解を深め、関連する学術的資料について説明することができる（発表[平常点]） 5.ウォーキングの指導法、歩行スピードからの運動強度推定方法、について理解を深め、関連する学術的資料を説明することができる（平常点、レポート） 6.健康づくりのためのレジスタンストレーニングの指導法の基礎について理解する（平常点） 7.ストレッチングの種類、運動効果、指導方法について理解する（平常点） 8.身体活動推進に応用されている各種健康行動変容理論について、関連する学術的資料とともに理解する（平常点） 9.身体活動介入の研究デザインの基礎について理解する（発表[平常点]） 10.学校・地域・職域における身体活動介入事例と問題点について理解する（レポート） 11.国内外の雑誌に発表されている論文を読み、身体活動習慣の獲得・維持のための理論や介入方法について考究できる（発表[平常点]）

試験・課題に対するフィードバック方法
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献	
[テキスト・参考書等] 授業中に指示する。	
その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：涌井　佐和子 E-mail：swakui[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） 担当：沢田　秀司 E-mail：sh-sawada [at] juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：後期木曜日　12:00～12:50 場所：1号館4階1402室／1号館2階教員室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 [その他] この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	涌井・沢田	[授業内容] 授業のねらいやスケジュールについて理解を深める。 健康づくりの変遷について理解を深める。	[授業方法] 【グループワーク、討議】 授業のねらいやスケジュールについて解説する。 健康づくりの変遷について解説する。	（予習：2時間） シラバスを読み、今後の学習スケジュールの見通しを持つ。 （復習：2時間） シラバスを再度読み返し、今後の学習スケジュールの見通しを再確認する。 健康づくりの変遷についての資料を読み返し、整理する。 （課題） なし
2	涌井・沢田	[授業内容] 身体活動基準 健康づくりのための身体活動基準2013について理解を深める。	[授業方法] 【グループワーク、討議、発表】 健康づくりのための身体活動基準2013の概要について解説する。 身体活動量の推定方法について解説する。自身の身体活動量を推定する。	（予習：2時間） 健康づくりのための身体活動基準2013の資料を読み、概要を把握する。 （復習：2時間） 身体活動量推定方法について確認する。 （課題） １週間の身体活動量を推定する。
3	涌井・沢田	[授業内容] 生活習慣病・介護予防と運動プログラム１ 健診結果と生活習慣病判定、メタボシックシンドロームと運動プログラムの実際について理解を深める。	[授業方法] 【グループワーク、討議、発表】 特定健診と生活習慣病判定について解説する。 内臓脂肪減少のためのエネルギー調整シートの作成を行う。	（予習：2時間） 特定健診・特定保健指導制度、メタボリックシンドロームに関する資料を読む。 （復習：2時間） 特定健診・特定保健指導制度、メタボリックシンドロームの概要についての資料を読み返し、整理する。 （課題） なし
4	涌井・沢田	[授業内容] 生活習慣病・介護予防と運動プログラム２ 肥満症、高血圧症、脂質異常症の運動プログラムの実際について理解を深める。	[授業方法] 【グループワーク、討議、発表】 肥満症、高血圧症、脂質異常症の運動プログラムの実際と留意点について発表する。 補足事項について解説する。	（予習：2時間） 肥満症、高血圧症、脂質異常症の運動プログラムの実際について資料やHPで調べる。 （復習：2時間） 肥満症、高血圧症、脂質異常症の運動プログラムの発表内容や討議内容について振り返る。 （課題） なし

5	涌井・沢田	[授業内容] 生活習慣病・介護予防と運動プログラム３ 糖尿病、虚血性心疾患、介護予防の運動プログラムの実際について理解を深める。	[授業方法] 【グループワーク、討議、発表】 糖尿病、虚血性心疾患、介護予防の運動プログラムの実際と留意点について発表する。 補足事項について解説する。	（予習：2時間） 糖尿病、虚血性心疾患、介護予防の運動プログラムの実際について資料やHPで調べる。 （復習：2時間） 糖尿病、虚血性心疾患、介護予防の運動プログラムの実際についての発表内容や討議内容について振り返る。 （課題） なし
6	涌井・沢田	［授業内容］ エアロビック・エクササイズ フィールドでの歩行量の測定法、ウォーキングの指導法、歩行スピードからの運動強度推定方法、について理解を深める。	［授業方法］ 【グループワーク、討議、発表】 フィールドでの歩行量の測定法、ウォーキングの指導法、歩行スピードからの運動強度推定方法、について解説する。 複数のスピードでの歩行を行い、速度、運動強度、メッツ・時の算出を行う。	（予習：2時間） 有酸素プログラムの実際。歩行量の測定法。ウォーキングの指導法に関する資料を読む。 （復習：2時間） 有酸素プログラムの実際。歩行量の測定法。ウォーキングの指導法に関する授業内容の整理を行う。 （課題） ウォーキング指導に関するレポート課題
7	涌井・沢田	［授業内容］ レジスタンス・トレーニング 健康づくりのためのレジスタンストレーニングの指導法の基礎について理解を深める。	［授業方法］ 【グループワーク、討議、発表】 健康づくりのためのレジスタンストレーニングの指導法の基礎について解説する。	（予習：2時間） 健康づくりのためのレジスタンストレーニングの指導法の資料を読む。 （復習：2時間） 健康づくりのためのレジスタンストレーニングの指導法の授業内容を振り返る。 （課題） なし
8	涌井・沢田	［授業内容］ ストレッチング ストレッチングの種類、運動効果、指導方法について理解を深める。	［授業方法］ 【グループワーク、討議、発表】 ストレッチングの種類、運動効果、指導方法について解説する。	（予習：2間） ストレッチングの種類、運動効果、指導方法の資料を読む。 （復習：2時間） ストレッチングの種類、運動効果、指導方法の授業内容を振り返る。 （課題） なし
9	涌井・沢田	[授業内容] 健康行動変容の理論1 身体活動推進に応用されている健康行動変容理論（個人内、個人間レベル）の概要を理解する。	[授業方法] 【グループワーク、討議、発表】 身体活動推進に応用されている健康行動変容理論（個人内、個人間レベル）について解説する。	（予習：2時間） 行動変容理論（個人レベル、個人間レベル）の資料を読む。 （復習：2時間） 行動変容理論（個人レベル、個人間レベル）の主要な用語の定義を整理する。 （課題） なし
10	涌井・沢田	［授業内容］ 健康行動変容の理論2 身体活動推進に応用されている健康行動変容理論（地域、政策レベル）の概要を理解する。	［授業方法］ 【グループワーク、討議、発表】 身体活動推進に応用されている健康行動変容理論（地域、政策レベル）について解説する。	（予習：2時間） 行動変容理論（地域、政策レベル）の資料を読む。 （復習：2時間） 行動変容理論（地域、政策レベル）の主要な用語の定義を整理する。 （課題） なし
11	涌井・沢田	［授業内容］ 健康運動プログラムの事例１ 身体活動介入について理解を深める。 身体活動介入の研究デザインについて学習する。	［授業方法］ 【グループワーク、討議、発表】 身体活動介入の研究論文について発表する。 研究デザインの長所・短所について討論する。	（予習：2時間） あらかじめ選んだ身体活動介入の論文を読み、長所・短所を整理する。 （復習：2時間） 討議内容の整理を行う。 （課題） なし

12	涌井・沢田	［授業内容］ 健康運動プログラムの事例２ 身体活動介入について理解を深める。 身体活動介入の研究デザインについて学習する。	［授業方法］ 【グループワーク、討議、発表】 身体活動介入の研究論文について発表する。 研究デザインの長所・短所について討論する。	（予習：2時間） あらかじめ選んだ身体活動介入の論文を読み、長所・短所を整理する。 （復習：2時間） 討議内容の整理を行う。 （課題） なし
13	涌井・沢田	［授業内容］ 健康運動プログラムの事例３ 身体活動介入について理解を深める。 身体活動介入の研究デザインについて学習する。	［授業方法］ 【グループワーク、討議、発表】 身体活動介入の研究論文について発表する。 研究デザインの長所・短所について討論する。	（予習：2時間） あらかじめ選んだ身体活動介入の論文を読み、長所・短所を整理する。 （復習：2時間） 討議内容の整理を行う。 （課題） なし
14	涌井・沢田	［授業内容］ 健康運動プログラムの事例４ 身体活動介入について理解を深める。 身体活動介入の研究デザインについて学習する。	［授業方法］ 【グループワーク、討議、発表】 身体活動介入の研究論文について発表する。 研究デザインの長所・短所について討論する。	（予習：2時間） あらかじめ選んだ身体活動介入の論文を読み、長所・短所を整理する。 （復習：2時間） これまでの討議内容の整理を行う。 （課題） なし
15	涌井・沢田	［授業内容］ 健康運動プログラムの事例5 身体活動介入について理解を深める。 身体活動介入の研究デザインについて学習する。	［授業方法］ 【グループワーク、討議、発表】 身体活動介入の研究論文について発表する。 研究デザインの長所・短所について討論する。	（予習：2時間） あらかじめ選んだ身体活動介入の論文を読み、長所・短所を整理する。 （復習：2時間） これまでの討議内容の整理を行う。 （課題） なし
		最終レポート		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	健康運動指導論（後期前半）	授業形態	演習
英語科目名	Theory of Teaching Healthy Exercise	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	涌井　佐和子	ナンバリング	
担当教員	涌井　佐和子、沢田　秀司		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　この授業科目では、健康づくりの変遷や現状、健康づくり指導法および健康運動指導法についての理解を深める。また、国内外の雑誌に発表されている論文を読み、身体活動習慣の獲得・維持のための理論や介入方法について考究する。授業は講義だけではなく、プレゼンテーションを課し、発表および議論する能力の向上を目指す。 具体的には、健康づくりの変遷や現状、健康づくりのための身体活動基準2013、健診結果と生活習慣病判定、メタボシックシンドロームと運動プログラムの実際、生活習慣病や介護予防のための運動プログラムの実際、ウィーキング、レジスタンストレーニング、ストレッチング指導法の基礎、身体活動推進に応用されている健康行動変容理論、健康づくりのための身体活動介入の研究デザイン、学校・地域・職域における身体活動介入事例と問題点について理解を深める。また、国内外の雑誌に発表されている論文を読み、身体活動習慣の獲得・維持のための理論や介入方法について考究する。授業は講義だけではなく、プレゼンテーションを課し、発表および議論する能力の向上を目指す。 [学生に望むこと] 健康づくりのための身体活動推進、支援法について、単なる運動処方にとどまらず、行動変容のための各種学術的理論に基づいた個人・集団指導の方法、地域・職域での展開などの基本について、学術的資料と関連づけながら習得してください。
到達目標	[授業の到達目標] 1.健康づくりの変遷や現状について理解を深め、関連する学術的資料について説明することができる。 2.健康づくりのための身体活動基準2013について理解を深め、関連する学術的資料を説明することができる。 3.健診結果と生活習慣病判定、メタボシックシンドロームと運動プログラムの実際について理解を深め、関連する学術的資料を説明することができる。 4.生活習慣病や介護予防のための運動プログラムの実際について理解を深め、関連する学術的資料について説明することができる。 5.ウォーキングの指導法、歩行スピードからの運動強度推定方法、について理解を深め、関連する学術的資料を説明することができる。 6.健康づくりのためのレジスタンストレーニングの指導法の基礎について理解する。 7.ストレッチングの種類、運動効果、指導方法について理解する。 8.身体活動推進に応用されている各種健康行動変容理論について、関連する学術的資料とともに理解する。 9.身体活動介入の研究デザインの基礎について理解する。 10.学校・地域・職域における身体活動介入事例と問題点について理解する。 11.国内外の雑誌に発表されている論文を読み、身体活動習慣の獲得・維持のための理論や介入方法について考究できる。
授業の位置づけ	[授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）] この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　なし [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 　レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

成績評価の方法	
評価方法	[成績評価の方法] ①授業態度・取り組む姿勢：ディスカッションへの積極性、発表内容、出席カードへの授業コメント等を総合的に平常点としA（50点）、B（40点）、C（30点）、D（20点）判定を行う。 ②レポート課題：１課題についてA（20点）、B（15点）、C（10点）、D（5点）、未提出（0点）判定を行い、加算する。最終的に合計得点を50点満点に換算する。 最終的に①②を合計する。
評価基準	[成績評価の基準] 1.健康づくりの変遷や現状について理解を深め、関連する学術的資料について説明することができる（レポート） 2.健康づくりのための身体活動基準2013について理解を深め、関連する学術的資料を説明することができる（レポート）。 3.健診結果と生活習慣病判定、メタボシックシンドロームと運動プログラムの実際について理解を深め、関連する学術的資料を説明することができる（レポート） 4.生活習慣病や介護予防のための運動プログラムの実際について理解を深め、関連する学術的資料について説明することができる（発表[平常点]） 5.ウォーキングの指導法、歩行スピードからの運動強度推定方法、について理解を深め、関連する学術的資料を説明することができる（平常点、レポート） 6.健康づくりのためのレジスタンストレーニングの指導法の基礎について理解する（平常点） 7.ストレッチングの種類、運動効果、指導方法について理解する（平常点） 8.身体活動推進に応用されている各種健康行動変容理論について、関連する学術的資料とともに理解する（平常点） 9.身体活動介入の研究デザインの基礎について理解する（発表[平常点]） 10.学校・地域・職域における身体活動介入事例と問題点について理解する（レポート） 11.国内外の雑誌に発表されている論文を読み、身体活動習慣の獲得・維持のための理論や介入方法について考究できる（発表[平常点]）

試験・課題に対するフィードバック方法
個別に評価や助言を受講者へフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
[テキスト・参考書等] 授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：涌井　佐和子 E-mail：swakui[at]juntendo.ac.jp　（[at]を@に変更してください） 担当：沢田　秀司 E-mail：sh-sawada [at] juntendo.ac.jp　（[at]を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：後期木曜日　12:00～12:50 場所：1号館4階1402室／1号館2階教員室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度　※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：センチュリータワー南5階教員控室
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1回あたり90分とする。 [その他] この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	涌井・沢田	[授業内容] 授業のねらいやスケジュールについて理解を深める。 健康づくりの変遷について理解を深める。	[授業方法] 【グループワーク、討議】 授業のねらいやスケジュールについて解説する。 健康づくりの変遷について解説する。	（予習：2時間） シラバスを読み、今後の学習スケジュールの見通しを持つ。 （復習：2時間） シラバスを再度読み返し、今後の学習スケジュールの見通しを再確認する。 健康づくりの変遷についての資料を読み返し、整理する。 （課題） なし
2	涌井・沢田	[授業内容] 身体活動基準 健康づくりのための身体活動基準2013について理解を深める。	[授業方法] 【グループワーク、討議、発表】 健康づくりのための身体活動基準2013の概要について解説する。 身体活動量の推定方法について解説する。自身の身体活動量を推定する。	（予習：2時間） 健康づくりのための身体活動基準2013の資料を読み、概要を把握する。 （復習：2時間） 身体活動量推定方法について確認する。 （課題） １週間の身体活動量を推定する。
3	涌井・沢田	[授業内容] 生活習慣病・介護予防と運動プログラム１ 健診結果と生活習慣病判定、メタボシックシンドロームと運動プログラムの実際について理解を深める。	[授業方法] 【グループワーク、討議、発表】 特定健診と生活習慣病判定について解説する。 内臓脂肪減少のためのエネルギー調整シートの作成を行う。	（予習：2時間） 特定健診・特定保健指導制度、メタボリックシンドロームに関する資料を読む。 （復習：2時間） 特定健診・特定保健指導制度、メタボリックシンドロームの概要についての資料を読み返し、整理する。 （課題） なし
4	涌井・沢田	[授業内容] 生活習慣病・介護予防と運動プログラム２ 肥満症、高血圧症、脂質異常症の運動プログラムの実際について理解を深める。	[授業方法] 【グループワーク、討議、発表】 肥満症、高血圧症、脂質異常症の運動プログラムの実際と留意点について発表する。 補足事項について解説する。	（予習：2時間） 肥満症、高血圧症、脂質異常症の運動プログラムの実際について資料やHPで調べる。 （復習：2時間） 肥満症、高血圧症、脂質異常症の運動プログラムの発表内容や討議内容について振り返る。 （課題） なし

5	涌井・沢田	[授業内容] 生活習慣病・介護予防と運動プログラム３ 糖尿病、虚血性心疾患、介護予防の運動プログラムの実際について理解を深める。	[授業方法] 【グループワーク、討議、発表】 糖尿病、虚血性心疾患、介護予防の運動プログラムの実際と留意点について発表する。 補足事項について解説する。	（予習：2時間） 糖尿病、虚血性心疾患、介護予防の運動プログラムの実際について資料やHPで調べる。 （復習：2時間） 糖尿病、虚血性心疾患、介護予防の運動プログラムの実際についての発表内容や討議内容について振り返る。 （課題） なし
6	涌井・沢田	［授業内容］ エアロビック・エクササイズ フィールドでの歩行量の測定法、ウォーキングの指導法、歩行スピードからの運動強度推定方法、について理解を深める。	［授業方法］ 【グループワーク、討議、発表】 フィールドでの歩行量の測定法、ウォーキングの指導法、歩行スピードからの運動強度推定方法、について解説する。 複数のスピードでの歩行を行い、速度、運動強度、メッツ・時の算出を行う。	（予習：2時間） 有酸素プログラムの実際。歩行量の測定法。ウォーキングの指導法に関する資料を読む。 （復習：2時間） 有酸素プログラムの実際。歩行量の測定法。ウォーキングの指導法に関する授業内容の整理を行う。 （課題） ウォーキング指導に関するレポート課題
7	涌井・沢田	［授業内容］ レジスタンス・トレーニング 健康づくりのためのレジスタンストレーニングの指導法の基礎について理解を深める。	［授業方法］ 【グループワーク、討議、発表】 健康づくりのためのレジスタンストレーニングの指導法の基礎について解説する。 グループになり指導体験を行う。	（予習：2時間） 健康づくりのためのレジスタンストレーニングの指導法の資料を読む。 （復習：2時間） 健康づくりのためのレジスタンストレーニングの指導法の授業内容を振り返る。 （課題） なし
8	涌井・沢田	［授業内容］ ストレッチング ストレッチングの種類、運動効果、指導方法について理解を深める。	［授業方法］ 【グループワーク、討議、発表】 ストレッチングの種類、運動効果、指導方法について解説する。 グループになり、指導体験を行う。	（予習：2時間） ストレッチングの種類、運動効果、指導方法の資料を読む。 （復習：2時間） ストレッチングの種類、運動効果、指導方法の授業内容を振り返る。 （課題） なし
9	涌井・沢田	[授業内容] 健康行動変容の理論1 身体活動推進に応用されている健康行動変容理論（個人内、個人間レベル）の概要を理解する。	[授業方法] 【グループワーク、討議、発表】 身体活動推進に応用されている健康行動変容理論（個人内、個人間レベル）について解説する。	（予習：2時間） 行動変容理論（個人レベル、個人間レベル）の資料を読む。 （復習：2時間） 行動変容理論（個人レベル、個人間レベル）の主要な用語の定義を整理する。 （課題） なし
10	涌井・沢田	［授業内容］ 健康行動変容の理論2 身体活動推進に応用されている健康行動変容理論（地域、政策レベル）の概要を理解する。	［授業方法］ 【グループワーク、討議、発表】 身体活動推進に応用されている健康行動変容理論（地域、政策レベル）について解説する。	（予習：2時間） 行動変容理論（地域、政策レベル）の資料を読む。 （復習：2時間） 行動変容理論（地域、政策レベル）の主要な用語の定義を整理する。 （課題） なし

11	涌井・沢田	［授業内容］ 健康運動プログラムの事例１ 身体活動介入について理解を深める。 身体活動介入の研究デザインについて学習する。	［授業方法］ 【グループワーク、討議、発表】 身体活動介入の研究論文について発表する。 研究デザインの長所・短所について討論する。	（予習：2時間） あらかじめ選んだ身体活動介入の論文を読み、長所・短所を整理する。 （復習：2時間） 討議内容の整理を行う。 （課題） なし
12	涌井・沢田	［授業内容］ 健康運動プログラムの事例２ 身体活動介入について理解を深める。 身体活動介入の研究デザインについて学習する。	［授業方法］ 【グループワーク、討議、発表】 身体活動介入の研究論文について発表する。 研究デザインの長所・短所について討論する。	（予習：2時間） あらかじめ選んだ身体活動介入の論文を読み、長所・短所を整理する。 （復習：2時間） 討議内容の整理を行う。 （課題） なし
13	涌井・沢田	［授業内容］ 健康運動プログラムの事例３ 身体活動介入について理解を深める。 身体活動介入の研究デザインについて学習する。	［授業方法］ 【グループワーク、討議、発表】 身体活動介入の研究論文について発表する。 研究デザインの長所・短所について討論する。	（予習：2時間） あらかじめ選んだ身体活動介入の論文を読み、長所・短所を整理する。 （復習：2時間） 討議内容の整理を行う。 （課題） なし
14	涌井・沢田	［授業内容］ 健康運動プログラムの事例４ 身体活動介入について理解を深める。 身体活動介入の研究デザインについて学習する。	［授業方法］ 【グループワーク、討議、発表】 身体活動介入の研究論文について発表する。 研究デザインの長所・短所について討論する。	（予習：2時間） あらかじめ選んだ身体活動介入の論文を読み、長所・短所を整理する。 （復習：2時間） これまでの討議内容の整理を行う。 （課題） なし
15	涌井・沢田	［授業内容］ 健康運動プログラムの事例5 身体活動介入について理解を深める。 身体活動介入の研究デザインについて学習する。	［授業方法］ 【グループワーク、討議、発表】 身体活動介入の研究論文について発表する。 研究デザインの長所・短所について討論する。	（予習：2時間） あらかじめ選んだ身体活動介入の論文を読み、長所・短所を整理する。 （復習：2時間） これまでの討議内容の整理を行う。 （課題） なし
		最終レポート		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	臨床心理学（後期前半）	授業形態	演習
英語科目名	Clinical Psychology	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	山口　慎史	ナンバリング	
担当教員	山口　慎史、山口　達也		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　臨床心理学は、人間心理的な適応や発達、障害・苦悩などの特徴を明らかにして、問題の査定や軽減・解消を目指す学問である。本科目では、臨床心理学の成り立ち、アセスメントやカウンセリングの内容、臨床心理学の代表的な理論を学び、臨床心理学の基礎を理解することを目的とする。 　本授業では、臨床心理学の基礎的な内容（代表的な理論・概念）を始めに学ぶ。演習を重視するため、アセスメントやカウンセリングの回では授業内で質問紙や知能検査、神経心理学的検査などを実施したり、カウンセラーのロールプレイ、心理技法についても実際に体験してもらう。 　また、スポーツ健康科学研究科において、臨床心理学がスポーツ健康科学分野にどのように応用されるのか、臨床スポーツ心理学やスポーツ精神医学に関する内容についても学んでいく。
到達目標	[授業の到達目標] １．臨床心理学の定義や心理学における位置づけを理解し、説明することができる。 ２．アセスメントの特徴を理解し、説明することができる。 ３．カウンセリングの特徴を理解し、説明することができる。 ４．臨床心理学で用いられる心理技法を理解し、日常生活で実践することができる。
授業の位置づけ	この科目は、スポーツ健康科学研究科博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 特になし。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 特になし。細かいルールを設ける必要が生じた際は、授業の中で伝達し、合意を得る。

成績評価の方法	
評価方法	[評価方法および比率、内容] 課題（70%）、平常点（30%）を総合して評価する。 課題は、各授業回でGoogleフォームを用いたレポートを課す。提出はGoogleフォーム上で行う。 レポート課題の内容は、１．授業内容を要約　２．授業内容に関する内容の問題1~2問　３．授業を受けた感想　とする。 ※授業回の内容によっては設問数が異なる場合もある。 1課題の評価割合を10%とし、全7回分（70%）で評価をしていく。 主な評価の観点は以下の4つとする。 １．論理性・妥当性（授業内容を適切に理解し、アウトプットができている） ２．独自性（自身の考えやオリジナルな視点、学んだ知識等を日常生活に取り入れようとする姿勢が組み込まれている） ３．応用性（自身の考えだけではなく、先行研究を調べて適宜引用をしている） ４．文字数・体制・期日内提出（文章に誤字脱字等が無く、期日内に提出している） 平常点は、授業時の発言、zoom上チャットでの積極的なやり取り（意見交換）、グループワークの取り組み　を重視する。 課題（70%）、平常点（30%）で評価をつけるため、期末時の定期試験（ペーパーテスト）は実施しない。
評価基準	[成績評価の基準] １．臨床心理学の定義や心理学における位置づけを理解し説明できる。（課題） ２．アセスメントの特徴を理解し説明できる。（課題） ３．カウンセリングの特徴を理解し説明できる。（課題） ４．臨床心理学で用いられる心理技法を理解し、日常生活で実践することができる。（課題） ５．授業中の発言や予習・復習の取組状況、グループワークでの積極的な取り組みを評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
フィードバックは授業時に必要に応じて適宜行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業の際に必要に応じて提示する。

その他

連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 科目責任者：山口慎史 E-mail：s.yamaguchi.rt [at] juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更。 メールでの質問や相談は、随時受け付けます。 科目担当者：山口達也 E-mail：t.yamaguchi.cm [at] juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更。 [オフィスアワー] 日時：月曜日の12:10～12:40 場所：非常勤講師室もしくは教員室 会議や学生対応が入り、対応できないこともあるため、事前に必ずメールで相談すること。
担当教員の実務経験	[実務経験のある教員による授業科目] 山口（慎）は公認心理師、専門健康心理士の資格を、山口（達）はスポーツドクター、精神保健指定医、産業医の資格等を有しており、それぞれ教育活動と研究活動を積極的に行っている。 山口（慎）は大学生のメンタルヘルスや自殺に関する研究を、山口（達）はスポーツ選手・アスリートのメンタルヘルスに関する研究を行っているため、精神医学・心身医学的な知識や、実践的な取り組みについても提供できる。
備考	[学修時間] この授業は、講義・演習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間、準備学修60時間）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1コマあたり100分とする。 [その他] この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられている。 2023年度より、2名の教員で授業を分担して行っています。 担当教員の校務や診療、学会出張等の兼ね合いで、授業内容が前後したり、zoomの同時双方向型の授業から動画配信のオンデマンド型に変更する場合もあります。変更が生じる場合には、その都度、事前に説明します。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	山口　慎史	［授業内容］ オリエンテーション 授業の目的と概要、成績評価、履修上の注意について説明する。また、臨床心理学の全体像について概説し、臨床の意味について学ぶ。	［授業方法］ 主に授業中に示すスライドに沿って進める。体験型学習やディスカッション、発表、レポートなども積極的に課す。	（予習：2時間/回） 臨床心理学とはどのような学問分野か調べておく。過去に、心理学や臨床心理学の授業を受講したことがあれば、思い出して整理しておく。 （復習：2時間/回） 臨床心理学の全体像について、本授業で学んだ知識を整理しておく。
2	山口　慎史	［授業内容］ 臨床心理学の基礎理論 臨床心理学を学ぶ上での認知理論、行動理論、人間性心理学の成り立ちについて学ぶ。	［授業方法］ スライドに沿って進める。	（予習：1時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
3	山口　慎史	［授業内容］ アセスメント① アセスメントの概説、定義、方法、流れについて学ぶ。ロールプレイを通して、カウンセラーについて考えてみる。	［授業方法］ スライドに沿って進める。	（予習：1時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
4	山口　慎史	［授業内容］ アセスメント② テストバッテリーを通して、アセスメントの仕組み、実施方法を学ぶ。	［授業方法］ スライドに沿って進める。体験型学習やディスカッションなども積極的に課す。	（予習：1時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
5	山口　慎史	［授業内容］ カウンセリング① 自己理解と他者理解、カウンセリングの基本的な理論、方法について学ぶ。 来談者中心療法、対人関係療法について解説する。	［授業方法］ スライドに沿って進める。体験型学習やディスカッションなども積極的に課す。	（予習：2時間/回） アセスメントの内容を復習しておく。また、授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
6	山口　慎史	［授業内容］ カウンセリング② 事例を通して、カウンセリングの見立てを行う。 支持的精神療法について解説する。	［授業方法］ スライドに沿って進める。体型型学習やディスカッションを積極的に課す。	（予習：2時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。

7	山口　慎史	［授業内容］ 異常心理学 前半戦（これまで）の復習を踏まえた上で、異常心理学の位置づけ、定義を学ぶ。 精神障害について理解を深める。自殺の現状や実態、自殺関連行動の思考過程について学ぶ。	［授業方法］ スライドに沿って進める。	（予習：2時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
8	山口　慎史	［授業内容］ アセスメント③ 自殺に関する心のケアについて学び、理解を深める。	［授業方法］ スライドに沿って進める。	（予習：2時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
9	山口　達也	［授業内容］ 臨床スポーツ心理学 臨床心理学とスポーツ心理学の関係性について解説する。 アスリートのメンタルヘルスについて理解を深める。	［授業方法］ スライドに沿って進める。体験型学習やディスカッションなども積極的に課す。	（予習：2時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
10	山口　達也	［授業内容］ カウンセリング③ 事例を用いて、カウンセリングについて理解を深める。	［授業方法］ スライドに沿って進める。発表、レポートなども積極的に課す。	（予習：2時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
11	山口　達也	［授業内容］ アスリートのメンタルヘルス～スポーツ精神医学～ 事例を通してアスリートの心理的な問題について理解する。 スポーツの現場で心理職がどのように携わっているか解説する。	［授業方法］ スライドに沿って進める。発表、レポートなども積極的に課す。	（予習：2時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
12	山口　達也	［授業内容］ アセスメントとカウンセリングのまとめ 守秘義務、心理専門職に関する法律について解説する。 臨床心理学におけるデータのまとめ方、扱い方について学ぶ。	［授業方法］ スライドに沿って進める。体験型学習やディスカッション、発表、レポートなども積極的に課す。	（予習：2時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
13	山口　慎史	［授業内容］ 臨床心理学の応用 教育分野、産業保健分野におけるメンタルヘルスの諸問題について解説する。	［授業方法］ スライドに沿って進める。体験型学習やディスカッション、発表、レポートなども積極的に課す。	（予習：2時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：3時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
14	山口　慎史	［授業内容］ 臨床心理学の応用 医療・災害分野、障害・福祉分野におけるメンタルヘルスの諸問題について解説する。	［授業方法］ スライドに沿って進める。体験型学習やディスカッション、発表、レポートなども積極的に課す。	（予習：2時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：3時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
15	山口　慎史	［授業内容］ 臨床心理学のまとめ これまでの授業をまとめつつ、臨床心理学とはなにか今一度、整理する。	［授業方法］ スライドに沿って進める。体験型学習やディスカッション、発表、レポートなども積極的に課す。	（予習：2時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：3時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	臨床心理学（前期前半）	授業形態	演習
英語科目名	Clinical Psychology	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)	単位数	2単位
代表教員	山口　慎史	ナンバリング	
担当教員	山口　慎史、山口　達也		

授業概要	
全体内容	[授業全体の内容] 　臨床心理学は、人間心理的な適応や発達、障害・苦悩などの特徴を明らかにして、問題の査定や軽減・解消を目指す学問である。本科目では、臨床心理学の成り立ち、アセスメントやカウンセリングの内容、臨床心理学の代表的な理論を学び、臨床心理学の基礎を理解することを目的とする。 　本授業では、臨床心理学の基礎的な内容（代表的な理論・概念）を始めに学ぶ。演習を重視するため、アセスメントやカウンセリングの回では授業内で質問紙や知能検査、神経心理学的検査などを実施したり、カウンセラーのロールプレイ、心理技法についても実際に体験してもらう。 　また、スポーツ健康科学研究科において、臨床心理学がスポーツ健康科学分野にどのように応用されるのか、臨床スポーツ心理学やスポーツ精神医学に関する内容についても学んでいく。
到達目標	[授業の到達目標] １．臨床心理学の定義や心理学における位置づけを理解し、説明することができる。 ２．アセスメントの特徴を理解し、説明することができる。 ３．カウンセリングの特徴を理解し、説明することができる。 ４．臨床心理学で用いられる心理技法を理解し、日常生活で実践することができる。
授業の位置づけ	この科目は、スポーツ健康科学研究科博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 特になし。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 特になし。細かいルールを設ける必要が生じた際は、授業の中で伝達し、合意を得る。

成績評価の方法	
評価方法	[評価方法および比率、内容] 課題（70%）、平常点（30%）を総合して評価する。 課題は、各授業回でGoogleフォームを用いたレポートを課す。提出はGoogleフォーム上で行う。 レポート課題の内容は、１．授業内容を要約　２．授業内容に関する内容の問題1~2問　３．授業を受けた感想　とする。 ※授業回の内容によっては設問数が異なる場合もある。 1課題の評価割合を10%とし、全7回分（70%）で評価をしていく。 主な評価の観点は以下の4つとする。 １．論理性・妥当性（授業内容を適切に理解し、アウトプットができている） ２．独自性（自身の考えやオリジナルな視点、学んだ知識等を日常生活に取り入れようとする姿勢が組み込まれている） ３．応用性（自身の考えだけではなく、先行研究を調べて適宜引用をしている） ４．文字数・体制・期日内提出（文章に誤字脱字等が無く、期日内に提出している） 平常点は、授業時の発言、zoom上チャットでの積極的なやり取り（意見交換）、グループワークの取り組み　を重視する。 課題（70%）、平常点（30%）で評価をつけるため、期末時の定期試験（ペーパーテスト）は実施しない。
評価基準	[成績評価の基準] １．臨床心理学の定義や心理学における位置づけを理解し説明できる。（課題） ２．アセスメントの特徴を理解し説明できる。（課題） ３．カウンセリングの特徴を理解し説明できる。（課題） ４．臨床心理学で用いられる心理技法を理解し、日常生活で実践することができる。（課題） ５．授業中の発言や予習・復習の取組状況、グループワークでの積極的な取り組みを評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
フィードバックは授業時に必要に応じて適宜行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業の際に必要に応じて提示する。

その他

連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 科目責任者：山口慎史 E-mail：s.yamaguchi.rt [at] juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更。 メールでの質問や相談は、随時受け付けます。 科目担当者：山口達也 E-mail：t.yamaguchi.cm [at] juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更。 [オフィスアワー] 日時：月曜日の12:10～12:40 場所：非常勤講師室もしくは教員室 会議や学生対応が入り、対応できないこともあるため、事前に必ずメールで相談すること。
担当教員の実務経験	[実務経験のある教員による授業科目] 山口（慎）は公認心理師、専門健康心理士の資格を、山口（達）はスポーツドクター、精神保健指定医、産業医の資格等を有しており、それぞれ教育活動と研究活動を積極的に行っている。 山口（慎）は大学生のメンタルヘルスや自殺に関する研究を、山口（達）はスポーツ選手・アスリートのメンタルヘルスに関する研究を行っているため、精神医学・心身医学的な知識や、実践的な取り組みについても提供できる。
備考	[学修時間] この授業は、講義・演習の授業形態による２単位の科目であり、90時間（授業30時間、準備学修60時間）の学修を必要とする内容をもって構成する。 ※授業時間は1コマあたり100分とする。 [その他] この授業科目は、中学校教諭専修免許状（保健体育）並びに高等学校教諭専修免許状（保健体育）の対象科目として位置付けられている。 2023年度より、2名の教員で授業を分担して行っています。 担当教員の校務や診療、学会出張等の兼ね合いで、授業内容が前後したり、zoomの同時双方向型の授業から動画配信のオンデマンド型に変更する場合もあります。変更が生じる場合には、その都度、事前に説明します。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	山口　慎史	［授業内容］ オリエンテーション 授業の目的と概要、成績評価、履修上の注意について説明する。また、臨床心理学の全体像について概説し、臨床の意味について学ぶ。	［授業方法］ 主に授業中に示すスライドに沿って進める。体験型学習やディスカッション、発表、レポートなども積極的に課す。	（予習：2時間/回） 臨床心理学とはどのような学問分野か調べておく。過去に、心理学や臨床心理学の授業を受講したことがあれば、思い出して整理しておく。 （復習：2時間/回） 臨床心理学の全体像について、本授業で学んだ知識を整理しておく。
2	山口　慎史	［授業内容］ 臨床心理学の基礎理論 臨床心理学を学ぶ上での認知理論、行動理論、人間性心理学の成り立ちについて学ぶ。	［授業方法］ スライドに沿って進める。	（予習：1時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
3	山口　慎史	［授業内容］ アセスメント① アセスメントの概説、定義、方法、流れについて学ぶ。ロールプレイを通して、カウンセラーについて考えてみる。	［授業方法］ スライドに沿って進める。	（予習：1時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
4	山口　慎史	［授業内容］ アセスメント② テストバッテリーを通して、アセスメントの仕組み、実施方法を学ぶ。	［授業方法］ スライドに沿って進める。体験型学習やディスカッションなども積極的に課す。	（予習：1時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
5	山口　慎史	［授業内容］ カウンセリング① 自己理解と他者理解、カウンセリングの基本的な理論、方法について学ぶ。 来談者中心療法、対人関係療法について解説する。	［授業方法］ スライドに沿って進める。体験型学習やディスカッションなども積極的に課す。	（予習：2時間/回） アセスメントの内容を復習しておく。また、授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
6	山口　慎史	［授業内容］ カウンセリング② 事例を通して、カウンセリングの見立てを行う。 支持的精神療法について解説する。	［授業方法］ スライドに沿って進める。体型型学習やディスカッションを積極的に課す。	（予習：2時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。

7	山口　慎史	［授業内容］ 異常心理学 前半戦（これまで）の復習を踏まえた上で、異常心理学の位置づけ、定義を学ぶ。 精神障害について理解を深める。自殺の現状や実態、自殺関連行動の思考過程について学ぶ。	［授業方法］ スライドに沿って進める。	（予習：2時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
8	山口　慎史	［授業内容］ アセスメント③ 自殺に関する心のケアについて学び、理解を深める。	［授業方法］ スライドに沿って進める。	（予習：2時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
9	山口　達也	［授業内容］ 臨床スポーツ心理学 臨床心理学とスポーツ心理学の関係性について解説する。 アスリートのメンタルヘルスについて理解を深める。	［授業方法］ スライドに沿って進める。体験型学習やディスカッションなども積極的に課す。	（予習：2時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
10	山口　達也	［授業内容］ カウンセリング③ 事例を用いて、カウンセリングについて理解を深める。	［授業方法］ スライドに沿って進める。発表、レポートなども積極的に課す。	（予習：2時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
11	山口　達也	［授業内容］ アスリートのメンタルヘルス～スポーツ精神医学～ 事例を通してアスリートの心理的な問題について理解する。 スポーツの現場で心理職がどのように携わっているか解説する。	［授業方法］ スライドに沿って進める。発表、レポートなども積極的に課す。	（予習：2時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
12	山口　達也	［授業内容］ アセスメントとカウンセリングのまとめ 守秘義務、心理専門職に関する法律について解説する。 臨床心理学におけるデータのまとめ方、扱い方について学ぶ。	［授業方法］ スライドに沿って進める。体験型学習やディスカッション、発表、レポートなども積極的に課す。	（予習：2時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：2時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
13	山口　慎史	［授業内容］ 臨床心理学の応用 教育分野、産業保健分野におけるメンタルヘルスの諸問題について解説する。	［授業方法］ スライドに沿って進める。体験型学習やディスカッション、発表、レポートなども積極的に課す。	（予習：2時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：3時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
14	山口　慎史	［授業内容］ 臨床心理学の応用 医療・災害分野、障害・福祉分野におけるメンタルヘルスの諸問題について解説する。	［授業方法］ スライドに沿って進める。体験型学習やディスカッション、発表、レポートなども積極的に課す。	（予習：2時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：3時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
15	山口　慎史	［授業内容］ 臨床心理学のまとめ これまでの授業をまとめつつ、臨床心理学とはなにか今一度、整理する。	［授業方法］ スライドに沿って進める。体験型学習やディスカッション、発表、レポートなども積極的に課す。	（予習：2時間/回） 授業中に課した予習内容に取り組む。 （復習：3時間/回） 授業で扱った内容について、学んだ知識を整理しておくとともに、体験型学習で課した課題に取り組む。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	ハイパフォーマンス科学（後期前半）	授業形態	演習
英語科目名	High Performance Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位
代表教員	山崎　一彦	ナンバリング	
担当教員	山崎　一彦、窪田　敦之、原田　睦巳、柳谷　登志雄、川田　裕次郎、小松　孝行、坂本　彰宏、竹澤　稔裕、大田　穂、杉林　孝法、小泉 和之		

授業概要	
全体内容	アスリートの競技パフォーマンスの向上に寄与する広範で深いスポーツ医・科学的知識と現場に活かせる卓越した指導力を養うために、スポーツ心理学、スポーツバイオメカニクス、スポーツ医学、トレーニング・コーチング科学的視点からハイパフォーマンスを引き出すための原理原則と実践手法を体系的に学ぶ。一斉授業であるが、グループワークも行い、協力して授業内容の理解度を深めるようにする。
到達目標	1. アスリートの競技パフォーマンスに寄与する身体的・心理的要因についてスポーツ医・科学的観点から説明することができる。 2. アスリートの競技パフォーマンス向上に寄与するトレーニング・コーチング方法についてスポーツ医・科学的観点から説明することができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における選択科目に位置づけられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] スポーツ心理学、スポーツバイオメカニクス、スポーツ医学、トレーニング・コーチング科学に関する基礎的な知識を学修しておくこと。スポーツ科学系の大学等でこれらの知識について既に学んでいることが望ましい。 [履修上の注意（科目独自のルール）] ・事前に配付されている資料に基づき、予習と復習をするように努めること。単位の取得には、授業回数の３分の２以上出席していること、授業態度が良好であること、かつ試験（レポート課題）に合格することが前提である。 ・ハイパフォーマンス科学認定プログラム履修者は必修とする。
成績評価の方法	
評価方法	レポート（80%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	１．アスリートの競技パフォーマンスに影響する身体的・心理的要因についてスポーツ医・科学的観点から論理的に説明することができる（レポート）。 ２．アスリートの競技パフォーマンスを向上させるための指導法についてスポーツ医・科学的観点から論理的に説明することができる（レポート）。 ３．授業中の発言、予習・復習の取組状況、グループワークにおける貢献度によって授業態度を評価する（平常点）。
試験・課題に対するフィードバック方法	
課題レポートは翌週の授業で返却して、評価や助言を各受講者へフィードバックする。 定期試験については、Juntendo Passportを使って解説する。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業の際に提示する。
その他

連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：山崎　一彦 E-mail：kayamaza[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 [オフィスアワー] 日時：前期期間中の水曜日12：20から13：10 場所：1号館5階1522室 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生の相談時間とかち合わないようにするため、できるだけ前日までにE-mailで予約してください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] この授業は、ハイパフォーマンス科学認定プログラムの必修科目として位置付けられている。アスリートの競技パフォーマンス向上を支援する独創的な研究の推進と現場指導（実践）について興味を持ち、高い学修意欲をもって授業に臨むこと。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	山崎　一彦	［授業内容］ ガイダンス	前半は講義形式で行い、後半はグループワークを行う。	（予習：3時間） 陸上競技、体操競技、球技、武道について、どのようなトレーニングが行われているか、それぞれの特徴について調べておくこと。 （復習：1時間） 配布プリントをよく読んでおくこと。
2	柳谷　登志雄	［授業内容］ スポーツバイオメカニクス的視点からアスリートの競技パフォーマンスを向上させるために必要な基礎・応用知識について学修する。 ［キーワード］ スポーツバイオメカニクス	前半は講義形式で行い、後半はグループワークを行う。	（予習：3時間） スポーツバイオメカニクスの基礎について説明できるように調べておくこと。 （復習：1時間） 配布プリントをよく読んでおくこと。
3	窪田　敦之	［授業内容］ 機能解剖学的視点からアスリートのコンディショニングや外傷・障害予防に必要な必要な基礎・応用知識について学修する。 ［キーワード］ コンディショニング、外傷・障害予防	前半は講義形式で行い、後半はグループワークを行う。	（予習：3時間） 機能解剖学の基礎について説明できるように調べておくこと。 （復習：1時間） 配布プリントをよく読んでおくこと。
4	坂本　彰宏	［授業内容］ 機能解剖学・生理学的視点からアスリートの競技パフォーマンスを向上させるために必要な基礎・応用知識について学修する。 ［キーワード］ 機能解剖学、生理学	前半は講義形式で行い、後半はグループワークを行う。	（予習：3時間） 機能解剖学の基礎について説明できるように調べておくこと。 （復習：1時間） 配布プリントをよく読んでおくこと。
5	川田　裕次郎	［授業内容］ スポーツ心理学的視点からアスリートの競技パフォーマンスを向上させるために必要な基礎・応用知識について学修する。 ［キーワード］ 心理学	前半は講義形式で行い、後半はグループワークを行う。	（予習：3時間） スポーツ心理学の基礎について説明できるように調べておくこと。 （復習：1時間） 配布プリントをよく読んでおくこと。
6	小泉　和之	［授業内容］ スポーツデータサイエンス的視点からアスリートの競技パフォーマンスを向上させるために必要な基礎・応用知識について学修する。 ［キーワード］ データサイエンス	前半は講義形式で行い、後半はグループワークを行う。	（予習：3時間） スポーツデータサイエンスの基礎について説明できるように調べておくこと。 （復習：1時間） 配布プリントをよく読んでおくこと。
7	小松　孝行	［授業内容］ スポーツ医学的視点からアスリートのコンディショニングや障害予防に必要な基礎・応用知識について学修する。 ［キーワード］ スポーツ医学、スポーツ障害、コンディショニング	前半は講義形式で行い、後半はグループワークを行う。	（予習：3時間） アスリートのコンディショニングの基礎について説明できるように調べておくこと。 （復習：1時間） 配布プリントをよく読んでおくこと。
8	山崎　一彦	［授業内容］ 陸上競技（短距離走）の先端的トレーニング方法とコーチング方法の理論についてスポーツ医・科学観点から学修し、実践を通して選手の競技パフォーマンスを向上させるための指導方法を身につける。 ［キーワード］ 陸上競技（短距離）、トレーニング方法、コーチング方法	前半は講義形式で行い、後半はグループワークを行う。	（予習：3時間） 陸上競技（短距離走）のためのトレーニング方法およびコーチング方法の基礎について説明できるように調べておくこと。 （復習：1時間） 配布プリントをよく読んでおくこと。
9	杉林　孝法	［授業内容］ 陸上競技（跳躍）の先端的トレーニング方法とコーチング方法の理論についてスポーツ医・科学観点から学修し、実践を通して選手の競技パフォーマンスを向上させるための指導方法を身につける。 ［キーワード］ 陸上競技（跳躍）、トレーニング方法、コーチング方法	前半は講義形式で行い、後半はグループワークを行う。	（予習：3時間） 陸上競技（跳躍）のためのトレーニング方法およびコーチング方法の基礎について説明できるように調べておくこと。 （復習：1時間） 配布プリントをよく読んでおくこと。
10	竹澤　稔裕	［授業内容］ 柔道の先端的トレーニング方法とコーチング方法の理論についてスポーツ医・科学観点から学修し、実践を通して選手の競技パフォーマンスを向上させるための指導方法を身につける。 ［キーワード］ 柔道、トレーニング方法、コーチング方法	前半は講義形式で行い、後半はグループワークを行う。	（予習：3時間） 柔道のためのトレーニング方法およびコーチング方法の基礎について説明できるように調べておくこと。 （復習：1時間） 配布プリントをよく読んでおくこと。
11	大田　穂	［授業内容］ 球技（ソフトボール）の先端的トレーニング方法とコーチング方法の理論についてスポーツ医・科学観点から学修し、実践を通して選手の競技パフォーマンスを向上させるための指導方法を身につける。 ［キーワード］ 球技（ソフトボール）、トレーニング方法、コーチング方法	前半は講義形式で行い、後半はグループワークを行う。	（予習：3時間） 球技（ソフトボール）のためのトレーニング方法およびコーチング方法の基礎について説明できるように調べておくこと。 （復習：1時間） 配布プリントをよく読んでおくこと。
12	原田　睦巳	［授業内容］ 体操競技の先端的トレーニング方法とコーチング方法の理論についてスポーツ医・科学観点から学修し、実践を通して選手の競技パフォーマンスを向上させるための指導方法を身につける。 ［キーワード］ 体操競技、トレーニング方法、コーチング方法	前半は講義形式で行い、後半はグループワークを行う。	（予習：3時間） 体操競技のためのトレーニング方法およびコーチング方法の基礎について説明できるように調べておくこと。 （復習：1時間） 配布プリントをよく読んでおくこと。
13	HPSC担当教員（検討中）	検討中	検討中	検討中
14	山崎一彦	コーチングの視点からアスリートの競技パフォーマンスを向上させるために必要な基礎・応用知識について学修する。 ［キーワード］　コーチング科学	前半は講義形式で行い、後半はグループワークを行う。	（予習：3時間）　スポーツコーチング科学の基礎について説明できるように調べておくこと。 （復習：1時間）　配布プリントをよく読んでおくこと。

15	全教員	［授業内容］ グループ発表とまとめ。各グループが選んだ競技種目の新しいトレーニング・コーチング方法について発表する。スポーツ医・科学的根拠も交えて解説する。	グループワーク	（予習：3時間） 発表の準備を行う。 （復習：1時間） これまでの授業で学んだことについてまとめる。
定期試験を実施しない。				

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法演習（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Seminar in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	6単位
代表教員	中嶽　誠	ナンバリング	
担当教員	中嶽　誠		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、スポーツ健康科学に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：中嶽　誠 E-mail: mknakada[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 日時：　水曜日　12:00～12:30 場所：1号館5階1520室バスケットボール研究室
担当教員の実務経験	高校現場において保健体育科教諭の業務にあたっていた経験を生かし、授業に求められる知識や技術をわかりやすく解説します。
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による6単位の科目であり、270時間（授業90時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～7	中嶽	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
8～14	中嶽	説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
15～21	中嶽	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
22～29	中嶽	調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
30～37	中嶽	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
38～45	中嶽	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ健康科学研究法演習（通年）	授業形態	演習
英語科目名	Seminar in Research Methods on Sports Science	対象学年	1年
開講学期	2025年度前期(SPR)、2025年度後期(AUT)	単位数	6単位
代表教員	和氣　秀文	ナンバリング	
担当教員	和氣　秀文		

授業概要	
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、生理学および運動生理学に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 　具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。
到達目標	1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科　博士前期課程における必修科目に位置付けられる。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」及び「得られた知識を基に学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 　博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 　この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献
授業中に指示する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：和氣　秀文 E-mail: hwaki[at]juntendo.ac.jp　（ [at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日午後 場所: スポーツ健康医科学研究所３階　生理学研究室（９３０４） 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度　※遠隔授業の際や授業が無い期間はE-mailで連絡すること。 場所: センチュリータワー南5階教員控室（対面授業の場合に限る）
担当教員の実務経験	
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による6単位の科目であり、270時間（授業90時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1～4	和気	スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイディアをもとに、研究課題を設定する。	先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイディアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	和気	説得力のある問題提起の仕方を習得する。	研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	和気	研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。	課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～27	和気	調査・実験を遂行する。	論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
28～35	和気	収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。	各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
36～45	和気	考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。	発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）